

の増進を企圖し同四十二年阿賀川上流日橋川に發電所を設けて同地方の需要を充し、餘剰電氣を以て會津廣田に工場を設立して本邦最初の鹽化加里の電解製造を開始し、後之が改良に腐心して特許を得らる、氏の特許は沃度加里、加里肥料、アルミナ、鹽化加里、燐酸加里等の製造法十數件に及ぶ。

井上 春 成

加藤 二郎

東京市澁谷區代々木
西原町九五七
東京市澁谷區角筈
目八二 内山方

特許第一〇三六三六號 電解分析法に依る動物乳汁より「カゼイン」及「乳糖」の製造法

〔内容〕脱脂せる動物乳汁より電解分析法に依りて乳汁中の鹽類の除去を行ひつゝ「カゼイン」を凝固せしめて分別し其溶液部分を濃縮して乳糖を得る方法。

立木 健 吉

東京市小石川區
指ヶ谷町四

加藤 與五郎

東京市在野區戸越町
一 二 二 〇

特許第一〇二六七三號 金屬「マグネシウム」の電解製造法

〔内容〕鹽化「アルカリ」及び鹽化「マグネシウム」其他の金屬鹽化物含有の熔融電解浴内に「マグネシウム」の酸化物又は炭酸鹽を共存せしむることを特徴とする製造法

田崎 健 治

富山縣下新川郡道下村
村木一〇五一ノ二

特許第九九二〇一號 炭化石灰製造法

〔内容〕二個以上の電極を上部より挿入せる電氣爐に於て炭素と生石灰とを原料とし炭化石灰を生成せしむる場合電極と電極との間に電氣の不良導體たる隔壁を構成せしめたる製造法。

鈴木 益 太郎

東京府北豐島郡王子町
下十條一五一六
東京府北豐島郡尾久町
上尾久一三三六

阿部 良 造

東京府北豐島郡尾久町
上尾久一三三六

特許第九九三二〇號 電解用炭素質電極の處理法

〔内容〕鹽素硝酸又は硫酸を作用せしめて油脂又は脂肪酸の固着を來せしめ之を直に加熱熔融して電極の氣孔内に注入する黒鉛其他炭素質電極の處理法。

山口 要 作

東京府北豐島郡西巢鴨
町大字池袋二四〇六

特許第九六五六一號 「アルミニウム」又は「アルミニウム」合金の防蝕法

〔内容〕「クロム」酸又ハ「重クロム」酸鹽の溶液を電解液として原質金屬の陽極酸化を表面に行はしめ簡単に電解液の還元を防止し薬液を浪費する事なく防蝕し得る方法

園部 恵 亮

大阪府北區小深町六

特許第九六七三號 「オゾン」發生機

〔内容〕適度の間隙を設けて相對せる電極板と其背後

飯田 廣

東京市澁野川區
西ヶ原町四八五

特許第九七八七六號 交流による二酸化炭素の電解的製造法

〔内容〕滿飽和の水溶液に交流を通じて電解する方法にして簡単に高純度良質のものを得る方法。

二 郎

京市芝區
新築町一六

特許第一〇〇六三八號 爆發瓦斯檢出機

〔内容〕爆發性瓦斯混合物の爆發に對する危険度を容易正確に豫知し未然に防止するを得せしむる小型にして然も感度大なる特殊爆發瓦斯檢出機。

眞崎 公 一

平塚市海軍火藥廠官舎
第一二二號

特許第一〇三三六六號 火藥耐熱試驗紙試驗裝置

〔内容〕特殊裝置に依り火藥耐熱試驗操作と近似の方法により正確且迅速に不同の度ある火藥試料を用ふることなくして試験紙の感度を試験せしむる装置。

佐山 總 平

北海道札幌郡藻岩村
大字圓山村一七四

特許第一〇〇八七〇號 瓦斯檢定器の改良

〔内容〕瓦斯燃焼器内に於ける瓦斯の入替及瓦斯の完全燃焼を速にし又外函中に滿したる液體の冷却力に依りて温度の平衡を速ならしめて精密迅速に瓦斯の分量を測定し得べくしたる瓦斯檢定器。

濱田 隆 一

東京府在野區大崎町
大字桐ヶ谷四二七

特許第一〇三三六四號 鉛或は鉛の合金を鍍金する方法

〔内容〕銅、鐵、鋼等を被鍍金材とし之に熔融せる鉛或は鉛の合金を鍍着せしむるに中間層として「コバルト」或は「ニッケル」等を電氣鍍金し其鍍着を完からしめたる方法。



所業工ムーロク和太
藏 辰 内 竹
町藏千新區正太市阪大
地番七十七百

特許第七六〇四九號 鍍金裝置

〔内容〕本發明は鍍金作業に於て補助陽極を陰極と同一持桿上に裝置し主陽極板の一端より來れる檢接觸子は補助陽極線の一端的檢接觸部に、又陰極母線より支出せられたる檢接觸子は陰極線の一端的檢接觸部に適合せたる鍍金裝置にして、陰極並に補助陽極を電源に接続したる後電解液中に挿入し以て電氣化學的に生起し易き逆化學反應を完全に除き得らるべき方法を繁雜なる作業中に於て簡易迅速に其目的を達

齋藤 正 一郎

東京市小石川區林町
四三山口津年方

特許第一〇三四七〇號 電氣式測定裝置

〔内容〕双金屬電極式毛管線に液の出入調節を自由ならしめ該毛管線の外部本回路に電流調整用抵抗器を介在せしめて目盛盤を廻動し得べくなる指針型電流計を接続したる裝置。

石井 四 郎

東京市牛込區戸山町一

特許第一〇〇六一五號 細菌培養罐

〔内容〕内部を縱方向又は横方向に平行し且多數の小孔を穿ちたる區別版によりて適數等分し注入したる培養液を區別版兩面に薄層とすべき内罐を區別内に夫々着脱自在に挿入したる裝置の細菌培養罐。

日下 藤 次 郎

鎌子市後田町イノ九八

特許第一〇三七四六號 油の下層に滲在する水蒸測定用資料

〔内容〕水に生石灰明礬及「リスリン」を加へ均等に混和せしめたる油の下層に滲在する水蒸を測定する資料。

山崎 武 二

兵庫縣武庫郡本山村
大字岡本字中島二四

特許第九八四一四號 硫化鹽素の人工老成試驗裝置

〔内容〕波長三〇〇〇Å以下の短波長部を遮断すべき試料挿入用氣密容器を恒槽内に裝置したるものに係るものにして前記波長以下の紫外線部を除去せる光線

し得るものなり。從來被鍍金物を陰極に懸垂し之を先づ電解液中に挿入して然る後之を電源に接続して鍍金作業をなすが故に、未だ電流回路を作らざる間に被鍍金物が一種の電氣化學的の逆反應を生起し、鍍金の完全なる作業を妨害すべき技術上の一缺點なりとす。然るに本法による鍍金製品は從來の鍍金物に比し鍍金層に厚薄を生ぜず光澤美麗にして且つ電解液中に於て電氣化學的の逆反應を生起せざるを以て強固なる鍍金物を得られ、殊に鍍金作業の甚だ困難なる「クロム」鍍金に於て益々其優秀なる効果を發揮し得るものなり。

山崎 久 吉

東京市本所區
林町二ノ七三

特許第九七二二四號 鍍製品に「カドミウム」を電鍍する方法

〔内容〕陽極として「カドミウム」と水銀との合金を使用する事の特徴とし之に關聯する特殊裝置により耐蝕度強く雅趣ある製品を得る装置。

後藤 憲 三

東京市淺草區
新福井町五

特許第九六二八四號 電氣鍍金裝置

〔内容〕鍍金槽の縁側に於ける齒輪及直齒輪の聯動により昇降自在なる鍍金槽を緩急せしめたるに關聯する特殊裝置により操業上の手数を省略し迅速に操業し得る機構。

にて材料を照射し自然老化に近似せる結果を得る装置。

山内 泰明

千葉市本町三ノ一六五五

特許第九八〇三九號 細菌學血清用小解器

〔内容〕真空瓶内に培養物容器を支持すべき保持具を附設したる蒸温物質容器を挿入したるものに關聯する特殊装置により携帶に便にして火氣を用ひざる爲め危険少く且つ細菌及血清の培養反應を逐げしむる装置。

山田 忍

北海道札幌郡琴似村大字翠似七北海道農事試験場内

特許第九九六四號 水素「イオン」濃度測定用指示薬製造法

〔内容〕四種の指示薬を特殊割合の分量にて混合し單一なる指示薬となし之を可溶性に加ふるのみにより廣範圍の水素「イオン」濃度を直ちに測定し得る指示薬の製法。

小柳 勝藏

埼玉縣秩父郡秩父町大字大宮九〇二

特許第一〇三三〇七號 「セメント」微粉粒沈降測定装置

〔内容〕「セメント」をして常に静止状態に在る「アルコール」内を沈降せしめ「セメント」組成微粒子の分布

布状態を精密に測定せしむる装置。

山崎 忠純

東京市杉並區上荻窪六二二

特許第一〇一七六八號 蒸溜装置

〔内容〕特殊装置に依り極めて少量なる熱量により多量の蒸溜液を得べくせる装置。

廣田 直憲

臺灣臺北台東町一丁目一八

特許第一〇一八四四號 昇華物含有する蒸溜蒸氣を冷却する装置

〔内容〕冷却器の内壁に冷却用水の一部を流下せしめ直接冷却により蒸氣の冷却を有効に行はしめたる装置。

鈴木 庸生

東京市小石川區林町五七

特許第一〇一五三二號 太陽輻射「エネルギー」に依る蒸溜装置兼日光照度計

〔内容〕燃料及冷却水を要せずして水其他の液體を蒸溜せしめ同時に溜出液體の分量により容積面に受けたる太陽輻射「エネルギー」を近似的に積算測定せしむべくしたる装置。

田中 七平

長崎市坂本町二五九

特許第九九七六一號 加熱管表面を清掃し同時に蒸發を促進せしむる装置を有する蒸發器

〔内容〕廻轉軸に取付られたる清掃片を以て加熱管表面に附着する垢を拭去せしめて熱傳導率の低下を防止し同時に蒸發器内の液體の循環を促進せしむべくしたる装置。

松尾 鶴松

東京市麹町區丸の内一ノ六ノ一海上ビルディング、スルザー、ブラザース東京出張所内

特許第九八二七一號 多段式蒸發装置

〔内容〕同心的に復合せしめて設置せる垂直圓筒部材の加熱面に間に熱絶縁性材料の圓筒形隔壁を挿入したる装置にして蒸發段階を増加せしめ加熱面を掃除し得る機構。



故 鈴木 藤三郎

特許第六一七六號 氷砂糖製造方法及装置

〔内容〕本發明は糖液蒸發罐にして、下部より間隔的に熱空氣を送り込み上部より絶へず空氣を吹き出すべくしたる低壓密閉罐内に於て小

相良 春一

八幡市枝光東田町四丁目一

特許第一〇二六八六號 暖房熱室に於ける給氣又は排氣装置

〔内容〕蓄熱室の全長に亘り各部の通氣及熱分布を均一ならしめ熱効率を高め且つ通氣及熱分布の調節を容易ならしめたる装置。

鳥田 金一

東京市豊多摩郡落合町字上落合五五〇

特許第九七二九〇號 縦型低温乾燥機

〔内容〕「アンモニア、レトルト」を形成せしむべき筒部と臺部とを其内部に翼車を收容して交互に重合せたる事に關聯する特殊装置にして「コークス」の品質を均一ならしめ且乾燥室の面積を増大せしむる装置。

廣瀬 勘治

大阪市港區福町二丁目三四

特許第一〇三五五五號 煉炭燒成窯

〔内容〕無端連鎖帶により煉炭を自動的に自然に室内を往復せしめ室内の熱を最も有効に使用せしむべくしたる燒成窯。

石橋 弘毅

東京市本郷區駒込上富士前町五

特許第九九八九號 亞硫酸紙漿液より固形粘結劑製造法

〔内容〕原料の有效成分を析出脱水の爲之に石灰を



黒田 泰造
福岡縣八幡市高町四丁目

特許第三二五四二號 黒田式煖炭爐

〔内容〕黒田式煖炭爐の再生燃燒装置は爐の普

器に盛れる糖液を結晶せしめ氷砂糖を製造し得るものなり、努力費用を減じ糖密を残すことなく迅速に且つ完全に結晶なましむる効果あり。
〔略歴〕氏は静岡縣の出身、菓子商を営みしが後製糖事業に關與し當時我製糖業幼稚なるを遺憾とし之が改良に日夜苦心研究をなし遂に本發明を完成するに至り、明治二十一年工場を東京に建設し同廿八年日本製糖株式會社を創立す、次で歐米視察を終へ臺灣製糖株式會社を創立して活躍せり、後醬油釀造法の發明を完成し次で汽罐に燃燒器に製鹽装置に乾燥器に百餘の發明特許を得現にその蒸氣炊装置は鈴木小松商店に於て盛に實施しつゝあり、大正二年没す。

寺田 俊一

東京市瀧野川區田端町四九六

特許第一〇一六八八號 液槽内に對流を作る加熱管及隔壁板を設けたる蒸發装置

〔内容〕熱源を終始有効に働かしめ操作を簡易にし蒸發濃縮又は溶媒より析出する物質の分離採取を容易ならしめたる装置。

小松 徳次

佐世郎市白南風町三

特許第九六三三九號 廢熱利用煖炭製造機

〔内容〕汽罐等の廻轉火格子に關聯する特殊装置により家庭向煖炭を連續的作業を以て製作し連續的に發生する火焰を汽罐其他の加熱に利用せしむる煖炭装置。

福田 耕作

山口縣吉敷郡大内村大字御地第一番地

特許第一〇二二八四號 木炭製造機

〔内容〕補助煙道に依り水蒸氣の排出並に温度上昇を迅速にし排氣排出の加減に依り任意の炭質に必要な炭材を得て迅速に任意の良炭を得べき木炭製造機。

作用せしめ沈澱並に壓搾工程により製造し運搬に便なる固形粘結劑を得る方法。

竹内光雄

東京市淀橋區
西大久保三丁目四〇

特許第九九一九號 煨爐灰製造法

〔内容〕 使用に際し無煙無臭にして完全燃焼し堅固にして弾性に富み且つ取扱に衣服、手指等の汚穢することなき煨爐灰の製造法



川澄豆炭株式會社

川澄 政
大阪府大正市大正二丁目

特許第三四二二三號 川澄式煨爐灰製造法

〔略歴〕 三筋豆炭は大正九年一月川澄煨爐灰會社が現在の場所に工場十二噸機を設け豆炭の商品化を企圖したるに創まる、斯くて川澄豆炭が商品として創めて市場に現はれその商品價値の偉大なるを認めらるゝやその需要は各方より喚起される趨勢となり益々事業の有望なるに鑑み同十年十一月株式會社となし事業の基礎を固むると同時に煨爐機を三十噸機に更め製品の向上に邁進せしが故に需要は益々激増の一途を辿り同十四年頃より漸く創業の苦難の域を越へ相當の利益を見るに至り、採算上の好化と技術的

の精練は必然的に製品の優良化を齎して其需要は目覺ましく増大するに至りしを以て昭和二年一躍百噸機に擴張し、續いて同四年百二十噸機に擴大して今日に至り一ヶ年間二萬九千餘噸の豆炭を精成するの狀態となれり。現今豆炭と云へば直感的に川澄の三筋豆炭を想像するが如く最も古き歴史を有するが故に、その製品の販路も亦廣汎に亘り京阪神を獨占的の最需要地盤として中京、關東、北陸、東北、北海道等の地方に至る迄よく其の名を博し名實共に他製品を壓倒して斷然一頭地を抜き其聲價を高めつゝあり然も本邦燃料界の一角に燎原の火の如き凄じき勢ひを以て發展しつゝある家庭用煨爐灰に豆炭は實に社長川澄政氏の前半生を語る好個の記念物たるなり。

氏は明治十一年愛知縣田原町の出身、幼時已に豪膽にしてよく郷黨の人士を驚嘆せしめ長ずると共に鵬志を抱き徒らに踟躕たる狹國に踞居するよりは遠く大洋に自由の羽翼を伸ばし海國男子の意氣を昂ぐるに如かずとなし、十七歳にして日清戰爭當時自ら進んで海軍機關兵を志願して機關の操縦に従事すること十一年餘、其間一日の睡眠僅かに二時間、よく研究を続け、同三十九年十一月滿期後大阪に來り直に一等機關士の免狀を得次いで翌年郵船三池丸に乗船、後齊州丸に轉船、當時偶々貨物として煨爐灰を運搬するの機縁を得、之即ち氏の一生の運命を指示する羅針盤とはなりしなり、即ち氏の烟眼は夙も此の煨爐改良に全生命を委ぬるの固き信念を把持するに至り、而して海上生活者の安

北脇市太郎

東京市目黒區
中目黒二丁目七五六

特許第一〇二七五號 家庭用煨爐灰製造法

〔内容〕 無煙炭其の他の石炭質微粉を主要原料として表面堅固に内部多孔性にして着火し易く燃焼繼續性に富み臭氣を發せざる家庭用煨爐灰を安價に製造する方法。

新宮 新左衛門

大阪府東淀川區
三國町九二〇

特許第九五二〇一號 彈性ある二重炭層煨爐灰製造法

〔内容〕 叩解せる植物纖維を處理せるもの、中に木炭末と無煙炭末を混和したる混和液を以て製したるものにして柔軟可撒性及彈性を有し着火し易き木炭層を有する煨爐灰製造法。

關 廣 次

東京市豊島區
西里三丁目八五〇

特許第一〇一四七五號 亞炭の乾留による家庭燃料製造方法

〔内容〕 亞炭を乾留固結せしめ無煙無臭に燃焼をなす純良なる固結炭を粘結劑を使用することなく經濟的に製造する方法。

森友徳兵衛

東京市日本橋區
小網仲町五

特許第九五一四三號 固形煨爐灰製造法

〔内容〕 杉、松、檜の葉を處理して所定の型にし乾燥炭化せしめてなるものにして良く濕氣に耐へ火持良く糊料を用ひざる爲め使用中煙烟と惡臭を放散せず取扱中指頭を汚す事なき製品。

田部 爲治

東京市本郷區駒込
西片町一〇口ノ二三

特許第一〇〇九七三號 「ピッチ」煨爐灰製造法

〔内容〕 「ピッチ」の粉末に植物性粉末を加へ密和し耐火質「レトルト」に入れ大氣を可及的遮斷し加熱乾燥する煨爐灰製造法。

關 允

東京市豊島區
西里三丁目八五〇

特許第一〇一四九二號 石炭類乾留に於ける高熱物質固結裝置

〔内容〕 特殊裝置に依り石炭類の高熱狀態にある乾留物質を壓搾して大氣及雨露等に作用せらるることなき一定の形體を具へ一定の密度を保有する固結物質を簡單迅速に生成せしむる裝置。

小沼得四郎

東京府北多摩郡武蔵野
町吉祥寺四六八

特許第九四五六號 連續逆燃式内熱乾留方法

〔内容〕 徐々に加熱する時は崩壊する性質を有する固結劑を使用せる煨炭を乾留する場合に關聯する特殊裝置にして加熱崩壊の性質ある原料を其變形を防止し火付並に火持の良好なる煨炭を得る裝置。

佐々木 佐七

東京市下谷區
圓泉寺町二九五

特許第一〇二七三號 煨炭製造法

〔内容〕 塵芥より多量の炭化物を容易に摺別し塵芥處理を簡易ならしめ且多孔質にして内部より燃焼を起し火力強大而も着火迅速なる木炭代用の煨炭を廉價に製造する法。

向山 幹夫

東京府荏原郡荏原町
中延一〇七七

特許第九六三二六號 煨炭製造法

〔内容〕 無煙炭末其の他の粉炭に硫酸曹達と石灰其の他の特殊物と水との混和液を加へて製造するものにして燃焼中注水するも崩壊する憂なく燃料として適當なる煨炭の製法。

市川榮一

東京市蒲田區
小林町二八九

特許第一〇一七〇一號 燃料油能率増進劑

〔内容〕燃料油に燃焼補助劑として加ふる「ナフタリン」に特殊藥劑を配合混和したる能率増進劑。

今井禎四郎

東京市牛込區
早稲田鶴巻町四四三
池袋二丁目九一三

特許第一〇一三五三號 「アルコール」性ガソリン代

用燃料製造法

〔内容〕石油原油蒸餾の際抽出する輕油と「アルコール」を主要原料として内燃機關に使用するとき「ガソリン」に比し其始動著しく迅速に且つ完全燃焼し遊離炭素を析出せず「ノッキング」も少き燃料の製造法。



大野 勉

大阪府大田區
旭町三丁目三十三番地

特許第一一三〇二號 液體燃料の助燃劑

〔内容〕本發明はベンゾール炭火水素のデニトロ化合物、ナフタリンのニトロ化合物、芳香族のアミン化合物及脂肪族のアルコール類の配合物を主劑として成る液體燃料助燃劑にして、液體燃料に添加することにより其のオクテン價を

高め起爆性を附與し併せて燃焼を完全ならしめ熱動率を増大し以て燃料油の消費量を著しく軽減せしめ得るものなり。

下村陽吉

東京市王子區
袋町一丁目一七七二

特許第一〇一九五四號 「ガソリン」代用液體燃料

〔内容〕「エチルアルコール」、「ニトロベンゾール」、「醋酸「アミール」」及石油を各適量混和したる各種發動機用として「ガソリン」の代用に適する液體燃料。

濱田八之助

東京府豊多摩郡大久保
町大字西大久保八四

特許第九四九四八號 混合微粉燃料の製造方法

〔内容〕軟質「ビッチ」其他軟性瀝青質可燃物を加熱し之れに特殊装置により微粉炭を混和せしむるものにして前記原料を廣く燃料として利用する方法。

青木八十三

大阪府此花區
上福島中一丁目五五

谷永重家

富山縣越前郡八尾町
上新町二六三二ノ二

坂本成二

石川縣羽咋郡
羽咋町五番地

特許第一〇三三八〇號 燃料加工法

〔内容〕木炭、石炭類、炭炭類を型成したる塊炭を醋

柳井禎藏

東京市芝區
白金三光町二七三

特許第九七五七二號 發動機用混合液體燃料

〔内容〕適宜比重の揮發油に特殊化學品を添加し攪拌したる混液に可燃瓦斯を吸收飽和せしめて成るものにして引火點蒸溜度を低下せしめ且つ發熱量を大ならしめたる燃料。

松島喜三郎

東京市小石川區
竹早町一八

特許第一〇三一九九號 粉末狀内燃機關用燃料補助劑

〔内容〕特殊の各種粉末狀藥劑を混和せしめたる「ガ

都高等蠶業學校等の養蠶室に於て十數度の試験を経たる等苦心努力を重ねらるゝこと數年、遂に本法の發明完成を見るに至りしものなり。尙目下一般普及宣傳中に屬し將來の發展を期せられつつあり。

埴生保

大阪府住吉區北田邊町
三百六十八番地

特許第一〇六三四八號 石炭自動乾溜装置

〔内容〕燃料筒に燃料コークスを入れたる儘内筒即レトルト内の中央に一定の間隙を保たしめつつ、火床上に常に一定量のコークスを連続燃焼せしめ、平均に内筒即レトルトを熱しつゝ、自動調節器により徐々に下降せしめ順次に石炭を自動乾溜せしむる装置にして、徐々に下降する火床に常に一定量のコークスを燃焼せしむることによりて瓦斯を長時間中極めて平均に發生せしめ従つて瓦斯タンクを要せず、石炭瓦斯の使用を簡易化し且つ瓦斯の發生量を自由に調節し得る特徴を有するものなり。

〔略歴〕氏は明治二十二年三月石川縣小松町の出身、多年研究に没頭し遂に本發明を完成せられたるなり。

並河孝

山口縣都鄙郡徳山町
慶万海軍燃料廠
丙第一號官舎

特許第九八九五七號 炭化水素瓦斯の分解方法

〔内容〕特殊装置に依り炭化水素の發生熱にて炭化水素瓦

谷十

東京市本郷區
駒込町一〇五

鬼頭美代志

東京府豊多摩郡
杉並町字天沼七八〇

特許第一〇〇三六二號 動力瓦斯發生爐羽口

〔内容〕空氣の瓦斯化帶と水性瓦斯化帶とを區別するため空氣を羽口の中心より水蒸氣を羽口の周囲より噴出せしむべく構成せるものなり。

山崎喜一郎

川口市三一三
燃料研究所内

内田正次郎

同所

特許第一〇三八六九號 連續式瓦斯發生装置

〔内容〕瓦斯化「レトルト」への連續的給炭と自由燃焼室の燃焼調整とにより低小なる爐型を以て大量の良質發生爐瓦斯又は水性瓦斯を圓滑容易に發生せしむる装置。

浅川權八

東京市中西區
水川町一二

特許第一〇二七六四號 輕量瓦斯發生装置

〔内容〕瓦斯發生爐の爐胴外周に於て上下に開通する通氣套隙をなして中空筒狀の瓦斯冷却器を繞設したる占位容積小にして運搬取扱容易なる瓦斯發生装置。



若田虎三郎

大阪府大阪市南區
通川治安南區港市阪大
地番八十目丁三

特許第七八一三八號 無煙粉炭埋燃法

〔内容〕本法は無煙粉炭の層と藁の層とを交互に爐中に埋積して其上部に木炭其他の火塊を載せ、更に藁灰層にて其表面を覆ひ無煙粉炭を暖房用燃料として其儘使用し得るものなり、故に多量の粉炭を一度に爐中に埋没し漸次に燃焼せしめて長く同一温度を持續し、殊に層中に生ずる藁灰層と表層の藁灰とによりて其温度を自由に調節し得べく且つ着火容易に而かも完全に燃焼する特徴とするものにして一般家庭は勿論特に養蠶飼育に必要な燃料として最も經濟的に且つ用法簡單に能率的なる投炭の量により何ヶ月にても燃焼持續するが故に熱利用法として効果的なり。

〔略歴〕氏は明治二年八月の出生、二十歳頃より石炭商に従事し現在に於ては石炭、重油、無煙炭の販賣並煉炭工場を經營す、夙に粉炭を製煉せず其儘使用し得る方法につき研究する所あり、而かも本發明に必要な外温、内温の度差を計るために大設備を有する郡是製絲會社、京

酸鉛にて處理し火力を旺盛ならしめ通風惡き場所に於ても尙よく燃焼せしむべくしたる燃料加工法

木村忠雄

山口縣豊浦郡高島町
大字産島三三七一
特許第九六二四三號 熔淨流出式水性瓦斯發生装置
〔内容〕 火格子を有せずして爐底に豫熱空氣導入口及更に上位位置に水性瓦斯排出口を有し爐頂にのみ過熱水蒸氣導入口並に燃焼瓦斯排出口を具備したる装置。

三島超

青森縣南津輕郡
大館町大字大館一九二
特許第一〇一七〇七號 瓦斯再燃装置を有する「ドイン」瓦斯發生爐
〔内容〕 上風通風式により發生せる瓦斯に含まれる未燃焼炭粉「タール」揮發物、塵芥等及剩水蒸氣を再燃せしめ瓦斯清淨を補ひ良好なる瓦斯を得せしむる發生爐。

白土允中

東京府荏原郡
大森町山谷二五〇六
特許第九七八二號 瓦斯自動車用瓦斯發生爐
〔内容〕 特殊装置に依り自動車機關の休止中と雖爐中に火氣を保持し且つ常に火氣を燃焼室中に局限して貯藏燃料への引火を防ぎ燃料の徒消を防止する装置。

漆田信

岩手縣二戸郡津法寺村
大字津法寺八幡館九
特許第一〇一七九六號 木炭瓦斯發生爐
〔内容〕 發動機負荷の不同に應じて自動的に送風量を調節し以て瓦斯の發生供給量を調節し瓦斯供給量の急變に對しても些の支障なからしめたる木炭瓦斯發生爐。

日高晴生

横濱市神奈川區青木町
字柳井澤一八五八
特許第一〇〇二五九號 濃成瓦斯發生装置
〔内容〕 爐内温度の分布と給氣の分布とを一致せしめ瓦斯化作用能率を増大すると共に爐の上中に於ける乾燥作用をも各部均等ならしむべくしたる特殊装置。

時山義輔

東京府豊多摩郡
淀橋町柏木九一
特許第九六二〇四號 揮發性液體の氣化促進器
〔内容〕 特殊装置に依り揮發性液體を循環せしめて揮發性液體と壓縮瓦斯との混合氣體を得る装置。

大久保好行

東京市麹町區
三番町三〇
特許第九七五七一號 「エア」瓦斯發生器
〔内容〕 揮發油の比重の變動に伴ひ自動的に氣化率を變化し以て揮發油比重の變化に伴ふ「エア」瓦斯の濃度の變動を防止する装置。

島津源吉

東京府豊多摩郡落合町
大字下落合二〇九五
特許第一〇〇五三六號 「ガソリン」瓦斯發生装置に於ける「ガソリン」逆流防止方法
〔内容〕 壓送空氣側と發生瓦斯側とを連絡せしめ其中途に壓送空氣側よりは之を閉塞し發生瓦斯側よりは之を開くべき弁を附したるを特徴とする「ガソリン」逆流防止方法。

石川源二

横濱市神奈川區
幸ヶ谷三三五
特許第九六二二七號 「アセチレン」瓦斯自動發生給水装置
〔内容〕 自働給水器内を壓力作用室と給水調節室とに分離し隔膜の作用により自動的に給水し瓦斯の發生により壓力を増すとときは自動的に給水を断たしむる装置。

永井雄三郎

東京市豊島區
巣鴨町六丁目一五三二
特許第一〇三〇二四號 「アセチレン」發生器の改良
〔内容〕 「アセチレン」發生器の「カーバイト」裝填口に中空筒を連設して「アセチレン」發生器の爆發を防止せしむる装置。

寺崎善吉

東京府荏原郡
目黒町中目黒六四四
宮腰六三三
特許第九七五七九號 塵芥雜草等の微粉泥狀塵より低温度にて可燃性瓦斯を發生する装置
〔内容〕 瓦斯發生装置内に連續せる特殊原料流下帶に蒸氣放出管を配列して低温度を維持せしめる發生装置。

伏田清三郎

大阪府此花區
上福島二丁目
特許第二六五〇四號 瓦斯洗滌装置
〔内容〕 本發明は有煙炭より發生する有毒瓦斯

田邊和一

大阪府港區
千代見町二丁目二四
特許第九六六七二號 固形二酸化炭素製造装置
〔内容〕 液化二酸化炭素の氣化消費量を極度に減少し高効率に於て持續的に固形二酸化炭素を製造する装置。



長谷川清治



岡村金藏

〔略歴〕 明治十五年九月一日生、明治廿八年五月東京藥學校卒業、大正十一年一月、日東礦業株式會社を創立同年同月平野炭酸瓦斯株式會社を組織し現在に至る。此外數種の特許權を有す。
山口治三郎
大阪府住吉區
阿倍野筋三丁目七四
特許第一〇二七六二號 固形二酸化炭素製造法
〔内容〕 液化二酸化炭素の氣化と水結との關係により變化すべき氣化室内の壓力を「ピストン」の作用により自動的に一定に保たしめ固形成生に適應する状態を自動的に保有せしめたる製造法。

特許第六九九二〇號 油母頁岩乾餾法(頁岩油)

〔内容〕 本發明は油母頁岩を補助燃料を用ひずして乾餾し頁岩油の増收を計らんとするものにして、乾餾爐下部に水性瓦斯發生爐を設け乾餾殘滓を落下して水性瓦斯を發生せしめ之を乾餾爐内に通ずる際乾餾爐より發散する瓦斯を蒸熱器により高温に加熱したるものと混じて乾餾爐下部より吹き入れ循環的に流通せしむることを特徴とし、油質の品位を低下する酸素の存在を極度に減じアムモニアの回收をも可能ならしめたるものなり。
本法は蘇格蘭式外熱法に比し熱經濟良好にして乾燥殘滓より生ずる瓦斯の熱量のみにて自足し得て尙餘りあり、其他爐底より吹入する低壓蒸氣量も半以下にて可なるを以て油の生産費を著しく低減し又レトルト乾餾能力大なるを以て一定量の乾餾に對し小數の爐にて足り従て建設費も少額なり、以上の如くなるを以て撫順產油母頁岩の如き貧鐵に對し適當なる装置にて之を工業化せしめたるものにして我國燃料界に貢獻する處頗る大なるものあり。
〔略歴〕 岡村氏は明治三十九年京都帝國大學理工科電氣工學科卒業、製鐵所、京都市技師を経て大正二年南滿洲鐵道株式會社に入社し昭和三年撫順岩鑛臨時製油工場建設事務所長となり同年計畫部勤務となり現在に及ぶ。頁岩油事業に關する研究のため歐米に出張すること二回、帝國發明協會より特等賞、恩賜記念賞並大賞を受領す。
長谷川氏は島根縣の出身、明治四十四年大阪高等工業學校機械科卒業、千代田瓦斯株式會社

東京瓦斯會社、山陰瓦斯會社、久留米市役所等を経て大正六年南滿洲鐵道株式會社に入社し十三年歐米に出張し昭和五年製油工場長となり同八年病没さる。帝國發明協會より特等賞、恩賜記念賞並大賞を受領す。

村上 勇三郎

東京市 城東區
龜戸町七丁目二四一

小林 三勇吉

東京市 城東區
龜戸町七丁目六四

特許第九八六七號 動力用高壓瓦斯發生方法
〔内容〕固形炭酸及「カーバイト」を瓦斯發生室に封入し之に水を注入する事により發生する動力用高壓瓦斯發生方法。

北 脇 市 太 郎

東京市 目黒區
中目黒一ノ七五六

鈴木 爲吉

東京市 目黒區
中目黒四ノ一四七五

特許第一〇三九六四號 炭素質物質に水素を化合せしめ重要な炭化水素を製造する方法
〔内容〕水素添加觸媒として極に超微量の「ヨード」等を混入使用する石炭類等に水素を高圧高熱下に作用せしめて成る製法。

白 根 源 藏
埼玉縣北足立郡
南平柳村大字本郷

城 所 徳 祐
東京市 本郷區
本郷五ノ四二

特許第一〇〇三八二號 鎮油類似物の製造方法
〔内容〕草類等を其成分たる葉綠素、黄色顔料及殘物に分離し高壓還元により油状又は半固體「パラフィン」類似の油或は重油状に油化せしむる方法。

吉 村 梯 治

新潟縣刈羽郡
柏崎町大久保七八
日本石油株式會社内

特許第一〇二五二三號 分解油精製法
〔内容〕「チオアルコール」の如き分解油中の惡臭原體及其他の不純成分と直接に反應し得べき精製劑を液相にて混じ比較的低温度にて分子接觸をなさしめ此等を分解油より完全に除去せしむる方法。

中 村 運 正

新潟縣刈羽郡柏崎町
大字批馬一四八三
日本石油株式會社
柏崎製油所内

特許第一〇三八〇六號 鎮油處理法
〔内容〕鎮油を「ニトロベンゾール」等の如き飽和又は飽和に近き炭化水素を溶解し難き溶劑一種又は數種とを併用して處理し原料油中の該炭化水素と然らざる炭化水素とを分離する方法。

伊 川 浩 藏
東京市世田ヶ谷區
大原町一〇二

河 野 雙 二
東京市 牛込區
矢來町三二

特許第一〇〇四八四號 油化方法
〔内容〕酸素及硫黄屬元素を含有せざる燐化合物又は容易に該燐化合物を生成すべき物質を觸媒として使用する方法。

松 村 善 藏

九善鎮油合名會社
神戸市 港西區
北神町十八番地

特許第九八八〇五號 鎮油蒸溜裝置

〔内容〕本發明は壓力を伴はざる比較的高温度なる熱氣の均一なる加熱に於て鎮油の真空蒸溜を遂行すると共に尙必要に應じて熱氣の調整を簡易に爲し且つ使用罐材或は管材の破裂損傷を可及的に絶無ならしめたる裝置なり、從來の裝置として蒸溜罐底部より直火に依り或は罐内に傳熱蛇管を配裝し飽和蒸氣或は熱水を通じて蒸溜を爲したるものあれども罐底部の原油を過熱して鎮油の分解作用を惹起し又は飽和蒸氣の壓力大による破裂破損の危険ある等の缺點あり、然るに本裝置は真空蒸溜罐の兩側に熱氣室を、又下底部に底部熱氣室を各裝設し割壁により區別せる熱氣室を罐内に架設せる熱氣管に依り熱氣の交換流通を行はしめたるを以て原油の加熱に偏頗を生ずる虞なく且つ真空蒸溜と熱氣加熱

とにより蒸溜温度は比較的低温を期し得ると共に、尙燃焼爐に近接して導管に穿てる空氣導入孔より流入する空氣は導管が比較的長き關係上罐に至る道程に於て熱氣と空氣との混和を一樣ならしめ得る利あると共に其の流入量により熱氣温度の調整を極めて簡單に遂行し得るものなり。

大 河 内 正 敏

東京市 下谷區
谷中清水町一

吉 川 退 藏

東京府 豊多摩郡
長崎町荒井一八八三

特許第九九八七號 炭化水素乾留又は破壊乾留電氣爐
〔内容〕堅型加熱室に固定原料供給口及氣體製品取出口並に液體及固體製品取出口を裝備し而して電流の極を上下位置に設け其中間に液體原料噴出口を設けてなる装置。

高 木 鏡 男

大阪府 北河内郡藤井村
大字中根二四九五

特許第九七八三九號 「ガソリン」製造法
〔内容〕鎮油、石炭「タール」等を活性炭素の存在に於て鹽素瓦斯を通じつつ蒸溜することを特徴とする方法。

〔略歴〕明治九年九月十四日生にして現在まで約三十二年製糖、製藥、酒精及燃料等各種化學工業の會社又は工場を経営し今日に至る。

稻 葉 卓 一

關東州 大連市
須磨町二〇

横 地 三 夫

關東州 大連市
回春街六ノ一ノ一五

特許第一〇三三二八號 鎮油瀝青質又は脂肪油の乳化法
〔内容〕動物性「フォスファチド」の「ゾル」に水性の一價又は二價の金屬鹽を添加し「フォスファチド」の一部凝固を起せる「サスペンジョン」を乳劑劑として脂肪油鎮油其他を乳化する方法。

藤 田 政 輔

東京市 赤坂區
丹後町七七

特許第一〇三二二二號 床面塗布液の製造法
〔内容〕鋪裝床面の塗布に適する鎮油性油又は之を主成分とする特殊藥品の混合油液に少量の「グリセリン」含有の水を加へ乳濁質水溶液状ならしむる事を特徴とする液の製造法。

石 川 留 吉

朝鮮 京城府
大和町二ノ七八

特許第一〇〇三九〇號 明礬石を含有する鎮石中より明礬石を其他の鎮物より分離選別する方法
〔内容〕鎮石を粉砕し加水し鎮液となし之に醋酸又は醋酸鹽と椰子油とを浮遊媒劑として添加し攪拌して分離する方法。

小 島 鎮 雄

兵庫縣 武庫郡
住吉村字八甲田七六一

特許第九五四二二號 含銅硫化鐵の焙燒の處理方法
〔内容〕塊鐵を簡易なる操作により「クラスト」の部と「カーネル」類とが分離する迄磨砕せしめて小粒乃至粉狀の部と大粒乃至塊狀の部との二部に選別する方法。

上 野 建 二 郎

兵庫縣 武庫郡 尾尾村
燧屋敷五(眞鳴鳴)

特許第九七八三八號 含鐵鐵礦より燐を除去し良質鐵礦を收得する方法
〔内容〕含鐵鐵礦に食鹽を加へて高温度に於て焙燒することを特徴とし後水洗を行ふ方法。
〔略歴〕昭和二年東京帝大工學部冶金學科卒業同年四月より商工省大阪工業試驗所技手を経て昭和八年同所技師任命現在に至る。

池 邊 瀧 三 郎

東京府 原郡 目黒町
大字下目黒五九〇

岡 崎 順 二 郎

東京府 豊多摩郡 野方町
大字上鷺ノ宮四四六

豐 原 彰

東京市 牛込區
市谷甲良町二

特許第九八三九號 明礬石の浮遊選別法
〔内容〕明礬石を粉砕し浮遊媒劑を少量混和し該鎮石中に含有する砒酸類を分離し品位高き富鐵を經濟的に得る方法。



梅津常三郎 工學博士 滿洲國鞍山製鐵所長

特許第四二九七二號 赤褐鐵選鑄法

〔內容〕從來此種の選鑄は水洗法に依りしがため處理複雜且つ能率悪しきを以て鐵鑄の如き廉なるものありては到底經濟上實施し能はざるものとして顧みられざりしを最も容易に且つ經濟的に應用し得る様なせるものなり。即ち爐にて加熱し且つ還元瓦斯に觸れしむるときは多くの夾雜物を含む緻密なる此種の鑄石は加熱のために其の容積を増大すると共に還元瓦斯のために化學作用を受け容易に龜裂を生じ非常に粉碎しやすき状態となり又強き磁性を帯ぶ、之を粉碎し磁力選鑄機により選別するものにして、粉碎の容易なると含鐵分の回收率大なることにより經濟的に實施し得るものなり。尙本發明は鞍山製鐵事業の根幹をなすものにして從來顧みられざりし埋藏量七億餘の貧鑄を經濟的に處理製鍊し得べくなし、其の他本溪湖並弓張等滿洲に藏する鐵鑄を有利に使用し得る途を拓きたるものにして實に本邦製鐵事業界に貢獻する所大なるものなり。

〔略歴〕氏は明治四十四年京都帝國大學工科學科探鑄冶金科卒業、直に製鐵所に入所大正四年技師

第一製鋼課長等を経て南滿洲鐵道株式會社に轉じ鞍山製鐵所に勤務し、大正九年より貧鑄處理研究に従事す、同十二年製造課長に、昭和八年株式會社昭和製鋼所取締役兼製鐵部長となり其の間二回歐米に出張す。昭和七年工學博士の學位を受け滿鐵會社功績章、日本鑄業渡邊賞牌を受け帝國發明協會より恩賜記念賞を受領す。

小室 靜 夫

東京市本郷區 西片町一〇に九

特許第一〇二二〇九號 砒化及砒硫化「ニツケル」鑄の浮遊選鑄法

〔內容〕原鑄を加水分砕し補收劑として或は起泡劑として特殊化學藥品を加へ直に浮遊選鑄を行ふ法。

仲田 旭

宮城縣栗原郡 露澤村字南郷荒町四八 如食鑄山事務所内

特許第九五八二號 硫酸鉛を含有する泥狀鑄處理法

〔內容〕原質に飽和食鹽溶液を加へ加熱したる鑄漿を電解に先だち溶液を溶解淨と分離せずして電解するものに關聯する特殊操作により食鹽を有効に再生し反復利用し得る處理法。

窪田 哲二 郎

大分縣佐賀郡 日本鑄業株式會社 佐賀製鑄所

特許第三七五〇一號 鑄中の金銀銅回收法

〔內容〕本發明は金銀銅鑄煉爐より生ずる熔

井上 義 一

岩手縣上閉伊郡 釜石町第一四地割二

特許第一〇三三五二號 石炭の煖炭化に伴ふ不規則なる導電作用を制御する滿鐵製電氣製鍊法

〔內容〕石灰石等鹽基性電氣抗質物の粉狀物を裝入に先ちて石炭粉中に煤劑として必要な全量を均密に擴散介在せしむる事を特徴とする方法。

秀なる磁氣状態を維持するものなり。

〔略歴〕氏は明治十三年群馬縣の出身、同四十年東京帝國大學工科學科探鑄冶金科卒業、古河鑄業株式會社に入社四十四年辭して獨逸に留學しアーヘン大學鐵鋼研究室に於て研究、大正三年同大學ドクトル・インヂニアの學位を受く、同四年日本特殊鋼合資會社を創立して代表社員となる、同九年工學博士の學位を受け帝國發明協會より進歩賞、特等賞、大賞を受領す。

高 昂 則 次 郎

東京府佐原郡入新井町 新井宿一六九八

伊藤 恒 太 郎

秋田縣北秋田郡同仁合 町眞木澤鑄山九七〇一

特許第九四三六四號 砂鑄又は粉鑄より「スポンジ」鐵を製造する方法

〔內容〕還元劑より成る容器内に砂鐵又は粉鐵と還元劑とを混入し爐壁を隔て外部より間接に加熱還元する方法。

〔高島氏略歴〕明治五年一月十六日生、明治卅年東京帝國大學工科學科探鑄冶金科卒業以來故古河市兵衛時代より同家の鑄業に従事して鑄山長及同社理事等を歴任大正十三年同社を辭してより専ら本特許に係る研究に従事なり。

高 野 喜 助

長野縣上高井郡 須坂町大字小山五六〇

特許第一〇二四三五號 吸氣自然式硫黃製鍊法

〔內容〕爐頂部覆蓋の特殊機構により爐壁の初期に於



宮 臺 次 大 阪 市 西 區 成 西 市 區 地 番 十 二 丁 二 通 本 千

特許第一〇六五九一號 纖維狀亞鉛の製造方法

〔內容〕本製造方法は高温度の熱を以て亞鉛を溶解して熱湯となし、其の表面を平版又は櫛齒狀のものを以て軽く且つ均等に摩擦して熱湯面に發生する皮膜を左右に掻き寄せ、急速に之を冷却せしめて纖維狀亞鉛を製造するものにして工業的各種の用途に供して容易に分解又は變化を受くる資料を極めて簡單且つ廉價に供給し得るものなり、即ち本發明の特徴は亞鉛地金より直接に然も最も容易に亞鉛粉末を製造し得るにあり、且つ亞鉛華の製造に當りては小規模の設備にて大量的の製産を容易に且つ經濟的ならしむるものなり。

〔略歴〕氏は明治十八年出生、同三十九年本邦に於て未だ亞鉛精練事業の發達せざるを遺憾とし密に自己の終生の研究事業たる事を決意するに至れり、然るに支那に於ける同事業に對する歴史は極めて古きを聞知し兩度渡支して立式亞鉛精練法を修得し、亞鉛高熱還元法及濕式法、電氣精練法等金屬分解精練に就き研鑽を重ね、支那厘錢の銅、亞鉛分解精練法を研究成功し歸朝後本邦輸出亞鉛界に力を致し斯界に貢獻する



渡 邊 三 郎 工 學 博 士 東 京 市 本 郷 區 大 目 丁 六 合 森 四 會 社 區 七 會 社

特許第四三六六〇號 自硬性磁石

〔內容〕從來凡ての磁石鋼は之を赤熱より水中に急冷して強烈なる焼入れを施し使用するものにして、焼入の調節を誤るときは磁力不良燒割れ變形等の不利あるものなり。本發明は炭素〇・六乃至一・〇%クロム二・五乃至五・〇%マンガニ乃至三%を含有せしむるときにタンクステン又はモリブデンを五%以内含有せしむることと特徴とするものにして、赤熱より空氣中に放冷すれば自然に硬化し之を磁化するときは優

ける低温期を利用し、爐内の水分を酸液となして絞取り、爐外に排出し、以て硫黄の有效なる乾燥と豫熱とを行ふ事の特徴とする製法。

久保利之吉

東京市芝区
西久保明船町一

上坂忠次

同所

特許第九八五八號 硫黄溶解製煉法

〔内容〕硫黄、硫黄炭素と水と「クロールカルキ」とを混し加熱により硫黄の溶解と硫黄地合の有機物の脱取と溶劑の蒸餾回収と晶出硫黄の分離とを同時に併行して硫黄を分取する方法。

藤山常一

東京市牛込區中町三

特許第一〇〇七八二號 硫黄製煉装置

〔内容〕爐筒の中間部に於て間接加熱を行ひ外氣と遮断せられたる状態に於て硫黄分を蒸發し然る後凝結器に導きて精煉する装置。

渡邊俊雄

京都市左京區
北白川通分町八七

野満朝亮

大阪府三島郡高槻町
字高槻三七ノ一

特許第一〇二六〇八號 含錫不純溶液より酸化銅を加へて錫を沈澱分離する方法

〔内容〕錫の損失を来さずして錫溶液電解後の溶液精製を行ひ又は含錫溶液より錫の分離回収を行はむとする方法。

加藤與五郎

東京市荏原區
戸越町一三〇

永海佐一郎

東京市目黒區
宮ヶ丘一八九七

特許第一〇三八七〇號 白金及び「ロチウム」精製法

〔内容〕白金及び「ロチウム」の一又は兩者の酸性溶液より銀又は水銀にて此等金を還元する事の特長とする精製法。

間藤徹十郎

群馬縣群馬郡
岩鼻村大字岩鼻三九九

渡邊兵意

群馬縣群馬郡
岩鼻村大字岩鼻二九九

特許第一〇〇〇六八號 多量の無機鹽類を夾雜する白金溶液より白金の分離法

〔内容〕接觸式硫酸式硫酸製造に於て長期間使用の結果接觸能力の減退を来せる白金接觸劑中に存する白金を工業的に分離する法。

飯高一郎

東京市豊島區
駒込三ノ三二九

特許第九八八〇八號 耐腐蝕性「アルミニウム」合金

〔内容〕「クロム」、「マグネシウム」、鐵及び「アルミニウム」を含有せる鑄造容易にして然も水壓試験に良果を示し加ふるに伸長率大にして鑄物及打物兩者に適當なる合金。

〔略歴〕明治廿六年五月十一日生、大正六年東京帝國大學理科大學化學科卒業、大正十三年工學博士の學位を受く。

新宅圭一

大阪府港區瓦町北通
一丁目二十七番地

特許第七四九五號 汽笛自動サイレン

同 第七八三五九號 モーターサイレン

同 第八一七八二號 モーターサイレン

同 第八〇五九五號 動力サイレン

同 第八一六二九號 サイレン

同 第九七〇一八號 サイレン

〔内容〕同所製K・S「モーターサイレン」は時報、警報を晝夜の別なく家屋内外、状態の如何を問はず適確に操作簡易に且つ經濟的に發聲により行ふものなり、然も其使用の目的其他種々なる條件に合致せしむべく種々型式を異にす、然して本品は「モーター」と「サイレン」とが直結されたるものなるが故に容姿狭小にして如何なる場所にも設置することを得、操作利便構造簡單且つ堅牢なるが故に永久的使用に耐ゆ又兩側の發音機に一對二の比例を有する階調を相調和せしめ即快なる大音響を發せしむる構造を有し電動機は全密封耐雨型とし軸承には高級「ボールベヤリング」を使用したるが故に屋外設置に適し、交流電源のもの全部三相、單相式とも籠型回



轉子誘導電動機を用ひたるが故に故障を生ずることなく發音機は多

年の經驗と學理に基く技術を應用したる設計により製作し次の特徴を有す。

一、發音機の空氣放出口を有する靜止圓筒辨は砲金製なるが故に錆、腐蝕なく耐久性に富む。
二、回轉翼車は特種輕合金「シルミン」製にして普通の輕合金に比して比重少なく抗力非常に大なり、又砲金「ブツシュ」を用ひ電動機軸と「テーパー」合により嵌着したるが故に振れ、歪み等なし。
三、電動機軸の先端の螺子部は回轉方向と相反する如くなし、發音機圓筒靜止辨は電動機「ベヤリングカバー」兩側に心直に回轉翼車の回轉方向に切りたる直結の構造にして振れ或は回轉中に弛む等の事なく又分解作業極めて簡單なり。

工學博士 石川登喜治

大阪市此花區
高屋町五六
住友伸銅管株式會社

特許第六五六八〇號 耐熱強力ニツケルブロンズ合金

〔内容〕本發明に係る製品は最高緊張力及彈性限界共に高く伸張良好且つ衝擊振動等の動的應力に對し抵抗力強く強靱性に富み、高温度に於ける強力の減退少く而かも不酸化耐海水性耐腐蝕性耐浸蝕性を有し鋼合金中第一位のものなり、從て高温高壓蒸氣用弁、海水用汽車軸類、航空機減速齒車、鑛山用仰筒車軸等に使用し成績優秀なるものなり。

〔略歴〕氏は明治十二年福岡縣の出身、同三十



理學博士 本多光太郎
鹿市藤鹿 二水清子

特許第三三三三四號 特殊合金鋼

〔内容〕本發明は特に磁石を造るため、前者は鋼鐵と二十乃至六十パーセントの「コバルト」を合金し之に若干量の「タングステン」、「モリブデン」、「バナシウム」、又は其の同族の金屬を加へて成り、後者は前發明を利用して之に擴張を加へたるものにして鋼鐵に二十乃至六十パーセントの「コバルト」と「クロム」とを合金して成るものにして耐久磁石として世界的第一優良品なり。

本發明に係る特殊合金鋼はK・S鋼と稱し夙に世界的發明として歐米諸國の電氣工業界より

絶大なる稱讚を博したるものにして、その耐久力及び強度は歐米の最優秀品に比し數倍せる特徴を有しその超優秀品たる點に於て正に磁石鋼中の世界第一位を占むるものなり。その實際的用途は實に長距離飛行機の「マグネツト」として最も必要缺ぐべからざるものとして更に赫々たる光輝を放つ所以なり。

〔略歴〕氏は明治三年愛知縣矢作町の出身、同三十年東大理學部物理學科を卒業し大學院に入り、同三十五年理學博士の學位を受く、その専攻とする所は「鐵及び其合金」の研究なり、同四十年歐米留學を命ぜられ特に獨逸チンマン教授に就き冶金學を修め四十四年歸朝す。

博士が有するその他の多數の特許の内主なるものは左の如し。
薄板鋼の焼入歪除去法、及物の切味試験器(日英、米、佛、獨特許)
健全なるインゴツト製造法(日、英、佛、伯特許)
尙先に帝國學士院賞を授けられ、帝國學士院會員に推薦せられて今日に至る。

水内昇一

南滿洲撫順
南臺町二丁目七

特許第九六六八號 鑄物用合金鋼

〔内容〕炭素、硅素、磷、ニツケル「クロム」、「モリブデン」鐵及不純物を含有する空氣冷却のみによるて燒戻を施し形状複雑なるものにて燒割れの恐れなき合金鋼。

〔略歴〕明治廿九年三月廿九日生、旅順工科學堂冶金科卒業現在撫順炭礦機械工場鑄物鍛冶場主任在職。



神戶製鋼所 株式會社
神戶市神戶區三丁目一十三番一
町一

特許第一〇六三三四號 耐腐蝕性管棒鐵製造用銅合金

〔内容〕一般に非鐵金屬材料を以て製作せらるる機械物の種類、同機械物の使用せらるる工業の種類、場所状態の別等各種の條件によりて其の腐蝕せらるる程度に自から差異あり、即ち(一)特に腐蝕せらるる事甚しき場合。(二)全く腐蝕せられず腐蝕なる考慮を殆ど要せざる場合(三)其の中間の場合との三者に區別し得、(一)の場合に於ては特許特種耐腐蝕性合金材料を以て之に當つれば充分其の害を除去するを得べく(二)の場合に於ては普通の從來よりの非鐵合金材料を以てすれば足るべけれども(三)の場合に於ては(一)の如き合金材料を使用する程にも非ず、さりとて(二)の如き普通材料にては腐蝕せらるる事大なり、出來得べくんば此の中間程度の良質の耐腐蝕性金屬材料を欲する場合ありて而かも實際に當りてはこの(三)の場合が頗る多く、本發明は此の要求に應じたるものにして亜鉛、滿俺、鐵「アルミニウム」、「クロム」

工學博士 二島 徳七
東京市 澁谷區
下落合一丁目四二〇

特許第九六三七一號 M・K・磁石

〔内容〕本發明はニツケル五乃至四〇%アルミニウム一乃至二〇%殘部鐵を含有するニツケル及アルミニウムを含む磁石鋼にして、此合金は從來非可逆無磁性鋼として知られたる「高ニツケル鋼」に不感磁氣性なるアルミニウムを添加することにより之を可逆的強磁性鋼に一變せしめたるものにして、磁氣に關する從來の學說を以ては説明し難き新發明として學界並工業界より驚異の眼を以て迎へられたるものなり。

本M・K・磁鋼は其殘留磁氣甚大なる上に頑磁力能く三〇乃至八〇ガウスに達す、是れ在來のタングステン鋼の約十倍、高コバルト鋼の約三倍以上を示すものにして當時世人の夢想だもせざりし所なり。尙本鋼の特徴は高温より焼入するの必要なく單に鑄造後焼鈍するのみにて其の特性を發揮し得るを以て焼割れ歪曲の恐れなく、而かも七〇〇度乃至零下八〇度迄絕對安定にして磁性の變化なく極めて優秀なるものなり。

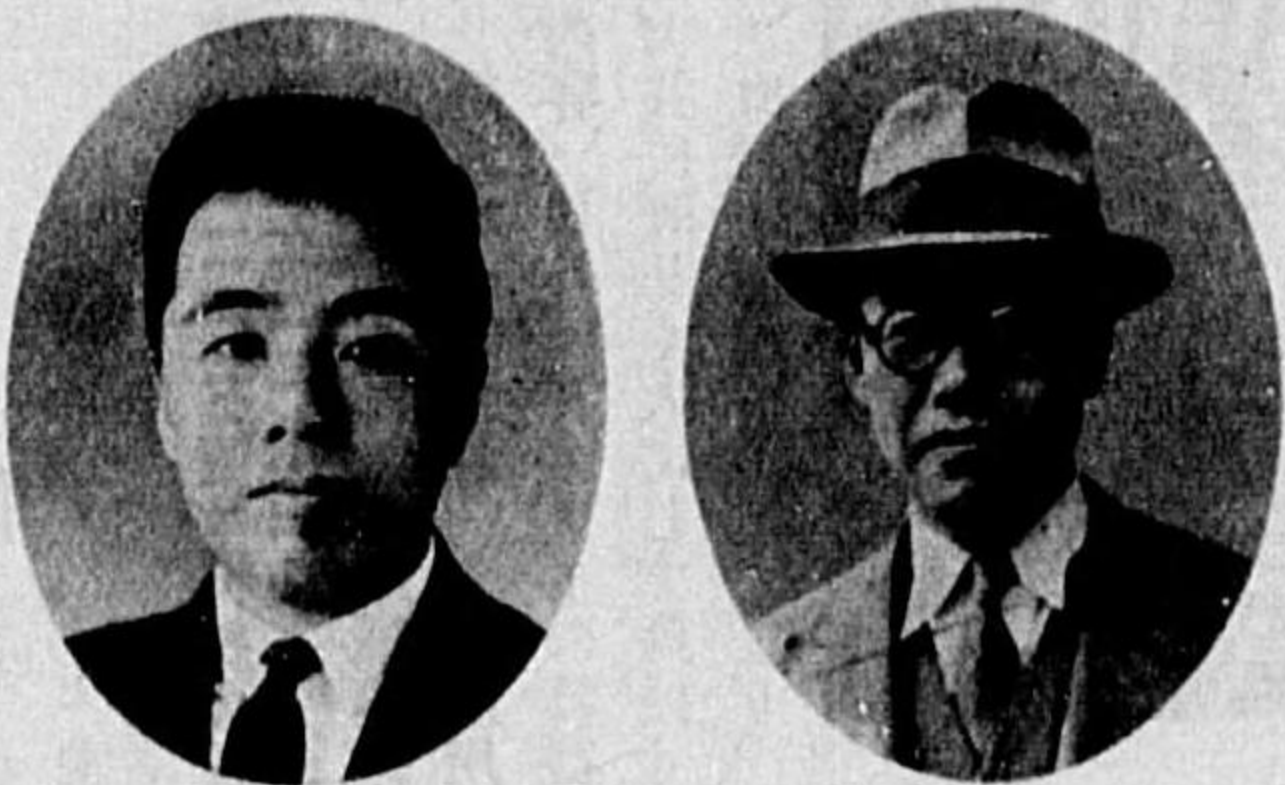
〔略歴〕氏は明治二十六年兵庫縣の出身、大正八年醫學博士三島通良の養嗣子となり同九年東京帝國大學鐵冶金科卒業直に母校の講師を経て助教となり今日に至る。昭和三年工學博士の學位を授與せらる。

昭和七年服部報公會より服部報公賞を同八年

日本鐵鋼協會より香村賞牌を受く。

住友伸銅鋼管株式會社

大阪府 此花區
高屋町五十六番地



田邊友次郎 十五嵐勇

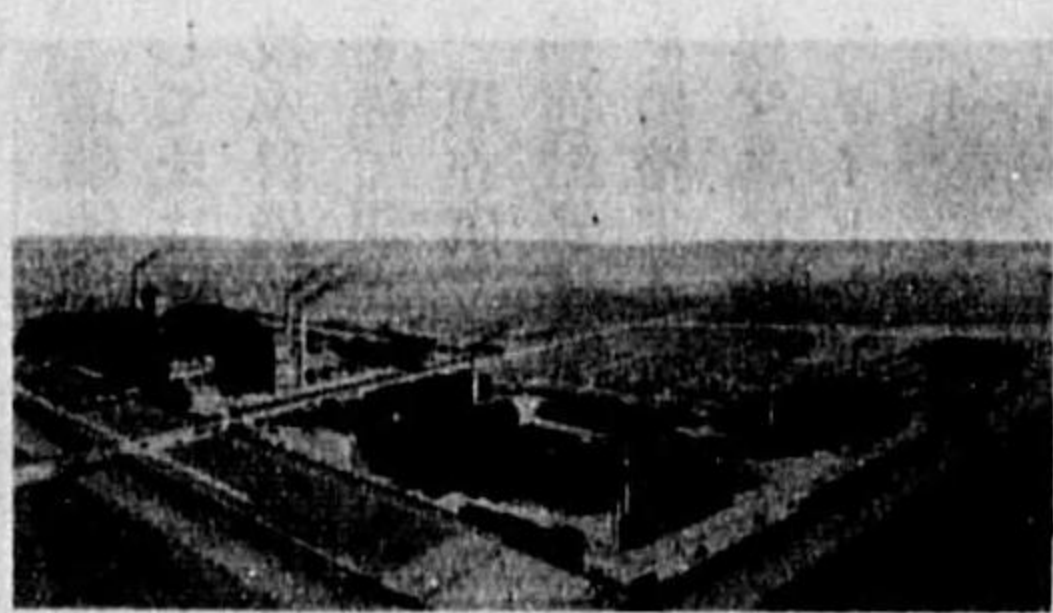
特許第九五七二二號 強力なる耐蝕性銅合金
同 第九八三〇一號 寫眞製版用合金
同 第九三八七〇號 海水に對する耐蝕性大なる合金

〔内容並略歴〕強力なる耐蝕性銅合金は其製品をアルグラツクと稱し本社技師工學博士田邊友次郎氏の發明に係るものなり、氏は明治二十八年福岡縣箱崎町の出身、九州帝國大學工學部應用化學科卒業、同大學院專攻科に在學一ヶ年半にして本社に入社せらる、本發明は世界的難問題たる復水器管の腐蝕を防止せんとせるものに



して其腐蝕の原因並に腐蝕態様は復水器の構造冷却水の水质等により區々にして從來使用し來りたる眞鍮管にては到底其腐蝕に堪えざるの狀態にあり。茲に於て各地の復水器につき或は本社の獨特の設備により其原因を徹底的に研究調査を重ねる事多年、一方之と平行して耐蝕力強大なる合金の研究を重ね遂に耐蝕力強大にして適度の強靱性を有する合金を發明するに至りしなり、本合金の特徴はエロージョン及コロージョン(機械的侵蝕及化學的侵蝕)に對する耐蝕性の強大なるはアドミラルチメタル管を凌駕し適度の強靱性を有し取扱至便なり、熱傳導度はアドミラルチメタルと大差なく比重は却つて小なり。

寫眞製版用合金は特許寫眞製版用銅板と稱し本社技師長從七位工學博士杉浦桐三氏の發見に係るものなり、氏は明治十七年新潟縣高岡市の出身東京帝國大學應用化學科卒業、同大學工學部農商務省技師を経て本社に入社現在に至る、本發明は從來の寫眞製版用銅板は裏焼に際し僅かに加熱に過ぎる時は軟化温度低き爲め急激に軟化し版面歪を生じ廢品となること屢々あり、之を防ぐ爲め銅、銅合金を配合するときは表面疵取りせる痕跡が藥品に依る腐蝕によりて版



面に顯はるゝに至る、更に其腐蝕速度一樣ならずして甚しく印刷物の美觀を損する等の缺點あるを遺憾とし苦心研究の結果寫眞製版用銅板として完全なる銅板を完成せられしなり、本品の特徴は耐熱性を有し腐蝕速度速く且つ一樣にして品質均一、耐久力強大に材質の組織適當なり、平滑にして歪みなし等なり。

海水に對する耐蝕性大なる合金は耐蝕性マグネシウム合金と稱し本社技師工學士五十嵐嵐勇氏の發明に係るものなり。氏は明治二十五年熊本縣の出身京都帝國大學理學部を卒業し熊本縣立八代中學校、臺灣臺中中學校に教諭たり、大正八年辭して本社に入社し現在に至る。本發明はマグネシウム合金の一般に海水其他濕氣に對し耐蝕力微弱なる缺點あるを之に他金屬の配合に依り改良せしものにして、從來のマグネシウム合金は主として其機械的性質のみ着眼せられ化學的殊に海水に對する性質に關しては顧みられず、従つて此種合金は耐蝕性に乏しく海水に接觸する諸機械器具には不適當なり、茲に於てアルミニウムを含有せしめずして從來のマグネシウムアルミニウム系合金と同等程度の機械的性質を有し、而も耐蝕性大なるものを得んが爲め各種のマグネシウム合金に

峯 忠 三 六

東京府北豊島郡西里町
町字池袋一九五一

特許第九五〇一二號 染型用網附筒製造法

〔内容〕耐酸度強き金屬細線にて織たる圓筒金網と耐酸度弱き金屬薄板圓筒とを重合銀附して網附筒を製造する方法。



社會 資 合
所 製 鋼 脚 常 本 日

昭 善 村 木
町 高 松 西 市 崎 尼
地 番 八 拾 九

特許第九二六一九號 常輝鋼

〔内容〕從來「クローム、ニッケル」鋼及「ニッケル、クローム」鋼等に於て常温の諸酸液中に對しては耐酸性を有するも加熱諸酸液中に對しては甚しく耐酸性を低下し殆ど工業的實用に適するものなく唯だ硝酸の加熱液には幾分勝れるも未だ之とも充分ならず、然るに常輝鋼は充分に軟化すれば其降伏點は極軟鋼と等しく多くの腐蝕液に對して大なる抵抗力を有し海水には絶對に腐蝕せず且つ常温にて加工されし製品は少しも磁性を有せず、尙目的に應じ最大柔軟性及多大なる腐蝕抵抗性と共抗張力をも附與することを得る等鋼と稱すれども却つて非鐵合金に類似する特性を有し、其製品としては鑄

物、鍛造物、壓延物、引拔品等總ての製作に可能なる特徴を有するものなり。

〔略歴〕本社は昭和三年以來加熱酸液に耐ゆる優秀耐酸鋼の壓延材は勿論鑄物製品の創製に對する研究に着手し、加之も其當初に於て該製鋼作業が世界に於て難作業とし且つ使用原料の總てが高價の爲め右研究に對する犠牲の多大なるに相當の期間を要する事に鑑み、充分の資金と研究期間とを準備の下に斷然背水の陣を以て研究に當り尙満足すべき製品を工業的製産に自信を得る迄は絶對に市場へ販出せず、製品に對する責任尊重を本領として不撓不屈苦心研鑽を重ね去る昭和五年三月本發明の創製を完成し翌六年五月專賣特許權を獲得し、尙同年四月豫而建設中の工場竣工以來再び耐酸鋼の工業的製産に對する研究と其技術を熟練すべく百練苦闘を續け全然徹身的努力の下に滿二ヶ年間に涉り實際に即せし研究作業を勵行し、昭和八年四月愈々優秀耐酸鋼の各種製品の工業的製産に自信を得、前後五ヶ年間に涉る永年の苦心研鑽と莫大なる犠牲資金とを費し漸く初期の目的を貫徹するに至りしものなり。

鳥 羽 安 行

栃木縣日光町
清瀧五〇〇

特許第九七二八七號 「アルミニウム」合金製造方法

〔内容〕燒入、機械的冷間加工、熱硬化處理の三工程に更に斷面縮小の機械的冷間加工を施し次に再熱硬化處理を施す製造法。

〔略歴〕明治二十七年五月八日生、大正十年三月京都帝大工學部冶金學科卒業後古河電氣工業株式會社勤務現在同社日光電氣精製所技師。

金子 鑄鋼所

金子 增 耀

大阪府大正區
千島町三百八十七番地

特許第九五〇六三號 軌條頭部の澆注方法

同 第九九一三三號 軌條の部分的澆注方法

〔内容〕軌條の磨滅防止のため從來高炭素鋼、滿庵鋼及び其他の特殊鋼を以て製造せしも生産費不廉にして一般に利用するに至らず、又一方普通軌條の頭部に燒入を施して其耐久力を増加せんと種々の方法を試みるものあるも、軌條頭部に燒入を施す爲めに頭部を強く加熱するが故に頭部のみ多く膨脹して燒入後も舊形に復せず軌條は彎曲して弓形の歪を生じ、又頭部に加熱するときは燒入を要せざる「ウエツプ」及「フランチ」に迄其熱を傳導し之に注水冷却するときは「ウエツプ」及「フランチ」迄も相當に硬化して軌條全體を脆弱ならしむる等の缺點あり本發明は前記の缺點を除去し燒入に因り被澆注物に歪を生ぜしむることなく所要部分のみを硬化し其耐久力を増加せしめんとするものにして其澆注すべき部分のみを残し他の部分に注水し之を冷却しつゝ其部分の澆注すべき部分のみを電氣孤光又は瓦斯火焰を以て適度に加熱する手段と、前記加熱したる部分を水、油又は空氣を以て冷却澆注する手段とを軌條の一端より始め

順次他端に及ぼし以て部分的に澆注を行ふものなり、即ち本方法によるときは軌條の澆注すべき部分以外の部分に熱を加へざるを以て此部分に加熱による悪影響を及ぼすことなきのみならず歪を生ずることなく必要なる部分のみを燒入することを得て其壽命を延長するの特徵あるものにして且つ前方に注水嘴を設けて火焰にて加熱せらるゝ部分の前方を冷却し加熱せらるべき部分を極めて縮小し得るを以て加熱による歪を一層良く防止し得るものなり。

〔略歴〕本所は大正六年四月の創立にして特殊の鋼鑄物及高級鑄鐵の製造販賣を開始すると共に、從來本邦に於て製作全く困難とせられし高滿庵鋼製特殊軌條即ち鐵道及電車軌道用轉轍器及轆又類の研究製造に着手し、數年間刻苦研鑽絶大なる努力と勤からざる犠牲を拂ひ、遂に大正十一年末に至り漸く其製造に成功し、爾來専ら高滿庵鋼品の製作供給に全力を傾注したる結果、當時輸入品のみによりて辛じて我國の需要を充しつゝ、ありし高滿庵鋼製轉轍器及轆又類は本成功に依りて同十五年以後全然外國品の輸入を杜絶せしむるに至れるなり。而して此輸入防遏國産振興の功績に對しては昭和三年十月二十二日日本産業協會總裁 伏見宮殿下より表彰狀御親授の光榮に浴し、次で鐵道省より鐵道用品の優良國産製作工場として認定せらるゝに至れり、昭和四年三月在來の轉爐を電氣製鋼爐に改め、一般製品の品位の改良進歩並に製産量の増大を企畫し一層斯業の振興發展に努力する所ありたり、次で業務の發展、工場の擴張及諸

設備の充實に伴ふ能力の増大と共に滿庵鋼以外の特殊鋼鑄物及普通鑄鋼の製造をも開始し、其製品の優秀なるに納期の確實なるに好評を博し其需要は日に月に累加増進し、遂に能力に不足を生ずるに至りしを以て更に三種電氣製鋼爐を増設するの必要に迫られ、昭和八年三月二基並行操作業をなすに至れり、同年五月英國ロイド協會の認定工場として其登録を受け更に七月帝國海軍省の購買名簿に登録せられ其の指定工場となり現在に至る。本工場の外市内港區本田通二丁目仕上分工場を、東京に出張所を置き、年製産高參千五百趣を算し、特許並實用新築權多數を所有す。

工 學 博 士 高 橋 源 助

大阪府住吉區帝塚山
中一丁目八十七番地

特許第一〇四三四號 滲炭防止劑

同 第一〇七二四號 鋼燒入用冷却液

〔内容〕從來の滲炭防止劑は滲炭温度に於て單に珪酸質の如き被覆を形成するものにして滲炭用瓦斯の滲入を十分に防止すること能はず局部的滲炭防止の目的を有効に達し得ず、又滲炭を欲せざる鐵、鋼の局部箇所に銅鍍金を施し部分的滲炭作業を行ふ方法あるも作業の煩瑣手數費用等の高騰及び銅被膜による滲炭防止の効果も尙充分ならず且つ鐵材に硬く密着して離剝するに困難なる等の缺點あり。本發明は滲炭作業温度に於て融液状態をなし且つ炭素を吸収せざる

金屬粉末に特殊の工夫を凝し混和練捏したる半流動性の防止劑にして、其防止力の絶大なるを冷却後完全に自然脱落すること等の特徴とするものなり。

三 原 金 吾

東京府住吉區下神明町
古河電氣工業
理科試驗所内

特許第九八四二五號 磁性合金の鑄造法

〔内容〕磁性合金を先づ豫め紙を捲きたる鋼線上に裝荷し之を特殊電流作用により該合金を急速に燒鈍する方法。

〔略歴〕明治三十四年九月二十日出生、昭和四年東北帝國大學工學部金屬工學科卒業、現在古河電氣工業理化試驗所勤務。

森 松 治 郎

名古屋府南區
熱田町字金山五

特許第一〇三〇八號 鐵鋼類黑色着色方法
〔内容〕鐵鋼類に鹽素酸鹽類及硝酸鹽類を混和したる

ものを表面に塗布し乾燥後沸騰水中にて煮沸するか或は蒸氣蒸しをなし其表面に防錆性光澤ある黒色皮膜を生ぜしむる方法。

町田 健次郎

神戸市灘區 原田七四八ノ一

特許第一〇〇〇七九號 針金を鉛又は其の合金を鍍金する方法

林 清明

大阪市西區 京町堀通二ノ一 土肥庄次郎方

特許第一〇〇〇八三號 線條引き型

〔内容〕鉛浴の表面部位に沿ひて溝を有する對「ロール」を溝孔が通路をなす様組合せ設置したる装置に於て被鍍針金を通路を通じて鋸齒浴より導出する事を特徴とする鍍金法。



和氣 最平
大阪府大阪市西區 成西四丁目番地四拾五百四十四

特許第七八七六六號 密封安全開閉器
〔内容〕本器の充電體は如何なる場合にも完全

に隠蔽され可熔片取換への爲め開閉蓋を開きたる場合、不充電となりし可熔片取付金具が外部へ露出するのみにて然かも内部の充電體とは全然電氣的に絶縁されたる状態となり、機械的にも亦全然内部と離隔さるゝが故に不正使用手段は全く施し得ざる機構を有す、閉路状態、開路状態に於ては勿論その動作の中間に於ても蓋と可熔片取付板との機械的角度を利用して全く外部より内部の充電體に不正手段を施し得ざるものなり、即ち一、閉閉器よりの不正使用を完全に防止し機構簡單なり、二、封印せるまゝ可熔片の取換自由なること、三、完全なる絶縁密蔽外函を使用せるを以て塵芥を防ぎ、又外部より感電の惧なきため従来の木製函型配電板を廢し得る經濟的なること、四、休止の場合不完全なる紙封印を使用することなく完全なる封印を爲し得ること等の特徴を有す。

秋 山 實

東京市日本橋區 大傳馬町二ノ二十七

特許第一〇〇六二四號 鋼線製造方法

〔内容〕鋼線の特殊處理のもとに石鹼及石灰の混合溶液に浸漬しその後乾燥せざる間に於て「ダイス」を通す特殊工程を経て成る製造法。

石 黒 精 夫

東京市世田谷區 北澤二ノ一八四

特許第一〇三六三九號 銅-亜酸化銅整流器の製作法
〔内容〕銅板上に酸化第一銅を生成せしむる際更に其

の上に生じたる酸化第二銅を去除し其表面金屬製刷子にて研削し殘りの酸化第二銅を剥落せしむると同時に刷子金屬の磨滅によりて生じたる微細粉を掃り込む工作。

遞信省電氣試驗所

東京市品川區下大崎



小川 若三、曾根 有

特許第八四五〇五號 整流器用酸化銅被膜生成方法

同 第八三四一九、八四〇〇八、八四五〇四、八四九八九、八五二〇五、八八二四七、八八五六七、八八二七八、九〇九二六、九一三三八、九一八九一、九二五七五、九三三五一、九三三九四、九三三四七、九四六〇〇、九四六〇一、九九六一〇、

尾藤 加勢 士

東京市澁谷區 向山町一四

特許第一〇三六三三號 異鉛増場處理法

〔内容〕異鉛増場の内表面を酸化作用を及ぼす事に依り脱炭せしめ更に必要に應じ適當なる耐火塗料を塗布したる處理法。



島津 源藏

特許第四一七二八號 易反應性鉛粉製造法

追加特許第四二五六二號、第四二五六三號、第四二五六四號、第六〇八二五號

金屬鉛粉を含有する亞酸化鉛微粉末製造法

〔内容〕本發明は適量の鉛小塊を水平軸の周りに廻轉する鋼鐵製圓筒内に連續的に且つ定量的に輸送し廻轉速度を適度に調節して鉛塊に砂崩狀運動を起さしむれば、鉛塊は相互の摩擦によりて熱を發し鉛塊表面はこの摩擦熱と空中酸素の接觸とによりて變質し脆化の傾向を生じ來たる、此際廻轉圓筒内に更に空氣の急氣流を吹き

九九九七三、一〇四四八、一〇四四五、一〇三七一、一〇三七〇三、一〇四〇一一、一〇四九七八號、實景テレビジョン装置

〔内容〕整流器用酸化銅被膜生成方法は金屬銅を特殊の粉末中に埋没し、之を適度に加熱して酸化銅皮膜を生成せしめ以て整流器の材料に供せんとするものにして、其効果は加熱を均等ならしむると共に酸素の供給を制限して黑色第二酸化銅の生成を限定するのみならず、酸化膜中にも浸透して電子放射に或る影響を及ぼすもの如し、本方法に依るときは銅線の場合の如き方法によりては酸化膜が剝離し易き形状のものに於ても容易に堅牢なる酸化膜を生成し得べく、且つ其整流能率も甚だ良好なり、即ち内部抵抗小にして大なる電流の使用に好適なり、用途は通信用、信號用、電氣化學用、電極防止用等とす。

實景テレビジョン装置の送影機は小型なるを以て移動送影に適し、映畫撮影機に如く上下左右任意に撮影して移動物の送影可能にして電源は單相交流百ボルト二百ワット程度なるを以て電燈設備ある所なれば隨所にて運轉し實景を送影し、従來の二分の一の周波數帯にて同一程度の鮮明さを以て送影することを得るなり。受影機は特殊水銀放電管を用ひ且つ光學的能率優秀なるを以て、僅少なる電力にて大なる影像を映寫し得るのみならず、畫面の「チラツキ」、動搖等極めて少なし、兩機共價格低廉にして取扱安全且つ容易なり、室内は勿論野外、航空機上等にて運轉操作に適し、受影は大衆用及び家庭用

に適す、其他學術上、實業上並に娛樂に使用することを得。

〔略歴〕整流器用酸化銅被膜生成方法（製品名稱、遞信酸化銅整流器）は小川若三郎氏が根本忠次郎氏及び金子清次氏と共同にて研究發明せられたるものにして、目下日本信託株式會社に其實施を許可せるものなり。

小川氏は明治十七年の出生、同四十年東京帝國大學工學部應用化學科を卒業し、同四十二年遞信省電氣試驗所に奉職し、大正十年同所第五部長を拜命す、現在從四位勳三等工學博士たり本發明は「ラヂオ」用異鉛檢波器の研究より「ヒント」を得て研究完成せられたるものなり。

實景テレビジョン装置は曾根有氏の發明せられたるものなり、氏は明治三十四年の出生、東京府立第四中學校、第一高等學校理科を経て大正十五年早稻田大學理學部電氣科を卒業し、遞信省電氣試驗所第二第四部共同研究室研究員として奉職して現在に至る。夙に各種機械裝置の研究に興味を有し已に高等學校時代には精密機械特に光學機械の研究を完成す、昭和七年過去の經驗並に研究を基礎として光學的能率と裝置の實用的價値とを考慮して第一回のテレビジョン装置を略完成す、之を野外の實景に適用せんと志し昭和八年自作特殊寫真鏡玉を裝置せる新裝置を試作し、東京及大阪等の博覽會に於て實驗し其結果部分的改良の必要あるに鑑み研究を重ね遂に之を完成するに至りしものなり、尙本裝置は頭書各特許の綜合的實施に依るものなり。

込めば豊富なる酸素の供給によりて酸化反応は急進し、同時に酸化熱を発生して坩堝内の温度は頓に上騰し攝氏二百度以上にも達す、斯くして鉛塊表面に生ずる脆き變質層は即ち亜酸化鉛にして、之が鉛塊相互の摩擦により剝離し、摩擦と酸化とを繰返して次第に細粉となり、空氣の急氣流のために迅速に坩堝外に移送噴出し、特殊の特許捕集装置内にて排風と濾別されて沈積槽内に堆積蒐集せられるものなり、此特許易反酸性鉛粉は鉛酸化物の一種にして Pb₂O₃なる化學式にて表はされ、黒色無定形の微細粉にて其の名の示す如く酸素、水其の他の化學藥品との反應性頗る強く、空中に放置するも酸素を漸次吸収して酸化の度を加へ、又マツチを以て點火しこれに風を當つれば急激なる酸化を起し攝氏六百度の高熱を自發して赤熱し、放冷後は鮮黄色細砂状結晶の「リサージ」Pb₂O₃となるものにして、從來諸學者の發表せる化學的諸法とは全然別個なる手段を以て大量に然かも經濟的に製造する方法なり。

製品は蓄電池原料として優秀なるのみならず「リサージ」は塗料として應用され、又之より得たる光明丹は光學用硝子原料として應用され又顔料としても優良なり。

〔略歴〕氏は明治二年京都市の出身、同二十七年先代を襲名して島津製作所を經營す、三十年頃蓄電池の製造販賣を開始し日露戰役に際し蓄電池が國防に效ありしに對し賞状を受く、大正六年日本電池株式會社を創立す、同十四年觀禮御宴に召さるゝの光榮に浴し、帝國發明協會より大賞並進歩賞を受け、恩賜記念賞及大賞を受領す、昭和五年發明家十名中に選ばれ宮中賜餐の榮を賜ふ。

本發明は蓄電池原料の自給自足を圖らんとし獨國より製造權購入の問題ありしも氏は多額の資金を出すを欲せず密かに種々苦心研究の結果發明せられたるものにして諸外國の特許權をも獲得し其の數九十六件に及ぶ、昭和八年米國ユイエスエル社に實施權を讓渡し、最近英國オ社に實施權許諾の交渉成立せりと、又佛國に對しても目下交渉中にて近く之が讓渡を見るべき状態なりと謂ふ。

淺原源七

東京府豊多摩郡高井戸町大宮前三五三

特許第一〇七三五號 砂型製造用微粉の製造方法

〔内容〕硅藻土、酸性白土等に對する特殊藥品の處理に依り微粉を得て之を鑄造用砂型を製造するに使用し母型と製用用砂との接着を防ぎ其離脱を容易ならしむると共に砂型の肌損傷ならしむる方法。

住友電線製造所

大阪市此花區恩賣島南之町六十番地

特許第一〇二〇八七號 高硬度合金

同 第一〇三〇三九號 靜電蓄電器

同 第一〇三三三〇號 感光發電電池

同 第一〇三三八九四號 難融金屬及其合金粉末燒結體の表面硬化法

〔内容〕從來「ヴィディア」系の硬合金は「タ

ングステン」の如き難融金屬の炭化物に軟金屬主として「コバルト」、「ニッケル」粉末を加へて燒結せしめたるものにして一般に「セメント」ツド、タングステン、カーバイト」と稱せらるゝものなるが、一般に燒結作業を水素氣中に於て行はざれば完全なる燒結體を得られざるに反し、本發明合金の場合には中性又は普通の還元氣中に於て行はるゝを以て爐に特別の構造を要せず、從て容易に所要の高熱を得らるべく難融金屬を以て「セメント」するものなるに拘はらず其作業能率、生産費等從來のものより大差なきものなり、而して其成分として軟金屬を含有せざるを以て硬度著しく高きは勿論配合成分たる各金屬は何れも融解點高きを以て耐熱性に富み、加ふるに耐腐蝕性に於ても從來のものに比し優秀なり。

難融金屬及其合金粉末燒結體の表面硬化法は一般に難融金屬の炭化物は硬度著しく高く、此の炭化金屬粉末に軟金屬等を混和し半融を行ひて得る合金は工具、「ダイス」等として工業上廣く使用せらるゝ、然るに此等の燒結合金は硬き反面に於て其の質脆く工具として使用する際震動の爲め容易に破損する虞あり、機械部分品等に於て摩擦の激しき個所に炭素燒法或は窒化法を施し表面を硬化せしむることは從來工業的に廣く行はれ、難融金屬に於ても、例へば伸管用「ブラッグ」等表面硬度高く内部は強靱性に富める材料を要求する場合其の金屬塊を炭素又は炭素を含む瓦斯氣中に高温に加熱し炭素を吸収せしめて表面硬化を得せしむる事は既に周知の

ことなり、然れども如上の方法によれば表面一耗程度の硬化を行はんが爲めには著しく高温且つ長時間を要し猶且つ豫定の炭素を吸収せしめ得ざるものなり、加之過度の温度を上昇せしむれば組織は粗雜となり材料を不用に歸せしむべし、本發明に於ては難融金屬又は之を主體とする合金が一般に粉末状態より半融法によりて金屬塊を得る場合多きを利用し、之等粉末金屬を所要の型に壓搾し豫備半融として之を加熱して多孔質の塊を作り、之の表面に化合又は不化合炭素を含む液を塗布するか若くは該液中に之を浸漬するものとす、然るときは液は毛細管現象により内部に深く浸透擴散し炭素も同時に吸着せらるゝ、出來得べくんば此作業は眞空中に於て之を行ふを可とするものなり、斯くして得たるものを還元性瓦斯氣中に於て半融温度まで加熱することにより堅緻なる燒結體を得、猶ほ極度に氣孔を減せんとする場合には壓搾を加へつゝ燒結を行ふものとす、故に本法は作業甚だ簡單にして表面充分の厚さに硬化を施し得、而かも從來の方法に比し短時間にて足る特徴あるものとす。

感光發電電池は酸化第一銅面の一部に金屬化したる部分を有し、これを絶緣物にて蔽ひこの金屬部分と他の電極とを連結し、これ等の酸化銅と化學作用を行はざる透明導電性液體中に保持せるものにして、他の電解法によりて表面に酸化第一銅を附したる銅板を感光物とし、この母體銅と他の電極とを連結して「アルカリ」水溶液中に保持したる感光發電電池の如く、酸化第一

銅と、「アルカリ」溶液と作用して生ずる酸化第二銅とが溶液中に共存して是等の酸化銅は光の曝射及斷光によりて化學反應を行ひ、これに伴ひて電極の電位を異にする所謂光化學反應を利用して光電効果を可逆的ならしむる爲には化學反應を可逆的ならしむる様常に兩種酸化銅をして平衡状態ならしめ置くを要し、且つ化學反應の進行に相當の時間を要し從て光電効果は時間の遅れ大なるものに比し、本感光電池は化學反應起らずして光電効果を有し而かも比較的時間の遅れ少なく且つ可逆的なるものなり。

磯部純一

佐賀縣西松浦郡有田町白川一七二二

特許第一〇二二三九號 陶磁器の製造法

〔内容〕陶磁器原料に〇・一以上の硫黄を混合し燒成するものにして機械的及電氣的強度を増大せんとする工作。

東郷省吾

東京府赤坂區青山南町六丁目五四

特許第九四二八一號 寫眞模樣を有する陶磁器製造方法

〔内容〕素燒陶磁器の表面に目潰し劑を塗布して被印刷面を形成し次に凹版「オフセット」印刷に依り直接に該印刷面に精巧美麗なる所要の寫眞模樣を燒成せんとする方法。

大阪陶業株式會社

大阪市北區宗是町一丁目

特許第六八四四五號 陶磁器施釉法

同 第六八四四六號 磁器製磚子接合部の改良

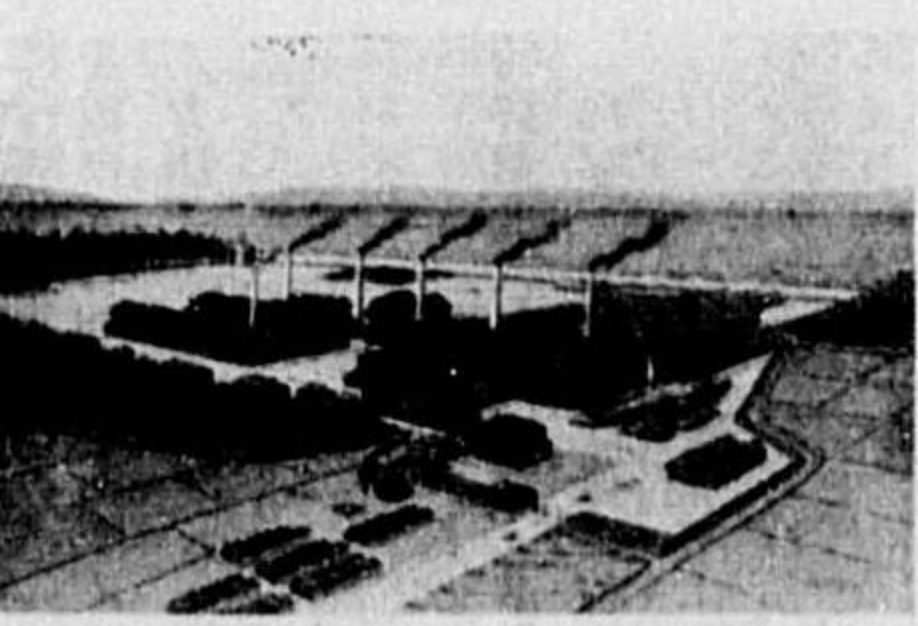
同 第六八九九〇號 柱上電氣開閉器磚子型「スイッチ」

同 第六九三八八號 絶緣體を含む高電壓回路の開閉裝置

同 第七二二二四號 「テラコッタ」製造法

同 第七四一八二號 油入「ブツシング」の改良

〔内容〕陶磁器の施釉に當り燒成後の色彩、感じを互に異にし或は熔融度を異にする等組成分の互に異なる二種以上の釉藥を噴霧状態にて同時に同一素地面に施釉するものにして、個々の釉の霧粒は互に相交錯して素地上に施され之を燒成すれば色感の交錯より來る特殊の趣を有する釉面を形式するものなり、而して各の釉藥の霧粒の大小を調節することにより各釉藥の交錯を粗或は密ならしめ霧粒の量を調節することにより色調を加減し得るものなり。之を「テラコッタ」其他天然岩石の模倣釉面に用ふれば自然に起る釉藥の交錯と其粗密の調節により他の方法により求



むべからざる天然物類似の釉面を得る等の効果あるものなり。之を實施するには個々の釉薬容器に各噴霧器を附し各種釉薬を霧状となし同一素地上に同時に之等を施すことを以て足り頗る簡單なる操作なり。

河内卯之助

京都府乙訓郡向日町大字寺戸小字南垣内二七

特許第一〇三七四八號 押葉模倣陶器製造方法

〔内容〕素地の表面に被覆したる任意の色の泥漿土の薄層の濕潤状態の時植物の葉を貼付し更に同様の泥漿土を化粧掛し施釉の前又は後に該葉を剝離して焼成する方法。

村田小一

愛知県知多郡常滑町字北屋敷一八

特許第一〇三一九號 青磁色陶磁器製造法

〔内容〕木節粘土、大雪山粘土及長石とより成る素地素地に長石、石英及石灰石の混合物と常滑粘土石膏及硼砂との混合物を配合して成る釉薬を施し後焼成する製法。

山内宗一

名古屋市東區東白鹽町六

特許第九九二二八號 陶磁器面上に濃淡模様を顯出せしむる方法

〔内容〕粘着力強き「バルサン」油と蓖麻子油に稀釋用として片臘油を注加し溶解せる陶器繪具を保護風船球にて押壓移動し特殊模様を顯出せしむる方法。

佐藤忠義

岐阜縣可兒郡豊岡町七九五

特許第九八七四九號 磁器に彩色の粧飾を施す方法

〔内容〕素焼せる磁器素地に諸種の配合に依り調製せる釉薬を施し還元焰焼成に於て彩色を發生せしめんとする方法。

柴田俊昌

名古屋市東區千種町字今池七

特許第九八四五五號 磁器(陶磁器)の製造法

〔内容〕硬質陶磁器素地原料の粉末に特殊の溶液を配合し後成形焼成の操作を施して堅牢耐酸並に機能の完全なる磁器を得んとする方法。

肥田一三

名古屋市東區前町一

特許第九九〇九號 陶磁器面上に赤色地黃盛模様を顯出せしむる方法

〔内容〕施釉焼成せる白色陶磁器面に濃黄色繪具に金盛用、白盛用及寶石盛用繪具を特殊方法にて模様を轉寫し其一面に赤色繪具を吹付け而して窯燒する方法。

菅野健雄

東京市王子區上十條町一三〇

特許第一〇三三六四號 高周波用磁器磁子の製造法

〔内容〕礬土、硫酸、石灰、苛性土、加里、曹達等及鐵亞鉛、鉛の酸化物等より成る磁器磁子を製造するに際し酸化曹達の量と酸化鉛の量の比を特定となしたる製法。

今村政輝

名古屋市東區千種町高見二〇

特許第一〇〇〇二二號 陶磁器「タイル」製造法

〔内容〕矩形無底匣鉢の二對壁内面に多數の有底縱溝を設け其特殊装置に「タイル」素地を懸架し焼成を行ふ方法。

高山惠

金澤市水町二番丁九

特許第九六九一一號 多孔質燒成物製造法

〔内容〕米糠又は麥糠若くは其混合物に苛性「アルカリ」を加へ加熱攪拌して得たる粘糊可塑物質を或物質中に混加し簡單且容易に優良なる多孔質燒成物を得んとする方法。

和久良一

佐賀縣西松浦郡有田町二〇一

特許第九七四五號 二枚合せ燒成による「タイル」製造法

〔内容〕二枚分の「タイル」素地の中間層に數個の小孔を有する紙を介在せしめ小孔の部分に以て二枚連結し燒成後中間層より離斷以て經濟的且優良なる製品を得る方法。

加藤正夫

愛媛縣温泉郡道後湯之町一五二三

特許第一〇六一四號 瓦の製造法

〔内容〕細砂混入の普通粘土と粘板岩末の混合物を硫酸「ナトリウム」水溶液に「カセイ」を混和したる泥狀液と共に混捏して得たる素地土にて形成し特殊温度にて素焼となし之に特殊の釉薬を施して後燒成する方法。

葛山利雄

兵庫縣武庫郡精道村芦屋平田四二〇

特許第九九一三七號 冷蔵用煉瓦の製法

〔内容〕特殊材料を燒成したる多孔性の燒成物を未だ冷却せざる以前に「アスファルト」熔融物中に短時間浸漬し後急冷却を施して成さるる製法。

吉本助作

高知縣安藝郡室戸町七四

特許第一〇三三三〇號 銅鑄滓煉瓦の製造法

〔内容〕銅鑄滓を鐵筋を埋藏して煉瓦狀に形成し其凝固前に其表面に特殊混合物を撒布附着せしめて冷却せしめて成る製造法。

三日月定吉

東京市麹町區有樂町二ノ二

特許第一〇〇四六〇號 「テラコッタ」製造方法

〔内容〕可燃性材料より成れる内型を素地體內に挿置したる儘燒成する事の特徴とする製法。

入江定男

戶田市澤見町製鐵所澤見官舎一〇二號

特許第一〇一六六五號 「スケレット」の製造法

〔内容〕多孔性の耐火度高き主體と中間層及び觸媒劑層を有する事に依り完全燃焼をなさしめ熱効率高き耐久性のものを製造する方法。



和氣正太郎 和氣耐火工業株式會社 大東區東區南區久太郎町(住友ビル)

特許第一〇〇七二二號 耐火モルタル製造法

〔内容〕本發明は特殊方法により礬土酸曹達及苛性苦土と天然高礬土含有物との三者を適當に混合し製造せるものにして、水に混和するときには礬土酸曹達と苛性苦土は復分解を起し礬土酸苦土の糊狀沈澱と苛性曹達とを生ず、新鮮なる礬土酸苦土の沈澱は非常に糊狀にして又苛性曹達も非常に粘糊性なるが故に混和物は耐火モルタルとして必要なる粘着性を充分に具備す、又混和に際して礬土酸苦土を生ずる事は一種の硬化作用を伴ひ常温に於ても既に大なる硬化力を有し漸次温度を上昇せしむるに従ひ膠着力を増進す、又混和物は一度燒成したるものなるが故に高温に加熱せられたる後に於て收縮すること殆どなし。本製品耐火接合劑バイロセメントは以上の如き特徴を有するが故に耐火煉瓦を以て築造する總ての爐の目地用として其接合力大に於て熱瓦斯等の侵入作用を防止す、亦火爐内の部分的破損部に填充して一時的應急修理用として極めて便利なり、尙汽罐バツフルに於て從來の耐火煉瓦を廢し本品を以てガス、タイト、

梶原政吉

南滿洲鐵山大正通り二丁目六四

特許第九八二二二號 「マクネシア」煉瓦製造法

〔内容〕粗礬質「マクネシア」煉瓦を成る水溶液中に浸漬したる後之を加熱し炭酸「マクネシウム」の結晶を生成せしめ高壓に耐へ抵抗度甚大なる「マクネシア」煉瓦を經濟的に得る方法。

梶原政次

關東州大連市紀伊町二六

特許第九九三九九號 鹽基性「ドロマイトクリンカー」を製造する方法

〔内容〕「ドロマイト」鑽石粉より得たる「クリンカー」を重炭酸「マグネシウム」の溶液中に浸漬したる後特殊雰囲気中に暴露し「クリンカー」又は結晶粒子の周圍に水酸化物及炭酸鹽の結晶を生成せしめたる製法。

佐藤知雄

仙臺市北二番丁一三六

特許第一〇二〇七二號 「アルミナ」製金屬熔融管の空隙を充填する方法

〔内容〕熔融管に金屬鹽の濃厚溶液を浸透せしめ之を加熱して金屬鹽を分解し以て耐熱性酸化物を熔融管の空隙に附着沈澱せしむる事の特徴とする方法。



松村八次郎 名古屋市東区 千種町五番地一

松村式石炭業

〔内容〕本業は焚口を二方に設け床下を通じて火炎を煙突に吸引せしむる装置にして、室内火度の平均を保たしめ且つ傾斜を要せざる平地に築造し得る特徴を有するものなり。

〔略歴〕氏は佐賀縣の出身、明治二十四年東京高等工業學校陶器玻璃工科を卒業し更に専攻科に學ぶ、二十九年硬質磁器を發明したるも火度強きを要するを以て當時の松村燃料にては多額の費用を要し工業的ならざるを痛感し種々研究の結果本業の發明を完成せられたるものなり。

〔略歴〕従來我業品は松材を以て燃料となしたるも逐時松材の缺乏を來し窯業盛なる縣に於ては洪水に困じ殖林を奨励したる如き状態なり、然るに本發明成るや氏は之を一般に使用を解放し其普及に努力したる結果殆ど本業を使用せざるなき状態となれり。

采野善治郎

西宮市川東町八四

特許第一〇〇七〇號 耐火物鑄造法

〔内容〕鑄型に装着したる補助筒の作用により補助筒内の耐火物が全く固化せざる半固化體なる間に之を補

助筒と共に鑄造體固有部分より除去する事より成る鑄造法。

木谷榮次郎

名古屋市中區 藤田町六二

特許第九四四三號 内燃機關に用ふる「スパークプラグ」の製造法

〔内容〕滑石を「スパークプラグ」の形狀に刻成し之を一定の温度にて加熱したる後更に加熱冷却し、燃料中の不燃燒物僅少及硬直強靱且絶縁性に富み良好なる發火成績を得んとする方法。

奥田祐吉

東京市牛込區 新小川町三ノ一〇

特許第一〇二〇九號 「スラック」を原料とする飾砂製造装置

〔内容〕加熱爐の一端に第一廻轉筒を架設し兩圓筒は一體となり廻轉すべくなし兩圓筒の他端には各別に「スラック」供給管を連結せしめて成る飾砂製造装置。

可兒弘一

東京市荏原區 碑文谷一三二八

特許第九四二二號 玄武岩熔解型成物の耐酸度を増加する方法

〔内容〕玄武岩熔解型成物を一定の温度に於て燒鈍することにより該型成物の耐酸度を増加し耐酸性を必要とするものに玄武岩熔解型成物の用途を開拓するにあり。

梅田音五郎

東京市赤坂區 青山町六ノ一〇八

特許第一〇二二三號 鑿岩機成物鑄造法

〔内容〕鑄造層の下部より製品を送出するに當り全鑄造層を一樣に平に降下せしむる如くし以て鑄造層を安定せしめ各部の燒成火度を均一ならしむる鑿岩機の特許装置。

華津耕次郎

東京市澁谷區 澁谷町大字全三三六

特許第九四六〇九號 鑿岩の鑄造法

〔内容〕鑿岩の内周面に沿ふて或る泥狀物を塗布し中央に圓筒を挿して内部に層を填充したる後燒成すべき物品及燃料を裝填し以て中央隔離部を形成し凝結せる燒成物の鑿岩及搬出作業に便ならしむる方法。

佐竹省三

横濱市神奈川區 青木町上反町四六三

特許第九七〇三五號 陶磁器又は硬質硝子と金屬とを接着せしむる方法

〔内容〕陶磁器又は硬質硝子面に白金化合物を塗布更に金を塗布加熱して金屬を電鍍したる後金屬と接着せしめ温度の急變耐氣壓に効果を得せしめたるもの。

森信次

大阪府住吉區帝塚山 學院前一〇二五ノ一

特許第一〇一八八三號 「プロッター」製造法

〔内容〕珪藻土を主成分とする天然岩石を燒成して後



石塚幸七 大阪府北区梅ヶ枝町七番地

特許第八〇〇四二號 印刷と同時に着色を施す硝子器製造法

〔内容〕前者は適宜の金屬板紙等に透目模様を施し之に色料或は金屬若しくは金屬鹽を施着したる模様型板を形成さるべき硝子器の外表面又は内面に當てがひ吹込或は押型方法により凹凸模様を施し模様型板を除去することにより色料を硝子器の凹凸模様面に殘存せしめ印刷と同時に着色を施す硝子器の製造方法なり。

〔略歴〕氏は明治二十八年富山縣の出身、十三歳より大阪府北区同心町木村氏につき技を練り



徳永芳治郎 大阪府東淀川區三區町二ノ百七十三番地

特許第七四六〇一號 硝子管又は圓筒硝子製造方法

〔内容〕硝子管又は圓筒硝子製造方法は熔融硝子の液面下に排出口を具ふる硝子槽内に圓筒を設け、其の下端と排出口との間隙より熔融硝子を排流せしむるものにして、熔融硝子を排流するに適應する熔融度たらしめ間隙より排流せしむれば等一の厚さにて一定の速度に排流し圓筒内を通じて空氣が進入し、排流硝子は自ら管又は圓筒を形成し、然かも自然の排流に基くが故に内外面は平滑にして一定の任意の厚みを有すべ

く、而して熔融槽に圓筒を裝置するのみの簡單なる設備にて足るのみならず、排流速度丈けの製品を得るものなるを以て迅速に多量の管又は圓筒を製造し得るものなり。尙此圓筒は切り開きて硝子板となすことを得、然かも任意の厚みの硝子板を非常に簡単に製作し得るものなり。

〔略歴〕氏は明治十四年十月の出生、同三十一年より硝子製造販賣業に従事し今日に至る。夙に發明考案に意を致し特許實用新案權二百有餘件を所有す、日本硝子組合聯合會評議員、硝子工業組合理事長等に就任し、受賞拾數回、貿易功勞者、事業功勞者、實業功勞者として夫々表彰せらる。

濱口鹿吉

大阪府西區本田通 二丁目七四

特許第九四〇六二號 金屬黃色光硝子製造方法

〔内容〕鹽化第二鐵の水溶液に過酸化水素を注ぎ加熱せる硝子の表面に噴射せしめて金屬黃色光硝子を低廉に製造する方法。



和田梓助 石裕一郎 不破橋三 森二郎

特許第五〇四七〇號 電球用バルブ硝子
同 第九一八三三號 白熱電球又は其類似装置
用硝球内面に散光又は着色層を被着せしむる方法

〔内容〕前者は無水珪酸、酸化ナトリウム、酸カルシウム及酸化マグネシウム、アルミナ等の適當成分を有する熔融温度の低い電球用バルブ硝子にして電球製作作業に好適し特に風化作用を受けざる特徴を有す。

〔略歴〕和田氏は大正四年東北帝國大學化學科卒業、東京電氣株式會社に入社し同社研究所副長たり。

不破氏は明治四十五年京都帝國大學工學部卒業、東京電氣株式會社に入社し同社研究所副長を経て現在同所理事の要職にあり、白石氏は大正十四年東京高等工業學校應用化學科卒業、東京電氣株式會社に入社し同社研究所に在勤、森氏は大正九年京都帝國大學理學部化學科卒業會て東京電氣株式會社に勤務し不破氏の下に在りて硝子の研究に従事せられたり。

らるゝこと數次に及べり。

波邊 牧 三

特許第九五二四一號 白熱電燈用内側硝子球製造法
〔内容〕吸水性彈性材に硝子腐蝕液を供給し之に硝子球を被せて廻動せしめ直に球を抜取りて水洗し簡單なる方法により製造能力を増進且無害に作業を遂行し得る製造法。

柏木 幸 助

特許第九八一六九號 體溫計用硝子管の加工法
〔内容〕硝子管より水銀槽を作出する場合の加工熱を利用して金屬薄層を所要の硝子面に燒付け感度迅速なる體溫計を經濟的に得んとする法。

可兒 弘 一

特許第九六〇六五號 水に難溶性なる重達硝子の製造法
〔内容〕硝子の燒鈍温度より以下の温度に於て加熱することを特徴とする水に難溶性なる重達硝子の製造法

森 谷 靜 太

特許第一〇二五九六號 半透明電燈球製造法の改良
〔内容〕酸化燃焼によりて發生せる微細なる粉末を燈球内壁に均等に沈澱被着せしめ照明効果均等なる電球の製法。

向笠 榮 三

特許第九四四六三號 耐光性合セ硝子製造法
〔内容〕硝化棉を「トリアセチン」等の液を用ひて硝子板の間に重ね合せ後加壓加熱して前記硝子板を貼着し以て耐光的強靱安全硝子を製造する方法。

植田 一

特許第九四〇四二號 耐熱硝子の改良
〔内容〕無水珪酸無水硼酸「アルミナ」酸化「アルカリ」酸化亜鉛等の組成により膨脹係數小にして強度の抵抗性を有する耐熱硝子の製造方法。

上山 正 英

特許第一〇〇七五〇號 大理石模様を現出したる硝子板の製造方法
〔内容〕珪酸「アルカリ」水溶液に「アルミニウム」

山田 隆 之 助

特許第九五三三九號 硝子纖維版製造法
〔内容〕硝子原料を多數の細孔を有する廻轉放出管内に導き遠心力によりて周方に放出せしめ之を周方に於

中 泉 行 正

岩 城 勝 美

厚 澤 銀 次 郎

中 村 宇 吉

特許第九四四八八號 硝子上に硝子を以て極めて細き線を描く方法

〔内容〕細管内に極めて細き硝子棒を挿入し之を僅かに露出せしめて任意の硝子面を加熱しつゝ如何なる細線をも容易且簡単に描かんとする方法。

村 上 義 雄

特許第九五〇四三號 硝子器の表面に任意の模様を直接印着する方法

〔内容〕硝子器物の表面に粘着性「インキ」印刷を施す工程と該「インキ」と撒粉剤との融合面に更に鎖物性粉末を撒粉する工程との結合を以て適宜の色合ある模様を迅速強固に印着せしむる方法。

村 田 達 平

特許第九九三三九號 硝子纖維版製造法
〔内容〕硝子原料を多數の細孔を有する廻轉放出管内に導き遠心力によりて周方に放出せしめ之を周方に於

谷 口 米 吉

西 村 專 治

特許第九七四〇號 黄金色光輝硝子の製造法

〔内容〕赤熱せる硝子面に特定の混合酸性溶液に還元劑を加へたるものを噴射することにより色彩光輝の發現を容易且つ充分ならしめんとする法。

田 端 耕 造

江 上 健 助

特許第九六〇六六號 電氣絶縁用硝子

〔内容〕諸種の物質より成る硝子に於て酸化「アルカリ」中酸化加里の量が五乃至八五％たることを特長とする誘電體損失の小なる硝子。

中 里 正 夫

特許第一〇一三六〇號 硝子製細菌培養器の製法
〔内容〕圓形板硝子の周縁を加熱軟化せしめ之を内側に折り曲げ其加工中板硝子の中央部は遮熱押壓器により平面臺盤上に挾持し以て變形を生ぜしめざる事を特徴とする製法。

粉及珪石粉末を混入して膠化したる泥状液に染料を以て好みの着色料としたる工程に關聯する特殊工程により熱酸等に耐ゆる硝子板の製造方法。

山口 與平

東京市豊島區里馬町上馬込南築井九八五

中 澤治男

愛知縣西春日井郡川中村大字福徳乙四八

武 部俊正

東京市澁川區澁川町大字上中里二〇

特許第九五三四一號 綠色螢石燻石製造方法

〔内容〕石英と「クローム」化合物との混合物を焙焼して一旦之を冷却し再び加熱急冷せしめ極めて容易に草綠色の光澤ある燻石を製造する方法。

不破 橋三

東京市大森區新井宿五ノ五八九

鈴木 不二雄

東京市品川區大井伊藤町六〇九三

特許第一〇一八一七號 紫外線透過硝子の製法

〔内容〕普通硝子の配合原料中に弗化曹達及醋酸「アンモニア」を添加焙焼して得る製法。

不破 橋三

東京市大森區入新井宿五ノ五八九

佐藤 正文

同市同宿五九二

特許第九五四三三號 X線管球

用ひ腐蝕度に部分的差異を生せしめ以て従來得難き暈樣艶消を簡易に遂行し電球等の硝子球を得んとする法。

廣井 祐理

大阪府南區高津四ノ七六

特許第一〇三三五二號 硝子碗製造法

〔内容〕熔融硝子の特殊工作により模様を刻せる硝子を吹成し之を火熱上に於て轉子に捲き取り螺旋狀に巻曲したる後環に切断し其兩端を一致せしむる如く加熱矯正する製法。

森 常治郎

東京市小石川區表町八二

特許第九六一三三號 陶器用上繪具を硝子に焼付くる方法

〔内容〕硝子面に陶器用上繪具に硝砂を混入して模様を轉寫又は描き内外面に耐火粘土の膜を形成し硝子器等の形乃至繪具を破損脱落することなく良好に燒着する方法。

千葉 千壽

東京府南葛飾郡大島町六丁目四三五

特許第九七〇三三號 硝子器口仕上及「アンニリン」装置

〔内容〕自然部に小孔を穿設したる箱型爐と上方に設けたる彎曲孔及直孔を穿ちたる中蓋等を口狀壁體に覆ひ兩端に蓋を設け操作容易に燃料及人工費を節約し得べき装置。

製の容器を備へX線の影響に依る硝子の黒變を防止し容器壁の清澄なる可良製品を得んとする方法。

小 西 庸三

大阪府南區日本橋筋五丁目五五

特許第九五六四一號 虹彩色硝子製造法

〔内容〕板状硝子或は球状等に吹成したる薄硝子を支持し一方を灼熱しつゝ他面鹽化重金屬の溶液を噴射燒着せしめ透明且錯雜せる光彩を表面に以て多數の製品に同一色彩模様を施す方法。

小 西 孝治

東京市京橋區京橋一ノ一

特許第一〇〇一七三號 飛行用眼鏡硝子

〔内容〕任意の硝子に「セラチン」其他の固着材を以て特殊に加熱したる「セルロイド」板を貼付し加熱壓着せしめたる飛行用眼鏡硝子。

近 藤 清治

東京市大森區田邊調布三丁目一〇九

河 島 千壽

東京市目黒區綠ヶ丘二四八一 高橋重機方

特許第九八七七一號 硝子製造法

〔内容〕電極を具ふる電爐を以て硝子を焙焼するに當り酸化亜鉛を添加して硝子中の炭素を燃焼除去する事により着色防止及び蒸發する亜鉛を回収して廉價に優良硝子を得んとする法。

荒 木 賢治

大阪府此花區玉川町二丁目四〇

特許第九八一六五號 硝子板面接着方法

〔内容〕一定の縮合生成物を二枚の硝子板間に粘着して薄層を構成せしむる工程と變質凝固して接着せしむる工程との結合により氣泡の不生且つ強固に硝子板を重合接着せしめんとする方法。

甘 田 美智雄

東京市荏原區碑谷町二七七八

特許第九六三〇二號 熔融石英製品の成形法

〔内容〕純粹となしたる石英材料の粉末に特殊熱處理を施すことによりて焙焼し成形操作を容易ならしめ且光澤平滑の表面を有する製品を得んとする方法。

北 口 安吉

大阪府北區本町五丁目四

特許第九八一二二號 裝飾玻璃板製造法

〔内容〕加熱せる半軟半硬の玻璃筒を粉末狀硝子の上に轉廻したる後加熱焙焼し更に透明玻璃を一樣に焙着せしめて切斷展開し任意の色彩模様を現出する法。

坂 倉 幸利

東京市澁谷區澁谷町向山六二

田 中 留作

同市目黒區目黒町三田九六 田中林蔵方

特許第九五五一八號 電燈用硝子球製造法

〔内容〕加温を俟つて硝子に腐蝕作用を與ふる溶液を

業協會總裁伏見宮殿下より表彰せられ、同六年秩父宮同妃兩殿下台臨の光榮を辱ふせり。

大 谷 信助

東京市日本橋區本石町二丁目四ノ二

特許第一〇二二八號 燒成したる珪砂引磁造用「タ」

〔内容〕金屬製「タンク」の面に珪砂液を吹付け燒附燒成を行ひたるものを特殊の吊鐘形耐熱性保護緩冷覆筒を以て覆蓋し徐々に放熱せしむる方法。

谷 作 松

横濱市中區井土ヶ谷町坊ノ後八八四

特許第一〇二〇五二號 アルミニウム面に堅牢なる着色模様を施す方法

〔内容〕陶磁器用上繪具中硝子質及鉛質の分量を特殊加減して「アルミニウム」面上に模様を描寫し燒付く方法。

山 下 周造

神戸市河原六四六

特許第九四五六號 均等硬質珪砂引「タンク」製造法

〔内容〕金屬製「タンク」に軸藥を噴射塗布して燒成し冷却せしめたる後再び加熱燒成し硬度各部均等にして光澤を保ち冷熱に耐へ得る大形の釀造用「タンク」を得る法。

田沼富藏

東京市中野區
中野町西町二九

特許第九六九六號 硝子「タイル」用粘土製吹型製造法

〔内容〕耐火粘土粉末に諸種の物質を混和したる後布海苔液を注加し文字型等を作りて乾燥加熱して迅速に安価なる硝子「タイル」用粘土製吹型を得る法。

島田八郎

東京市大森區
山王一ノ二八六七

特許第一〇一四一九號 硝子熔融爐に於ける熔融硝子面の高さを管理する装置

〔内容〕爐内に於ける熔融硝子の標準面の上下に二個の電氣的回路を構成せしめ其の開閉作用により高さを管理する装置。

橋本潤躬

東京市豊島區
巢鴨六丁目一三二九

特許第一〇一五二二號 「クリンカー」冷却装置

〔内容〕「クリンカー」を急速に冷却し「セメント」の品質を向上せしむると共に廻轉筒の過熱損傷を防止する装置。

西雄一

東京市豊島區
一丁目一〇電氣化
學工業株式会社内

特許第一〇一四六九號 混合「セメント」製造法

〔内容〕廢物たる石灰窯素分解殘滓を乾燥し之を「ポートランド、セメント、クリンカー」と混合し粉碎し

たる耐壓力及抗張力強大にして色合良好なる混合「セメント」製造法。

飯田光太郎

東京市本郷區
西片町一〇

特許第九四八三四號 消石灰製造法

〔内容〕湿度八〇以上飽和以下になしたる濕空氣を生石灰に作用せしめ自然風化に依るものと同等以上の優秀なる消石灰を迅速容易に製造する法。

石原辰治

大阪市港區八幡屋
雲井町一丁目二九八

特許第九七五九二號 壁材料

〔内容〕生石灰を主要原料とし之れに軟石膏と微量の硫酸「マグネシウム」を混合粉碎することにより使用簡單且完全なる壁材料を經濟的に得る方法。

渡邊勝二

堺市新町八七七

特許第一〇二九三七號 迴轉窯

〔内容〕冷却筒を燒成筒に固着結合し燒塊の保有する餘熱を燃焼に必要な空氣の豫熱に有効に利用すると共に燒塊の冷却を迅速ならしむる装置。

高井三郎

石川縣鹿島郡西海村
津向小部五三ノ一
七尾セメント株式会社
七尾工場内

特許第一〇一五三八號 「セメント」迴轉窯熱利用原料乾燥装置

〔内容〕泥漿中の水分の全部又は幾分を蒸發減少せる保熱原料を燒成することによりて單位時間内に於ける燒成量を増加すると同時に迴轉窯用燃料の節減をなす装置

中村龜松

石川縣河北郡小坂村
字法光寺二ノ一六

特許第一〇三二二五號 石灰窯素分解殘滓を原料とする白色工業用石灰の製造法

〔内容〕石灰窯素分解殘滓を利用して特殊の工程操作に依り之に含有する夾雜物を除き壁材及各種工業用に供し得べき白色の石灰粉末を製出する方法。

中城繁榮

東京市芝區
芝浦町三丁目一

特許第九八三一六號 壁材料製造法

〔内容〕「バルブ」等に耐火粘土の粉末及黃蜀葵の粉末を混練して粘土塊に作り乾燥細末後石灰を混合し以て平滑美麗密着凝固且無變質なる製品を得んとする法。

中村五郎

山口縣美祿郡伊佐町
大字伊佐四九四三

特許九五三二八號 石灰石熔融爐

〔内容〕爐體の中央部周圍にのみ孔を穿ち其外周に燃焼室を設けて火焰を噴出せしめ焚淨貯室を備へ以て燃料の節約と共に石灰石を均等に熔燒し迅速且純粹なる製品を得んとする法。

長瀬菊次郎

八戸市小中野町
字正部田二二三

特許第九九四七一號 セメント原料粉末調製方法の改良

〔内容〕乾式「セメント」製造方法に於て容易に極めて均等なる成分の原料粉末を調製し其燒成を容易ならしめて燃料の節約を計ると同時に高級品質の「セメント」を製造する方法。

山村義次

東京市目黒區中目黒町
四丁目一四六四

特許第九七九一號 耐酸セメント

〔内容〕耐酸力大なる物質の粉末と炭素物質粉末及び或種の單體物乃至耐酸不透過性物質等より成り耐酸固結に富みたる不透過性耐酸「セメント」を得る方法。

山田定雄

東京市豊谷區水川四八

特許第九四二〇八號 急凍防水「セメント」製造法

〔内容〕セメントに諸種の物質を混じ之に「ゴム」樹液

小室萬五郎

福島縣石城郡
四倉町原田七〇

特許第九七二〇二號 漆喰

〔内容〕「セメント」ダスト及石灰石粉とを配合するにより従來の漆喰に比し凝結時間早く且強度大なる漆喰を安価に得んとする法。

小柳信三郎

東京市豊谷區
代々木初臺町六〇八

特許第一〇二七九七號 混合セメント製造法

〔内容〕可溶性珪酸を含有し液體を吸収する性質を有する物質に豫め鹽化石灰濃溶液を吸収せしめ之を「ポートランドセメント」に粉碎混合する製造法。

小室萬五郎

福島縣石城郡
四倉町字原田

特許第一〇二七五五號 「ポートランドセメント」製造方法

〔内容〕片麻岩、花崗岩の如き未だ風化分解せざる岩石を熱分解して後石灰石と調合粉碎して原料調合物を造りそれを「セメント」燒成窯にて燒成し「ポートランド

近藤清治

東京市豊島區
大字下沼部一〇九

特許第一〇一六〇四號 クロムセメント

〔内容〕石灰質「セメント」の原料に少量の「クロム」化合物を添加したる強度極めて高き「セメント」

齋藤八郎

東京市品川區
大井塚町四九九二

特許第九八九四二號 迴轉式「セメント」燒成窯

〔内容〕「セメント」燒成作業中裏裝耐火煉瓦の相互間に起る關係的移動を防止し以て窯の耐久性を著しく大ならしめたる装置。

酒井温

兵庫縣武庫郡御影町
那家上山田一〇九

特許第九四八九三號 自動冷却迴轉式燒成窯の改良

〔内容〕迴轉窯の内部に冷却筒を配設し之を連絡するに環狀室を設け外は冷却せらるべく内は耐火資料裏張りをして防止壁を設けたる耐久力大なる連絡装置にして窯の効率を向上せしむる改良。

溝口貞

福島縣石城郡
四倉町字原田五

特許第九五五三號 「セメント」製造法

〔内容〕石灰石及粘土質物の煨燒工程と生石灰粘土質物及煤劑を原料調合物となす工程と之を加熱燒成する

工程との結合により燃料費の低減製造能率の増進乃至優良「セメント」を得んとする法。

阪口芳三郎
大阪市西區京町堀通
一丁目四〇

浅村貞治郎
大阪市東區川區
本庄西通二丁目四

特許第一〇三三〇號 石膏質「プラスチック」

〔内容〕 壁用焼石膏粉を主體としこれに水酸白色の純燧石粉、純石英粉等を混和したる硬化後龜裂を生じ難き石膏質「プラスチック」



岩元熊雄
大阪府大阪市西區南
區一丁目一番一
地番一

特許第六〇二〇八號 岩元式ストーンブロック

〔内容〕 従来突付装置は種々不満なる點多かりし爲め屢々雨漏りを生じ故に突付装置の施工は全く不安なるものとせられたるが、美を尙ぶ建物等にありては硝子板の重ね装置は重ね個所に塵埃が附着し其の觀甚だ見苦しきものあり、尙硝子の面積を有効に使用し亦勾配の少なき底等には是非共突付装置を施さざる可からず、本突付装置は幾多の經驗と水の性質作用とを慎重に

考慮して従来の缺點を一掃し考案せられたるものにして、勾配に關せず施工して優美に硝子の取替容易にして雨漏り絶對になく既に諸所に施工して充分なる眞價を認められつゝあり、然して地震又は動力の震動に依り破損し移動する憂なく特殊填充物を以て硝子板を挟みあるが故に硝子の破損することなく、填充物は永久に取替ゆるの必要なく、又特殊種の装置に依り暴風雨の際雨漏り又は故障を生ずること絶對になく大量生産により廉價なる等の特徴を有す。

て任意の厚さに製造し得べく、木造家屋の内外部に張付け外部はセメント塗入造石塗を施工し室内は漆喰塗を施工する時は絶對に火焰に對して安全なり、コンクリート建物に對しては室内の壁、天井、床等に張付け其上を漆喰塗にて仕上ぐる時は室内の冷却を防止し其他種々なる箇所に使用して保温防火の特徴を發揮する事を得。

日本セメント防水劑製造所

森上浩行
神戸市灘區大石十五番

特許第二八五七九號 セメント防水劑

同 第六一九九八號 ウォータイト

〔内容〕 製品モリノイト保温盤は主として防火保温建築材料にして松材の不用なる小材を以て中二分位の鋸屑を製し之を發明による獨特の方法に依りてセメントにて固結せしめたる板にし

その水分が下層コンクリート内に容易に吸収されると同時に遊離されたる純ビチュウメン粒子は破損し、下層面全體を一樣に被覆して緊密に之と膠着するのみならず、該ビチュウメン膜は更に表層加熱式アスファルトとの間に同質融和の癒着を遂げて茲に一物一體の結合を完成するものなり、元來道路舗装の基礎床としては最も耐久的なる硬練コンクリートを用ひ、表層には最も理想的且つ普遍的なる熱式アスファルト・モルタル又はアスファルト・コンクリートを用ひたるが此の兩層の結着點即ち必然的に剝離し易き此の兩層間の膠着を完全ならしむるの必要を感じ其結果として本舗装法の發明を完成せられたるものにして、完全に膠着せる上下兩層を持つ本舗装法に於ては當然表層の厚みとしては只單に路面交通の多寡に伴ふ自然磨損の程度に應ずるを以て足り取てそれ以上に基礎床との剝離等を懸念し餘分の厚みを加ふる必要無く、寧ろ表層の薄きによつて木工法の特長をより多く發揮するものなり、施工簡明にして堅實且つ迅速なり、工法は合理的にして經濟的、而もその効果は最も耐久的なり。

岩田喜通
東京府豊多摩郡千駄ヶ
谷町千駄ヶ谷五四八
林 町 五 八

特許第九四七五〇號 人造石製造法

〔内容〕 寒天膠等の温溶液を冷却凝固せしめて着色「セメント」にて被包し「セメントモルタル」と混捏塗裝し凝固後或る溶液中に煮沸し以て雅趣耐水性に富みたる建築材料を得んとする法。

服部丈三郎
大阪市東區成
猪飼野二四九

特許第九九二九三號 「セメント」を主要成分とせる「スレート」又は管の塗層的加工法

〔内容〕 「セメント」を主要成分とせる「スレート」又は管に派青質の固結性塗層を附着せしめて、製品に耐水性、耐酸性等を増進せしめ素地の耐久的保護を期する加工法。

西川寛
東京市蒲田區
萩中町九〇

特許第一〇三三七號 模造石材製造法

〔内容〕 膠性粘土に「ポットランドセメント」石粉及鎖物性顔料を混じ稀薄なる稀鹽酸にて練成硬化後粉砕したるものを未だ凝固せざる「セメントモルタル」素

豊永幹雄
岐阜縣不破郡赤阪町
北ノ端三二〇ノ一

特許第一〇二八二二號 「セメント」凝大理石の製造方法

〔内容〕 硬化「セメント」の表面を研磨により大理石と酷似の光澤を有せしめ安價に且任意形状寸度色調の大理石代用品を製造する方法。

株式 大林組
大阪市東區京橋三丁目
七十五番地

特許第七八九九八號 アスファルト噴射装置

同 第八〇六六五號 水中に沈澱せる微粒アスファルト製造法

同 第八四〇三一號 無音アンヴェル

同 第九一八九三號 ビチュウコン舗装法

〔内容〕 ビチュウコン舗装法とはセメント混凝土床(下層)とアスファルト・モルタル層(表層)との中間にアスファルト乳劑の薄層を介在せしむる工法なり、而も頗る簡單なる操作に過ぎざる事が此の兩層膠着の上に不可思議なる偉力を發揮する事實は幾多の實驗によりて明らかに確認せられ、端なくも斯界の驚異的となるに至りしものなり、即ち硬練コンクリート床の水分の浸透乃至蒸發を待つて其の表面に撒布されたるアスファルト乳劑は直ちに分離作用を起し、

大塚藤助
尾崎市東區波六五八

特許第九五〇五六號 配電用人造石製造法

〔内容〕 「セメント」に諸種の物質を混捏硬化せしめたる後更に特定の混捏物を擦込み一定の溶液中にて硬化せしめ以て電氣絶縁性に富み且優美なる配電盤基板を經濟的に得んとする法。

田中 勇

大阪市港區大正通
一丁目 六三

特許第九六一九四號 人造石面製造法

〔内容〕「セメントモルタル」等より成る素面に特殊の泥状液を壓搾空気を以て噴射し未凝固の間に更に石粒を噴射して壓入或は突出せしめて以て強固且光澤に富む人造石面を得んとする法。

武居 佐源 次

東京市下谷區櫻木町一
町大字太子堂四三四

特許第一〇一九二四號 「コンクリート」製造方法

〔内容〕「セメント」の水溶液中に電流を通じつつ攪拌混捏するを特徴とする「コンクリート」の硬化を速かならしむる製造法。

副島 虎太郎

東京市世田谷區世田谷
町大字太子堂四三四

特許第九七五九四號 鑲造金屬板製造方法

〔内容〕鑲材にて文字等を刻込みその上に「セメント」材を流込み得たる「セメント」板に金屬皮膜を構成せしむるにより製作の簡易精細なる模様の出現及び外觀異なる事なき金屬板を得んとする方法。

塚越 梅之進

東京市中野區
中野町一〇二〇

特許第九五三三九號 「セメント」又は漆喰噴霧品着色防水法

〔内容〕噴霧器内に通じて霧状となせる二種溶液の混在霧滴に「セメント」或は石灰等を混着剤とし経済的に強大なる防水性を附與及着色せんとする法。

久保田 由太郎

横濱市中區二葉町
四丁目 三三

特許第一〇三四五八號 混凝土暨其の他の「セメント」築地面に粗化粧面を生ぜしむる方法

〔内容〕堅硬密實にして防水性に富み龜裂剝離することなき「セメント」の硬化層を主體とする頗る雅趣に富める粗粒の化粧面を生ぜしむる特殊の方法。

松尾 利作

關東州大連市柳町五三

特許第九六二二〇號 壁面仕上法

〔内容〕「セメント」類を主要原料とする壁面に於て塗着凝固の途明礮水を注ぎつつ、回転鏡にて壓搾捺捺せしめて以て美麗なる凹凸模様を簡易に生ぜしめんとする法。

深谷 辰次郎

東京市本郷區駒込西片
町一〇番地 二七

特許第一〇二二八三號 「モザイクタイル」の製造法

〔内容〕特殊の方法に依り原圖案と正確に合致する意匠を有する精巧なる「モザイクタイル」を簡易迅速に製造する方法。

船越 重男

茨城縣多賀郡日立町
大字宮田三四五三

特許第一〇〇一八六號 人造石

〔内容〕鐵、珪酸を含有し石灰、苦土、礬土等より成る人工無機質熔融生成物を適當の大きさに碎き之を洋

水野 敏行

東京市町區有樂町
一丁目二〇電氣化
學工業株式會社内

特許第一〇〇五一五號 耐酸性瀝過板製造法

〔内容〕特殊耐酸石耐酸煉瓦等の大小適宜の耐酸物粒子に耐酸「セメント」を配合し之に耐酸「セメント」の硬化液を混和し乾燥固化せしめたる酸性液を瀝過反覆使用し得る瀝過板の製造法。

三浦 胖八

東京市麻布區護国寺一
町一丁目 一九

特許第九四七一號 鑄造用「タイル」の製造法

〔内容〕菱苦土を灼熱して得たる塊状物を粉碎し之に砂鐵川砂及「セメント」を混和したる後硬泥状に混捏強壓し以て防滑性に富み價格低廉なる「タイル」を得んとする法。

白石 傳藏

東京府在原郡池上町
字堤方 二七五

特許第九六七〇八號 鑲裝材料

〔内容〕樹脂性塗布劑にて被包したる鋼鐵粉を「ポルトランドセメント」に混和して酸化を防止し且つ耐摩性を増大せしめんとする方法。

鈴木 熊太郎

津市北濱町八一七

特許第一〇〇一四六號 人造石製造方法

〔内容〕「モルタル」、「コンクリート」等より成る素地

體上に「ポルトランドセメント」と硫酸「ナトリウム」等の水溶液を練捏したるものを塗着凝固せしめ堅緻にして防水性を有し諸種の化學的藥品に抵抗性ある人造石を製造する方法。

石田 了三

神戸市 八幡
字備後堂 二九

特許第九四九〇九號 セメント防水劑製造方法

〔内容〕「ツンドラ」を粉末状となす工程とその粉末に植物性油脂を吸収せしめて水性液を得る工程との結合により防水性強大製造工程の簡易及び効果優秀なる防水劑を得んとする方法。

渡邊 鶴吉

東京市本郷區
駒林町 一一

特許第一〇二四九六號 「セメント」防水劑

〔内容〕可溶性珪酸及珪酸鐵を含有する岩石の細末に燒明礮及石膏を混合密和せしめたる「セメント・モルタル」又は「セメント・コンクリート」に強大なる防水性と強度を附與し凝固を阻害せず龜裂を生ぜしむる要なき防水劑。

木原 當次郎

東京市日本橋區
北島町一丁目二三

中村 喜一

金澤市三番丁
八番 地

特許第九六九五三號 「セメント」増強劑製造法

〔内容〕膠狀石灰物質に酸性白土を加へ更に鹽化「カ

關城化學工業株式會社

大阪府西區京町堀
上通一丁目十四番地

特許第六六三九九號 ロータス

同 第六九〇九六號 耐寒ロータス

同 第七一三〇四號 クキツクロータス

〔内容〕「ロータス」は遊離「アルカリ」を含有する石鹼と珪酸曹達との混溶液中に脂肪酸石灰及珪酸石灰を化合する量より過剰の生石灰を混和することを特徴とする製造法により前記石灰鹽の外種々の中間生成物を生成せしめ、且つ生石灰の消化の際生ずる化合熱を利用して製したる防水性大にして而かも「セメント」の硬化作用を阻害することなき乾燥細粉状「セメント」防水劑なり。

耐寒「ロータス」は濃硫酸に鹽化物及硫酸鹽を化成する量より過剰の食鹽及生石灰の混合物を投入せしむることを特徴とする製造法により製したるものにして、鹽化物、硫酸鹽及食鹽を未化合消石灰中に均齊に密混せしめて其の少量を「セメント」に混用することにより水結による障害を防止し而かも「セメント」の硬化作用を一層促進し得べき耐寒劑なり。

「クキツクロータス」は珪酸曹達に稀硫酸を注入して珪酸曹達の大部分を硫酸曹達となし之を瀝過して遊離珪酸に富む珪酸曹達となすことを

特徴とする製造法により製したるものにして、「セメント・モルタル」又は「コンクリート」に混入して頗る急速に凝固せしめ得べき急結劑なり。

黒川 健二

黒川化學工業所
大阪府北區東梅田町
二十八番地

特許第七八六一二號 「セメント」防水劑

〔内容〕本品は「特許ニッポンセメント防水劑」と稱し押へ混凝土の代價にて完全に防水工事をなし得られ、「セメント」の合理的硬化促進に依り工事期間の短縮と工費の節約となし「セメント」の強力増加の爲め建築の大きさと自重の軽減をなし得、冬期工事に適し收縮龜裂防止と耐熱耐アルカリなること又伸縮率極めて少なき故新舊建増工事に不安なく白色セメント、カセイン、色モルタル等の防水に最適、水壓に抗して施工し得。

市川 良正

東京府豊多摩郡野方町
下沼袋 一六〇〇

特許第九六三一一號 不凍性瀝青乳劑製造法

〔内容〕熔融したる瀝青物質に硫酸化「アルカリ」等及び諸種の乳化劑を混じて乳化せしめて無凍結且均質に乳狀を呈する鋪裝用乳劑を得んとする法。

收親 彦

東京府在原郡駒澤町
上馬 六五九

石川 岩雄

福岡市西濠町二五

特許第一〇二四〇一號 含水瀝青乳劑製造並に其使用

法

〔内容〕石鹼及燐酸曹達を「サボニン」實物の稀薄水溶液に分散せしめたる乳化劑及燐酸したる「アスファルト」を攪拌混合することにより現場に於て含水瀝青乳劑を製造し之を保温の儘直ちに鋪裝面に撒布使用する法。

磯部 甫

東京市淀橋區
下落合二丁目六〇四

特許第一〇二四六九號 粉末「ビッチ」を使用する事による「アスファルト」鋪裝施工

法

〔内容〕道路基礎面上に「コールタール」系の油又は石油系の油を塗布浸透せしめ次に該油層上に「コールタール」系の油を使用したものには石炭系の「ビッチ」粉末を後者には石油系の「ビッチ」粉末を粘土陶土等の微粉末と共に鋪裝する方法。

井上 權市

久留米市東町三三

特許第九九二一七號 木質ビッチ鋪裝材の製造方法

〔内容〕鋸屑を加熱せる石炭「タール」に添加混合し之を砂粘土の如き珪酸質無機物及少量の硫黄と共に石炭「ビッチ」により粘結せしめて鋪裝材を製造する方法。

伊澤 長次郎

横濱市中央区
山下町一八七

特許第九七一八六號 路面撒布浸透油

〔内容〕魚油に「コールタール」を加へて加熱したる後

更に稀薄「アルカリ」液を加へて攪拌乳化せしめ以て路面の保護泥濘絶減及び低廉なる浸透油を得んとする法。

橋本 繁造

東京市荏原區
戸越町六四五

特許第一〇一六四二號 防水「タイル」製造法

〔内容〕瀝青液に生石灰液を添加し得たる乳狀瀝青に礦物性粉末を添加混和したる泥狀瀝青質「モルタル」を敷置し其表面には顔料を添加展置し強壓にて形成したる防水性弾力性並耐摩滅力大なる「タイル」の製法。

大山 剛吉

東京市麻布區荏原町二八

特許第九八二一四號 道路鋪裝材料

〔内容〕硫化鐵の燒滓に瀝青質物を加熱混和して經濟的に耐壓強靱に富みたる鋪裝材料を得んとする法。

小野寺 已佐治

東京府南葛飾郡大島町
三丁目三四六

特許第一〇〇一八〇號 「アスファルト」乳劑製造法

〔内容〕貯藏するも分別することなく耐水性及び凝着力に富み耐圧力強く氣温の變化に影響を受けざる鋪裝面を構成すべき瀝青質乳劑の製造。

小野寺 のぶ

東京市向島區大島町
三丁目三四六

特許第九六五九〇號 「アスファルト」乳劑製造方法

〔内容〕「タンニン」酸の水溶液に或る物質を加へて加熱溶解したる後燐酸「アスファルト」と共に「コロイ

D、ミル」に導き以て乳化安定且硬化迅速なる優良乳劑を得んとする法。

和田 俊之

東京府豊多摩郡井荻町
上萩窪四八五

特許第九八二〇七號 含水瀝青乳劑製造法

〔内容〕原料瀝青質物に、硫酸礬土を主成分とせる細末土類等に普通の乳化劑を混合吸着せしめたる乳化劑を使用し以て安定且濃厚なる瀝青乳劑を容易且廉價に得んとする法。

吉川 定市

大阪府東成區
鴨野町三二二

特許第九六五〇八號 板張鋪床方法

〔内容〕凝固せる混泥土等に護膜等を熔融して下塗層を構成せしめ其の未凝固の間に木板「ブロック」を貼着密着し以て強固にして緩衝性の板張床を容易且迅速に施工せんとする法。

松浦 彦三

横濱市磯子區磯子町
字 濱 三四八

特許第九四七三三號 瀝青乳劑製造法

〔内容〕「アルカリ」稀釋溶液に榨料植物の「エキス」及少量の鐵鹽を加へ攪拌加熱し次に或る溶液に熔融瀝青質物を投入し以て安定度大にして粘度含有の瀝青乳劑を簡易に製せんとする法。

松浦 治郎

横濱市磯子區磯子町
間 限 一六七〇

特許第九五三七〇號 瀝青乳劑製造裝置

〔内容〕攪拌室を有する外筒の内部に燐解室を形成し

該室に倒載せし樽詰「アスファルト」を加熱筒に接着せしむることに依り樽詰「アスファルト」を其儘連續且迅速に乳化せしめんとする裝置。

山本 卯太郎

大阪市此花區
春日出町一五一

奈良 原輝雄

同 所

特許第一〇〇五四九號 「コールタール」使用鋪裝工法

〔内容〕「コールタール」と碎石又は礫塊との混合物に「アスファルト」を含有する粉末又は細粒を混入し冷却せる此等混合物を其儘使用し然も堅固なる鋪裝をなし得る特殊鋪裝工法。

細野 芳彦

東京府豊多摩郡野方町
下沼袋一六〇〇

市川 良正

東京府豊多摩郡野方町
下沼袋一六〇〇

特許第九四八二四號 貼着用瀝青混和物の製造方法

〔内容〕石油「アスファルト」に人工空氣處理を施したる原料を使用し「タール」酸等を熔融混和することに依り強靱且不變質の「アスファルト」を「コムパウンド」を得んとする法。

小谷 一郎

東京市目黒區目黒町
大字中目黒二四二

着色「アスファルト」鋪床又は鋪

道製造法

〔内容〕石油「ビッチ」等に「ロジン」を熔融し之に諸種の物質を加熱混攪したる資料を「コンクリート」面に塗着し以て磨滅龜裂する事なく美感を有する鋪床

を得んとする法。

佐久間 榮吉

東京市足立區
千住東町九三

和田 俊之

東京市杉並區
上萩窪町四八五

特許第一〇一〇五六號 脆弱なる低熔點瀝青質物處

理法

〔内容〕特殊の方法に依り熔融點を上昇せしめ引火點との接近を防ぎ硬度を緩和して軟化せしめ且つ弾性を附與する處理方法。

榎 商店

大阪府西區江戶堀南邊
一丁目（江戶ビル内）

特許第九四八二四號 貼着用瀝青混和物製造法

〔内容〕本發明は特許第八四六五號を更に改良擴張せる追加發明にして、其主成分たる石油「アスファルト」を特に人工的空氣處理を施したる所謂「プロロン」酸「アスファルト」を使用し、是れに「オレイン」酸「タール」酸又は「タール」酸を相當量含有する油又は是等の混合物を加へ熔融混和することを特徴とし貼着用として有益なる瀝青混和物を製造し得るものなり、本製品E.C.コンパウドの特徴及性状は「プロロン」アスファルト」中に含まる「アスファルト」の利用を充分ならしむると同時に粘着性を増大ならしめ、「ウオーカビリティ」の可良なること即ち作業容易にして一定温度内に於て表面張

力を極度に減じ表面に均一に密着塗着することを得、弾性に富み熱の感受性小なるが故に嚴寒酷暑に對し龜裂を生じ又は流動することなく「アスファルト」の老化を極度に防止する効果あり。

〔略歴〕本發明は日本石油株式會社の分身たる日本鋪道株式會社研究室に於て多年研究の結果發明せられたるものにして、本店は之が關西に於ける一手販賣權を有するものなり。

水田 政百

東京市豊町區
丸ノ内三丁目四

西川 亮一

秋田縣秋田郡土崎港
町大字相模新田字大瀨
二〇 日本石油株式
會社秋田製油所内

特許第一〇三七五一號 觸媒法による「プロロン」ア

スファルト」の製造法

〔内容〕鐵、銅、亜鉛及錫等の金屬の酸性鹽化物類、酸性硫酸鹽類の混合物又は夫等の錯鹽の少量を石油より分別せる重油若くは「コールタール」に加へて加熱の下に空氣吹込を行ふ製造法。

鹽田 健壽

東京府北豐島郡岩淵町
稲付柳田四〇三

特許第九七〇四七號 道路又は壁等の鋪裝材料

〔内容〕石灰窒素を處理して生せる「ブロー」滓を乾燥し之に石油「ビッチ」等を混合することに依り廉價にして龜裂の防止等優良なる鋪裝材料を得んとする法。

重宗亮一

東京市品川区東大崎
三丁目二四一

特許第一〇三七四九號 瀝青乳劑製造法

〔内容〕乳劑液として「ムクロン」と稱する植物の果皮を「アルカリ」溶液中に煮沸して製造せる煎汁液を乳劑となす瀝青乳劑の製造法。

平井正夫

横濱市鶴見區
市場町四八六

藤田政輔

東京市赤坂區
丹後町七七

特許第九四三五一號 含水瀝青乳劑製造法

〔内容〕熔融せる瀝青質に乳劑を加へ之に弱「アルカリ」性水溶液を混合攪拌する事により少量の乳劑にて安定且つ濃厚なる含水瀝青乳劑を製造せんとする法。

森吉

東京市杉並區
阿佐ヶ谷町五丁目三

市川良正

東京市中野區
沼袋南一丁目一六〇〇

特許第一〇二五二二號 「アスファルト」混凝土混合物の製造方法

〔内容〕冷骨材及熔融「アスファルト」を混溶しつゝ高熱火焰と瞬間的に反覆接觸せしむる事に依り「アスファルト」の本質を破壊する事なく冷骨材の表面に之を展開被覆せしむる製造方法。

叔井万助

神戸市須磨區
行幸町二丁目九七

特許第一〇一七七四號 「アスファルト」鋪裝方法

〔内容〕熔融「アスファルト」に粉末状「マゲネシヤセメント」を混和するを特徴とする酷寒酷暑の作用を受けず適度の弾性を有し耐久性に富む特殊の優秀鋪裝方法。

關根泰二郎

東京市荏原區
磯倉町字倉八七

山口康衛

東京府南葛飾郡砂町
八右衛門五二二

特許第九四二四八號 「アスファルトパイプ」の製法

〔内容〕諸種の纖維を混合して製したる紙、布を特殊の溶液にて溶劑せしめ乾燥する工程と之に或る混合熔融物を塗布成形に捲取る工程との組合せにより耐壓耐酸且防水性に富ましめんとする製法。

淺野貞治郎

大阪市東淀川區
本庄西通二丁目四

淺野誠二

大阪市西成區
新開通一丁目二三

特許第一〇二〇四二號 土壤の處理法

〔内容〕土壤の化學的作用に依り壓搾による硬化を可能ならしめ之を鋪裝用其他に使用し形成體の原料に供し得べからしめたる處理法。

門倉三能

東京市板橋區
中村町三丁目六七〇

特許第一〇四〇一五號 「コンクリート」モルタル等よりなる建造物の破壊方法

〔内容〕建造物の表面に水を撒布浸潤せしめたる後直ちに高熱を以て加熱し之を反覆して破壊する方法。

吉村三木太郎

東京市本郷區
駒込西片町一〇

特許第九六〇〇二號 「コルク」を原料とする壁材製造法

〔内容〕「コルク」層を破碎して輕質の土粉等を加へ且つ一定の温度に加熱したる後土粉を篩除し粘着材を加へ以て手觸り柔軟良好なる壁材を得んとする法。

多々良省三

東京市赤坂區青山南町
六丁目一六

特許第一〇三二九八號 「セメント」應用品に内用する植物纖維材の處理法

〔内容〕植物纖維材を特殊化學作用により防腐防蟻性及「セメント」との親和性を良好ならしむる方法。

河合龜太郎

東京市中野區中野町
上ノ原八一二

特許第九五七五九號 肝臟油製造法

〔内容〕動物の肝臟等に稀薄なる「アルカリ」溶液を加へ加熱溶解したる後靜置法等に依りて油層を別ち之を鹽類にて處理し以て簡易且つ經濟的に純良なる含油分を抽出せんとする法。

牧實

熊本縣飽託郡
川尻町四〇八

特許第九九〇六四號 油脂連續抽出裝置

〔内容〕罐内壓力の増進を自動的に調節せしめ各罐に對する溶劑の流動を終始圓滑に行はしめ原料に對し溶劑の浸透作用を均等ならしめ以て大量の原料に於ける油脂の抽出を迅速完全ならしめたる裝置。

藤堂良讓

埼玉縣北足立郡浦和町
鹿島臺一九三〇

特許第九七〇二三號 廢白土或は廢觸媒に於ける如く吸着又は附着せる油分の回收法

〔内容〕廢棄含油物質に苛性「アルカリ」等を添加して加熱攪拌し遊離脂肪酸を乳化して油分を分離し以て容易且經濟的に良質の油分を中性性に回收せんとする法。

倉橋三平

東京市荒川區
日暮里渡邊町一〇三五

特許第九九六七號 油脂の精製に使用したる酸性白土より油分の回收法

〔内容〕浸透乳劑的作用によりて油廢土より容易に油分を分離する油分の回收法。



須川榮一
大阪市西區新町
大南區西三丁目

特許第七三三五七號 硬質石綿盤の製造方法

〔内容〕本發明は強靱にして弾性に富み木材と同様に鋸切り其の他の加工を容易に施し得べき石綿盤を簡單に得らるゝものなり。

從來セメントに石綿を混じ之を成型して耐火性の盤状態を成型せしむることは公知に屬すれども斯る成型物は質粗雜にして弾性に乏しきが故に其用途は一部に限られ木材の如く之を加工して諸種の用途に應用することは至難とせらるゝ所なり、本發明は斯る石綿盤に前記の如く加工し得せしめ以て之を諸種の建築材料其他に廣く應用し得べからしめたるものにして、製品は前記する如く其質極めて強靱にして特に弾性に富みて加工容易なるに依り從來木板を用ひたる總ての部分に於て木板と同様に應用することを得るのみならず、火熱、水分、藥品等に侵されざるを以て木材に比して安全に使用せられ、且つ耐久性に富むの顯著なる特徴あり、又製品は電氣の絶縁材料として極めて有効に利用せられ電氣絶縁性を要する器具の製造等に有利に使用することを得。

〔略歴〕氏は永年石綿製品の製造販賣業を經營

布村繁造

東京市小石川區
竹早町一〇

特許第一〇〇〇九一號 油脂の脱臭法

〔内容〕生姜根或は大根の搗碎きたるものを油脂に加へ能く混和したる後之に過酸化水素水を加へ攪拌しつゝ酸素の發散作用の終息するを俟て之を濾過し以て無臭無味なる油脂を得る脱臭法。

渡邊榮太郎

東京市中野區
昭通二丁目五

特許第九六一四號 減量用「カストル」廢油再生法

〔内容〕「カストル」廢油に無作用瓦斯を通じつゝ加熱處理し更に硫酸及鹽酸を加へ脂肪酸等を除去したる後酸性白土等にて處理し以て優良なる油を經濟的に回收せんとする法。

笠井大作

東京市本所區
向島二丁目三

特許第一〇三三八四號 醬油油精製法

〔内容〕醬油油に過熱水蒸氣を流通せしめて蒸溜を行ひ主要成分を溜出せしむる醬油油精製法。

片桐英治郎

京都市左京區北白川町
京福帝國大學農學部内

特許第一〇一八四六號 醬油の脱臭方法

〔内容〕醬油に「レンチン」等の如き類脂體を添加した

る後脂肪層「アルコール」類にて浸出し悪臭を抽出除去せしむる餡油の脱臭方法。

片倉 勝 衛
長野縣諏訪郡
川岸村三七〇

特許第一〇一四八七號 「サナギ油の簡單なる脱臭並に精製法」

〔内容〕「サナギ」油に對する特殊簡單なる方法により生臭及び遊離脂肪酸を除き食用に適する油を製造する精製法。

田 町 慶 二
高松市高松町四二

特許第一〇一四三三號 魚油の脱臭精製法

〔内容〕魚油を眞空中に於て高温に加熱し魚油の悪臭を揮發し易き中間分解生成物に分解し高度の不飽和脂肪を重合變性せしめ之を綿布「バルブ」砂等に吸収浸潤せしめて温氣流中に於て油脂を變化せしめ揮發性生成物を排除する精製法。

清 水 善 輔
滋賀縣高島郡新儀村
大字安井川九九

特許第九七四一〇號 粗製魚油又は肝油の脱臭精製法

〔内容〕肝油等に布海苔溶液及び芳香性果汁を添加して臭源體を布海苔液中に移行せしむる工程と精製脱臭の油質物及諸原料とを分離する工程との結合により簡易に悪臭を除去せんとする法。

全 田 積
兵庫縣武庫郡
今津町字洲島七

特許第一〇〇四六二號 重合油製造方法

〔内容〕魚油に少量の「ハイドロサルファイト」を添加混合せしめ脱色作用により生成せられたる重合油の色相を良好ならしめ重合の反應を促進せしめ以て脱臭せる優良重合油を製造する方法。

木村 和 三 郎
京都市上京區小川出水
上ル茶屋町一三

特許第九七五三三號 「エルカ」酸の製法

〔内容〕「エルカ」酸含有の混合脂肪酸と該酸の「アルカリ」鹽とを「アルコール」溶劑中に於て結合せしめ「エルカ」酸を酸性鹽の形に於て結晶分離し以て容易に且多量に製取せんとする法。

蜂 谷 一 輝
兵庫縣武庫郡神道村
蘆屋八田八五六ノ一

特許第一〇二四一五號 觸媒還元裝置

〔内容〕還元剤内の温度を適宜所要の温度に確實に保持し得べくし以て還元作業を容易ならしめ又還元用水素氣流によりて排出する金屬粉を回収して其作業を經濟的ならしむる裝置。

本 多 愛 治
朝鮮咸鏡南道咸州郡
興南面湖南里一

特許第九九一〇一號 油脂硬化法

〔内容〕油脂に半硬化油を添加混合して混合體の沃素

價を低下し後沃素添加を行ひ反應熱發生を調節する油脂の硬化法。

本 多 忠 治
小倉市日明二八二六
築 成 一
東京市豊多摩郡代々木
町代々木富谷一四九八

特許第九七五八二號 硬化油製造裝置

〔内容〕密閉罐内に筒體を懸垂状態に樹立し上部に透通性遮版を架し中空軸を設け二個以上の「プロペラー」を備へ以て觸媒沈積の阻止及び短時間に沃素添加を施行すべからしめんとする裝置。

田 代 三 郎
朝鮮咸鏡南道咸州郡
興南面湖南里一

特許第一〇三五八九號 硬化油製造其他沃素添加裝置

〔内容〕特殊裝置により觸媒を混在せる原料油及沃素の混合物を螺旋狀に上昇進行せしめ充分なる攪拌を遂げ以て短時間に優良なる硬化油又は沃素添加油脂を得せしむる裝置。

田 中 芳 雄
東京市豊島區
巢鴨三丁目二八

特許第一〇〇四〇三號 不飽和化合物の沃素添加法

〔内容〕觸媒質として還元金屬又は金屬酸化物の代りに金屬水酸化物を使用し以て反應温度を低下し及觸媒の生命を増加したる下飽和化合物の沃素添加法。

小 林 良 之 助
東京市大森區
南千束町一八八

堀 場 信 吉
京都市左京區
下鴨中川原町九〇

小 田 切 瑞 穂
京都市左京區
岡崎東天王町九八

馬 場 日 出 男
京都市左京區
浄土寺馬場町一一

特許第一〇三七七四號 廢棄觸媒「ニツケル」再生法

〔内容〕廢棄觸媒「ニツケル」に附着せる沃素添加物を除去することなく却つて再生觸媒の壽命を助長するに資し沃素添加器内に收容せる儘再生操作を行ひ得せしめ尚再生の都度觸媒の活性度を増大せしむる特殊再生法。

坂 口 德 藏
朝鮮咸鏡南道咸州郡
興南面湖南里一

特許第一〇三三二八號 硬化油製造其他油脂沃素添加裝置

〔内容〕内容物をよく攪拌して沃素と油脂との接觸を充分にし油脂の循環を良好ならしめ比重大なる觸媒と雖も罐底に沈積するを防止し併せて反應温度の調節を迅速確實ならしめたる特殊裝置。

橋 本 金 太 郎
高松市豊川町四〇

特許第一〇〇四二二號 亞麻仁油代用品の製造方法

〔内容〕炭化沃素油に硫化沃素を通じて之を吸收溶解せしめ其生成物に魚油、海獸油等を混合攪拌し加熱して空氣を吹込む亞麻仁油代用品の製造法。

外 山 修 之
東京府豊多摩郡
澁谷町青葉二〇

石 川 得 三
東京府豊多摩郡代々木
町大字鴨ヶ谷一〇二六

特許第一〇一三〇三號 潤滑油製造法

〔内容〕魚油を冷却して析出する固體を除去し次に之を適當に加熱重合せしむる潤滑油の製造法。

大 高 末 吉
東京市豊島區
西巢鴨一八九六

特許第一〇〇二六四號 「リノリウム」油の製法

〔内容〕蓖麻子油を「トリクロロール、エチレン」に溶解し之を基本油となるべき鐵油、植物油等に混和して性質勝れたる保存油たらしむる製造法。

小 田 良 平
京都市上京區
紫竹牛若町一八

特許第一〇一五三四號 變成油脂の製造法

〔内容〕植物性又は動物性油脂に「エチレングリコール」を混じり加熱攪拌する變成油脂の製造法。

小 倉 善 平
戸田市大字戸畑
二九六〇

特許第一〇二〇四四號 食用香油の製造方法

〔内容〕煙を動物性油脂類中に導き煙の防腐性に由つて油脂類の變敗を防止し食料品に煙の快味を帯びしめる食用香油の製造方法。

中 守 洞 吉
東京市豊島區
丸の内三丁目四
日本石油株式会社内

特許第九九二一五號 潤滑油製造方法

〔内容〕魚油又は其他の動物油に對する特殊化學的方法により惡臭なく且つ安定にして有害なる酸素化合物を含有せず著しく減摩性能に富む潤滑油を製造する方法。

高 木 龜 太 郎
大阪府西淀川區野里町
六百五番地ノ二

特許第一〇〇六九四號 脂肪酸「エステル」製造裝置

〔内容〕本發明は「エステル」槽及湯槽を高所に相設置し兩槽の下方には球狀又は鼓狀の攪亂器を設けその上方兩側に「エステル」槽と湯槽とより出したる連絡管を相對向連通せしめ以て兩槽内の「エステル」及湯は自然力にて攪亂器に入る如くなし、又攪亂器の下方には多數の凹凸を有する交叉室に連設し更にその下方には多數の網を張設せる細斷室を連設したる水洗裝置を具ふることを特徴とする裝置にして、大なる動力を要することなく然も費用低廉且つ耐久力に富む脂肪酸「エステル」の製造裝置なり。

〔略歴〕氏は明治十年東京市の出身、藥學を専攻し、應用化學を實驗し、大震災當時東京市に於て工場を新設して「レコード」原料「フェノール」縮合物製造機械調整中總てを烏有に歸す

後油脂の研究に志し、毛髮用香油製造法、「ボマ
ード」製造法、毛髮用油製造法、石鹼製造法、
曠易き下劑製造法、動物纖維處理用油製造法
羊毛油精製法、汚綿洗滌装置等拾數件の特許權
を得て其過半は製品として市場に提供しつゝあ
り。

上野 誠 一

大阪府北河内郡
枚方町三矢三六六

特許第九八三二號 魚油より眞實石鹼原料油製造法
〔内容〕魚油に對し廢棄「ニツケル」接觸劑を添加し
且一定の温度に加熱することにより眞實石鹼原料油を
短時間に簡易且經濟的に得んとする法。

小出 廣 俊

大阪府東淀川區十
三西之町一丁目一六五

特許第九九三三八號 「ロート」油製造装置
〔内容〕「スルフォン」化油の中和工程を部分的に操
作して作業時間を節約すると共に過つて多量の炭酸曹達
溶液を注加したるときにも急劇なる反應を制し安全且
短時間に純質となさしむる特殊装置。

兒玉 玄 三

東京府中野區中野町
中野一七〇三

特許第九四三五〇號 潤滑油原液製造法
〔内容〕「グリセリン」を泡沫状とし、半乾性植物油を
一定の温度に保たしめつゝ上記泡沫状の「グリセリン」
を注入することに依り油の重合を促進すると共に優良
なる潤滑油原液を得んとする法。

芝 時 孝

京都市下京區
西橋小路久保町五〇第
一工業製藥株式会社内

特許第九七五八四號 中性油より常温にて「アルキル
エステル」を製する方法
〔内容〕「アルコール」に不溶性なる中性油に可溶性
の脂肪酸等を加へ其媒助により「アルコール」に溶
解し更にある物質を觸媒として密封且振盪することに
より簡易且安價に製せんとする方法。

平 林 憲 一

東京府荏原區
戸越町一〇六六

特許第一〇二五二四號 魚油より蠟燭原料製造法
〔内容〕魚油に水素添加を行ひ之を加水分解し分解生
成物に於ける遊離脂肪酸の量を制限し發汗及龜裂を生
ぜず且つ孔形成の良好なる蠟燭原料を製造する法。

兒玉 慶 民

横濱市中區西戸部町
西ノ原一六〇七

特許第一〇二二九〇號 魚油其他高度不飽和脂肪酸を
含有する油脂類より全く眞實
なき眞實の脂肪酸「エステル」
と高度不飽和脂肪酸「エステ
ル」重合物とを製造する方法
〔内容〕脂肪酸を加熱して高度不飽和脂肪酸を重合せし
め之を「アルコール」にて「エステル」化せしめ更に
之を蒸溜して溜出部として脂肪酸「エステル」を残留

持田 由 孝

東京府本郷區龜生町三

特許第九五三〇六號 石鹼
〔内容〕本發明は石鹼體の頂面には塗着乾固後
湯水に對し不溶性となり得る資料の薄き塗着
被膜を被覆し、周側部には塗着乾燥後湯水に對
して軟化し、輕るき摺擦により徐々に磨滅する
性状を有する資料よりなる薄き塗着被膜を被覆
したることを特徴とする石鹼にして、石鹼の香
氣放散を防止して永く之を保有せしむると共に
在來の石鹼の如く頂面及び周側の濡浸の爲め洗
滌使用以外に徒らに石鹼の溶解流逸する不經濟
を合理的に防止し、在來のものに比し數倍耐久
ならしめ而かも使用に際して露出面を皮膚又は
「タオル」等に摺擦するに従ひ周側部の下緣端部
も夫れに應じて徐々に磨滅するため使用には何
等支障なきものなり。
尙本發明實施に際しては實用新案第一五六四
〇三號の權利を使用したるものなり。

林 才 一

大阪府浪速區南町
三丁目六番地

特許第一〇一四二三號 化粧用機械練石鹼製造法
〔内容〕油脂類を鹼化鹽析して得たる石鹼素地に適量
の遊離高級「アルコール」並に蓖麻子油脂肪酸石鹼を
含有せしめたる優秀なる化粧用機械練石鹼の製造法。

伊與田 光 男

東京府牛込區
矢來町五〇

特許第一〇一五五四號 柑橘石鹼製造方法
〔内容〕柑橘類の果實を搗碎し之を低温熔融脂肪酸中
に混入せしめたる後「アルカリ」により鹼化と中和を
同時に行ひ得たるものを別に中性油脂より製造せる石
鹼中に混入する製造法。

西川 政 吉

東京府日本橋區
彌生町五

特許第一〇二〇〇四號 「アルコール」類又は「フェノ
ール」類の硼酸「エステル」
を含有せる石鹼
〔内容〕石鹼素地に「アルコール」類又は「フェノー
ール」類の硼酸「エステル」を含有せしめ石鹼を温熱水
にて使用の際發生機の硼酸と香氣とを發生せしむる石
鹼。

大野 鐵 治

大阪府旭區貝島町七九

特許第一〇二六三三號 低含水加里石鹼製造法
〔内容〕脂肪酸に少許の「キシロール」等を混じり苛性

渡邊 榮 太郎

東京府中野區
昭和通二丁目五

特許第一〇二六三三號 低含水加里石鹼製造法
〔内容〕脂肪酸に少許の「キシロール」等を混じり苛性

五十嵐 正 次

東京府向島區香取町東
一丁目一 花王石鹼株
式會社長瀬商會工場内

特許第一〇二六九二號 「ビス」状石鹼製造法
〔内容〕石鹼素地の溶液液を密閉室内上位に備へたる
撒布嘴より小滴として噴出せしめ室の頂部より加熱空
氣を導入し石鹼液を加熱穿圍器内に懸垂せしめ「ビス
ズ」状に凝固せしむる製造法。

豊田 黎 三

埼玉縣北足立郡大宮町
大字大宮七三六

特許第一〇〇一一五號 透明石鹼の内部に印刷を施す
方法
〔内容〕二個の石鹼を重合層着して一體となすに際し
接着面に「セラチン」粉末石鹼及水の混溶液液を塗布
し印刷模様を施し、龜裂等の虞ならしめ且重合固着を
的確ならしめたる方法。

加里的濃厚水溶液を加へ鹼化せしめたる低含水加里石鹼の製造法。

川上八十太

東京府豊多摩郡千駄谷町三五四

特許第九八三三三號 石鹼加熱方法

〔内容〕機械練石鹼塊兩端面に電氣導電板を密着し之に電流を通じて加熱し其組織を變化せしむることにより中心迄均一的に加熱せらるる方法を得んとする法。

田中友一郎

東京市本郷區東片町一二七

特許第九八一八〇號 硫黃石鹼製造法

〔内容〕硫黃を混練せる樹脂石鹼に沃度酸粉及「ワセリン」の混合を加へ更に曹達等を混練することにより悪臭發散の防止、皮膚の清白、消毒乃至製品變敗の患なからしめんとする法。

上田恵喜三

大阪市浪速區惠美須町三丁目一一八

特許第九七八六二號 「ドライクリーニング」石鹼

〔内容〕「ナフテン」酸及び「アンモニウム」石鹼の混用を特徴とし「ベンゼン」に溶解容易且洗濯後の「ベンゼン」を迅速に苛性「アルカリ」濃液にて特製し得る「ドライクリーニング」石鹼を得んとする方法。

黒澤 豊

東京市荏原區小山町一三三富岡義雄方

特許第九九一一八號 脂油を含有する穀類より直接石鹼を製造する方法

〔内容〕脂油を含有する穀類に水及び鹽類を加へ糖分及蛋白質をも除去したる殘滓に「アルカリ」を加へて含有脂油を鹼化せしめ之より石鹼液を濾過回収する製造法。

安川喜一郎

大津市北町三

特許第一〇〇〇四六號 蜂蜜石鹼の製造法

〔内容〕蜂蜜と卵液と「サルチル」酸と粉末石鹼と混合練和し乾燥したる後之を壓搾固結せしむる石鹼製造法。

服田敏郎

千葉県東葛飾郡市川町五丁目一〇一八

特許第一〇三六七三號 高周波電流に依る石鹼の加熱方法

〔内容〕機械練石鹼を棒練石鹼と同様な組織に變化せしむる爲高周波の強力なる電流を通じて外觀を損せしむることなく短時間に加熱する方法。

小西善造

神戸市二宮町一丁目一

特許第一〇三二六號 羊毛縮絨用石鹼製造法

〔内容〕桑葉を苛性「アルカリ」にて煮沸したる液に脂肪酸を混和鹼化して縮絨の効果を達せしむる石鹼の製造法。

製造法。



世戸 悟 大坂市旭區新町三ノ地番一三三

特許第九九〇二〇號 模倣入石鹼製造方法

〔内容〕本發明は普通の石鹼押出機の壓搾管中の一部に模様を表すべき型を装置し、壓搾管外の染料溶液の貯槽より「パイプ」を通じて適當の壓力を加へ型の細孔より均等に染料溶液を放出せしめ以て壓搾進行中の石鹼の内部に貫通せる色彩模様を施したる棒狀石鹼を製出し、之を任意の厚さに切斷し更に適當の形狀に壓搾して製品となすものなり、製品は色彩を以て適當の文字圖形模様を石鹼の表裏に貫通せるを以て極めて體裁佳良なるのみならず使用中崩潰することなく最後まで之を殘存する特徴を有す。従來別に模様を形成せる二個以上の石鹼を加壓に依り付着せしめたるもの、又は二本以上の螺軸により壓搾管中にて壓搾付着せしめたる模様を有する石鹼等において使用中溶潰崩潰を免れざる缺點あるに對し本法は石鹼自體に染料を以て染色したるが故に之等の缺點を除去し得たるものなり。

〔略歴〕氏は明治六年二月の出生、二十餘年來石鹼製造業に従事す、製品は白蘭三彩香皂(滿

支向) Patam, Soap. (南洋向)と稱し、滿洲、支那、印度、アフリカ等に輸出し、年輸出高六十萬打を算し盛業を極められつゝあり。

天野鎌三郎

大阪市東區博愛町二丁目二二三

特許第九八九四〇號 嵌込模倣石鹼の製法

〔内容〕嵌込部面に「アラビヤゴム」を主成分とする特殊の水溶液を接着劑として塗布し嵌込模倣片が龜裂又は脱落する虞無き様になしたる製造法。

庄野唯衛

大阪市北區北堀町三八

特許第一〇三六二四號 特殊石鹼の製造方法

〔内容〕石鹼製造の棒練或は機械練工程に於て「オキシジメメルベンゾール」又は其水酸基の水素を曹達、加里等の鹽基にて置換したる化合物を混入し洗滌と消毒とを兼用する石鹼を製造する法。

蜂谷一輝

兵庫縣武庫郡神道村

特許第一〇三九七一號 蠟燭原料熔融釜

〔内容〕底板を一重とし側周壁に「ジャケット」を形成せしめ周壁の内側には頂部より底板中央部に亘る水の供給管を附したる蠟燭原料熔融釜。

岩瀬慶三

仙臺市片平丁七五

特許第一〇三三〇八號 「チタニウム」顔料の製法

〔内容〕「チタニウム」鹽の溶液中に鹽基性物質を加へて加水分解を行ふを特徴とする良好なる「チタニウム」顔料を製造する法。

西澤勇志智

東京市世田谷區經堂町三八三

特許第九八九二七號 硫化亞鉛の感光變色を防止したる顔料

〔内容〕硫化亞鉛若くは之を主なる一成分とする物質に白色粉狀過酸化物質又は有機性過酸化物質の如き硝酸「エステル」と更に多水酸基化合物の一種或は數種とを混合密和したる白色顔料。

田中銀次郎

堺市戎島五丁目四二

特許第一〇一〇一〇號 酸化亞鉛の製造方法

〔内容〕亞鉛蒸氣の酸化燃焼に用ひたる廢氣を循環的に使用し之に酸化室に設けたる小孔より吸引する少量の大氣を補給しつゝ亞鉛蒸氣の緩慢なる酸化燃焼を起さしめ被覆力著大なる酸化亞鉛を製造する方法。

山本久夫

堺市耳原町一三九六

特許第九四九七一號 硫化亞鉛含有の白色顔料の製造法

〔内容〕亞鉛鹽の溶液に硫化水素を加へて硫化亞鉛の

茂木重次郎

同改訂第八五號 亞鉛華精製法

〔内容〕本發明は粗製亞鉛華に硫黃若くは硫酸を密和し之を熱灼する方法に關するものにして製品に亞鉛華即ち酸化亞鉛は極めて純白にして塗料用として頗る優秀なるものなり。

〔略歴〕氏は安政六年奈良縣郡山町の出身、明治六年藩の選抜により東京に遊學し慶應義塾を経て開成學校に機械精練の二科を終了、明治七年令兄を援けて亞鉛華塗料の製造研究に着手し令兄死後後は單身研究を續行し遂に之を完成して光明社(日本ベイント會社前身)を組織し、亞鉛華、光明丹及各種ベイント製造を開始す、明治十九年皇居御造營に當り製品を献上して銀牌を下賜せられ、四十四年綠綬褒賞を受く、塗料に關する多數の發明を完成し昭和七年病没せらる。

森村四郎

大坂市浪速區櫻川一丁目一〇六二

特許第一〇二七四五號 亞鉛華製造方法

〔内容〕金屬亞鉛蒸氣を大氣中に放出酸化せしめ亞鉛華を形成しつゝある燃焼槽の外周部へ噴霧狀になした

水を吹付くる亞鉛華製造方法。



伊藤 藤末 松
東京市葛飾区南馬場五丁目八番地
東京市葛飾区南馬場五丁目八番地

特許第六七三三六號 亞鉛華製造法

〔内容〕本發明は白墨資料を型に流し込むに當り豫めゴム液を型の内面に塗布することを特徴とする製造法にして、白墨の外白を薄きゴム膜にて覆ひ以て其使用に際し粉末の手指に附着することなきやうなしたるものなり、而も大量の製産能率を有し且つ優美なる製品を得るなり。

〔略歴〕氏は明治十七年豊橋市の出身、東京高等工業學校四年を修業して建築請負業を営み、大正七年白墨製造法を研究して同八年之が完成を見たるも從來の事業關係にて未だ製造に着手することを得ず、同十四年本發明の特許權を得ると同時に愈々製造を開始して現在に至る。

尚右の外煤煙防止の研究に腐心して之を完成し特許を出願したるも既に英國人が同一特許權を獲得後なりし故を以て却下されたる事ある等性來研究心強く常に發明考案に意を用ひられつゝあり、現在愛知縣方面委員、兒童保護司の名譽職に在り、製品は南洋印度、中南米等に販路を有し猶將來の發展を期せられつゝあり。

沼澤辰次郎

福岡縣遠賀郡水巻村
字吉田二二二一三

特許第九四二五號 白墨の製造方法

〔内容〕「アラビヤゴム」に牛脂を混合して加熱攪拌し白墨主體を沈下且それ自體を飽和状態となししたる後乾燥せしむることにより濕氣無吸收及密質にして優良なる白墨を得んとする法。

梅田馬之助

和歌山縣東牟婁郡
新宮町七六七九

特許第九九九九號 白墨の外皮被覆法

〔内容〕白墨の外面に防濕保護外皮を被着し其磨滅折損を防止し毫も指頭を汚損せざる白墨を製造する法。

森嘉吉

東京市本郷區
駒込池田町七〇

特許第一〇三八九五號 白墨製造方法

〔内容〕顔料炭酸石灰に炭酸「マゲネシヤ」を混合し輕量軟質ならしめ之に澱粉を適度に水醋酸及硫酸にて處理し得たる無色透明粘着力強き糊液を糊料として使用する白墨製造法。

宮本正勝

東京市荒川區
瀧野川町一九五五

特許第一〇三八二二號 紙鉛筆製造法

〔内容〕鉛筆軸木の代用として適當の紙質を有する紙を巻きて圓柱體を形成し之を化學的に變質せしめ紙の剝離を防ぎ小刀又は鉛筆削等にて容易迅速に削り得らるる紙鉛筆の製造法。



服部 三丈 郎
大阪府大阪市東區成城野
地番二十目丁八

特許第一〇〇七三二號 ダイアインキ

〔内容〕本品は改竄防止用として一度記載されたる文字は如何なるインキ消液の作用によりても變色するのみにて絶対に消失する事なく其文字の筆蹟を顯著に認める事も得且つ該變色が紙の組織中に透徹するが故に如何なる藥品を以てするも復色すること能はず、從て證券又は金券の改竄を直接に防止し得る効果を有す。

本莊榮

岐阜縣土岐郡
瑞浪町小田八二九

特許第一〇一五七號 速乾耐水性筆記用「インキ」の製法

〔内容〕合成染料の溶液に「アルカリナフトレート」及び「スルファニール」酸「アルカリ」を加へたる速乾耐水性の「インキ」の製造法。

小川吉平

東京市目黒區目黒町
下目黒七六

特許第九四〇二號 耐水性「インキ」

〔内容〕「マチンキス」に水醋酸及硫酸を配合することにより無沈加へ之に酸性染料及粘糊劑を配合することに依り無沈

濃且耐水性強き優秀なる「インキ」を得んとするに在り。

三谷長四郎

東京市豊多摩郡大久保
町大字百人町二〇

特許第九四七五八號 「クレイオン」製造法

〔内容〕蠟油を加熱しつゝ、諸種の物質を添加練捏する事に依り四季殆一定の硬度を有し塗着快適適色相の鮮異色の重合等良く描出し得べき「クレイオン」を製造する法。



篠崎 又兵衛
東京市本區本町三丁目十番地

特許第三〇七〇一號 エターナルインク

同 第七三九五號 安全黒色インク

同 第八五二五號 安全黒色インク

同 第八八九〇號 筆記用黒色インキ製造法

〔内容〕本發明は耐藥品性大なる炭素を用ひて苛性アルカリ液にて練合してインキ基礎液とし之に添色劑と石鹼を加へたるものにして、之を更に改良し黄栢の煎汁液を用ひ證券用筆記インキとして化學的藥品及びインキ消液の作用に對し強き抵抗力を有し、流出輕快器械的摩擦により損傷せず、耐水耐光線の特性を有せしめたるものなり。

〔略歴〕氏は明治元年東京市の出身、同十六年

東京職工學校豫備中正學舎に於て理化學を修業す、同二十九年文具共益會を起しその相談役となり同年東京文具新聞を創刊す。大正九年篠崎インキ製造株式會社を創立し取締役社長となり今日に至る、又現に東京文具卸商同業組合長たり。帝國發明協會より有功賞を受く。



林 重吉
大阪府大阪市住吉區安立町
地番四十二

特許第七七一三三號 包装用防水布製造法

〔内容〕前者は膠及び澱粉を各適量の水に溶解し混合煮沸して糊状となし、之に「ポイル」油を加へ更に明礬、鉛糖、ホルマリンを加へて得たる塗料を麻布又は綿布の片面に塗布し、其の未だ乾燥せざる前に膠液、明礬、鉛糖、ホルマリンより成る稀薄塗料をマニラ紙又はハトロン紙に塗布し、絞紙となしたるものを接着乾燥せしむる包装用防水布の製造方法にして、後者は防水糊を布の片面に塗布乾燥し更に他の片面に乾性油、脂肪酸、ピッチ及び鐵粉を混合して煮詰め之に亞鉛華を加へて更に熱を與へたるものを塗布し、其直上に絞紙を接着したるものにして紡績品、セメント等の包装に可良なるものなり。

尚本防水布はセメント用防水袋として實用新案權を有す、其構造は麻布に防水塗料にて紙を貼付けの際袋の口となる箇所約四寸程は紙を貼付せざるを特徴とするものにして、荷造の際粉末を收容して口縁の紙を内部に向け折り被せ麻布のみ巻き込み縫ひ括るが故に從來の如く針穴より粉末の漏れ出づることなく極めて完全なるものなり。

〔略歴〕氏は山口縣の出身、明治二十六年來阪して防水布製造に従事し、爾來努力の結果大正三年工場を擴張し各種防水布の研究に没頭し、特許三十件實用新案十件を有せり、從來包装布は熱帶地方等へ物品を輸出するに當り之が包装布の粗悪なるがため往々包装中の物品を汚損し不慮の損害を蒙る等の缺點あるを遺憾とし之が改善を志し研究すること多年、遂に本發明を完成するに至りしものなり、然して現在年産額三十五萬碼を算し主として紡績會社に供給して好評あり、幾多共進會等の受賞の外に本年帝國發明協會より良等賞として表彰せられ名聲を高めつゝあり。

飯島歳雄

東京市豊島區
西巢鴨四丁目二八七

特許第一〇三七五三號 耐酸性「アルカリ」性紙布製造法

〔内容〕特殊なる化學的方法により摩擦折疊み水洗等をなすも剝離龜裂等を生ずることなく且耐水、耐酸、耐「アルカリ」性ならしめたる紙布の製造法。

て諸種の物質を配合したる水溶液を造り之を紙面に塗布し更に特殊水溶液にて処理する事により革軟強靱に富める耐水紙を製造する法。

田中 謹治郎

東京市瀧野川區
四ヶ原町一四六

特許第九八二五三號 油紙製輕量柔軟雨衣

〔内容〕薄紙を材料とせる油紙を以て製し「パラフィン」等を加熱浸潤せしめ以て輕量柔軟且携帯輕便ならしめたる油紙製雨衣。

武田 信一

大阪市住吉區
天神森二丁目二五

特許第九八九七二號 防水加工紙製造方法

〔内容〕強靱にして耐水性に富める防水加工紙を特殊化學的方法により紙體內に纖維を再生せしむる如き工程にて經濟的に製造する方法。

横田 武十郎

大阪府豊能郡豐中町
大字新免四九九ノ八

特許第一〇〇四九號 紙布の防水法

〔内容〕乾性油又は半乾性油に對する特殊化學的方法により作れる防水塗料を紙布に塗布する方法。

吉野 次郎

東京市品川區
南品川宿四〇七

特許第九七〇九五號 耐濕耐水性強靱紙布製造法

〔内容〕「アルカリ」纖維素に二硫化炭素を作用せしめて粘着性成生物となし之を紙類に塗布して弱酸性沈澱液にて処理し以て強靱且外觀美なる紙等を低廉に製出する法。

中山 三之丞

東京市本郷區
湯島三組町八一

特許第九五六九五號 防水布製造法

〔内容〕布面に膠及苛性曹達の溶液を塗布更に「アマニ」油等を混じて沸騰冷却したる後之を布面に塗り毛の粉末を振掛け再び「アマニ」油等を塗布し強靱且安價なる防水布を製造する法。

金子 増燿

大阪市住吉區
相生通二丁目一

特許第一〇二八九九號 防水紙布製造法

〔内容〕「ウキスコース」溶液を紙布に包孕せしめ「ウキスコース」の「エージング」を好適に行ひ凝固液にて処理し「ウキスコイド」皮膜に依り防水紙又は布を製造する方法。

田中 與吉

東京府南葛飾郡江村町
東小松川三六七八

特許第九六二二八號 強靱耐水紙の製造法

〔内容〕荳素類乾酪素等を「アルカリ」鹽類に溶解し

家田 政男

岐阜市今町二丁目四

特許第九八五九七號 「ビスコース」加工紙の製造法

〔内容〕熱成せる「ビスコース」に「ゴム」液を添加混練し之を紙布に塗附乾燥して稀釋硫酸液中に處理更に石鹼水煮沸液中及「パラフィン」融解液中に通じ以て柔軟弾力ある耐水紙布を製造する法。

小野 弘

福岡縣粕屋郡香椎村
字香椎二一三七

特許第一〇二〇三三號 防水紙製造方法

〔内容〕紙片に珣弱質と脂肪質との混合物を塗着して不透水性の防水加工を施し更に該塗着せる珣弱質物を凝固せしむべく消石灰「アルコホル」脂肪油の混和溶液を上塗し防水用包装紙を製造する方法。

四ツ橋 つや

東京市瀧野川區
上中里町六二

特許第一〇二九〇〇號 防水紙、布、紙製造法

〔内容〕「ウキスコース」の塗布に先立ち膠質乳化劑を豫め纖維素の内部に浸潤せしめ之に「ウキスコース」を被着せしめて凝固再生し強靱性大にして光澤ある防水紙等の製造法。

木 康吉

名古屋市東區千種町
一ノノ神七九

特許第九八八三〇號 耐水紙製造方法

〔内容〕「ウキスコース」を吸收せしめたる紙を亞硫酸等の混合液中に通じて定着せしむる工程と該定着を確實ならしめ且残留亞硫酸を除去する工程とにより強靱なる耐水紙を廉價に製出する法。

山中 久右衛門

滋賀縣蒲生郡
八幡町字小幡中二一

特許第九八八三〇號 耐水紙製造方法

〔内容〕「ウキスコース」を吸收せしめたる紙を亞硫酸等の混合液中に通じて定着せしむる工程と該定着を確實ならしめ且残留亞硫酸を除去する工程とにより強靱なる耐水紙を廉價に製出する法。

西川 時次郎

同縣神崎郡旭村
字北町屋四〇屋敷

特許第九八八三〇號 耐水紙製造方法

〔内容〕「ウキスコース」を吸收せしめたる紙を亞硫酸等の混合液中に通じて定着せしむる工程と該定着を確實ならしめ且残留亞硫酸を除去する工程とにより強靱なる耐水紙を廉價に製出する法。

海野 正

東京府荏原郡
馬込町三三〇一

特許第一〇二〇八六號 硝化綿塗料

〔内容〕硝化綿を「ヂメチル、アセタル」に摺和溶解せしめたる後之に硝化綿溶劑と柔軟劑と顔料とを加へたるものにして自動車車體及家具等に使用す可き塗料。

山中 久右衛門

滋賀縣蒲生郡
八幡町字小幡中二一

特許第九八八三〇號 耐水紙製造方法

〔内容〕「ウキスコース」を吸收せしめたる紙を亞硫酸等の混合液中に通じて定着せしむる工程と該定着を確實ならしめ且残留亞硫酸を除去する工程とにより強靱なる耐水紙を廉價に製出する法。

福島 幸重

長野縣北安曇郡
大町二五二七ノイ號

特許第九六二〇九號 布張雨傘製造法

〔内容〕澱粉糊を施せる綿布を炭粉及澱の混和物にて定着せしめ布張傘の表面に「アムモニヤ」水溶液を塗布更に特殊の物質を塗布乾燥し以て防水効果の完全及破損無憂ならしめたる布張傘の製造法。



日本工務株式会社 坂部 三 次郎
東京府葛飾郡野村
高野川 野村 野村 野村

特許第四五二一一號 クロス用ビトコース製造法

〔内容〕紙又は布に塗布劑を施し「クロス」を製出するに當り其塗料として「コーバル」の乾性油「ニス」中に蛋白質を加へたるものを使用することを特徴とするものにして、従來「コーバルニス」を塗料として使用することは普通なるも「クロス」として使用する場合纖維に密着堅固ならざる等の缺點あり、從て剝離又は龜裂を生ずる憂あり、然るに本發明は之に「アンモニヤ」水に依り溶解せる蛋白質を加へて纖維との膠着を一層堅固ならしめ且蛋白質凝固の爲め「コーバルニス」の弾性を充分發揮せしめて剝離又は龜裂の憂なからしめ以て強靱の紙又は薄布の両面又は片面に施して各種「クロス」に又「ガンニークロス」の如き厚布の片面又は両面に施して敷物等に使用して頗る適切なるものなり。

同 第六四三三七號 クロス製造法

同 第六九一三四號 樂器用皮製造法

〔略歴〕本社は嶄新なる學理と洗練されたる研

究の結果を應用し、ブツククロス及絹糸絹布の精練染色並にウエーチング加工を爲し傍ら一般染再整理業を營み優良なる國産品を市場に供給することを目的とし、元龜井染再整合名會社を買收し其社營にかゝり其製造の緒にありしブツククロスの製造並に染再整理の事業を繼承して、大正八年資本金壹百萬圓を以て創立せられたるものなり。同九年好景氣の後を受けたる反動的な崩落の結果による事業界の慘狀に鑑み資本金を半減して當時及び將來に備ふる所あり、其後一進一退の財界並に業界に處して誤らず、よく耐へよく忍び遂に強固なる社礎を築く事を得て現在の盛業の基を作り、然も本社多年研究中の「トレーシングクロス」の完成並にクロス及び人絹織物染色整理の需要激増等は愈々業務の繁忙を招來し、爲めに工場を増設となり設備の完成を了へ、創業十周年に際しては新期活躍の前途に向つて祝福すべきスタートを切り茲に愈々業務の隆昌を見るに至りしなり。

本社製品の主なるものは、ブツククロス、絶縁クロス、裏張金巾、リノリューム、裏張人絹ボブリン、荷札クロス、包装クロス、裏張ボブリン、裏張寒冷紗、ブラインダー、トレーシングクロス等にして加工業にありては本絹織物、人絹織物、交織、絹紡織物、双二絹、麻及毛織物の染色再整理を主なるものとす。

販路は内地は勿論臺灣、朝鮮、支那、滿洲及び南洋印度等とし、スラバヤ、バタビア、香港シンガポールの各商品陳列所に出品し將來の活躍に資せられつゝあり。

日本ペイント株式會社

大阪市西淀川區
浦江北四丁目十番地

特許第一〇一〇〇七號 鐵類裝飾用塗料
同 第一〇一八五七號 耐酸性塗料
同 第一〇三七〇一號 特種塗料の製造方法

〔内容〕従来の尿素樹脂を原料とする塗料は常温にて容易に乾燥せず、而かも皮膜は水、湯、種々の溶劑藥品等に對する抵抗力極めて弱く且つ龜裂を生じ尙保存困難等種々の缺點ありて未だ實用に供せられしもの無き状態なり、然るに本特種塗料の製造方法は是等の缺點を完全に除去したるのみならず更に種々の特徴を有する特種塗料を得ることに成功せるものにして、即ち尿素と「クレゾール」又は石炭酸及「フォルムアルデヒド」より得らるべき初期縮合物に種々の溶劑混合物を加へて加熱脱水し、之に可塑劑を加へて生ずる透明粘稠溶液に更に使用前硬化促進劑として有機酸と溶劑混合物を添加することを得るものにして、常温にて速かに乾燥して光澤無比の透明皮膜を生じ、然かも耐火、耐湯、耐藥品性なり、斯くして製造せる塗料は塗裝に際して物體面に何等下塗を要せず面に對する密着及伸延性極めて良好にして木材に塗付して木材に着色することなく、又金屬面、硝子面を問はず刷毛又は噴霧器にて容易に塗裝し得る便利あるものなり。

鐵類裝飾用塗料は適當なる防錆性顏料に適當の二酸化鉛を含有する鉛丹を硫酸にて處理して

製したる硫酸鉛を含有する二酸化鉛よりなる粉末を加へ之を特殊の油にて製したる塗料油を以て練合溶解し適當なる揮發性油にて稀釋したるものにして、之を塗布するときは内部乾燥良好にし緻密に且つ防錆力に富む塗膜を形成し、一般「ペイント」の如く裝飾に適する色彩を帯び鐵類に塗裝に當り豫め錆止を施す必要なく直ちに鐵面に塗裝して裝飾と防錆とを兼備す、其特徴とする所は其含有する二酸化鉛は容器内に常温に貯藏せらるゝときは一酸化鉛の如き活性を現はさざれども、之を塗布し光線熱線に浴するときは徐々に一酸化鉛となり又酸素を内部より塗膜に與へ内部乾燥を良好ならしむるのみならず生成したる一酸化鉛は油酸と化合して「グリセリン」を遊離し「グリセリン」は又一酸化鉛と結び塗膜は益々緻密となる、然して硫酸鉛は此の作用の調節をなすが故に作用は急激ならず隨つて危剝の憂なからしめ、又特殊の塗料油は耐水性に富むを以て一層保護力を大にするを得るものなり。

耐酸性塗料は熔融樹脂に生糊を加へて共に融合せしめ桐油を添加し之を揮發性油にて稀釋したる「ワニス」を以て適當の顏料又は「ピッチ」類を混練溶解して製したるものにして、其特徴とする所は一般に樹脂は比較的耐酸性に富むものなれども之に糊を融合せしむるときは一層その耐酸性を向上せしむること、及び適當なる顏料又は「ピッチ」類を以て其欲する色彩を帯びしめ裝飾を兼備せしめたることなり。

關西ペイント株式會社

兵庫県川邊郡
小田村 神崎

特許第七六八一九號 防錆塗料「サビナイト」

〔内容〕鐵の錆の發生原因を考察し之が防錆方法の研究に依り錆止塗料の有効なる證左として本防錆塗料「サビナイト」の發明を見たるものなり。元來錆止塗料として最も有效なるものは鐵面に水分及び酸素の浸入を最も手軽く簡単に防ぎ得る塗料たるべからず、而もペイントの乾燥はその油分の酸化固現象にして固油膜は水を撥くものなるが故に總てのペイントが塗布當初は錆止の力を有するも普通のペイントにありてはその固油分は時日の経過につれ分解を起し所謂過酸化状態となり當初は水を撥きたるも次第に其效力を失ふに至るものなり、然るに本品はペイントの分解を巧みに防止し普通のペイントに比して遙かに長年月に亘り錆止の効果を持続するものなり。何故に斯く本品は分解を起さざるやと云ふに一、油分として亞麻仁油等に比し遙かに分解し難き特殊なる油分を用ひたること、二、之に配する



佐野 圭

東京府葛飾郡小松川
町大字中平井一五三〇

特許第九五八七六號 強靱防水紙製造法

〔内容〕紙類に「ビスコース」を塗布し棉花纖維等を叩解して綿絮状態となし空氣壓搾装置により吹付け稀硫酸液に通じ以て強靱且防水性空氣遮斷性を具備する紙類を製造する法。

小木 直四郎

東京府品川區
品川町南品川留五七四

特許第九五二七二號 堅練鉛丹塗料

〔内容〕植物油に「リサージ」を加へて加熱濃化油となし該油に「マルセル」石鹼を加へて融合せしめ更に諸種の液にて鉛丹を練合以て變性硬化する事なき防錆塗料を得る方法。

田坂 吉二郎

東京府荏原區
中延町一〇九一

特許第一〇一〇〇七號 鐵類裝飾用塗料

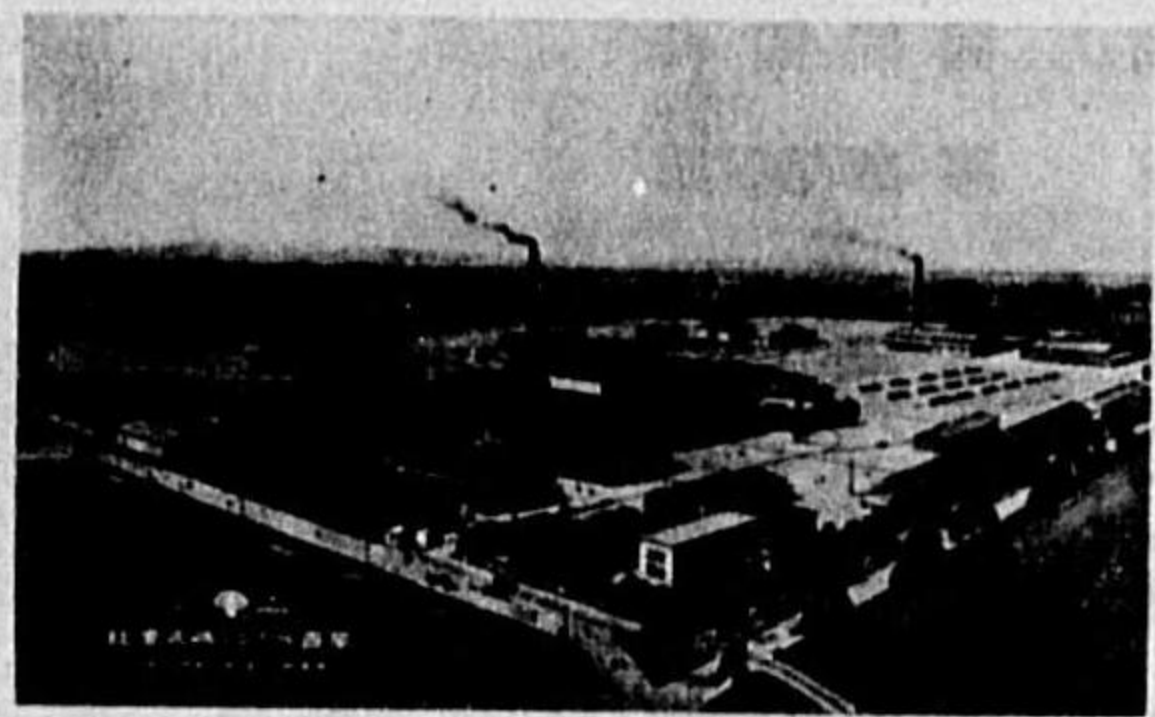
〔内容〕適當の防錆性顏料に諸種の化學的作用を施したるものにして錆止下塗を施さずして直に塗布し裝飾と防錆とを兼備せしめたる塗料。

野上 信正

東京府豊多摩郡
大久保町百人町二六〇

特許第九八五八號 鉛丹固練「ペイント」

〔内容〕脂肪酸の不溶性金屬石鹼を揮發性溶劑に溶解



に顏料として油の分解を適宜に止める作用を爲すものを使用しあること等なり。凡そ顏料には活性顏料と不活性顏料との二種あり、活性顏料はアルカリ性の顏料にして油の分解に因りて生じたる酸性の分解物を中和して分解を止めるも其爲め塗膜は堅く成り過ぎて龜裂を生じ其間隙より水分浸入して錆を生ずるに至る。之に反し不活性顏料は中性の顏料にして油の分解を止める力なく塗膜はその爲めに室内にては分解物停滞してベタつきを生じ屋外にては分解物飛散流出して崩壞、所謂「チヨロキヤク」を起すものにして是等は錆ペイント黒ペイント等に見る現象なり、故にサビナイトに於てはこの活性不活性の二種の顏料を適量に配合使用し分解による塗膜の崩壞を止めると同時に一方龜裂の生ずることなき様にし以て塗膜を最も長く不變質の状態に保つ様なしたるものなり、本品は斯かる

理論に基き之を驗するに數百組の油分顏料分の調製と數年に亘る數回の反覆の實驗とを以て完成されたるものにしてその防錆効果の優秀なるは言を俟たざる所なり、此の外本品の特徴としては一、被覆力強く、二、比重輕少、三、「流れ」、「戻り」等なき爲め刷毛

菊池 孝房

八幡市大字
尾倉一二四九

松林 治夫

同市同番地 菊池方

特許第九八八二九號 防水布製造法

〔内容〕「ロジン」等を高温にて融和せしめて苛性「カリ」を加へ更に諸種の物質を混溶之を布に塗布する工程と該布に特殊塗料を塗布する工程とにより密着堅固且完全なる防水布を得る法。

せるものを「ウエヒクル」とし之を鉛丹と混捏せる鉛丹固練「ペイント」

鉛粉塗料株式会社

根岸信

大阪市此花區
西野下之町三十八番地

- 特許第 四〇七〇四號 塗料
- 同第 四二八九九號 バテ其他の充填料
- 同第 四二六七二號 減摩油製造法
- 同第 四三三〇三號 光學用其他の硝子製造法
- 同第 六一二二一號 鉛白製造法
- 同第 六一四三四號 一酸化鉛を原料とする鉛白製造法
- 同第 六七一七八號 塗料用安定性酸化鉛
- 同第 八八九四〇號 鉛酸化物の輕質粉末製造法
- 同第 九〇四八三號 微細なる鉛の硫酸鹽製造法
- 同第 九一九六〇號 同右追加
- 同第 九〇四八四號 光明丹塗料製造法
- 同第 九二五四〇號 鹽基性硫酸鉛塗料
- 同第 九二六四七號 亞鉛華製造法
- 同第 九四一三五號 和硫ゴム製造法
- 同第 一〇〇七八三號 速乾鉛粉塗料
- 同第 一〇〇七八四號 ラツカー用合成樹脂
- 同第 一〇一〇四五號 ゾルフテイフ鐵鉛塗料
- 同第 一〇二四六二號 ラツカー製造法
- 同第 一〇五二五一號 耐候性ワニス製造法

外國特許 拾貳件

〔內容〕亞酸化鉛粉應用塗料は「ズボイド」と稱し、用途に應じて防錆用、船底用、耐酸用其他種々の品種あり、就中防錆用ズボイドは革命的防錆塗料として名聲あり、又ラツカー「セルボン」は特種合成樹脂應用にして耐光、耐久性強く従来のラツカーの缺點を補ひたる製品なり此外前記各種發明の應用を以て製品の改良せるもの、新製品とせるもの等枚舉に遑なし。

〔略歴〕氏は本日常務取締役兼技師長として多年光明丹を以て代表する、防錆塗料の鉛粉による改良を企圖し研究努力の結果防錆用塗料「ズボイド」の發明を完成せられたるものなり。

本社は陸軍省、海軍省、鐵道省の指定工場にして、内地は勿論朝鮮、臺灣、滿洲、歐洲、印度、南洋諸島等に販路を有し隆昌を極めつゝあり。

長田 夢男

尼崎市竹谷町
三丁目一五

特許第一〇一〇四五號 「ゾルフテイフ」〔收着性〕鐵鉛塗料

〔內容〕光明丹塗料の本質的性能を改良し其の有する收着性を増大せしめ強大なる防錆力を具有せしめたる鐵鉛塗料。

阿部 英治 郎

大阪市東區
北久太郎町三丁目九

特許第一〇〇七八三號 速乾鉛粉塗料

〔內容〕多量基酸を多價「アルコール」と共に加熱縮

合して得たる合成樹脂と油可溶性「フタル」酸「グリセリン」型樹脂とを桐油又は亞麻仁油に溶解せしめたる塗料「ベヒクル」に鉛粉又は亞酸化鉛を配合したる速乾鉛粉塗料。

酒見 恒太郎

兵庫県川邊郡小田村
次屋字五反田一三

特許第九一七五號 防錆塗料

〔內容〕特殊化學的方法により防錆性強大にして貯藏中膨化若くは沈澱固化することなく而も塗布後容易に堅牢なる防錆塗膜を形成せしむ如くなしたる防錆塗料

島津 泰

横濱市神奈川區
榎畑一〇二

特許第一〇三一八號 防錆防水塗料製造法

〔內容〕「セルラック」及金屬亞鉛粉末を酒精系溶劑中に於て作用せしめて水に難溶性の「セルラック」亞鉛石鹼を生成せしめ之を主成分たらしめたる塗料を製造する方法。

鹽見 勉

東京市原區原町
大字中延一〇四

特許第九四二〇九號 亞鉛末塗料

〔內容〕亞鉛粉末に亞酸化鉛等の微粉を混じ之に適宜の「ベヒクル」を配合し以て附着力及伸展性に富み且耐久力大ならしめたる塗料。

大島 重義

大阪府豊能郡南豐島村
大字原田七八一ノ一

特許第一〇〇九九二號 船底塗料

〔內容〕「チフェニル」基礎素化合物の毒性を利用して

海中生物の附着を完全に防止し水銀の代用として防汚效力極めて優秀なる船底塗料。

岡屋 甚一

東京府原郡大崎町
大字下大崎三六五

特許第九五八七七號 船底防藻塗料

〔內容〕樹脂油酸化生成物及酸化「アルカリ」鹽を他の「ベヒクル」中に加へて得たる生成物に有毒顆粒を加熱配合し以て動植物細胞菌を包含死滅せしむべくなしたる塗料。

玉水 弘

西宮市桑殿町三二

特許第九七二九三號 乳濁質船底塗料製造方法

〔內容〕油性船底塗料の材料を基礎とし之に特定の乳劑を加へ更に貝類等に有毒なる水溶液を加へて乳濁體を作らしめ生物の附着繁殖を防ぐに有効なる塗料を製造する法。

三井 嗣喜

兵庫県武庫郡種通村
屋山屋敷寺ノ内四八九

特許第九七三三〇號 船底塗料製造方法

〔內容〕水銀及び砒素の水に不溶性化合物を吸着し居る吸着劑と、海水を吸着し鹽酸を遊離する吸着劑との混合を主成分とし、以て貝類等の附着を防止する塗料を製造する方法。

佐々良 省三

東京市赤坂區
青山南町六丁目一六

特許第九〇五二二號 船底塗料

〔內容〕砒砒銅鐵の粉末に尿素等を混じ相製「ピリチ



郷三郎 商店屋島社合式株
大市三區港市阪大
町先三區港市阪大
地番十八丁目五

特許第八九八八六號 船底塗料

〔內容〕普通一般の船底塗料は毒素として銅、水銀等金屬化合物を其の儘混入しある爲め塗面を顯微鏡下に見る時は是等の毒素は粗粒に散在し粒子間に空隙を生ずる爲め貝、海藻類の附着を容易ならしむるも、本塗料は數種の猛毒素をヴァエシシ中に完全に溶解せしめ全く「コロイド」狀とする獨特の方法に依り製造したる伸張料を使用するため塗面は猛毒金屬の薄層を形成し少しの空隙をも生ぜざるため貝、海藻類の附着を完全に防ぎ且つ其表面は徐々に粉化の現象を起し汚物附着するも表面に生じたる粉末と共に洗ひ去らるゝため防汚効果を一層大ならしむる特長を有す。

〔略歴〕氏は明治十六年高知市の出身、同三十五年より自家所有船に監督として乗組み下船後大阪市西區立賣堀北通塗料船具卸商扇谷五兵衛商店に入店し大正四年辭して合資會社島屋商店を設立し塗料製造和洋船具問屋業を經營す、昭和六年組織を變更して株式會社となす。



石原萬次郎 名古屋百塚
庄市九百塚
村内番二十

特許第九六七九六號 耐火耐水耐酸防腐塗料製造方法(アンチバイロー)

〔內容〕從來耐火耐熱等の名稱を冠したる塗料許多ありと雖も眞に攝氏五〇〇度に耐へ得るものなく然も攝氏四五〇度に耐へ得る塗料は未だ世界に於て發明せられざる現狀なり、然るに本發明によりて製造せられたる「アンチバイロー」は可燃性を通有性とする現存塗料乃至耐火塗料の比に非らず眞に驚異的耐火塗料「燃へないペイント」として塗裝界に特記すべきものに於て其性能は鐵と膨脹率を同ふし固着力強大にして防錆、防錆、不良導體にて耐火度攝氏一五〇〇度に耐へ塗膜に些の變化をも生ぜざる完全且つ優美なるものなり。

〔略歴〕氏は明治三十二年名古屋市の出身、小學校卒業後製紙原料商に従事し大正二年頃より毛の染色法に付研究を始めて之を完成し他人に譲渡し後塗料の研究に専念す、昭和二年頃塗料にて防火の方法を發案し約五ヶ年間苦心研究を續け幾多の犠牲を拂ひ遂に昭和七年本發明を完成し特許權を獲得するに至りしものなり。

岩男虎之助

大阪市北區
中野町二丁目一〇二

特許第九八五〇七號 防火塗料製造法

〔内容〕鹽化「マグネシウム」液と石灰の混合清澄液、礬砂水と落花生油の混合液、及び明礬水に珪粉を混溶したる糊状物とを和合調製し防火防水殺菌等に効果を有せしめたる塗料の製法。

齋藤定藏

東京府原野郡大崎町
大字下大崎三六五
株式会社高田船底
塗料製造所内

特許第九六一七九號 船底塗料製造法

〔内容〕船底塗料一號塗布後紙布或は此等に水銀銅等を吸收せしめたるものを貼着せしめて以て經濟的に船底の生物附着を防禦せしむる法。

大浦元三郎

東京府世田谷區
下北澤一三〇九

特許第九五七三號 耐火防水「マグネシア」塗料製造法

〔内容〕熱に易變性の物質に硫酸「ソーダ」等より成る塗料を塗布吸收せしむる工程と酸化「マグネシウム」に練合せたる物質を塗布する工程との結合により膠着硬化良好なる塗料を得る法。

川口正平

大阪府住吉區
平野橋ケ枝町一丁目五

特許第九四〇八〇號 耐火防水塗料製造方法

〔内容〕「グリースコース」液を「セメント」に混合且必要に應じて硫酸曹達溶液を添加し適當の資料を埋入して堅牢強靱且經濟的に實用本意の耐火防水塗料を製造する方法。

〔内容〕亞麻仁油、「ボイル」油、白蠟を混合し徐々加熱し各資料を充分融合せしめ冷却するを待つて之に「タルク」を混和し糊状となしたる底革の損傷を豫防し得る靴底塗料の製造法。

鎌田菊藏

東京府本所區
東兩國町四丁目二

特許第九九一三八號 靴底塗料の製造法

〔内容〕石鹼を溶解せる牛乳中に、密蠟等を融合懸濁せしめ椰子油及色素を混和し更に「パラフィン」蠟等を添加混合密和し永時柔軟に維持せしむる塗料を得る法。

柴田勝之丞

東京府神田區
深路町一丁目一

特許第九五七七號 皮革塗布料製造法

〔内容〕瀝青質性「ワニス」中に芳香族「メルカプタン」化合物を共に溶解せしめ長期の貯蔵にも重合凝固することなく常時使用に耐へしめたる方法。

稲葉豊英

東京府江戸川區
龜井二丁目四二

特許第一〇二七二六號 瀝青質性「ワニス」の凝固防止方法

〔内容〕瀝青質性「ワニス」中に芳香族「メルカプタン」化合物を共に溶解せしめ長期の貯蔵にも重合凝固することなく常時使用に耐へしめたる方法。

横田佐右衛門

大阪府西成區
橋通九丁目二四

特許第九七三四八號 防水工事施工用瀝青布の製造法

〔内容〕麻木綿等の織物を二枚重として「アスファルト」溶解液中に浸漬し「ロール」間を通過せしめたる後之を分離し以て織物素地の不損不同伸縮の不生等優良製品を簡單且經濟的に得る法。

田中敏夫

大阪府西區土佐堀
船町十一番地

特許第九〇九八〇號 ミネライト

〔内容〕ミネライトは礦物瀝青質ゴムを精製して之に石綿を配し理學上の構想と獨自の化學的處理法に基き製作したる理想的に強靱なる床材なり、其特徴及び效用の主なるものは耐水耐酸耐アルカリにして不燃燒體なり、感電せず且つ消音性に於ては弾性に富み、耐久力は永久的なり而かも弾力性及び屈折性に富むが故に龜裂を生ずる憂なく、用途廣くして特殊防水塗料としても効果あるものなり。

田島武長

東京府荒川區尾久町
大字下尾久三二二

特許第九五二七六號 「アスファルト」防水法

〔内容〕「アスファルト」液を透明或は半透明にして防水防腐の紙布類を膠着せしめ膠着用「アスファルト」が萬遍なく塗布せるや否やを明瞭ならしめ以て完全なる防水帯を得る法。

立澤勇吉

東京府葛飾區
金町四ノ二八四三

特許第一〇三〇三二號 焙燒塗料製造方法

〔内容〕塗料の流布性を補佐良化すると共に焙燒時塗膜に皺の生成を防止し且つ塗膜を強靱ならしめ耐熱耐酸性耐「アルカリ」等の諸性質を最強化したる特に耐久性に富む焙燒塗料の製造法。

中村三男

東京府原野郡世田谷町
代田六八一ノ五

特許第九九四七八號 油脂及び假漆の乾燥促進方法

〔内容〕油脂、油脂加工品又は假漆に芳香族「ケトン」「アルデヒド」等を添加溶解せしめ以て乾燥を促進せしむる方法。

浦部峯三郎

東京府原野郡
荏原町戸越三五六

特許第一〇三六八號 「ラッカー」製造法

〔内容〕飛行機翼の廢物に塗着せられたる塗膜を特殊溶剤にて溶出せしめ之に別に樹脂及「ター」を乾性油と混じ煮沸せしめたるものとを加へ強靱なる「ラッカー」を製造する法。

松岡忠佐

東京府神田區
錦町一丁目一

特許第九七〇一〇號 着色「ラックニス」

〔内容〕醋酸「アルミール」等を溶媒となし「アルコール」に溶解し更に「ラックニス」に混和攪拌して沈澱せしむることに依り着色に當りて均等の色に仕上げ且塗布の手数を簡易ならしめ得るものなり。

田島カツ

東京府北豐島郡
尾久町字下尾久三二二

特許第九四二二六號 貼付用「アスファルト」帶

〔内容〕紙面等に瀝青質層を形成せしめ該層面に堅硬粒子を芯體となし之に瀝青質を被覆せる粒子を撒布密着せしめ重疊するも貼着せず且撒布物が轉子に絡着せしめざる如くなしたるもの。

平井正夫

横濱市鶴見區
市場町四八六

特許第九七二七四號 鐵板面及木板面等の塗料用含水瀝青質乳劑の製造法

〔内容〕含水瀝青質乳劑に速乾性「ボイル」油を添加加熱しつゝ混合攪拌する事に依り迅速なる乾燥性を有せしめたる塗料用乳劑の製法。

藤田政輔

東京府赤坂區
丹後町七七

特許第一〇二二五〇號 「アスファルト」塗料

〔内容〕「アスファルト」に「クレオソート」油を以て處理したる古護謨と乾性油との加熱融混合物を加へ加硫したる建築及土木用「アスファルト」基塗料。

平塚昌治

東京府瀨野川區
中里町一二一

特許第一〇二二五〇號 「アスファルト」塗料

〔内容〕「アスファルト」に「クレオソート」油を以て處理したる古護謨と乾性油との加熱融混合物を加へ加硫したる建築及土木用「アスファルト」基塗料。

鈴木閑吉

東京府杉並區杉並町
大字阿佐ヶ谷四五五

特許第九四八六三號 防水塗料製造法

〔内容〕織物纖維を混ざる廢護謨を「コールドター」

牧野善藏

東京市大森區
森ヶ崎町五八七四
堀口貫道
東京市牛込區
矢來町一〇二

特許第一〇三〇六號 膏塗料

〔內容〕 膏塗料を「クレオソート」油の溶媒により壓力乾燥装置の耐壓釜を使用して簡単に之を溶解し「蒸力」自體の個性たる剛硬質の強酸強「アルカリ」性防腐性塗料たらしめたる膏塗料。

遠藤精一

福岡市大字區八三二
同市萬町一〇

特許第九五九〇八號 容器内に於ける凝固作用を防止し得べき「ヴァニッシュ」製造方法

〔內容〕 桐油を主成分とする「ヴァニッシュ」原液に特殊の溶液を混和溶解せしめて凝固作用の防止及光澤耐水性に富む「ヴァニッシュ」を得る法。

寺島義一

小樽市山田町一五

特許第一〇一五九號 罐詰用容器内面塗料製造法

〔內容〕 低温度にて燒附乾燥を行ひ且耐酸耐「アルカリ」性強き強靱なる保護膜を形成すべき塗料を製造する方法。

北河淑

靜岡縣志太郡
島田町一四〇九

特許第九八三四八號 金屬及輕金屬用塗料

〔內容〕 「エステル」化系統纖維素を樹脂軟化劑に溶解せしめ以て膠着性に富み耐水耐熱耐油耐「ベンソール」及防錆性大なる皮膜を形成する製品たらしめたるもの。

柴崎瀨平

東京市深川區
永代二丁目三ノ五

特許第一〇二七二號 「セラックワニス」製造法

〔內容〕 「アルコール」中に含有する四羧酸加里の溶存量を一定のたらしめ以て製造の都度若くは各製造槽毎に晒色色相の異同なく均勢なる製品を得ざしむる製造法。

射和二郎

東京市大森區
市野倉町二九七

特許第一〇一〇八七號 軟X線透過硝子の被覆用「ラッカー」

〔內容〕 安息香酸纖維素「エステル」を溶質とせるを特徴とする軟X線透過硝子の表面に軟X線を容易に透過せしむべき極めて安定且強靱なる保護被層を形成せしむる「ラッカー」。

庄野唯衛

大阪市北區北扇町三八
大阪市立工業研究所内

特許第一〇三七〇一號 特殊塗料の製造方法

〔內容〕 常温にて速に乾燥し光澤無比の透明皮膜を生じ然も耐水、耐湯、耐藥品性の特殊塗料の製造法。

井上清一

京都市上京區
柴竹初音町八〇

特許第一〇三九七號 髮皮製造法

〔內容〕 鬚毛羽を板狀に製縮し壓搾して苦汁液に浸漬し其半乾燥せる際「ニス」液中に浸漬し壓搾乾燥せしめ堅牢にして永く柔軟性を有する擬皮の安價なる製造法。

伴定治

東京市日本橋區
新薬物町七

特許第一〇二五〇六號 絹製重製法

〔內容〕 絹質固有の粘着性に富む重要纖維を容易に融着軟化度に導き之を補強資料の融合硬結法により頗る強靱にして耐熱耐水性を完全に備へしめたる特殊の化學的組製重製法。

石松甚平

福岡市住吉
中橋田町九三八

特許第一〇一五〇六號 白雲筆用塗料製造法

〔內容〕 木板製盤面に特殊溶解糊にて布片を粘着し其面上に柿澱、油性「カゼイン」糊等を塗布し最後に砥石にて研磨して成るものにして盤面に龜裂を生ぜず耐久力を有し且種々の特徴を有する固質白雲筆用塗料の經濟的製造法。

若泉宗吉

靜岡市本通四丁目五

特許第一〇二九四六號 墨塗製造方法

〔內容〕 塗面滑澤にして白墨又は石筆の附着良好に可

金井健太郎

福岡縣 築上郡
築城村大字築城八三〇

特許第一〇二〇二五號 黑板製造法

〔內容〕 多數の細孔を穿てる亞鉛引鉄板の一面に特殊化學的地塗を施し密着せしめ其面上に上塗をなし屋外にて使用し風雨に逢ふも龜裂腐朽、剥落の虞なく光線を反射せず文字鮮明なる黑板の製造法。

築田晃三郎

東京府 荏原郡
大井町山中四三二九

特許第九九九六號 金筆紙布の製造法

〔內容〕 「シダー」油、白蠟等を混練し之を揮發油にて稀釋塗布し更に「ゼラチン」溶液に或る物質を混和したるものを塗布乾燥し以て黒色顯出度を有効鮮明ならしめ優良なる金筆紙布を得る法。

小鹽孫八

清水市入江町三九五

特許第九五八四七號 金屬印字用紙の製造法

〔內容〕 抄紙の面に植物油等の溶液を石鹼水と共に加熱乳狀液となし之に「ゼラチン」及澱粉を加へ更にある液劑を塗布乾燥することにより優良なる金屬印字用紙を連続的に製出する法。

東久忠

京都市相樂郡木津町
大字木津小字池田五一

特許第九六二六九號 「コルク」書寫盤

〔內容〕 「コルク」盤を炭化せしめ其表面に糊漆混合物を塗付し更に「フォルマリン」にて硬化したる後上部に塗料を塗付し以て臺盤の膨脹收縮變形性を除去し且耐久力を大ならしめたる書寫盤。

加福均三

臺灣臺北市旭町一
臺灣臺北市

特許第九七五〇號 紙漿製帽子原料製造法

〔內容〕 紙漿糸を最初澱粉澱酸曹達液を通過せしめ次に白土滑石等の顔料を硫酸「アルミニウム」鹽液にて中和せし泥狀物を通過せしめて美白色を呈し弾力に富み可撓強靱性にして輕き紙帽子原料の製造法

元橋奎公

堺市少林寺町西三丁八
名古屋市南區

特許第九八七四九號 水囊の製造法

〔內容〕 洋紙の兩面に「ビスコース」溶液を塗附し再び「ビスコース」溶液に接合せしめ乾燥後稀釋硫酸液中に處理することに依り強靱にして安價且衛生的なる水囊を簡易なる操作により得る法。

服部長九郎

神戸市 磯邊通
四丁目六八

特許第九六九三二號 紙線條用塗料

〔內容〕 「ベンチールセルローズ」の稀釋溶液に「ピスマスオキシクロライド」を配合して塗膜の附着力を強大ならしめ以て防水及不燃性を増加し美麗強靱且耐久性に富ましめたる塗料。

石田清直

東京市世田谷區
三宿町三七八

特許第一〇一四四七號 印刷面其他の艶出液製造法

〔內容〕 「アルコール」可溶性の天然樹脂を「アルコール」に長時間浸漬攪拌し之に特殊藥劑を混和し印刷面等に塗布すれば迅速に乾燥し高尙なる光澤を發揮し變色することなく防水性及強靱性を附與せしむる艶出液の製造法。

伊藤鐵

名古屋市中區
櫻木町一丁目二八

特許第九七四四〇號 紙製又は紙木複製飲器の防水處理法

〔內容〕 「サンダラック」樹脂の溶液を素地に吸收塗着して防水性たらしめ更に醋酸纖維素「エステル」の溶液を上塗として兩者を密着せしめ以て堅牢なる防水の器物として數回の使用に堪へ得べからしめたるもの。

伊藤 伊十郎

名古屋市西區
櫻木町一丁目二八

特許第一〇三〇一九號 紙製又は硬木板飲器の防水

處理法

〔内容〕浸透吸収し難き「ゼラチン」と樹脂を「アルコール」にて溶解加合したる強固なる下塗をなし特殊弾力性の上塗を施して洗滌に堪へ衛生無害ならしめたる防水處理法。

原 廣 吉

東京市澁谷區
美竹町四〇

特許第一〇二五九三號 塗料

〔内容〕硫酸鹽類に硫酸礬土、硼酸、醋酸鉛等を配合せしめたるものにして風化作用を防ぎ是を「セメント」壁等に施して耐火、耐寒、耐水、耐酸性ならしむる塗料。

堀 端 要 三

堺市新在家町東一丁目九

特許第九六五九號 柔軟防水包装紙布製造法

〔内容〕「カゼイン」糊に特殊なる粘狀物質を加へ更に「ラバー」の乳劑を添加日攪拌混濁して得たる接着料を用ひて紙等を貼合し以て柔軟且防水性に富む優秀なる包装紙布を容易に製出する法。

兎 田 伊 三 郎

神戸市林田區
大橋町二丁目五

特許第九七七三號 船床塗料製造法

〔内容〕「コーパルゴム」を「テール」油中に溶解せし

め之に「アスファルト」を融合し黒鉛、雲母等の混合物を添加し酸、「アルカリ」に耐へ強靱にして特に船床塗料に適合せしめたる塗料の製造法。

沼 正 治

東京市四谷區
北伊賀町二〇

特許第九五三六號 纖維素「エステルラツカーエナメル」製造法

〔内容〕纖維素「エステル」塗料溶液に着色劑を混入して酸を接觸劑とし常温にて反應せしむる製造法にして着色劑の懸垂状態を保持し耐熱耐酸及耐海水にして卓越せる塗膜を形成せしめ得るもの。

大 角 卯 之 助

京都市中京區
壬生賀岡御所町七三

特許第九四六六號 簿記帳用商標刻入黒色「ブッククロース」製造法

〔内容〕金巾生地に擬麻仕上を施して原布とし之に諸種の混合液を塗布し「フォルマリン」と結合せしめたる塗層を包被せしめ以て汚損塗層の剥落等を防止し模様を取替散在點出等を任意ならしめたるもの。

岡 田 熊 太 郎

東京府南足立郡
千住町元町二三

特許第九五六三九號 履物用「フェルト」布面の高低を平坦ならしむるの方法

〔内容〕屑「フェルト」の微粉に硼砂と「カゼイン」の

合液を混和し更に硫酸「バリウム」及荏油を攪拌練製したる液を以て「フェルト」布面に反復塗着し波狀高低を塗減して平坦ならしむる方法。

小 川 若 三 郎

東京市芝區
白金三光町二七三

特許第九七八六三號 「シエラック」硬化方法

〔内容〕「シエラック」に「ピクリン」酸等有機「ニトロ」化合物を添加し加熱する事に依り「シエラック」をして難溶性にして強靱ならしめ塗料或は膠着劑等としての性質を改善せんとする方法。

和 田 孝 治

京都市上京區出水通小
川西人丁子風呂町九〇

特許第九六八三四號 防火防水性塗裝方法

〔内容〕硼砂及硫酸「ナトリウム」を「カゼイン」糊にて混練したる下地と、白陶土を「カゼイン」糊にて混練したる上塗とを以てし更に「ホルマリン」を塗布することにより防火防水の塗裝成品を得る法。

渡 邊 茂 樹

大阪市此花區
大野町二丁目一三〇

特許第一〇〇一〇號 塗料の製造方法

〔内容〕油槽内に電流を通じ同一油槽内に於て「ポイ」油と炭素顔料とを同時に造ることによりて割合「ベイント」を製造する方法。

加 藤 富 治 郎

東京市京橋區
寶町二丁目五

特許第九六五四號 壁面塗裝材料の製造方法

〔内容〕「パルプ」を浸水後脱水したるものと膠着溶液とを攪拌混合し之を泥狀物となし壁體面等に容易に密着せしめ保温防音且優秀なる輕量の壁構成材料ならしむる方法。

横 山 榮 一

川上塗料製造所
大阪市西成區
今池町十番地

特許第七九二一五號 「ワニス」製造裝置

同 第八六四四號 防水塗料製造方法
同 第九一四三九號 油に粘稠性を附與すると共に不純物を除去し或は單に油の精製をなす裝置

〔内容〕本防水塗料製造方法により製出したる防水塗料は其質極めて軟柔にして伸延性に富み塗布良好なると共に塗布乾燥後に於ても皺又は龜裂を生ずる虞なく、又浸透性及弾力性に富み良く塗布面に接着して容易に剝離せず且つ耐熱耐水耐「アルカリ」性に富むを以て傘紙其他の防水紙及防水布等を製作し得るは勿論、乾燥迅速にして接着力強大なるを以て塗布作業著しく進捗し其他の一般的塗料としても優秀好適なるものなり。尚本塗料は其濃度を溶液の加減によりて實質の效力を變ぜずして厚薄任意に調節し得而も顔料又は染料を溶解せしめて任意の着色を施し有色の防水塗料となすことを得るものなり



河 野 篤 二
京都市中區中津
地番三五五

北 村 品 子

東京市淀橋區角筈本村
三百八十一番地

特許第四四九九號 硬質紙器製造法(サクラ漆器)

〔内容〕本發明の特徴とするところはパルプを型により壓搾成形し之をセルロイド溶液に浸潤し乾燥したる後、更に樹脂及び蠟の混和溶液を吸收せしめ乾燥し漆器の素地等に好適なる硬質紙器の製造方法にして、氣候の變化により歪曲破損の憂なく、特に漆の親和力の強大なるは漆塗器物としての第一要件に適合し海外輸出向として好適なり。

〔略歴〕氏は大正三年千葉縣立銚子商業學校卒業後銚子醬油株式會社に入社、其の間木製醬油樽の不足と缺陷とを考慮しパルプを以て之を造る方法を研究中偶々之を漆器生地に應用することに着眼し實驗の結果成績良好なりしを以て大正十二年横濱に移住し輸出漆器の製造を開始し幾何もなく産請社を興し自ら社主となり現在に至る。

昭和九年 高松宮殿下工場へ御台臨の光榮に

河 倉 義 安

京都市左京區北白川
下池田町八八ノ一

特許第一〇三六二八號 織布の表面に特殊塗層鍍を構成せしむる方法

〔内容〕寒冷紗等織目著大なる織布の表面に化學的方法により特殊縮み皺を有する「セルロイド」の薄層を構成せしめ耐水性にして樹色せざる類「リノリウム」製品ならしむる方法。

神 谷 吉 郎

京都府加佐郡新舞鶴町
字 濱 一五九

特許第一〇三六〇一號 塗料製造法

〔内容〕鉛化合物顔料と乾燥油とを充分混捏し之を水中にて煮沸し脂肪酸鉛を形成せしめ之を掲げ脱水し更に乾燥油を加へ其稠度を調整したるものにして貯藏中顔料が器底に沈降せず強靱なる塗膜を形成する塗料の製造法。

横 田 藤 三 郎

東京市豊町區
三番町二〇

鹽 田 三 郎

東京府荏原郡新井町
字 新井 留 一、一〇六

特許第九四一四三號 「フェルト」防水法

〔内容〕「フェルト」に稀薄糊料を吹掛け「ローラー」にて起毛を壓伏し次で黒皮革粉末に或る合成液を吹着け乾燥し更に硝化綿塗料を吹付け以て工程簡易に防水防塵防汚性を具有せしむる法。

田中隼人

東京府北豊島郡豊島町
大字上野三三五

特許第九六〇一八號 電球着色用「ラッカー」

〔内容〕「トルオール」等の溶液に鹽化「マグネシウム」を「メチールアルコール」に溶解したるものを加へ之に耐熱顔料を混和することに依り電光熱に堪へ製作費低廉且経済的有利の塗料を得る法。

田中健次

東京府中野区沼袋
北一丁目四七二

特許第九九〇八三號 肥料及「セメント」用袋製造法

〔内容〕廢棄護膜を加熱分解したる筒狀物に「タール」劑、樹脂等を加へ溶解混合せるものを紙布に塗布し貼合乾燥せしむる防水、耐酸、耐「アルカリ」弾力性に富める袋の経済的製造法。

田郷政次

京都市上京區智恵光院通上長者町
七ノ須賀町五七

特許第一〇三六〇九號 夏帽子防水法

〔内容〕特殊皮膜により紫外線を吸収せしむると同時に耐濕性たらしめ以て光線空氣及濕氣等の爲に帽體が變色せらるるを防止すると共に降雨水浴等に堪へしめたるもの。

田代爲一

小樽市花園町西
二丁目一〇一九

特許第九九四四三號 罐材及罐蓋製造法

〔内容〕金屬面に珪酸質物より成る細き網狀の骨格を

生ぜしめ油性被膜を支持し打抜操作卷締操作其他の機械的加工の爲めに塗膜の龜裂剝離することを防止せしめたる方法。

高橋孝次

大阪府北區善徳寺町
九丁目七〇

特許第九六一三七號 「フェルト」帽子製造法

〔内容〕縮絨せる「フェルト」帽體を「アルコール」溶液に浸漬したる後硝化綿「ラッカー」に蓖麻子油等と染料との配合物を吹付け以て防水及熱絶縁性に富み耐久力大なる帽子を廉價に得んとする法。

高橋竹二郎

富山縣婦負郡連星村
番倉八八五

特許第一〇〇〇一三號 「アムモニア」酸化器内面塗裝方法

〔内容〕硫酸「バリウム」等を珪酸「アルカリ」と水を以て練り之を酸化器内面に塗裝し以て瓦斯體「アムモニア」の分解を防止せしめ経済的に「アムモニア」の酸化作業を行はしむる方法。

武川新七

大阪府東區清水谷
西之町三六三

特許第一〇三九九一號 卓球「ラケット」用塗着劑製造法

〔内容〕卓球用「ラケット」に特殊の塗着劑を塗布し「ラケット」の破損並に乾燥を防止し同時に「セルロイド」製の「ボール」の横滑りを防ぎ且破損をも少ならしむる塗着劑の製造法。

竹内伸之

長野縣諏訪郡平野村
三七三三五

特許第一〇二四六三號 壁用上塗塗料の製造法

〔内容〕廢物に等しき「プレット」を利用し之を粉狀たらしめ塗抹し易く塗工後は弾力を有し保温性にして音響の反射透過を防ぎ外観優雅なる色調を呈する室内壁の上塗に適する塗料の製造法。



津村芳三
兵部小
東區川邊
兵部小
田新川

特許第八八二八八號 「オリエンタルメタル」

〔内容〕本品は厳選せる最良の鋼鐵板を良く洗滌し高級アスファルト及び特殊耐酸耐火合成劑を以て之を被覆し、尚上層に防水塗料を施せるものにして其特徴は一、両面アスファルト及び耐酸耐火合成劑の被覆層なるを以て酸類又はアルカリ類に作用せられず、二、オリエンタル葎は一坪の重量僅少なるが爲め荷重少く耐震なり、又積雪の被害を防ぎ凍氷に依る傷害を受けず、三、アスファルト、アスベスト合成劑にて部厚く被覆せるを以て寒暑直接鐵板に感ぜず夏は太陽の炎熱を防ぎ冬は温度の發散を防ぎ、室内温度の一定を保ち得、四、壁體及び屋根に使用して内外の遮音をなす、五、耐酸材料耐火

長尾準之助

東京府南葛飾郡本田町
大字寶木塚四〇五

特許第九六五三三號 防水「フェルト」製造法

〔内容〕硼酸曹達及鹽化「コバルト」の混合液を乾性油と共に煮沸し之に「ガイゼン」等を混合攪拌したる塗料を「フェルト」面に反復塗布し更に諸種の煮液を塗布し以て耐水柔軟性を附與する法。

長島銀藏

清水市入江町字大曲
二七九三

特許第一〇三三〇一號 防護を目的とする塗裝法

〔内容〕特殊滑性を有する粉末を塗料「ベヒクル」に含有せしめて下塗りとなし之に不揮發性溶劑劑及「テテアリン」酸等を有機性溶劑劑に溶解せしめたる塗料を塗布せしめたる防弾塗裝法。

植村榮一

名古屋市中區上通町
北一丁目一五

特許第九九九一號 防水麥稈帽子の製造方法

〔内容〕麥稈帽子の表面に特殊藥品及「セルロイド」溶液を塗抹して防水及感光に依る變色を保護し耐久使用に適せしめたる製造法。

野村勝三郎

東京府芝區芝浦町
二丁目三

特許第九七七八〇號 「フェルト」重履製造法

〔内容〕乾燥油に硼酸曹達及密陀僧を煮詰めたるものと膠液及「アルカリ」の混合物を加へて草履用「フェルト」面に塗布し次で樹脂質物に或物質を添加したるものを該面上に塗布し以て防水性層を形成せしむる法。

久保田壽朗

東京府神田區須賀町六

特許第九五二二八號 斑紋現出方法

〔内容〕「カゼイン」及「ホーシヤ」の混合液に亞鉛華を混和して金屬面等に塗布し乾燥後該面に色素の混合溶液及中層等を散布して斑紋を現出せしめ更に諸物質を塗布することに依り美麗堅牢の斑紋を現出せしむる方法。

山本政信

名古屋市中區新榮町
三丁目三二

特許第一〇二六三〇號 夏帽子防水塗料の製造法

〔内容〕夏帽子の主體に極めて薄き強靱なる防水性皮膜を生ぜしめ其の壓ふべき光澤を全く除去せしめたる「エチール」纖維素等を主劑となしたる特殊防水塗料の製造法。

山中寅之助

大阪府住吉區山王町
二丁目六三

特許第九六九四八號 壁塗裝用糊料製造法

〔内容〕動物性蛋白質に中性金屬鹽溶液及「ラテックス」を混和粘塊とし之に醋酸「エチール」、エステル等を加へて粘稠度を調節し以て保存及使用容易にして粘着防水性に富む糊料を得んとする法。

福王孝満

東京府大森區新井宿
五丁目一五二

特許第一〇三八四六號 塗料製造法

〔内容〕南洋產薔薇科植物の實より採取せる油脂を主

中澤壽太郎

群馬縣吾妻郡六合村
字生須七

特許第九九一九號 防水劑製造法

〔内容〕珪酸「ナトリウム」に醋酸銅及醋酸亞鉛を加へたる溶液に稀硫酸を加へ以て防水耐酸性に富み且漏水防止作業を敏速に遂行し得る防水劑を得んとする法

中川三郎

東京府芝區新橋
四丁目四四

特許第一〇〇四一八號 固形漂白「シネラック」風化防止方法

〔内容〕固形漂白「シネラック」を木精にて處理し長期貯蔵に耐へしめたる方法。

中川濱吉

大阪府北區深江上江町
一丁目一〇二

特許第一〇〇三六三號 粘着「テープ」製造法

〔内容〕和紙の一面に「ホルマリン」を塗布乾燥前に該面に膠の水溶液を塗布し貼着後切斷剝離することなき粘着「テープ」の製造法。

要原料とし之に乾燥性植物油及天然樹脂を混じり必要に應じて乾燥劑を加へて稀釋したるものにして乾燥迅速にして附着力強く且つ電氣絶縁性高く酸「アルカリ」礦油等に耐へる塗料の製法。

松尾利作

關東州大連市柳町五三

特許第九五二二一號 大豆及大豆粕蛋白質を主成分とする床塗料

〔内容〕大豆又は大豆粕を乳状とし硝酸「カリウム」等を注加煮沸したる後諸物質を注加練合し更に滑石粉末等を混合し弾力耐水及光澤に富み強靱なる凝固層を形成せしむる塗料。

松本孝

大阪市東成區中濱町二四三

特許第一〇一九三三號 鉛又は鉛合金製押出「チューブ」塗法

〔内容〕「チューブ」基體の表面に特殊化學的塗裝を施し使用に際し軟質にして皺歪を生ぜず内容物を最後まで押出し得せしめ且つ堅牢にして美麗ならしめたる塗法。

矢澤弦次郎

東京市日本橋區元町二一七

特許第九六一〇五號 石灰塗料並に「セメント」用紙布製造法

〔内容〕五倍子等の抽出液に蒟蒻粉を混溶し更に動植物纖維を混入して之を布袋に塗布し且飽和石灰水中に浸漬することに依り蒟蒻粉を紙布の纖維間に浸透せしめ強靱性の紙布を得る法。

牧野善藏

東京市品川區大井南濱町一七三七

特許第一〇一七六一號 硬質焼付塗料製造法

〔内容〕琥珀等の化石樹脂を特殊藥劑により作用せしめて金屬又は陶磁器等に焼付け耐酸耐熱耐油耐「アルカリ」及び電氣絶縁の各性能を具備せしめたる硬質焼付塗料の製造法。

深川庫造

東京市本郷區本郷五丁目三八

特許第一〇三〇六五號 防水防蝕性塗料製造法

〔内容〕特殊生成重合炭化水素を主成分としたる乾燥時間短く然も長く光澤を失はず密着性強く且つ温度上昇に依り直に軟化することなき防水及金屬防蝕性塗料の製造法。

兒玉八郎

滿洲國撫順南臺町三丁目九ノ二

特許第一〇二九七七號 石炭と混合して産する琥珀類精製法

〔内容〕石炭混合の琥珀炭より琥珀本来の光澤と堅さとを保持し淡色透明にして化學藥劑並に風化に對し極めて抵抗力及耐久力強く塗料其他の原料として好適なる琥珀の化學的精製法。

小中義美

滿洲國撫順南臺町一丁目四ノ六

特許第一〇二九七七號 石炭と混合して産する琥珀類精製法

〔内容〕石炭混合の琥珀炭より琥珀本来の光澤と堅さとを保持し淡色透明にして化學藥劑並に風化に對し極めて抵抗力及耐久力強く塗料其他の原料として好適なる琥珀の化學的精製法。

遠藤小逸郎

川崎市大字川越一六九七

特許第一〇一九九三號 特殊「グルトール」膜の被覆方法

〔内容〕「ボログゼリド」を以て處理し透明且つ強靱なる非膜の形成によりて物體面を被包保護せしむる方法。

雨宮良孝

東京市墨谷區原宿二丁目一七〇

特許第一〇〇四四一號 纖維塗料の製造法

〔内容〕金屬水酸化物を吸着せしめたる纖維素「エステル」又は纖維素「エーテル」を使用するを特徴とする被覆力、抗張力、附着力及び防錆力等に富み且つ耐久力の大なる塗料の製造法。

北風勝次郎

東京市北豐島區板橋町中九四九七

特許第九五五七九號 皮革及織物防水塗料製造法

〔内容〕「ニトロセルロース」を有機性溶劑にて處理し之に「グリセリン」及樹脂酸の混合物を添加煮沸し更に或る溶液を添加して重合作用を起さしむることにより渗透吸収性ある塗料を得んとする法。

由井覺郎

東京市北豐島區長崎町四向二八〇六

特許第一〇〇四六四號 固着せる油繪具の剝離劑

〔内容〕古油繪畫布に固着せる油繪具を其地質を損することなく迅速に洗滌除去せしめ再生使用し得せしむる特殊の油繪具剝離劑。

齋藤國榮

東京市豐島區西巢鴨堀ノ内一五五

特許第九九三二八號 「エナメルペンキ」と「デキストリン」にて各種浮出模様並に繪花模様を顯はす法

〔内容〕「エナメルペンキ」と顔料との粗質を「テレビン」油にて薄め物體に梨子地塗をなし半乾燥中熱湯にて溶きたる「デキストリン」を塗布し其乾燥收縮により浮現模様を呈し後特殊仕上工程をなす簡單廉價なる顯出法。



島尾由松 東京市豊島区西巢鴨堀ノ内三十九番地

特許第七二二〇號 包装用改良ターポリン紙の製造方法

〔内容〕従来の包装用ターポリン紙はアスファルト・ピッチ類をヘシアン・クローズの表面に塗布し防水性となせるも其塗布資料が屈撓性に乏しく比較的低き溶融點を有するが故に、使用中龜裂を生じて防水の用をなさざるのみならず其塗布料は剝離又は粉砕せられ易き等の缺點あり然るに本發明は表面にゴムの皮膜を形成したると同様な効果を有し容易且つ經濟的に製造する方法にして、特殊の溶液に或種の柔粘資料を

須々木春吉

東京市豐島區西巢鴨町大字巢鴨三四五〇

特許第九六八二四號 塗料剝離劑

〔内容〕四鹽化「エタン」を主劑とし之に醋酸纖維素を

瀨川民藏

東京市麻布區區町一丁目三二八

特許第一〇三六二六號 剝離用防蝕塗料

〔内容〕白蠟と少量の黃蠟及び「アスファルト」と微量の轉寫「インク」とを融合したるものにして確實鮮明なる腐蝕を容易に行ひ得る防蝕塗料。

城野貞藏

佐賀縣神埼郡仁比山村大字志波屋三二八五

特許第九五二七八號 油引和傘其他油引紙に於ける粘着防止液製造法

〔内容〕豆精を布袋にて挿過し以て防蝕劑を混和して乳酪状となし之に丹礬を加へて粘着防止液を得る法。

鈴木守幸

大阪府大正區三軒家町一丁目九十五番地

特許第一〇一五〇八號 噴霧塗裝に於ける網目利用による美術模様表現法

〔内容〕本發明は金、絲、竹等にて作りたる網目狀物體に膠又は「ゼラチン」の水溶液を用ひて種々の模様を畫き乾燥せしめて其の模様を皮膜として網目上に張らしめて作りたる塗料及有機溶劑に不溶性にして侵されざる模様付網目狀物體を、豫め適當の塗料にて下塗を施したるものゝ上に重ねて其上より下塗と同色又は異色の塗料を噴霧方法により塗布したる後直に網目狀物體を除去し乾燥せしめて種々の物體面に「レース」式の模様を表現せしむる方法にして、從來噴霧塗裝方法によりては殆んど不可能なりし精密且美麗なる「レース」式的美術模様を網目狀物體の利用により頗る簡単に表現せしめ得可からしめたるものなり。

池田菊苗

東京市豊島區宮土見町五丁目十六番地

特許第九六七二四號 耐酸塗料製造法

〔内容〕「ウルシオール」に硫酸を加へ高熱に依り化學的に結合せしめて泥狀の耐酸塗料を製造する方法。

金尾長吉

東京都北豊島郡
岩淵町大字下千
四百七十七番地

特許第九六五七號 漆乾燥促進劑製造方法

〔内容〕「アンモニア」水並に清水を溶劑として硫酸銅を作用せしめたる溶液と過酸化鐵の水溶液を漸次混合加熱することに依り乾燥度高き漆乾燥促進劑を得る製造法。

鶴澤孝左久

朝鮮慶尚南道釜山府
水品町鐵道官舎七ノ三

特許第一〇一三四一號 漆乾燥劑の製造法

〔内容〕重「クロム」酸加里液に水醋酸、舊酸又は酒石酸を加へ次に「グリセリン」を混和して良質の乾燥劑を得る製造法。



行漆橋大社會資合
一 嘉 橋 大
町江生區市阪大
地番三十百四

特許第七六七八一號 焼付漆

同 第八四六三二號 焼付エナメル

同 第九四一三三號 漆模倣顯出法

〔内容〕焼付漆は脱水及精製せる漆に石炭酸、「クレゾール」、「カーバコロール」、「チモール」又は「ダイオキシトルオール」類の如き「フェノール」類の「ヘキサメチレントラミン」加成物を混和し、更に堅牢なる礦物性顔料を配合して製せるものにして、従来の漆は焼付によりて酸化及重合作用を徐々に起し不完全なる皮膜を形成するものなるも、本品は縮合、酸化、重合の三作用を比較的迅速に起し完全なる皮膜を容易に構成するものなり、然して最も特徴とする所は硬化迅速、皮膜堅硬にして強靱、均一性の皮膜を生じ光澤に富み裝飾的價値優秀にして電気絶縁性に富み、酸、アルカリ、溶劑及熱に對する耐抗性著大なり、且つ色彩多種優美にして大量塗裝に適する等なり。

〔略歴〕氏は明治二十九年滋賀縣愛知川町の出身、大正七年京都高等工藝學校を卒業して三井鑛山株式會社に入社三池染料工業部に勤務す、同九年合資會社稻畑染工場に入社後同工務科長となり、同十五年福井染工株式會社に入社技師長となり、同十九年福井染工株式會社を退社して大橋式焼付漆工業所を經營せしが翌年全焼の災厄に遭遇したる爲め直に大橋漆行を經營し同七年合資會社に組織を變更して現在に至る。

元來漆の焼付塗裝の方法は種々なる缺點を有するの外皮膜の厚薄は如何とも避け難き問題に屬す、氏は深く之を遺憾とし多年苦心研究を重ねたる結果遂に本發明を完成せられたるものにして之が製造販賣を開始すると同時に焼付塗飾工場を併置するに至る、爾來各方面に其價値を認められ工場を東京に新設し東西相俟ちて業務の發展を謀り益々一般工業界の要求を満足せしむるの情勢となれり。

佐藤萬兵衛

仙臺市北銀治町
十一番地

特許第九六五三三號 漆液製造法

〔内容〕琥珀を熔融し沈澱物を除去したる後冷水に流入して後粉末となす工程と「テレビン」油の溶劑に溶解せし漆と練和する工程との結合により塗膜の乾燥迅速なる漆液を製造する方法。

澤口悟一

和歌山市小松原通
九丁目三番地

特許第九七八一六號 漆器下地塗料の製造法

〔内容〕「タピオカ」の粉末に適量の水を加へ溶解後加熱攪拌し冷却を待ちて柿澱又は「タンニン」液の適量及防腐劑少量を練合せたるものにして腐敗の恐なき安價なる漆器下地塗料を製造する法。

特許第九七九七號 漆の改良製造法

〔内容〕漆液及「フォルムアルデヒド」に「ユレヤ」又は「フェノール」類を混合し觸媒を加へ加熱縮合せしめて

彈性「ゴム」液を混和することに依り透明淡色となし光澤ある堅牢なる彈性を有する漆を製造する方法。

衣川隼男

石川縣鳳至郡
輪島町字河井町
二部八十六番地

特許第一〇〇九〇九號 乾漆粉の代用品製造法

〔内容〕貯桶内上部の生漆液を濾過して得る殘滓と顔料とを混じり攪拌機に掛け攪拌し容器内に収容乾燥せしめ粉砕機に掛けて製造する方法。

三輪田勝太郎

名古屋市中區矢場町
三ノ切二十四番地

特許第九六四一號 練硯製造法

〔内容〕水銀と硫黄を混合加熱し之を炭酸「カリウム」の溶液と共に煮沸し吸引濾過法に依り脱水乾燥し可及的微細粉末に精製し亞麻仁油を噴霧器にて噴出せしむる等の工程に依り製造する方法。

志方益三

京都市左京區
吉田本町五番地

六角注多良

京都市小石川區
久堅町七十四番地

福渡七郎

京都市本郷區
神明町三五一番地

特許第一〇一八二二號 泥炭又は「ソンドラ」より製造したる人造板の漆加工法

〔内容〕泥炭又は「ソンドラ」若くは之等に動物物纖維及膠着劑を加へて製造したる人造板に對し漆溶液を滲透せしめて乾燥せしめて建築電氣工藝用の諸材料及

して適當なる性質を具有せしむる法。

星野吉人

神奈川縣鎌倉郡鎌倉町
塔ノ辻二百六番地

特許第九九三二八號 鎌倉彫塗漆法

〔内容〕彫刻様に下塗中塗を施し朱合漆を塗布し朱蒔を行ひたる表面に特に生漆と「ラッカー」とを交互に塗布し仕上作業をなして剝落する憂なき優雅なる耐久性塗膜を形成せしむる方法。

米倉佐右衛門

京都市淺草區
壽町十八番地

特許第一〇一六二三號 皮革下地漆器製造法

〔内容〕楡、桐其他の木質より成る様に薄き皮革を下地として貼付し泥土と漆とを混和したる下地を塗付けて剝落及型壞の狂を防止し美術的製品の製造を簡單ならしめたる法。

黒岩貞重

京都市京橋區
月島東仲町通
五丁目七番地

特許第一〇三九五號 塗漆方法

〔内容〕原料粘土の乾燥粉末又は焼成粉砕したる細粉末と漆液若くは漆の稀釋用溶劑にて稀釋したる液とを混じ之を金屬製生地面上に塗布し塗布面の加熱乾燥を行ひ凝固塗膜を得る方法。

遊部外次郎

金澤市三番丁
十一番地

特許第九五八七八號 混凝土様塗漆方法

〔内容〕混凝土其他之に類する物質を以て漆を形成す

尙本焼付漆は先年横須賀及吳海軍工廠に多量の漆原料を納入し又海軍關係民間諸會社、諸工場製作の海軍用探照燈、同信號器具其他兵器軍需品類金物、造船機裝品類漆裝用として海軍の懇意に依り採用の榮を得愈々高評を博しつゝあり。

今井壽雄

福井市毛矢町百七番地

特許第九四八八號 膠を粉末とする方法

〔内容〕膠に澱粉を混して破砕することに依り速に溶

仁科遠平

京都市原町區
大字中目黒八三三

特許第九五一一四號 耐酸容器及器具

〔内容〕適宜成形せる浮石材に多數の孔を穿ち漆液と浮石粉末とを混捏充填し塗布滲透せしめて高熱高壓に遭ふも毀損する憂なき耐久性大ならしめたる容器。

廣瀬俊雄

山梨縣東八代郡石和町
宇市部千三十番地

特許第九九八八號 漆を以て美術彫刻模倣を表現する方法

〔内容〕任意の模様を型取れる原紙面に漆を塗着乾燥せしめて更に下地漆を塗着して諸種の器物に貼着し原紙を剥取り模様を器物に表現せしむる方法。

鹽田重吉

香川縣仲多度郡
栗平町二百十九番地

特許第九四五〇五號 麥稈眞田を原料とせる漆器製造法

〔内容〕麥稈眞田を「セラチン」溶液内に浸漬して硬め之を乾燥し蒸氣盤にて押壓し之に漆加工を施し堅牢にして頗る雅致に富む漆器製品を得る法。

解すべき粉末膠を得る方法。

市川榮次郎

名古屋市東區千種町
高見三十七番地四十號

特許第九九五五號 木材接着劑

〔内容〕大豆粉其儘を主劑とし消石灰曹達灰及無水硫酸曹達の混合粉末を加へ水に溶解して泥狀となし「カナダベルサム」の二硫化炭素溶液を加へ混練して優良なる接着劑を廉價に得る方法。

伊藤保人

東府豊多摩郡
落合町大字下落合
一六三七番地

兼子三郎

東京府南足立郡千住町
橋戸町七二番地

特許第九八三三四號 皮革接着法

〔内容〕硝化纖維素又は「セルロイド」の有機溶媒による溶液を無水醋酸に混用し皮革を接着確實ならしむる方法。

濱本芳友

大阪府住吉區北田邊町
八七五番地

林菊巖

大阪府東成區北生野町
一丁目四八二番地

特許第九五一〇號 粒狀膠の製造法

〔内容〕膠液を流動「パラフィン」と動物油との混合液中に滴下して凝固せしめ使用に便なる粒狀膠を製造する方法。

吉富英助

關東州大連市月見ヶ岡
六一三ノ一

館昌次

關東州大連市聖徳街
一丁目一七二

特許第九五五〇號 目張用糊液

〔内容〕「アラビヤゴム」及「トラガントゴム」と澱粉を水に溶解せる粘着性溶液に特殊なる藥品を配合し窓其の他の目張に使用して自然に剝離する等の憂なからしめたる糊液。

中島顯三

清水市入江
一四四〇番地ノ三

鎌田寅八

清水市入江
受新田一五八番地

特許第一〇二六六號 「カゼイン」又は植物性蛋白質物を主劑とせる膠着液を淡色にする方法

〔内容〕「カゼイン」膠着劑又は植物性蛋白質物を主劑とせる膠着劑に「アルカリ」性溶液に於て紫色又は紫青色を呈する物質か又は銅鹽を添加して蛋白質の「ピット」反應を呈せしめ殆白色なる膠着液を得る方法。

前田榮三郎

東京市淺草區向原町
一丁目十七番地

特許第一〇二九〇號 粉末膠製造法

〔内容〕板狀の膠又は「ゼラチン」を燒焦せしむることなく直火を以て加熱膨脹せしめて多孔質となし粉碎して腐敗することなき使用に便なる粉末膠を得る製法。

前島保

長崎市稻佐町三丁目
七十九番地

特許第九五六三號 蘭科植物石料より「アラビヤゴム」と其の性質同一なる物質を製造する方法

〔内容〕石斛屬植物より水を以て「ゴム」質を浸出し「アルコール」其の他類似の有機性溶劑を注加して沈澱する「アラビヤゴム」と性質同一なる物質を製造する方法。

深谷辰次郎

東京市本郷區駒込
西片町十番地ノ二七

特許第一〇三七六號 接着劑製造法

〔内容〕卵白に「アムモニア」水、酸化「ナトリウム」及「カルシウム」の如き「アルカリ」及「セメントダスト」を添加密和して變質、腐敗の虞なき耐久なる接着劑を製造する法。

北島信夫

大阪府住吉區田邊本町
六丁目三十八番地

特許第九五一一號 粒狀膠の製造方法

〔内容〕濃縮膠液を恆壓の空氣又は蒸氣を以つて大氣中に噴出して微粒狀に分裂せしめ冷却液中に沈下固結せしむるものにして噴出速度を適當に調整することにより任意の粒狀膠を簡單に多量製造し得る方法。

品川秀三

小樽市緑町五丁目
官地十六號

特許第一〇〇五一號 「ベンヤ」板製造法

〔内容〕原料板の接合する兩面に蒔藕糊に「ホルムア

ルデハイド」及石炭酸の適量を混じたるもの及膠質糊に適量の樹脂石鹼を混じ表面に塗布し壓搾乾燥して接合せしむる製造法。

佐藤定吉

東京市澁橋區下善合町
一丁目四八二番地

特許第九九七五七號 纖維質を「コロイド」化して製したる植物性耐水膠製造法

〔内容〕大豆粕其他の植物性蛋白質含有物質粉末中の纖維質を「アルカリ、クサンテート」を除外したる他の化學的試薬にて膠狀化することに依り優良強大なる接着劑を得る製法。

下田忠次郎

東京市品川區七犬崎
二丁目五三九番地

特許第九八〇三三號 糊精の製造法

〔内容〕澱粉を微量の「モリブデン」又は「バナチン」若くは此等のものの化合物の一種を添加したる硝酸を以て加熱せしめ糊精に變成して粘着力強き糊精を短時間に製造し得る方法。

谷口萬吉

鹿児島縣川邊郡萬世町
大崎六〇四七番地

特許第九五三四號 接着劑

〔内容〕一定量の鳥糞を加熱沸騰しつ植物油或は動物油中加入攪拌し封蠟を適量混和粘和となりたる液に「セメント」と細砂を混和して成る接着劑。

高橋立生

東京市本郷區元町
二丁目六十六番地

特許第九七〇二八號 無色透明なる接合劑の製造法

〔内容〕二三種の混合液を尿素にて溶解なし加熱して鹽化「ナトリウム」を加へ適當な濃度となし「グリセリン」を混じて成る接合劑の製造法。

村川重郎

神戸市川西通り一丁目
三番地村川化學研究所

特許第九六一二六號 高温用糊料製造方法

〔内容〕高温度に於て乾性又は半乾性油に加硫「ゴム」を溶解すると同時に油の重合を行はしめ「フェノール」性物質を溶解して特殊の油性糊料を製造する方法。

坂間政治

東京市四谷區
豊住町二十番地

特許一〇一〇五二號 接着劑の製造法

〔内容〕「グリセロールフタレート」縮合人造樹脂と「ウイニールアセテート」重合人造樹脂とを復合せしめたるものを主體とし「ケント」類と芳香屬炭化水素と「アルコホルエステル」とより成る優透なる接着劑の製法。

金澤勝之助

東京府豊多摩郡
千駄ヶ谷
大字千駄ヶ谷

特許第九六四八〇號 自動糊精製造装置

〔内容〕鋸齒狀に切截せる板面に刷毛を「クランク」作用に依り摺動せしめ原料を磨碎落せしめ薬液を噴射

せしむる装置。

水田政吉

東京市麹町區丸の内
三丁目四番地
日本石油株式會社内

中村安太郎

新潟市沼津町
四百七十七番地
日本石油株式會社内

特許第九四七三三號 耐油耐水性接合劑

〔内容〕酸化鉛「セメント」消石灰鐵粉の混合物に「グリセリン」を加へ捏和して糊狀となし油類等の漏洩防止劑又は封緘劑として好適なる接合劑。

田中謹治郎

東京府北豐島郡
瀧野川町西ヶ原
百四十六番地

江端鈴之助

東京府荏原郡目黒町
大字下目黒
五百三番地

特許第九五二六〇號 貼着紙

〔内容〕乾燥油紙の一面に金屬箔を貼着し「ゴム」樹脂不乾燥油等より成る防水性及密封性を利用したる貼着紙。

小島八朔

大阪府豊能郡箕面村
大字新稻
六百九十七番地ノ二八

特許第九六八〇四號 粘着性を増大し歪曲を防止せる貼着紙

〔内容〕摺接移動する事に依り膠着料塗層表面に微細

無數の龜裂を付與してなる粘着性を増大し曲歪を防止し溶解粘化を完全ならしめ長期の貯蔵にたへ得る粘着紙。

小西 實太郎

内海 勝二

特許第一〇〇二九五號 接着劑の製造方法

〔内容〕廢棄硫化護膜を苛性「アルカリ」液に浸漬加熱し、亞麻仁油或は同効の油脂を加へ更に加熱して生じたる粘着性物質を漂青質物及樹脂と混じり揮發性溶劑を加へ顔料を混じて防錆力強き接着劑の製法。

齋藤 定藏

東京市品川區五反田二丁目三六五番地 株式會社 高田船底塗料製造所内

特許第九八四九號 「リノリウム」接合劑

〔内容〕天然樹脂及人造樹脂を加熱し「クレゾール」其他芳香屬類に溶解化せしめ酒精又は木精にて稀釋したる「リノリウム」接合劑。

矢代 義郎

東京市芝區白金三丁目二六番地

特許第九四二〇五號 燐寸摩擦料製造方法

〔内容〕樹脂及桐油の混合物に「セレンニウム」又は「マンガ」其他の混合物を觸媒し高温度に水硝子を用いたる

せしめてなる粘合力強き燐寸摩擦料の製造方法。

安東 千代一

大阪市北區會根橋上四丁目二二番地

特許第九七七二八號 帶狀燐寸容器

〔内容〕着火劑及二個の彈性板に彈性保持を設け牽引口を通して切斷線及發火劑を穿設してなり連續的に使用するも他の燐寸片に引火することなき安全なる容器

平尾 伊之吉

大阪市東區十二軒町四番地

特許第九九〇六號 燐寸軸刺列器

同 第一七〇五八號 燐寸軸刺機

〔内容〕燐寸軸刺機は臺架の上に木質に依て剝取用刃先を俯仰自由ならしむべき構造を備へ、尙木材が漸次剝取せられて減少するに従ひ次第に之を接する様刃先を移動して最後まで一定の厚さに剝取し得る装置と、木質の硬軟に依つて刃先移動の度を大小適宜に調節せしむべき装置及び之に傳動すべき各關連装置を組合せたるものにして、木質の如何に不拘迅速に一定の厚さに剝取し得る効果を有す。

〔略歴〕氏は舊高松藩士、明治元年の出生、同二十年來阪して某燐寸機械工場に入り數年間銳意業務に精勵し修得する所あり、同二十五年燐寸製造機の發明に着眼し苦心研究の結果之を完成し、同二十八年獨立して平尾鐵工所を創業す

佐々木 貞吉

京都府宇治郡宇治村大字五ヶ莊小字西浦三七番地

特許第一〇〇五〇八號 燐寸無煙火藥製造法

〔内容〕燐寸火藥及「ニトログリセリン」を主成分とする海軍用紐狀無煙火藥の廢物を粉末とし粘着劑を加へ偏

平の粒片となし乾燥篩分し「ローラ」にて壓延し物理的操作により優秀なる無煙火藥を製造する法。



下瀬 雅允

特許密、下瀬火藥

〔内容〕本發明は我國海軍々機に關する秘密事項にして詳細記載するを得ざれども芳香屬三硝基の純粹なる化合物にして點火打擊等には何等の變化なきも、之を特種の發火裝置により起爆劑を以て爆發せしむれば頗る急激なる爆發的反應を生じ多量の熱量を發生し且つ爆發生成體は悉く瓦斯體にして少量の木炭の外に何等の固形殘滓を止めず、如此爆發的效果に加ふるに猶特徴とも云ふべきは一定容積内に多量の火藥を填實し得るを以て同容積内に於ける爆發的效果は之に比較するものなしと云ふ。

〔略歴〕氏は安政六年廣島市の出身、廣島英語學校に學び上京して明治十一年二部大學豫科に入學同十七年卒業して英人ダイバース教授に就き應用化學を専攻す同年印刷局雇拜命紙幣用インキの改良をなす、後海軍技手となり二十二年本火藥の發明を完成す、三十二年工學博士の學位を受け海軍下瀬火藥製造所長となり四十四年勳二等に叙せられ旭日重光章を賜ふ、同年九月

病を以て長逝せらる。

石田 榮

東京府豊多摩郡杉並町大字天沼五二三番地

特許第九七九六號 爆藥

〔内容〕硝酸「ニトログレアニチン」に防濕兼補燃劑を添加したる安全なる爆藥。

大野 勝行

京都市伏見區新町四丁目四百六十五番地

特許第九九〇九號 無煙火藥原料とする爆藥

〔内容〕紐狀無煙火藥に「トリニトロキシロール」過鹽素酸「アンモニウム」及硝酸「カリウム」を配合し更に「アルミニウム」の粉末を添加したる鐵山用爆藥。

田中 正

東京府豊多摩郡杉並町馬橋四四三番地

特許第九五〇七號 玩具用爆藥の製造法

〔内容〕赤燐鹽酸加里硫酸華を糊溶液中に投入混合して紙片上に滴下泥狀體に砂を包みてなりたる玩具用爆藥の製法。

松野 林造

東京府北豐島郡志村前野一一番地

特許第九五〇六七號 點火劑

〔内容〕鹽素酸「カリ」及「アンチモン」並に亞鉛を混合し固結劑を以て捏和調整し適宜に與形乾燥して燐寸頭

藥又は軍用爆發物等に使用する點火劑。

山本 樹一

愛知縣碧海郡安城町大字山崎字大手七八番七九番合地

特許第九五五〇六號 仕掛煙火着火裝置

〔内容〕仕掛煙火用火工品に着火材を介在せる火花間隙を設け感應「コイル」の二次線の兩極に接続せしめ速燃導火線を使用せずして完全に仕掛煙火に着火する裝置。

成瀬 新吉

愛知縣碧海郡安城町大字安城字毛賀知四十二番地

特許第九五〇七號 玩具用爆藥の製造法

〔内容〕赤燐鹽酸加里硫酸華を糊溶液中に投入混合して紙片上に滴下泥狀體に砂を包みてなりたる玩具用爆藥の製法。

竹下 定助

久留米市草井川町二七〇番地

特許第一〇〇九六〇號 糖を使用する爆藥の製造法

〔内容〕糖を爆藥の一部分とし炭素供給劑たらしむる製法により「ダイナマイト」類の製造及使用を容易ならしめ耕作用爆藥として燐寸及加里分等を含有せしめて成る方法。

間藤 徹十郎

群馬縣群馬郡岩鼻村大字宇岩鼻二百三十九番地

特許第一〇〇九六〇號 糖を使用する爆藥の製造法

〔内容〕糖を爆藥の一部分とし炭素供給劑たらしむる製法により「ダイナマイト」類の製造及使用を容易ならしめ耕作用爆藥として燐寸及加里分等を含有せしめて成る方法。

前川孝一

福島縣石城郡
内郷村大字宮字竹ノ内
八十三番地

特許第一〇三三〇五號 發破用「エーヤクツシヨ」
ビス

〔内容〕針金の両端をの字形又は螺旋等の適當なる形
狀に曲成し曲成部をして針金軸に對し垂直狀となし
めたる中空發破用の「エーヤクツシヨ」ビス

井上輝夫

關東州大連市東郷町
八十八番地

特許第一〇二四四三號 纖維白色なる麻着色法

〔内容〕車軸油又は「クレオソート」油を製麻作業中浸
油する油と共に散布し浸油と同時に着色して柔軟強韌
なる着色麻纖維を得る方法

堀込柳治

東京市淺草區
東三筋町二十一番地

特許第一〇三三七〇號 麻類の精練漂白法

〔内容〕麻類過硫酸「アンモニア」又は過硫酸加里の如
き過硫酸鹽類と硫酸と鹽酸とを混合溶液に浸漬し石鹼
溶液にて煮沸して成る漂白法

川口育三郎

東京市牛込區市谷
砂土原町一丁目一番地

特許第九四七二六號 竹皮類の加工方法

〔内容〕竹皮類を纖維方向に沿ひて縁端を缝合し槽に
浸漬し化學的處理を施して處理溶液の作用を優
良ならしめ成品能率を増加せしむる方法

川角五郎

廣島縣御調郡三原町
東築出五二ノ一

特許第九七八八四號 「ラミー」纖維處理方法

〔内容〕動物性油脂類に空狀又は固形脂肪酸を油脂
に添加し混和練合せてなる工程に依り紡績作業を容易
ならしめて光澤の「ラミー」絲を經濟的に得る方法



會商田武社會資合
ヨチ田武
條二町新市都京

特許第八九八四七號 彫刻機

〔内容〕本機は捺染ロール彫刻に使用し銘仙緋
模様、大柄緋模様等を彫刻し迅速にして最も精
巧なる製品を得、然も正確に且つ如何なる複雑
模様も容易に彫刻を施し得るを以て從來使用し
來りし舊機に比し能率著しく優に五倍以上の好
成績を挙げ、其製品は機械に依ると何等の遜色
を認めず價格また低廉なるを以て一般需要家の
需要を喚起し、茲に機械品の代用品として市場
を壓するに至り産業經濟上に及ぼす效果實に大
なるものあり

〔略歴〕本店は故武田周次郎氏の創立に係り主
として捺染ロール彫刻を專業とし本邦に於ける
最も古き歴史を有する工場なり、而して極東に
於ける捺染ロール彫刻は約五十年前英人ロケツ

竹本長五郎

臺灣臺北市川端町
三十一番地

特許第九八二九三號 芭蕉皮處理法

〔内容〕芭蕉皮を二本の「ローラー」間に挟み壓搾し稀
硫酸液次に過燐酸加里溶液に浸漬し更に醋酸溶液
に浸漬し水洗乾燥す事に依り敷物用の原料を得る
方法

桑原襄

京都市上京區室町通
上立賣下ル裏築地
九十一番地

特許第一〇三五五〇號 蘭草より木綿狀纖維を製造す
る方法

〔内容〕細切せる蘭草を重亜硫酸鹽の水溶液の煮沸よ
り生ずる蒸氣により加壓する工程と苛性曹達を加へ煮
沸し漂白を施す工程と其他の工程を施行結合し乾燥し
てなる製造方法

山田吉之助

栃木縣上野原郡鹿沼町
下府所二二〇番地

特許第一〇二八七六號 植物性纖維又は其の製品の漂
白方法

〔内容〕植物性纖維又は製品を精練爲し漂白粉溶液に
炭酸「アルカリ」溶液を注加し得たる清澄液に硫酸「ソ
ーダ」溶液を加へ品質を損傷せしむることなく優秀の
漂白効果を得る方法

前澤慶作

東京市本所區江東橋
二丁目二番地

特許第一〇三〇三八號 笹たわし原料の製造法

〔内容〕笹の桿莖を潰砕し硫酸「ナトリウム」の溶液中
に於て加熱したる後稀薄なる酸溶液に處理して優良な
る「たわし」を製出せしむる方法

藤田正一

東京府豊多摩郡
代々木町代々木初臺
五二〇番地

特許第九四八六一號 助劑添加に依る木綿精練法

〔内容〕硬化油を硫酸を以て「スルフォン」化し之に酸
性並にアルカリ性を混合し木綿を浸漬して加壓煮沸
なして精練す方法

荒木安二

小樽市堺町六十七番地

特許第九八七五〇號 「スガ」纖維處理法

〔内容〕「スガ」葉に生石灰及水を撒布し之に「アルカ
リ」性の混合液にて煮沸し更に漂白粉と「エローフ
ーブ」との混合液にて處理してなり綿花代用品製紙原
料其他の資料を得る方法

岸田清

大阪府北區北扇町
三十八番地
大阪府立工業研究所内

特許第一〇二二六五號 油綿より純綿纖維を回收する
方法

〔内容〕油綿に硫酸化脂肪油の水溶液を吸収せしめ金
網又は綿絲麻絲其他の纖維材料に造りたる網狀間に
挟み打撃する工程と他の特殊工程とに依り成る方法

下村陽吉

東京市王子區袋町
一丁目一七二番地

特許第一〇〇五四七號 眞流纖維精練漂白法

〔内容〕原料眞流を長時間苛性曹達溶液に浸漬したる

白田政吉

名古屋市中區花車町
十九番地

特許第九七八三號 竹皮漂白法

〔内容〕竹皮を深き容器内に多数林立し鹽酸の水溶液
と他の漂白粉の水溶液とを同時に流入し浸漬せしめて
竹皮の色素を脱離し純白色に漂白せしむる法

平山金一

和歌山縣伊都郡笠田町
大字笠田中七三六番地

特許第一〇二二三五號 椋蠶糞漂白法

〔内容〕椋蠶の糞葉を水と醋酸の混合液を以て煮沸し
後水洗乾燥の後夜露に曝し水に浸し乾燥して硫酸華を
以て燻晒して光澤に富み粘性大なる製品を得る方法

森常治郎

名古屋市中區御器所町
字都島十九番地

特許第九七〇九七號 稻葉より綿狀纖維を採取する方
法

〔内容〕稻葉を温湯に浸漬し泥狀漂白粉並に硼砂を加
へ鹽化「アンモニウム」及弗化「アンモニウム」を添加
して天然綿花に近似する綿狀纖維を得るにあり

酢谷藤三郎

堺市湊町十番地

特許第九四四四號 「ウキスコス」其他「セルロースエステル」原料精製法

〔内容〕廢棄物に均しき油類又は油系を特殊の方法に依り機械的に閉鎖風織することに依つて「ウキスコス」其他「セルロースエステル」原料精製を製造する法。



飯田常次郎

大坂市東區大田町四百六十六番地

特許第一〇四八二八號 綿布の加工方法

〔内容〕本發明は綿布を毛焼き及糊抜き操作を行ひたる後特殊水溶液にて高壓精練を反覆し次で漂白粉溶液にて漂白せる後「ロールカレンダー」を通過せしめ、更に特殊糊料を施すを特徴とする方法にして、比較的大番手綿糸を以て製せる原綿布に加工して従来極めて細番手綿糸を以て製せる原綿布に「シルケット」加工を施せる「ローン」仕上げ綿布と同様に柔軟にして弾力ある而かも美麗なる光澤を有する加工綿布を廉價に製造し得るものなり、従来綿布の精練は漂白の豫備操作として単に脱脂を目的としたるも本法は單に漂白の豫備操作に止まらず、綿纖維素質の一部を溶解して綿糸の織度を増大するを目的とするが故に従来の精練操作とは全く其目的を異にするものなり。

料を混ぜる糊材を模様状に印花し加熱又は蒸熱して模様を形成し得る製造方法。

堀田捨吉

足利市助戸町五番地

特許第九九九五號 糊織物製造法

〔内容〕動物又は植物性糸を以て適宜織成したる素地を苛性「アルカリ」にて処理し酸性物質の液に通入浸染し得る製造法。

寶來利一

堺市向陽町五九番地

特許第九三〇九號 虹輝光澤の絲製造方法

〔内容〕紙或は絹綿毛織物より成る糸條に酪素或は膠又は「アセチル、セルロース」を塗着し尿素其他の藥物を塗着して成る工程と他の工程の結合して成る製法にして光輝性の虹彩を糸類に施す方法。

大澤直三郎

八王子市小門町十番地

特許第一〇一八八七號 人造絹絲織物附加加工方法

〔内容〕人造絹絲又は纖維質の交織布に可溶性油脂の酒精溶液に樹脂の酒精液其他の硬化劑を混和せしめ噴霧状となし浸着せしむる工程と其他の特殊工程に依りて成る加工法。

中山善之進

東京市牛込區市谷藥王寺町七十四番地

特許第九八四八三號 毛織物加工法

〔内容〕毛織物を蒸熱により平布を收縮し皺縮を形成せしめる工程と之を急冷して皺縮を固定する工程とにより成り簡易且つ安價にてなす加工法。

永田朝次郎

廣島市片田町本町區一六五番地ノ一

特許第九九六九五號 人造絹絲生地模様顯出加工法

〔内容〕人造絹絲又は「メリヤス」生地型紙を使用して防處理糊を置き「アルカリ」性溶液にて處理し水洗後硫酸處理を行ひ「ラテックス」溶液中に通し他の處理工程を行ひて成る加工法。

則武和三郎

東京府原郡調布町字東調布四百四十六番地

特許第一〇三三五號 人造絹絲製造法

〔内容〕「ツイスコス」式人造絹絲を二群に分ち一群のみを濃硫酸槽内を通過せしめ兩者を「スポンヂウム」より成る濕潤装置の絲道を通過し其他の方法に於て光澤ある且つ韌性に富む人造絹絲を製造し得る方法。

熊田健一

津市下郡田所町千四百八十三

特許第九四一〇一號 別珍様織物製造法

〔内容〕明礬又は鹽化「ナトリウム」同「マグネシウム」を加へ更らに他の混合液に濕潤せしめ加熱分解作用により織物を別珍化し安價に優美なる織物を得る方法

大島徳左衛門

名古屋市東區千種町出口五十三番地

特許第一〇一五八五號 「シルケット」絲布製造法

〔内容〕植物性纖維より成る絲或は布を生地の儘又は毛羽燒のままにて苛性「アルカリ」浴中通し較り蒸氣中にて短時間に蒸熱し充分なる伸張を絲布に加へ洗滌なして光澤優良なる「シルケット」絲布を得る製法。

川原二吾

東京市小石川區茗荷谷町六

特許第九七三三九號 精巧「オフセット」印刷用原布の製造法

〔内容〕樹脂又は脂肪を「アルカリ」にて鹼化したものに礦物質粉末及明礬又は硫酸礬を添加し更らに混合藥品を混和し布帛に塗布することに於て精巧なる「オフセット」原布の製造法。

金澤勝之助

東京市豊島區池袋二丁目九百六番地

特許第一〇二一六號 糊料製造方法

〔内容〕鹽化亞鉛の濃厚なる硫酸溶液を以て動物性、植物性又は纖維を處理し溶解せしむる工程と溶液を澱粉々末中に噴射吸收せしめ火熱乾燥する工程と其他の工程との結合よりなり品質優良なる糊料の製造法。

横山正治

廣島市中區新町一八九番地

特許第九七七四號 西洋洗濯用糊

〔内容〕片栗粉と正鉄との混合物に過硼酸曹達及炭酸

安木勘之助

大阪市浪速区西四丁目
千十二番地

特許第一〇三七六二號 有色浮線織物製造法

〔内容〕動物性及植物性より成る線條を以て任意の組織の重織生地を製織する工程と次に石鹼液に浸し鹽化「バリウム」又は明礬液に浸漬処理する工程と其他の工程に依り有色浮線織物を製造し得る方法。

松下長太郎

京都市中京区釜座通
姉小路上ル津軒町
七六七番地

特許第九四二五五號 織物縫附法

〔内容〕織物地を左右反置し屈折重合し折疊む工程と挾持壓縮して型縫附を施す工程と他の特殊方法に依り縮減模様を形成して織寄布を容易に製出する法。

丸山宗三

足利市通三丁目
三五〇四番地

特許第一〇二九三八號 紋縮織物製造法

〔内容〕絹織物又は絹交織物を處理布とし強撚糸にて縮布を密着重合して軸に捲縮め蒸熱解舒し處理布を任意の紋様を有する押型「ロール」間に送りてなる簡單なる製造法。

古川英一

濱松市元城町九七番地

特許第九九〇六〇號 透模様織物製造法

〔内容〕植物性纖維より成る織物に硫酸、鹽酸其他の脆化剤に糊料を添加したるものを任意の部分に模様を印捺し後乾燥加熱して處理して透孔模様を構成する製造法。

遠藤太一郎

静岡県富士郡元吉原村
鈴川十四番地ノ五

特許第一〇三一九一號 木綿光澤絲製造法

〔内容〕木綿糸を染料及「オイルエマルジョン」を添加せる膠又は「ゼラチン」の水溶液に處理し乾燥する工程と水醋酸を以て處理する工程との結合より成る防水性に富める光澤絲を得る製法。

佐藤節郎

滋賀縣坂田郡長濱町
南興原百三十一番地

特許第一〇三三〇一號 強撚絲の撻戻り防止法

〔内容〕綿絲布の精練廢液を附與したる上強撚絲機にて強撚し蒸熱して廢液中の蠟質を凝固せしめて優良な織物を得る方法。

木村市太郎

足利市西宮町
一千九百三番地

特許第九五二三五號 織物整理方法

〔内容〕織物を膠又は蛋白質物の粘糊液中に酸性混合液をして「ローラー」を加熱状態の下に處理布を通過せしめ押出紋様を形成せしめて成る織物整理方法。

霜垣覺次

濱松市田町二百廿番地

特許第一〇三三〇〇號 サロン織布に於ける耳袋の定着方法

〔内容〕織物の耳袋を形成する部分の經絲に苛性曹達の溶液に處理し半乾燥布耳部を凹凸面の板の凸頂に植針せる針頭に張貫し其他の方法に依り容易に耳袋の振伸せざる織布を得る方法。

北林三郎

足利市通一丁目
二七〇四番地

特許第一〇三五七三號 縮織物整理法

〔内容〕片撻縮の生地布を湯又は水に濕潤する工程と模様を彫刻したる「ロール」の間に通す工程と精練漂白及「シボ」立てを行ふ工程と其他特殊の工程の結合によりて成る整理法。

下山文四郎

群馬縣佐波郡伊勢崎町
四百七十番地

特許第一〇一八七九號 縮織物製造法

〔内容〕任意に染色し或は染色せざる線條を明礬液に浸し弱粉と石灰末との混合泥液を塗布し更らに「ゼラチン」の熱溶液を通過せしめ加熱せる横溝を表面に有す齒車金屬製「ロール」間を通じ其他の處理に依りて成る製造法。

莊司市太郎

大阪市東淀川區中津
濱通五丁目六五番地

特許第一〇〇〇七三號 織物生地及絲の處理法

〔内容〕織物生地又は絲を適度の尿素及「フィルムアルデヒド」の水溶性縮合物にて處理する工程と加温中にて處理する工程と酸性瓦斯體にて處理する工程の結合より水洗して成る處理法。

相澤長太郎

東京市日本橋區濱町
二丁目八十八番地

特許第九六二六七號 縮織物冷凍整理方法

〔内容〕眞空排氣状態に於て「ドライアイス」の如き強度の冷凍剤に依る縮織物の冷凍處理法。

森田庄三郎

津市下郡田町六一八

特許第九九四四四號 紋「パール」織物製造法

〔内容〕「タオル」地別珍等の輪糸を有する織物の面に適宜の模様を應じ糊料を印花し「ロール」間を通過せしめ輪糸を壓潰整伏し蒸熱して起立せしめ起毛機に掛け水洗脱糊せしめて成る製造法。

關口梅吉

一宮市長良町
二十五番地

特許第一〇一九二八號 布帛整理劑

〔内容〕滑石粉末流酸「バリウム」酸化亜鉛、鹽化錫、醋酸鉛、生鉄、膠「トラガントゴム」「カゼイン」及石鹼又は「ロート」油の混合物に「ステアリン酸」蠟「パラフィン」及明礬又は醋酸礬土を含有せしめて成る耐久性の製品を得る方法。

須藤由次郎

東京府豊多摩郡戸塚町
下戸塚三三四番地

特許第九七三三九號 特殊縮加工上法

〔内容〕動物性又は植物性より成る交織布を脱糊し更に柔軟剤を吸収せしめ之を聲打作業を施して特殊な方法工程により縮加工仕上げを極めて簡單に行はしむる方法。

生田六郎

徳島縣名西郡
石井町大字石井
九百三十九番地ノ一

特許第九五二三三號 縮解舒法

〔内容〕密閉したる「タンク」内に數分間縮を温湯に浸漬し排氣作用を與へてなる方法に依り線量線質を優良ならしむる新規の縮解舒法。

島尾由松

堺市北橋橋町
二丁目九三番地

特許第九五七六九號 防水性足袋底製造法

〔内容〕蒟蒻粉及「タビオカ」の水溶液と「パラフィン」の石油溶液とを混合し之に鉛糖及明礬を温湯に溶かし更らに二三の混合藥品を添加し攪拌して混合なし強靱にして安價なる足袋底を得る方法。

平岡友次郎

埼玉縣入間郡
所澤百二十番地

特許第一〇〇五三九號 耐水防酸線縮織物製造法

〔内容〕綿絲を「ゼラチン」溶液處理「ホルマリン」稀薄液處理の右二工程の線と撻加工を施したる線とを經緯とし織上たる布を苛性曹達溶液にて處理し其他の工程に依りてなる製造法。

土方半次郎

東京市京橋區
新富町一丁目九番地

特許第一〇〇三五〇號 疊織製造法

〔内容〕「ゼラチン」に「フォルマリン」其他の混合溶液中に動物性顔料を加へ第一塗料を綿織布に施し伸張乾燥をなし「ラック」を混入第二塗料を施してなり麻製のものと同様の疊織を製造し得る。

土屋徳次

東京市京橋區
新富町三丁目八番地

特許第一〇〇三五〇號 疊織製造法

〔内容〕「ゼラチン」に「フォルマリン」其他の混合溶液中に動物性顔料を加へ第一塗料を綿織布に施し伸張乾燥をなし「ラック」を混入第二塗料を施してなり麻製のものと同様の疊織を製造し得る。

千葉壬驥

東京市本郷區
菊坂町三十七番地

特許第一〇二六二八號 煮繭方法

〔内容〕煮繭湯中に空氣を壓送し湯を泡沸せしめつつ發散する高温氣體を導管に依り槽外に誘導し後「ポンプ」にて煮繭湯中に循環壓送して成る有利なる方法。

田島九八

横濱市神奈川區子安町
溝下千六百二十番地

特許第九五五八八號 煮繭法

〔内容〕繭粒を熱湯中に浸漬し室を密閉遮断して室外より加熱し内壓を上昇して煮熱作用を行はしめ熱湯を冷水に置換して成る煮繭法。

中川房吉

東京府北豊島郡
瀧野川町四ヶ原
千七百七十四番地

特許第九四五三一號 透透煮繭方法

〔内容〕蒸気又は之と同程度の熱湯處理を爲したる微温湯に浸漬し煮繭容器が通過する湯面附近に壓縮空氣を吹込み攪拌す工程に於て解舒及線質を良好ならしむる方法。

向山紀之治

埼玉縣北足立郡
大宮町一〇番地

特許第九五七一一三號 煮繭方法

〔内容〕煮繭處理中煮繭湯及繭に對し一定したる連続的に微細の機械的振動に依り解舒を良好ならしめ線條の品位を向上す煮繭方法。

増澤龜之助

長野縣諏訪郡
平野村八四二番地

特許第九六三〇號 蒸汽加壓蒸餾方法

〔内容〕 蒸餾を高温度に處したる密閉器を其儘蒸氣を供給し加壓に伴ひ温度を上昇せしめ後冷却を施す工程に依り均等に蒸餾を煮熟なす方法。

小島吉代

東京府在原郡目黒町
字上目黒一九九〇番地

特許第一〇二五七一號 壓力蒸餾方法

〔内容〕 密閉蒸餾槽内に入れ水蒸氣を送り込み浸透せしめ特殊工程を施して沸煮せしめて成る沈澱蒸餾方法



藤市郎

大南區
西成區
通南區
五丁目一丁目

特許第七八五三〇號
同第一〇三三三三號 蠶繭解舒法

〔内容〕 蠶繭解舒を良好ならしむる目的を以て過剰の亞硫酸を含む「アルカリ」又は「アルカリ」土類の重亞硫酸鹽の酸性溶液を練糸湯中に添加することは従來公知のことに屬するも右藥劑は強亞硫酸臭を發し工場衛生上缺點尠ならず、本發明は此の缺點を除去する目的に於て特殊の溶液を練糸湯中に添加し之に煮熟蠶繭を懸

猪飼博

京都市右京區
醍醐町上醍醐
井頭町十二番地ノ五

特許第九八二六號 絹紡絲處理法

〔内容〕 絹紡絲を中性鹽類其他の濃厚熱溶液中に無水葡萄糖を添加したる溶液を以て處理し硫酸曹達其他の溶液を以て弱酸性ならしめたる處理法によりて成る方法。

井上武三郎

京都市東山區
今熊野南谷町一丁目

特許第一〇二五六號 絹紡原料解舒劑

〔内容〕 「パラフィン」油と高級飽和脂肪酸を温湯に溶解せるものを「アルカリ」蛋白及其他酸曹達を温湯に加へ粘稠液に混和して成り絹紡原料の解舒に對し満足せしむる處理劑を得るに在り。

富久力松

大阪府南區瓦屋町
三丁目六十五番地

特許第九四四九二號 絹紡絲處理法

〔内容〕 「アルカリ」性及「アルコール」性などの混合液を以て處理する工程にして特殊な方法に依り製品絲條の處理劑の使用を有利ならしむる。

味勝成美

大阪府豊能郡豐中町
東洋紡績株式會社
豐中

佐藤専八

山形縣西田川郡
温海村大字温海
甲二百十六番地

特許第九四四七三號 蠶繭解舒増進法

〔内容〕 酸性亞硫酸曹達水溶液と「フォルムアルデハイド」水溶液を化合し得たる「アルカリ」性を水に溶解し煮熟後溶液中に浸漬處理を施して優良なる絲質の生絲を生産し得る方法。

佐藤五郎

廣濟市中區本町
四丁目四十三番地

特許第一〇二六三八號 煮繭方法

〔内容〕 常態に於ける沸騰點以上の高温度を保有し沸騰せしめざる如くせる繭湯中に繭籠を進行せしめ良好なる煮繭を行ふ方法。

岡崎恒助

足利市雪輪町
二一三九番地

特許第九六二二五號 織物に透し模様を現出する方法

〔内容〕 交織せる織物に石鹼及苛性「アルカリ」と二三の混合液を加へたる處理劑を蒸熱を行ひ水洗乾燥して織物に適宜の透し模様を現出せしめ得る方法。

和倉和

京都市左京區
高野清水町二十六番地

特許第九五五六號 毛氈の混在する絹織物處理方法

〔内容〕 水に水化亞硫酸曹達を加へ絹織物を浸漬し之を加熱したる後壓搾空氣の手段により絹織物工程に中毛髮抽出作業の手續を省略し製品價値を増大ならしむる方法。

金箱保

上田市大字上田
四千七百四十六番地

特許第九六九三號 生絲處理法

〔内容〕 生絲を苛性曹達牛乳及「アンモニア」水等より成る混合水溶液へ胡麻油等の混合水溶液を滴下しつゝ冷液中に通過せしめ加蒸加熱室に導き乾燥してなり無燃の抱合絲を得る處理法。

永井新太郎

京都市中京區
油小路通四條上ル
藤本町五四八番地

特許第九〇九七號 絹布増量防水仕上法

〔内容〕 乳狀化物鹽類水及「ゼラチン」等混合液を吸収せしめ乾燥し巾出艶出等の工程を施す簡單なる方法。

高橋昌太郎

上田市原町
五千七百八十六番地

特許第九九二七號 生絲の絲條疵を除去する方法

〔内容〕 數條の集緒絲條若くは生絲を石鹼「アルカリ」或は脂肪の加熱溶液中に通過せしめ生絲の結成層を膨化し「セリシン」其他の膠着力を弛緩せしめ加熱せる細孔を通過せしめて成る方法。

梅津忠作

前橋市榮町五十五番地

特許第九六九五號 絹絲加工法

〔内容〕 強燃及弱燃を施したる絹絲數條とを相合し之を温湯に漬して乾燥し精練する工程により防変用織物に適する絲を得る方法。



藤井庄太郎

特許第八三三五五號 植物性纖維精練漂白法

同追加第八六四一四號 動物性纖維精練漂白法
同追加第八八八五號 植物性纖維精練漂白法
〔内容〕 特許第八六四一四號は前特許の方法を擴張したるものにして、特許第八八八五號は

前特許の方法に改良を加へたるものなり。

即ち一は動物性纖維例へば生絲を精練或は漂白液と共に密閉釜中に收容し熱を加ふることなく常温の下に釜中に壓力を加ふることにより精練漂白を行ふ方法にして、密閉釜中の壓力は密閉釜内に其の内部が所要壓力を支持するに至るまで唧筒其他の手段にて空氣を壓送するか又は精練或は漂白液自體を壓送することにより保持し得べく工業的に頗る有利なる特長あり。二は植物性纖維例へば綿絲を密閉釜中に收容し唧筒にて釜中空氣の吸引を行へば釜内の空氣が排除せらるゝと同時に纖維中に含まるゝ空氣も亦除去せられ之に眞空の吸引作用により精練或は漂白液を送入する時は液は纖維の芯部にまで吸引せられて迅速に且つ充分に浸透し常温加壓の下に行ふ原特許の處理法と相俟ちて一層短時間に精練漂白を行ひ得るものなり。

松浦喜一郎

徳島市南佐古町
初江島二十二番地

特許第九四二六六號 混合絲製造法

〔内容〕 繭を高熱の蒸氣に加熱し後冷却せる酸性染料液中に浸し之に配合して成る精練劑を混じて絲條の配色を任意ならしめたる混合絲を得る方法。

小内亮一

八王子市横山町
一一一六番地

特許第一〇三三三號 生絲染色隱微處理法

〔内容〕 可染生絲を「チアイナクレ」又は「ソープス

トーン」の如き鎖物質微粒子を水に混合せる液中に浸漬処理して生糸の觸感風味を害することなく加熱染色し得べき生糸を得る處理法。

寺内良太郎

群馬縣佐波郡伊勢崎町
西園町百六十一番地

特許第九六五八號 絹織物特殊耐仕上法

〔内容〕絹織物を動物性糊料を附着して捲き込み加蒸加熱により溶融状態となし絹織物に移收せしめ凝固せしめて成る仕上法。



一 清 根 坂
京 都 市 芝 区 京 橋 一 丁目

特許第一三三三五號 生糸様紡績糸製造法
同 第三三三六八號 紡績糸の糸味を佳良ならしむる法

〔内容〕セリシン又は其同効物質を含有せる紡績糸を緊張又は伸張し或は伸張しつゝ、アルカリ又は石鹼の水溶液又は素湯中に於て沸煮するか、又はアルカリ若しくは石鹼の水溶液を含ませしめて蒸熱し緊張又は伸張したる程度に於て堅牢なる習慣性を附與し洗淨し酸水に通じ脱酸水洗して仕上ぐるものなり製品は練白、漂白、染色等により光澤を失ふことなく又過柔となり織毛を生ずることなく染料の吸収力急貧ならざるを

以て生糸との交織に色相の差を生ぜざる等の特徴を有す。従来絹糸紡績は僅かに縮緬伊勢崎絹木綿綿等の練糸又は綿糸に用ひらるゝに過ぎざりしが本發明に依り練糸としても使用し得るに至り全く生糸の練製品に劣らざる域に達せしめて我國絹糸紡績界に一劃期をなすに今日に如く斯業の隆盛を見るに至りしものなり。

菅沼三省

京都市上京區
小田花ノ木町四十番地

特許第九四七五號 絹絲加工法

〔内容〕柞蠶絹織物と家蠶絹織物とを練絲工程中に於て加熱乾燥し湯湯中に浸漬なし練絲を膨大ならしむる加工法に依り弾力を一層増加せしむる。

岩橋貞男

大阪府豊能郡豐浦村
字車水六百六十五番地

特許第九三三三號 毛莫大小紡績加工法
同追加第九二二一六號

〔内容〕本紡績加工法は毛莫大小を最初に石鹼

液にて處理し毛纖維に附着せる油脂類並不純物を除去し、且つ少時間の縮絨操作により毛羽を起したる後防縮加工をなすが故に「クロール」の作用緩漫にして纖維の芯部に迄及ぼすを以て従来本發明によらずして行ひたる「クロール」による方法よりも一層完全に防縮作用を行ひ得るものなり、殊に適度の濃度の藥劑を使用するときは防縮作用が完全なるのみならず纖維の損傷することなく、染色の際用ふる染料も如何なる種類のものをも自由に使用し得て染色も亦均一になし得るなり、此の工程を経て水洗し漂白又は染色し之を次亞硫酸曹達と沃度澱粉の水溶液に浸漬したる後攪りて過剰の「クロール」を除去し、纖維の黄變若しくは脆弱となるを防止し、最後に石鹼溶液にて處理して纖維中に残留せる酸類を中和し、同時に表面に附着せる不純物を除去し一層柔軟性を附與せしむると共に水洗乾燥せしむる工程との結合より成るものなり。故に毛纖維の表面に有する「スケール」を剝離せしむることなく之を伏せ保たしめて防縮し、同時に毛纖維の光澤を増加し毛纖維の特徴たる柔軟性と縮絨性の特微とする吸水性を具備せしむるが故に普通の毛莫大小の缺點を除去し得、發汗時に於ても不快の感を抱かしむることなきものとす。

川村作治郎

東京市品川區大井
寺ノ下町一四二五番地

特許第一〇三三四五號 毛莫大小防縮加工法

〔内容〕毛莫大小を石鹼及曹達の混溶液にて洗滌した

る後縮絨せしめ湯湯及冷水にて水洗する工程と他の特殊工程の結合によりて成る毛纖維の光澤と柔軟性とを増加せしむる加工法。

高橋孝次

大阪市北區東野田町
八丁目九番地

特許第一〇二二七六號 毛董纖維の處理法

〔内容〕毛董纖維を僅少の膠質物を添加せる硬化劑の溶液中に浸漬し乾燥後之を「イオン」化傾向少き重金属の硝酸鹽類溶液を以て處理して皺縮性と縮絨性とを増大ならしむる方法。

山崎敏一

東京市麹町區
紀尾井町六番地

特許第九六一〇號 羊毛メリヤス處理法

〔内容〕「クローラ、カルキ」の溶液と曹達の溶液との混合液に浸漬する工程と青酸加里の溶液に浸漬する工程との結合により光澤を賦與する處理法。

佐藤永利

東京市本所區龜澤町
一丁目三番地

桑形滿太郎

千葉縣東葛飾郡八幡町
字八幡一九七四

特許第一〇二二七六號 毛絲又は毛メリヤスの鹽素處理法

〔内容〕紡績したる毛絲又は毛「メリヤス」を精練することなく「ロート」油硫酸曹達酸「アムモニウム」及漂白粉の混溶液に浸漬し稀薄混溶液にて處理して染料に對する親和力を増進せしむる方法。

井上武三郎

京都市東山區
今熊野南谷町一番地

特許第一〇二五七七號 防水劑製造方法

〔内容〕植物油に少量の「エステルガム」を加熱溶解し之に苛性加里又は「アンモニア」水と「エタノール」と水より成る溶液を加へ其他特殊溶液を加へて優秀なる防水劑を製造し得る方法。

井上清一

京都市上京區
柴竹初音町八〇番地

特許第一〇三三九七號 模造紙布製造法

〔内容〕滿毛羽の葉等を除去し製綿機により板狀綿となし「アムモニア」水を散布し熱「ロール」に壓搾乾燥する工程と他の特殊工程に依り堅牢なる模造紙布の製造法。

林繁

大阪府港區八幡屋賣町
二丁目二一五番地

特許第九五六四號 模造麻紙製造方法

〔内容〕大麻若しくは苧麻等を所定の苛性曹達液に浸漬し水洗の後酸類を以て處理し、之に特殊な方法を加へて強靱なる麻纖維紙を得る。

西尾秀男

兵庫縣武庫郡精道村
芦屋古新田五九二

特許第九五〇九號 乾燥性油脂による擦絲法

〔内容〕植物性混合油の乾燥性油脂を有機溶劑にて稀釋せしめて擦絲前被擦絲に添加して擦絲を行ふ方法。

西岡作松

佐賀縣杵島郡小田村大
字上小田三七二番地

特許第一〇〇三三九號 纖維處理法

〔内容〕硼酸を混溶せしめた「セラチン」の水溶液に「パラフォルムアルデハイド」、「フェノールフォルムアルデハイド」初期縮合物、明礬及樟腦を添加攪和したるものを絲布に施して耐久性の處理法。

横田武十郎

大阪府西成區南海通リ
二丁目長樂園二十一號

佐藤輝五

滋賀縣栗太郡沼田村
字澁川八八九番地
平岡文二郎方

特許第九五〇九三號 絲布の防水法

〔内容〕織布又は原絲を糖蜜と石鹼との混合乳液に浸漬したる後金屬鹽類溶液にて處理することにより耐水性の大なる防水絲布を容易に得る方法。

永井忠藏

京都市中京區油小路
六角南入六角油小路町
第三百十七番地

特許第九九一六八號 織布防水加工法

〔内容〕織布を「ステアリン」「オリーブ」油及椰子油に「アンモニア」を加へ液に浸漬し脱水して乾燥し蟻酸「アルミニウム」の第二液に浸漬し乾燥せしめてなる防水加工法。



大角卯助 東洋スロ株式會社
京都府京都市中區生野五郎
所野町三十七番地

特許第八五〇六四號
同第九〇〇二六號
同第一〇〇二七四號
同第一〇〇三七八一號
同第九六四六六號

ブツククロス製造法

同第九六四六六號

簿記帖用商標刻入黒色

同第一〇〇〇〇四號

装釘用ブツククロス

同第一〇〇二七三號

製造法

同第一〇〇〇一五號

雲母粉を以てなるブツ

同第一〇〇六二二號

ククロス製造法

同第一〇〇三〇八號

ブツククロス製造法

同第一〇〇三〇九號

製造法

同第一〇〇二六五號

トレーシングクロス

同第一〇〇三〇八號

製造法

同第一〇〇三〇九號

製造法

同第一〇〇二六五號

製造法

同第一〇〇二六五號

製造法

輸入品なりし洋式簿記帖表紙を一瞥し將來文化の進展に伴れ需要激増すべく看取し之が製造を發願す。實に三十數年前の事なり。

次で三十五年一月京都市千本通下長者町に移轉し、茲に始めてクロスを製造す之我國に於ける斯業の濫觴たり。

明治三十八年十二月現日本クロス工業株式會社の前身たる京都染再整合名會社を起し自ら創案せし特種機械を以て大量的産出に迄進展せり

時恰も斯業研究に歐米留學中の農商務省工業試験所高松技師歸朝し、該製法の研究を募集す。應ずる者五十六名。數週間の講習を完了せしは僅かに氏一人のみ他は不採算を察し中止せるなり。此一事を以てするも當時斯業の至難を知るべく、同時に氏が如何に初一念に熾烈なりしかを察すべし。

兎まれ此講習に依り得たる新智識を根據として色物クロスの製造を企圖せり。當時適合する原布、原料を得る事困難にして日夜實驗考察に没頭し、卒倒數回に及ぶ必死の苦闘を續けたり。當時東京方面にクロス製造工場の設立ありしも程なく終熄せるに見るも這業の至難なりしを察知せらるべし。

大正三年歐洲大戦勃發し輸入杜絶せるを以て必然的に註文殺倒せり。製造能力尠く且品質に對し截然たる自信乏しきながら晝夜兼行製造に忙殺されたり。斯くする内も品質の向上に専念し。始めて大正四年「ブツククロス」に關する特許第二七四八九號を得、漸次世上に認識されるに至れり。

大正八年一月經營上の意見を異にしたるを以て分離し京都市四條大宮西入るに東洋クロス株式會社(前稱京都染再整合株式會社)を創立したり。

其後三省堂龜井顧問殿を始め關係各位の指導援助の下に今日の隆昌を招來せり。其間トレーシングクロス。ウインドウクロス。の製造をも併せて開始し當該特許十三件を獲得し今や品質價格數量等に於て斷然他の追従を許さず、且完全に輸入を防遏し、進んで、滿洲、支那、印度南洋等にまで販路を擴大せり。

同氏は三十餘年前に發したる初一念を貫き得て些からず邦家に裨益する所ありしを欣快とすると共に、我國ブツククロス製造の先覺者としての矜持を操守し益々研究を進め將來の活躍を期し居るものなり。

同社に於ける營業品目左の如し。

製品
ブツククロス トレーシングクロス
ウインドクロス 荷札クロス
包装クロス 絶縁クロス等
加工
本絹、人絹、綿、絹紡、毛及其相互交織
々物の染色整理一切。 以上

高島 敦
東京府原町人新井町
新井宿二八八番地

特許第九六五九五號 縫布用防水劑製造法
〔内容〕松脂及「コーバル」と亞麻仁油とを以て生成し

同社に於ける營業品目左の如し。

製品
ブツククロス トレーシングクロス
ウインドクロス 荷札クロス
包装クロス 絶縁クロス等
加工
本絹、人絹、綿、絹紡、毛及其相互交織
々物の染色整理一切。 以上

高島 敦
東京府原町人新井町
新井宿二八八番地

特許第九六五九五號 縫布用防水劑製造法
〔内容〕松脂及「コーバル」と亞麻仁油とを以て生成し

たる假漆に石蠟「ワセリン」を混和し其液に醋酸「アルミニウム」「アミール」を加し揮發油にて溶解して成る悪臭を消去せる防水劑を得る。

永井 輝雄
大阪府住吉區南町
西三丁目五十四番地

特許第九八八二六號 紡績用原綿油處理法
〔内容〕油と水を混合攪拌して「エマルジョン」を形成しつつある間染色又は漂白したる原綿を投入し原綿に油を浸透せしめ脱水乾燥なし優良なる製品を得る原綿油處理法。

山本 鈍太郎
岡崎市能見町
七十六番地

特許第九八八八五號 絹織維防水加工法
〔内容〕繭、繭毛羽或は採絲の際の緒絲等を「クロロム」鹽類の溶液中に「ロート」油其他の配合液の浸透劑を加合し加壓なし後熱湯にて處理してなり羊毛と同效なる耐水織維を得る加工法。

山本 潤太郎
大阪府天王寺町
北日東町百四十四番地

特許第九四二九五號 繭毛羽紙製造方法
〔内容〕二重層を形成せる繭毛羽帯の中間に水を含ませ之に「テレピン」油又は揮發性油を噴射せしめ熱「ロール」の壓接間を通過せしめて光澤ある成品を連續的に製出する方法。

長濱 喜一郎
東京府北豐島區板橋町
金井第六百二十四番地

特許第九七三三四號 濕布帶製造法
〔内容〕燈心格及綿の混合原料を苛性曹達溶液に煮沸し漂白となす工程と之に蒟蒻糊を混合攪拌後醋酸「アミール」及「エーテル」を混和してなる工程に依り濕度の吸收性を大ならしむる濕布帶を得る方法。

梅谷 徳松
大阪府天王寺區上本町
七丁目六十六番地

特許第一〇〇三四五號 保温防寒布
〔内容〕「グリセリン」水溶液又は「グリセリン」を「アルコール」に加へ蕃椒末を加へ加熱し「カフェイチン」を主成分とする浸出液を採取し硫黄末を混じて均質液を布面に塗布して保温性顯著なる防寒布を得る。

特許第九六〇二四號 織維毛伏劑
〔内容〕「エステル」と「ステアリン」酸及「オレイン」酸

松本 新作
横濱市中區本町
六丁目五十番地

特許第九六〇二四號 織維毛伏劑
〔内容〕「エステル」と「ステアリン」酸及「オレイン」酸

東吉 祐
東京府豊島區池袋
一丁目六一三番地

特許第九九六八〇號 「トレーシングクロス」の製造法
〔内容〕「アラビヤゴム」又は糊性的水溶液と其他の水

溶液を煮沸したるものを混合し「グリセリン」を注加混和し其他の特許工程によりて成る製造法。

佐竹 勝兵衛

京都市日本橋區
錦町二丁目十四番地

特許第九八五三號 編織物製造方法

〔内容〕人絹糸布綿布紙類に動物性纖維素溶液と「セラック」の「アルコール」溶液と柔軟剤とより成る混和溶液を塗布乾燥することに於て質堅緻なる耐水性編織物を得る製造法。

酒井 克己

京都市東山区北花山
大塚町三十七番地

特許第一〇〇九二號 防水網製造法

〔内容〕植物纖維を「アルカリ」鹽類を以て特練したる後亞麻仁油其他の薬液より成る第一液に浸漬して乾燥し滑石、桐油其他の溶液を第二液より成る第二液を附與加熱して成る弾力性の摩擦に耐ゆる網の製造法。

御法 川三郎

京都市小石川區
初音町四番地

特許第九八二五八號 絲綵に於ける絲條の浸潤法

〔内容〕密閉容器内に數多の絲綵を收納し水壓を加へ水を浸透せしめ壓縮空氣の操作により絲條を均齊に浸潤せしめ得る装置。

磯部 惠太郎

靜岡縣濱名郡和田村
橋羽五二番地

特許第一〇〇五二號 人絹紡絲用「ポット」

〔内容〕凝固液の流出口を下方に有し廻轉軸に取付け得る様構成する外區の内部に數多の穿孔を穿てる内區を配置し外區に螺入せる蓋體に依り彎曲部を壓止し其他の方法に依り汚毒を除去せしむる方法。

萩原 篤太郎

京都市下京區
土手町正西北留池町
三百七十番地

特許第九九〇三四號 中空式人造絹絲製造法

〔内容〕紡出せんとする人造絹絲紡出原料溶液に凝固液の細流を注出せしめ細流に依り中空纖維を構成して成る保温性柔軟性の製品を得る方法。

原 健

京都市中區
一〇〇三番地

特許第一〇一四四八號 人造絹絲紡絲用遠心器

〔内容〕遠心器承體の中央に固定せる圓錐形部を器底の凹窩に挿込みし遠心器と承體との圓周上に設けたる突起と孤狀凹窩との嵌合により作動せしめて生産能率高き遠心器を提供せしむる。

肌 勢 萬吉

兵庫縣武庫郡御影町
東明八番地、三三九

特許第九九二七七號 人造絹絲紡絲裝置

〔内容〕紡絲液管を脚に螺嵌したる座金とに依て支持

馬場 象夫

茨城縣多賀郡日立町
大字宮田五百番地
株式会社
日立製作所日立工場内

特許第一〇二九〇八號 スピンニングポット

〔内容〕内部側壁と底面との隅部に大なる丸みを有す底部を封鎖し紡絲室の内側壁と底面とを直角ならしめて高速度廻轉に對する強度を増大してなる方法。

蓮田 修一郎

山口縣玖波郡御井町
後地三六五六

特許第九五九一五號 綿布又は人造絹絲の交織綿布を麻地風となす加工方法

〔内容〕綿布又は人造絹絲の交織綿布を苛性ソーダ溶液にて處理後特殊な混合溶液にてなす工程の結合作用ならしめて交織綿布を麻地風となす加工法。

堀 久三郎

神戸市磯馴町
六丁目三番地

特許第九七七七號 再生絹絲製造方法

〔内容〕薬溶液に絹纖維の溶解を行ひ紡絲原液を調整し之を遠心分離紡絲機に依り「コロイド」を混溶せしめ凝固處理を行ひ有機酸を含む液に溶解し水洗して仕上げる各工程の結合よりなる方法。

菊池 文吾

京都市東區
安土町二丁目

特許第九二八三〇號 人造絹絲用糸捲支持器

同 第九九一四八號 人造絹絲紡絲裝置

〔内容〕人造絹絲紡絲裝置は従來絲條の材質紡絲速度「デニール」數並に温度湿度凝固液の濃度等の科學的條件等の變化に従ひ過剰液の量に變化あるを以て、絲條に與ふべき屈折回数及び角度並に絲導桿の向上を繞繞すべき弧の長さ等の條件を之に應じ變更するの必要あり假令同一番手の絲條を連續紡出すと雖も朝夕其他の條件を異にするが故に頻々として調整を行ふにあらざれば絶へず最良の條件を以て動作すること能はざるものなり、然るに本發明は上記の各種狀態の變化に應じて極めて簡易迅速に導絲徑路を變更して直に最良の紡絲條件を以て運轉せしむべくしたるものにして、「ゴデット」の側面下方に接近して承座を機枠上に定着し、承座の面には二個又は以上の絲導桿挿着孔を穿ち孔を基點として孔の直徑と等しき幅を有する斷面半圓形又は夫れ以上の深さを有する條溝を穿設しZ形即ち二本の平行線の一方向の頂點と他方の下端とを之等に直角なる線を以て結びたる形状に折り曲げたる絲導桿の根部を挿着孔に、又之れに續きたる直角折曲部を條溝内に夫々嵌着せしめたる事の特徴とす。

紡絲の番手又は材質に應じZ形絲導桿の位相差異なるものを挿し替ふることによりて絲條の

本 多 文 雄

京都市此花區
春日出町中四丁目一

特許第九四二七五號 スピンニングポット

〔内容〕蓋板の溝隙内に伸縮性「パッキング」、リング

を装填し「ポット」の廻轉に當り氣流の反動力に依り蓋板と「ポット」とを密着せしめ人為的操作を要せずして成る「スピンニングポット」。

戸田 政吉

福井縣坂井郡丸岡町
谷三ノ三五四

特許第九九九三號 人造絹絲特殊紡績法

〔内容〕 普通人造絹絲の「セントリフュール」式紡出工程に於て廻轉速度を高め「ポット」に捲取る方法に依り弾力性に富む製品を經濟的製出する装置。

富、久、力、松

大阪市南區瓦屋町
三番丁六十五番地

斧原 甚三郎

大阪市 浪速區
南高岸町四三番地

特許第九五〇三三號 「ウイスコース」式人造絹絲製造法

〔内容〕 二硫化炭素を「キサントゲン」酸化工程に使用する循環操作に依てなる「ウイスコース」式人造絹絲の製造法。

利根川 永吉

京都市上京區寺町野馬
口上九三三三九番地

増田 敏男

名古屋市中區露橋町
柳原百八番地

特許第一〇〇七三〇號 凝毛絲布製造法

〔内容〕 綿絲布又は絹綿毛交織布を第一溶液と第二溶液に混合したる液中に浸漬処理し後水洗更らに冷却せる濃硫酸を以て處理して弾性に富む光澤ある凝毛絲布の製造法。

液に混合したる液中に浸漬処理し後水洗更らに冷却せる濃硫酸を以て處理して弾性に富む光澤ある凝毛絲布の製造法。

大林 三吉

茨城縣多賀郡日立町
大字宮田五百番地
株式會社
日立製作所日立工場内

特許第九四六二七號 人造絹絲紡績装置

〔内容〕 紡績筒の周圍を圍繞する保護筒體を筒外部の氣流が紡績筒に直接影響せざる如き有孔筒體となし正規運轉を確保する装置。

小川 順造

京都市伏見區桃山町
松平武藏十八番地ノ一

特許第九八七〇六號 撚を掛けつつ捲取る人造絹絲紡績機

〔内容〕 「フライヤー」を紡出口上方に設け少數の道絲孔を通じて誘導し得る管捲軸と「フライヤー」とに別個の廻轉装置をなし堅牢なる製品を得る機。

岡本 新二

山口縣玖珂郡伊陸村
第四七三九番地

特許第一〇三二二號 絲布凝毛加工方法

〔内容〕 膠又は「カゼイン」と「フォルマリン」の混液中に鹽化アンモニウム若しくは同効劑を混合し絲布に浸透せしめ乾燥する工程に依る加工の成果を良好ならしむる方法。

逢坂 佐七

尼崎市 宮内町
二丁目九十二番地

特許第九八三二號 人造絹絲紡績装置

〔内容〕 機枠に定着された軸に「ゴデット」と二個以上の絲導杆を定着したる支持杆の基杆とを緩着操作することにより優良なる人造絹絲を紡出せしむる装置。

萩野 三郎

大阪府 豊能郡
熊野田村東豊中

特許第一〇四〇二二號 「レイオン・ファイバー」製造用凝固浴槽に於ける環流装置

〔内容〕 本装置は凝固浴槽内に導管體を設け紡絲孔より凝固液中に噴出したる紡絲を此の導管體内を経て槽外に引き出すことにより導管體内に常に紡絲と同方向の液流を生ぜしめ以て導管體内と其の外部との間に環流を生ぜしむべくしたるものなり。故に紡絲が導管體内を高速にて進行するときは之に伴ひて紡絲に近接する導管體内の液は紡絲と共に進行し、導管體中に紡絲と同一方向にして而も殆ど同一速度の液流を生ずべく従て導管體外の液は紡絲と反對の方向に流る、即ち導管體内と外部とに環流を生ず此の凝固液の環流の結果紡絲孔より出する紡絲は殆ど液による摩擦抵抗を受けて絲の太さ均一となり強力並に伸張度に富める人造絹絲を得らるゝと共に環流の爲めに導管體内の液は新陳代謝し従て紡絲の凝固作用増大し爲に在來のもの

に比し高速度に紡絲し得るものなり。
〔略歴〕 氏は明治三十二年愛知縣の出身、大正十年名古屋高等工業學校紡績科卒業、外國商館に技師として入社後十四年人絹工業研究の爲め歐洲諸國に滞在歸朝後人絹機械の國産化に着眼し、研究する所ありたり。



所工加布綿西關
藏 甚 士 渡
區見伏市都京
地番二十七町食飯西

特許第九六七九號 綿布凝毛加工法

〔内容〕 綿布を材料とし之に特殊の藥品と特殊の機械とを以て起毛せしめたるものにして主として生地の変換によりモスリン化せしめたるものなり。製品はアカンヤ毛斯、ワンダー服地と稱し市價の三分の一の廉價を以て市場に提供し得らるゝが故に一國の經濟上社會的國家的に貢獻する所頗る多大なるものあり。

〔略歴〕 氏は大阪府の出身明治四十年より泉南郡長瀧村に於て織機の研究をなし大正 年同村和田商店吳服部に於て綿布に關し研究中化學に依る生地加工の端緒を發見す、昭和二年十一月辭して京都市伏見寺田染染工場に入社、曩に端緒を得たる生地の変換主として綿布加工の技術的研究を進めたるも容易に完成するに至らず昭和四年退社、爾來自宅に於て専心生地加工に關

する研究に没頭し、爲めに幾多の犠牲を拂ひ遂に同七年七月綿布凝毛加工法を發明し特許を得て同十月同志二名と共に關西綿布加工所を設立し現在に及べるものなり。

加藤 茂三郎

東京市本所區松井町
一丁目二二番地

特許第九六五五號 絹地代用織物整理法

〔内容〕 糊基を一種若しくは數種配合せる糊料中に染料薬にて染色せる植物纖維より成る織物を叩打艶出せる後浸漬して仕上げる絹地代用織物整理法。

上三 信勘造

岡山縣 後月郡
高屋町八八六番地

特許第九七三三三號 綿絲布の凝毛加工方法

〔内容〕 綿絲布を過硼酸曹達又は次亜鹽素酸曹達と硫酸又は硝酸等の藥品にて處理する工程と特殊の混合液に處理する工程と更らに樹脂石鹼等の混合液を加へ温液中に處理し結合なす綿絲布の加工法

米田 豊

山口縣玖珂郡麻里布町
大字今津一三七二番地

特許第一〇一九五九號 「ウイスコース」工場に於ける苛性曹達廢液の回收に依り生ずる「ヘミセルロース」の利用法

〔内容〕 苛性曹達廢液中より「ヘミセルロース」を集め

酸類にて加水分解し糖化せる溶液を人造絹絲其他「ウイスコース」凝固液に添加せしめて有効に應用する利用法。

高橋 雄吉

倉敷市 倉敷
六百十四番地

特許第一〇二八九號 人造絹絲遠心力式新紡績方法

〔内容〕 「ケーク」の厚さの増加に従ひ連續的に導管槽車の廻轉数を増加し又は紡絲「ポンプ」の廻轉数を減少し兩者を併用することに依り一定太さの「デニール」を紡出せしむる方法。

竹内 光太郎

大阪府三島郡吹田町字
松ヶ島町一三三番地

特許第九九二三號 凝毛製造法

〔内容〕 「ウイスコース」を硫酸「アンモニア」「グリコール」水を混合し第一凝固槽内に紡出する工程と他の第二第三凝固槽を通過せしめる工程の結合に依り低廉なる刷毛を提供せしむる製法。

立川 正三

滋賀縣 滋賀郡 野所町
字中庄四百四十九番地

特許第九九三〇三號 人造絹絲の紡出均整装置

〔内容〕 人造絹絲製造原液が「ケルチエンフィルター」せられ孔面積の通孔を數個を有する「メタルディスク」に介設し原液を通過せしめたる後紡出すべくしたる適切な装置。

津田繁之助

京都市東山区醍醐町
南側五百六十五番地

特許第九九一六四號 天然絹絲の膠狀溶液より紡絲する方法

〔内容〕硝酸石灰溶液を主體となし濃厚なる硫酸化曹達及石灰又は沃化曹達溶液に天然絹絲を溶解し其他特殊工程を施して紡絲液を製出し作用なして光澤強力なる再生絹絲の製造法。

常田健次郎

京都市上京區新町
關寺の内南木ノ下
突抜町三百九十三番地

特許第一〇三九〇三號 脱硫不完全の人造絹絲に生ずる障害を防止する方法

〔内容〕水洗若くは硫化曹達液にて処理したる人造絹絲を炭酸石灰重炭酸曹達の如き炭酸鹽に酸中和劑を以て処理し糊付して光度、色澤、堅牢度の優良なる製品を得る方法。

根來鎌三

岡山縣都窪郡中州村大
字酒津一六五二番ノ一

特許第一〇二八七號 人造絹絲紡絲後處理装置

〔内容〕人造絹絲製造に當り紡絲機「フレイム」の周圍を旋回しつつ相接して廻轉する上下數列の「ボビン」列を配置して處理液を作用せしめて成る人造絹絲の製造法。

中村恒

京都市豊島區目白町
三丁目三五七〇番地

特許第九九一九四號 人造毛、人造綿等の如き收縮短機織、製造装置

〔内容〕絲束を供給する繰出「ローラ」夫々誘導「ローラ」を浴液内に有し搾液ローラを浴液外に有する水洗脱酸其他の連続せる處理浴槽其他の機構により「ローラ」等の廻轉を調節して簡易有利なる方法。

中村道雄

合數市合數六九三番地

特許第一〇三一六九號 人造絹絲紡絲装置

〔内容〕「ゴテット」に至る絲條を異りたる傾斜及彎曲を爲す二個の導子を撓裡し通過せしめて「ビーム」の滑動に依り調節各絲條に對し均一ならしめて操業を簡便ならしむる装置。

中根一二

神戸市舞合區西内町
五丁目二十四番地

特許第九九八四號 人絹用遠心式紡絲機に於ける廢液及廢液飛散防止装置

〔内容〕數多の分離孔を具ふる遠心分離を圍繞し截頭圓錐狀底附防止筒を設置し挿入孔及排出孔を設け自動的になす装置。

中矢義雄

京都市杉並區
阿佐ヶ谷六四三番地
西原八三番方

特許第一〇〇六七號 「ウイスコス」濾過管

〔内容〕透孔を有する數條の溝を外面に設けたる管に金屬線又は「セルロイド」線を開隙を設け卷付けて成り經濟的に優良なる「ウイスコス」を得る。

村上保助

滋賀縣滋賀郡
堅田町大字堅田
一三〇〇番地ノ一

特許第一〇三〇三一號 人造絹絲紡絲装置

〔内容〕「ゴテット」に接近して下方に機枠の表面に圓錐形の穿孔を穿ち突起を裏面に突設し糸導桿を表面に設けて成る平板を穿孔上に嵌着し其他の機構を設けて絲條の特性を微細に調節して成る装置。

上田文雄

大阪市此花區
恩賀島南町百七十番地

特許第九七一九號 綿絲綿布等の製麻加工方法

〔内容〕松脂「パラフィン」石鹼液を「アツパラチン」に加へて作る製麻湖を植物性纖維同加工品に糊付し醋酸「アルミナ」水溶液に浸漬して製出して製出なす操作簡單なる製麻加工法。

野口遼

朝鮮咸鏡南道咸州郡
慶南面湖南里一番地

特許第一〇〇八七號 人造絹絲の引張式紡絲装置

〔内容〕紡糸により出たる糸に凝固液に依り一定の處理したる後乾燥し適度の緊張を與ふる工程を施し熱處理をして殘留收縮を固定することに依りて成る方法。

楠正之助

奈良市今小路町
十一番地

特許第一〇一一〇號 織布「ウイスコス」化装置

〔内容〕断面倒凹字狀の密閉室の室内の上部に二段に相接する織布移送「ロール」一組つつ横架し其他特殊方法を施して成り構造操作簡單に加工實施せしむる装置

山本三六郎

東京市大森區入新井町
六丁目一四七三番地

特許第一〇一七三〇號 動物性纖維紡絲液調製法

〔内容〕絹屬纖維又は「ゲラチン」「ゼラチン」等の蛋白質物を分散せしめたる「コロイド」狀溶液に「アルキル」「エステル」又は「アルキル」鹽を混在せしめて優良なる纖維を人工的に再生せしむる方法。

山本松之助

東京府南葛飾郡
寺島町二百八番地

特許第九九一二號 人造絹絲用「スピニン」グロツト

〔内容〕環形環狀溝及穀孔に耐酸性資料を充填し耐酸性底と軸承孔を備ふる穀とを補強金物の内外に製造し加熱壓搾して合體硬化せしめて成る方法。

山内源登

大阪市住吉區昭和町
東四丁目九番地

特許第一〇三一九七號 動物性人造絹絲製造法

〔内容〕各種天然絹質物又は絹纖維を「コロイド」狀に分散せしめ得たる膠質液を細孔を通じて「チオ」硫酸加工

山田幸雄

名古屋市西區南口町
一丁目一番地
上村兼三郎方

特許第一〇二二四八號 人造絹絲製造用「ノズル」

〔内容〕捻廻せる數多の微細なる排出孔を有する人造絹絲製造用「ノズル」に依り捻廻性又は撓を有せしむるものなり。

福島郁三

京都市左京區
小畑ノ木町二七ノ一

西尾秀男

兵庫縣武庫郡禮道村
芦屋古新田五九三

高松勇治郎

京都市左京區
吉田牛ノ宮町八

特許第一〇二六二四號 「アルカリ」土金屬と重金屬とに依る蛋白質の溶解法

〔内容〕「アルカリ」土金屬類の酸化物又は水酸化物と銅「ニッケル」其他重金屬類の酸化物又は鹽類の一種又は數種を蛋白質と水に担合し膠質狀に溶解せしむる方法。

兒玉健太

福井市毛矢町
百十一番地

特許第一〇三五〇九號 再生纖維素人造絹絲織布の布味を改良する方法

〔内容〕再生纖維素人造絹絲織布を纖維素膨化劑にて

青木茂

滋賀縣坂田郡長濱町
大字米川十番地

特許第九七一五號 人造絹絲布類の加工法

〔内容〕撚合絲若くは交織布を脱糊粗練の後苛性「アルカリ」溶液に浸漬する工程と漂白劑其他の混合薬液により煮沸結合による工程とに於て優良なる製品を得る加工法。



所工加クルシロトニ
吉宗村木
町山桃區見伏市都京

特許第八七〇一四號 人造絹絲模造仕上加工法

〔内容〕人絹の耐水性皆無にして硬直なる等の缺點あるを改善したるものにして、耐水性を保有し洗濯に堪え皺を生ぜず爲めに風味を損する事なく柔軟なる觸覺を附與し抗張力を増し拙摺作用に堪ゆる等の特徴を有する加工法なり。

〔略歴〕氏は神戸市の出身、東京帝國大學工科に學び後獨學研究によりて専門的智識を修得す、業にラミー會社を設立して事業界に活躍する所あり、昭和六年木工所を創立して今日に至る夙に非常なる決心と努力とを以て遂にラミーの

紡績加工法を發明し、明治四十二年今治市に大元紡績會社を起しラミーの原料製造をなし、福山市に支社を設け陸海軍の御用を命ぜられて大に活躍する所あり、當時品質は世界の優たるものもラミーに關する特許七件を獲得す、人絹仕上法は此時代より着眼したるものにして本邦に於て此種特許を得たるものは氏を以て嚆矢となす、尙人絹に關する既得特許權二件出願中のもの二件あり、人絹全盛時代に於ける氏の貢獻されたる功績實に偉大なるものあり。

北島 幸喜

神戸市林田區吉田町
一丁目二百一十一番地

特許第一〇三七八二號 再生絹絲製造用天然絹の膠質
溶液調製方法

〔内容〕絹質を低温の無機酸に鹽酸にて分散し合酸絹質「ソル」となし冷水中に水解せしめ更に特殊方法を施して紡績原液を得る製法。

芝 時 孝

京都市下京區西園寺小路
久保町五十番地
第一工業製藥
株式會社 内

特許第九七一八四號 人絹處理用油劑の製法

〔内容〕蓖麻子油に濃硫酸を滴下する工程とこの硫酸化蓖麻子油と硫酸との混合物に「アルコール」を加へ更に「アルキル」化する工程との結合によりて人絹を處理する方法。

株式會社庄内川橋工所

三好 甲子郎

愛知縣西春日井郡
庄内町大字堀越
字乗越 二五八

特許第九六二五八號 髮毛製造法

〔内容〕「ラミー」の干草皮部を稀薄なる苛性「アルカリ」溶液中に浸漬し更に二硫化炭素を添加せる溶液中に密閉浸漬して作用せしめたる擬毛製造法。

目 信太郎

和歌山市吉田通り
三丁目百九十一番地

特許第九六三九八號 綿布加工法

〔内容〕各種綿布を皮革溶液中を通過せしめ稀薄「ホルマリン」液を浸潤して最後に硫酸銅溶液處理を行ふ各工程の結合により弾力性耐久性を有せしめて綿布の高級品を得る加工法。

森 分好雄

岡山縣都窪郡中洲村
大字 酒津
千六百五十二番ノ一

特許第九四二〇三號 葡萄酒液の製造法

〔内容〕厚絲を濃硫酸により常温或は冷却して溶解し加熱して糖化し之を濾過して「ビスコース」凝固液に返送する葡萄酒液の製法。

森 澤房次郎

京都市上京區新町通
鞍馬口上ル小山中邊町
三 一 番 地

特許第一〇三三六二號 人造絹處理法

〔内容〕人造絹及織物を完全に乾燥し之を濃度「ボーム」の苛性曹達溶液中に數分間浸し後水洗して加熱し

其他の特殊方法により弾力性の光澤ある天然絹と異らざる製品を得る處理法。

杉野 植吉

大阪市東淀川區
野中北通三丁目九番地

特許第一〇二八八四號 人絹用「スピンニグ、ボツト」

〔内容〕底部を貫きて外部に通ずる通氣孔を穿設し内底面に無端紐状の帯を嵌設せる中底板を着脱自在に嵌めて作業能率を高め「ケイキ」の汚損を防止せしめたる方法。

高橋 孝次

株式會社高橋製靴所
大阪市北區善源寺町
九丁目七十番地

特許第一〇二二七六號 毛革纖維の處理法

同 第一〇三三七七號 毛革纖維を以て帽體を製造する方法

〔内容〕本發明は通常の「フアー」又は「ウール」の帽體製造方法にては取扱ふことを得ざる特殊の性質を有する毛革纖維「フアー・ファイバー」を以て容易に帽體を製造する方法にして、元來「アングラ」兎の毛は纖維甚だ細く且つ一般の「フアー」に比較すれば纏絡性大にして之を短く切斷するも互に纏絡して分離し悪しく、従つて空氣の吹射に逢ふも團塊をなし空中に浮遊すること困難なり、而して之を「カード」に掛くるときは羊毛の如く長からず且つ強き纏絡性なきが故に綿帯は短く切斷し帽體型上に巻取ること全

然不可能なりとす、従て普通の兎毛は其一半は通常の「フアー」取扱の方法にて處理することを得れども他は剛直にして之と同様に取扱ふことを得ず、即ち特殊の作業によりて兩者を分類し其一半のみを利用するに過ぎず、然るに本發明は多數の實驗により「アングラ」兎毛を「ガーネット・ワイヤー」に掛くことを特徴とするものにして之により作業の甚だ容易なる「ウール」の處理工程によりて雅趣ある「フアー」の帽體を得らるゝものなり。



中 來 田 一

大阪府南區南船場
四番七番地

特許第六八三三二號 練絹樂器絨

同 第六九一六八號 絹入「ピアノ」線

〔内容〕樂器絨の原料は特に纖維の堅韌性を尊重せるが爲め従來特殊の繭を撰び産出したる生絲にあらざれば適せざるものとせるも、本練絹樂器絨は練絹を以て容易に完全に製したるものにして、練絹纖維は生絲纖維より幾分索引力は減少せるもより繊細なる練絹纖維は之に混和せる「カセイン」の抱擁凝結力により纖維全體は完全一體となりて其索引力を極めて増大するものなるが故に、絨本體が完全に一體となれる結果之が振動により發する音色は極めて清朗優雅

にして生絲製の及ばざる所なり、且つ絨の表面は緻密にして圓滑なる爲め運指容易にして雑音を發する處なく絶對耐久性に富むものなり。絹入「ピアノ」線は鋼線を充分に緊張したる儘特殊混合油を浸せる布にて拭掃したる後絹練にて外装し、其の外部に金屬線を螺旋したるものにして、斯く内外線中に練絹を挿入するときは外部の螺旋線は常に彈性ある座褥を隔て、芯線に密着するに依り兩線をして確實に一體となし螺旋線の弛緩を生ずることなし、猶芯線に塗布せる油分は練絹の纖維中に吸収して防錆となり更に優雅なる音色を發し定規の音律を保持せしめ得るものなり。

〔略歴〕氏は約二十年前洋樂器の絨線製造を開始し、専心絨線の發明考案に努力し本特許の完成を遂ぐるに至り、現在大阪府南區内藤井寺町に工場を設置し、樂器用絨線一切の製造をなし益々隆昌を極められつゝあり。

日本フェルト帽體株式會社

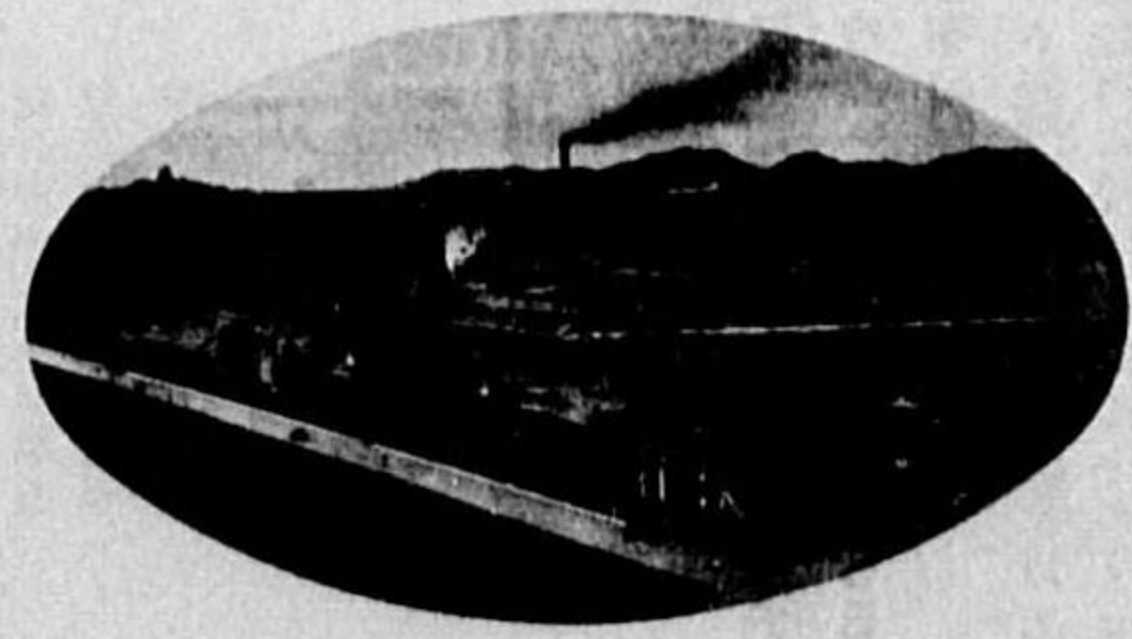
清水 待郎

姫路市城東町
百八十番地

特許第四〇六一二號 フェルトの改良方法

同 第四一七一七號 羅紗代用フェルト

〔内容〕本改良方法はフェルトの外見を變化せしめて優美なる外觀を呈せしめ且つ伸縮を制限し以て耐久力を増大ならしめ其用途を擴大ならしむる特徴を有す、其製品はレイヨン・フェルトと稱し帽子、手提カバン、テーブル掛、窓掛



敷物、婦人帶地、足袋、袋物等に其用途を有す年生産約一萬キログラム、販賣數約五百反にして内地は主として東京市に需要多く、滿洲に約壹百五十反を輸出す
羅紗代用フェルトは羅紗製造の複雑なる工程とそれに依り自然高價となる點を考慮し、フェルトの中心部に安價なる粗綿布を挿入加工し以て簡単に羅紗代用品としての目的を満足し得る品を肩毛を以て作り安價に市場に提供したるものにして、其製品はクローズ・フェルトと稱し羅紗に比し安價にして且つ耐久力に富み而も任意の型體に製作加工することを特長を有す、用途はテーブル掛、絨メルトン代用、捺染ロール用等極めて廣汎に、年生産額約二千五百キログラム、販賣數約壹百二十反、主なる需要地は東京市なり。
〔略歴〕氏は明治二十一年の出生、同四十五年京都高等工藝學校を卒業し直に陸軍千住製絨所に入所、偶々同製絨所に於て本邦最初のフェルト製作機を輸入し之が作業を開始せらるゝや、氏は當初より本機の作業を擔任することとなり爲めに大に修得する所ありたり、後大正九年辭して日本フェルト帽體株式會社に入社し、爾來今日に至るまで社業に従事すること前後通じて約二十年、其の間不斷の努力と研究とを重ね遂

次本發明を完成し以て斯業の發達と社運の發展とに貢獻せられ現に常務取締役として大に活躍せられつゝあり。

金田房吉

大阪府住吉區
橋本町二五番地

特許第九六三三六號 絹フェルト製造方法

〔内容〕絹強撚絲の蒸熱に依る撚性とその含有「セリン」の膠着性を利用し彈性を要する羊毛「フェルト」の代用品を廉價に製造する方法。

中川常太郎

愛知縣知多郡武豐町
字小迫三十八番地

特許第一〇〇一〇八號 布付フェルト製造法

〔内容〕木綿織維帯に乾燥せる澱粉末を混和攪拌し布帛の面上に一定平等なる厚さに伸張し壓搾し密着せしめ熱湯中を軽く押し通し乾燥せしめ乾燥して醫療用「リント」布又は防寒布用布付「フェルト」を得る方法。

山本健一

東京府深川區
西元町七番地

特許第一〇二四三六號 布入模造フェルト製造方法

〔内容〕羊毛又は馬毛を交錯したるものを二枚の荒目麻布の間に挟み數多の鈎針を往復刺通し麻布の織維を振解し起毛針にて両面を振解し其他適宜方法に依り優良なる布入模造「フェルト」の製法。

村井長祥

東京府杉並區
上井草町一四五六

特許第一〇三七三三號 羽毛混入フェルト

〔内容〕羽毛を除去せる羽毛に摺着料として羊毛を混じり適宜の縮絨工程を施して輕量弾力性に富む「フェルト」の製造法。

内山清次郎

東京府淺草區
聖天町七番地

特許第九八八二五號 フェルト製造法

〔内容〕運動する混合銀より夫々稀硫酸の蒸氣を發生處理し植物性纖維と羊毛とを自然に縱横に混和して強度大なる「フェルト」の製造方法。

五十嵐録郎

宮市天王寺町一番地

特許第九五〇八七號 絨織物又は綿織物の加工法

〔内容〕絨織物綿織物に脱糊精練及漂白を施す工程と之に特殊の混合乳液を以て處理する工程と醋酸鹽土又は明礬溶液に通し乾燥すを工程との結合による加工法。

一色安茂

名古屋府東區石町
十六番地

特許第一〇三七五九號 釣絲製造方法

〔内容〕加熱せる生絹絲を桑皮の煎汁中に浸漬煮沸乾燥したる後ゼラチン溶液を施し「フォルマリン」にて凝固し更に桐油若くは亞麻仁油の如き乾性油を塗布して柔軟耐久性の釣絲を得る製法。

出野恵

廣島縣安藝郡海田村
千四百三十三番地

特許第一〇〇六七九號 「ガット」製造法

〔内容〕動物の腸膜を「アルカリ」にて處理するに當り濃度を高めたる溶液中に浸漬處理し水洗して撻合せ伸張乾燥し摩擦仕上を施して樂器等に好適せる腸膜條紐を得る製造法。

富部備作司

京都市上京區大宮
通寺ノ内西入
新美濃部町一五七番地

特許第一〇一四七〇號 人造テグス製造法

〔内容〕絹絲を「ゼラチン」と脂肪酸と「アンモニヤ」水との混和液に浸漬して加熱處理し「ノツブル」を通して更らに「フォルマリン」と可溶性「アルミナ」鹽類の混合液中に通して透明度及防水性を強大ならしめたる人造「テグス」の製法。

小川雅也

一宮市宇南石野
二十番地

特許第九五七四號 紬布又は絹織交織布に酸化「チタニウム」を固着して得らるる擬革布の製法

〔内容〕珪酸曹達を加へたる過酸化曹達及硫酸を以て漂白したる後水又は油の混合物に浸漬し更に「グリセリン」石鹼等の混合液を以て處理し美麗堅固なる擬革布を得る方法。

丹羽義雄

大阪府中河内郡長瀬村
北笠草一八二五番地

特許第九五九三九號 防濕性絹織物吹濡圍の製造法

〔内容〕細毛羽織維を解舒したるものを「アラビヤゴム」と「サルチル」酸「グリセリン」の混液と樹脂を「アルコール」にて溶解したる液にて處理し後石鹼其他の溶液を塗布してなる工程に於て製造する方法。

吉川武雄

奈良縣南葛城郡御所町
五百六十番地

特許第一〇〇五〇七號 「フミー」を混入せる中入綿の製造法

〔内容〕「ラミー」落綿を可溶性脂肪又は石鹼溶液中に浸漬後脱水乾燥し木綿織維を混合撻整の際木「タール」の「ベンゾール」抽出精製液と「ワセリン」の「ナフサ」溶液の混合液を附與して保濕性に富む中入綿の製法。

丹菊仁三郎

一宮市大字一宮字細田
四六番地

特許第九五五五四號 擬革布製造法

〔内容〕紬織物を脱糊漂白し後二酸化チタニウムと脂肪性物質とを混じたる溶液中に煮沸して明礬の溶液にて處理水洗することにより變色なき鹿革の外觀を呈する擬革布を製する方法。

山本幾三郎

和歌山縣伊都郡
高野口町六六二番地

特許第一〇一八九三號 擬獸皮製造法

〔内容〕織地面に密接發生せる毛織維面に蒸氣と霧狀となしたる染料を噴射したる後蒸熱し乾燥する工程と拔染液を噴射蒸熱し水洗乾燥する工程の結合により獸皮と異らざる擬獸皮の製造法。

青木徳次郎

東京府豊多摩郡戸塚町
大字戸塚百二十番地

特許第一〇〇六五八號 樂器用絨絲

〔内容〕不酸化性金屬の「コロイド」溶液を撻合せたる絹絲に滲透包孕せしめ乾燥せしめて質強靱にして撻等の爲めに切断し難からしめ高音を得る樂器用絨絲の製法

木下清

奈良縣北葛城郡
下田村大字逢坂
八百二十一番地

特許第一〇〇七七三號 人造「テグス」製造法

〔内容〕原料生絲を樟腦の酒精溶液中に浸漬し之を較り「ゼラチン」の熱溶液中に浸漬處理し「フォルマリン」其他酒精の混合溶液に浸漬して強靱なる人造「テグス」の製造法。

千野眞次

新潟縣古志郡湯尾町
戊百二十五番地

特許第九六〇六〇號 絹織製造法

〔内容〕棒毛羽を弱「アルカリ」性溶液中に高壓處理し之を「フォルマリン」に依り「セリン」を防水性たらしむる工程に於て乾燥して光澤柔軟性保溫力を増大せしめたる絹織の製造法。

萩原鐵藏

名古屋府南區豊田町
字渡畑三二八五

特許第九九三〇七號 「バガス」又は類似の植物より紙料を製造する方法

〔内容〕原質を密閉罐内に於て蒸熱し纖維を抽出する場合に蒸着劑として亞硫酸「マグネシウム」の飽和水溶液中に適量の亞硫酸「マグネシウム」の粉末を添加せるものを使用することを特徴とする製法。

藤堂良讓

埼玉縣北足立郡浦和町
鹿島一三〇番地

特許第九六八七七號 纖維含有物質の連續的鹽素處理方法

〔内容〕鹽素處理室内に水又は稀薄「アルカリ」性溶液若くは鹽類溶液を送入して鹽素瓦斯を次室に移動せしめ鹽素導入源を次室に切替して簡單確實に連續的に處理する方法。

越智圭一郎

東京府澁谷區代々木
西原町九五八

特許第一〇〇九五九號 桑皮又は楮皮の叩解方法

〔内容〕桑又は楮の靱皮紙料を叩解するに當り其靱皮

組織或は半紙料を特殊長さに切断したる後叩解を行ふ方法。

金子三明

標太泊居郡泊居町
大字泊居字東原三番地

特許第九八五七五號 漂白「バルブ」精製法

〔内容〕木材「バルブ」蒸着用重亜硫酸石灰液に苛性曹達を添加せる液にて処理する際其アルカリ度を適當に調整し適度の壓力の下に適當時間蒸着することを特徴とする精製法。

中山金助

三重縣度會郡城田村
上地字六軒家

特許第二〇二五二二號 絲瓜殼吸墨紙製造法

〔内容〕絲瓜の果實及莖を腐水に浸漬醱酵せしめて果内外皮其他を除きしたる粗纖維を叩解漂白の後普通抄紙法によりて製造する方法。

中井庄太郎

宇治山田町
大世古町二九五

特許第一〇二九九七號 甘蔗搾液又は類似の纖維性糖

〔内容〕通風可良なる状態に層積貯藏せる原質の脂肪酸醱酵が細菌類に有害作用を及ぼさざる内に弱「アルカリ」性薬品を反覆的に撒布する事の特徴とする処理法。

限川八郎

神奈川縣橘樹郡
稲田町登戸三四〇二

特許第一〇二九九七號 甘蔗搾液又は類似の纖維性糖

〔内容〕通風可良なる状態に層積貯藏せる原質の脂肪酸醱酵が細菌類に有害作用を及ぼさざる内に弱「アルカリ」性薬品を反覆的に撒布する事の特徴とする処理法。

華状斑紋模様を現出せしめ、第二槽内には「ネリ」を混注することを止めて模様原紙の軟弱を防止すると同時に石鹼と礬土との化学作用により製品には自然に「インキ」止の性を具有せしめ以て模様を鮮明ならしめたるものなり。
〔略歴〕氏は我國製紙界の一偉才にしてその製造に係る優秀なる各種の紙は本邦に於て絶大なる歡迎を受け而かも遠く海外に盛に輸出せられ其の聲價を擧はれつゝあり。

高野治郎

福井縣今立郡岡本村
新在塚第十三號一番地

特許第九七五二四號 雲影模様紙抄造法

〔内容〕丸網抄紙機により主體紙液面と丸糊面との接觸部より少し離れたる位置に於て紙液面上に移流方向に於て漉掛紙料を流下せしむる方法による抄造法。

小鹽孫八

清水市入江三九五

特許第一〇三三七九號 模様着色紙製造方法

〔内容〕叩解調合せる紙料に特殊薬品を加へて抄紙し未だ乾燥せざる内に模様稿又は文字を表面する爲め紙質を劣せざる程度の弱酸性を塗布し其部分のみ色相を異ならしめる事の特徴とする製造法。

山川淺治郎

東京市品川區
北品川四ノ五二五

特許第一〇〇〇八一號 模様紙抄造法

〔内容〕抄紙工程中に於て紙料を以て構成せる一定の

桑畑齊二

東京市小石川區
大塚窪町三四

特許第一〇〇七八五號 バガスバルブ製造法

〔内容〕蒸着機と豫熱機とを組合せたるものに關聯する特殊操作により豫熱機内に「バガス」を充填しおき解舒液と共に豫熱軟化せしむる事の特徴とする製造方法

福富喜四郎

高知縣吾川郡
伊野町二二二

特許第一〇二九八三號 黄變化せざる「パニラ」紙の製造法

〔内容〕原料を煮熟し叩解漂白洗滌をなせるものに亞硫酸曹達と「ロンガリット」を混じたる液を注加し熱處理の後水洗後抄紙する事の特長とする方法。

兒玉清助

東京市杉並區
同佐ヶ谷三ノ二七七

特許第九九〇三九號 強靱「バルブ」迅速蒸着法

〔内容〕蒸着を中間程度に止め「バルブ」と分離せる殘存亞硫酸蒸着液を廢棄する事なく未だ冷却せざる内に其儘全部新蒸着液を混合調整したるものを蒸着機とする方法。

光澤義男

標太豊原郡豊原町
北二線八番

特許第九九二五三號 「ウキスコース」入造絹絲用「バルブ」漂白法

〔内容〕亞硫酸蒸着法によりて得たる紙料を「アルカリ」にて特殊處理漂白工程の後殘留「アルカリ」を中和するに足る稀薄酸液を以て處理する特殊漂白法。

模様を主體紙層上に轉着して定形模様ある紙を連續的に得んとする抄造法。

古川治郎

京都市下京區東洞院
五條下和泉町五三〇

特許第九九七二四號 多色紙製造法

〔内容〕紙漉盤上に於て任意形狀の隔壁枠を載せ該枠の内外に異なる色の製紙用液を流下し盤を搖動し未だ漉き終らざる間に枠を除去し更に漉盤を搖動する事の特徴とする製造法

佐藤兼藏

大阪市西淀川區
海老江下三丁目一番地

特許第九七三五五號 波形輪紙抄造法

〔内容〕抄紙工程中「プレスロール」より「ドライヤー」に至る過程に於て二箇の齧合に依る波附「ロール」を通過せしめて縱横共に紙質強靱なる縮紙を得る方法。

清水孫一郎

新潟市附舟町一丁目
字下島四千四百一番地

特許第九四〇二六號 連續紙抄造法

〔内容〕反對に廻動して壓接せる「ロール」により剝離せる紙と「ロール」面とを相互に摺擦せしめ紙質を柔軟ならしめて採紙を迅速多量に製造する方法。

大川理作

東京府南葛飾郡
隅田町一三六九番地

特許第九五二四號 色筋紙抄造法

〔内容〕紙四が「アレスト、ロール」及「クイチロール」間の「ワイヤ」上に附着して輸送せられつゝある工程中一個以上の「サクシヨン、ボックス」より成る吸引部

樋口太吉

東京市日本橋區
安針町一番地

特許第九八六八六號 絲瓜を原料とする「バルブ」製造法

〔内容〕乾燥したる絲瓜の纖維を動物性脂肪油中に浸漬し充分油を浸着せしめ壓搾「ローラー」間に通し結合し後苛性「アルカリ」液にて煮沸することに依る絲瓜を原料とする「バルブ」製造法。



岩野平三郎
村本國郡立今縣井福
地番四號七十二瀧大

特許第一七四〇八號 雲華紙製法

同第六七五四三號

〔内容〕本發明は第一槽内に於て臺紙原料を水分「ネリ」と松脂石鹼との混合液を以て能く練溶し、第二槽に於て模様紙原料を水と硫酸礬土及鐵を主成分とする鑛泉との混合液内にて攪拌して雲華狀斑紋模様を現出せしめ、第一槽内にて漉上げたる臺紙を未だ水を切らざる儘漉枠と共に第二槽内に抄入し、雲華狀斑紋模様を呈せる模様紙原料を漉き足したる後充分に水を切り其臺紙を枠より外し壓迫乾燥せしむるの方法にして、第一槽内には松脂石鹼を混和して水分の亡失することを少なからしめ、第二槽内に抄入するに長時間を要するも大型紙の全面に均等に雲

に於て適宜に水分が排除せられたるとき更に其位置に於ける紙層面上に各種染料液を任意の太さに調節して連續的に流下せしめ迅速且均整に抄造し得る方法。

長尾正志

兵庫縣加古郡高砂町
釣船町七〇番地

特許第九七七四號 抜模様色紙製造法

〔内容〕乾燥前の紙層帯に任意の模様を以て抜染劑を作用せしめて表裏両面に透現せる色抜模様を有する色紙を得る方法。

北林孫八

高岡市元町二二

特許第一〇三六四四號 和傘用紙の模様染着方法

〔内容〕蠟類と植物性油との混合したるものを加熱熔融し之に染料を溶解したるものを以て用紙に模様を描きたるものに關聯する特殊處理法により表裏両面に鮮明なる數種の色彩模様を染着する方法。

陳其祥

臺灣新竹市南門外
三九五番地

特許第九八五九八號 蓮草書翰紙製造法

〔内容〕蓮草紙を鹽化「アルカリ」土類と鹽化「アルカリ」との混合溶液に「アラビアゴム」を添加せるものに浸漬乾燥し壓縮することに依り墨汁の滲潤過度なることなき書翰紙を得る方法。

岡嘉吉

新潟市横七番町通
一ノ四五二二

特許第一〇三三三三號 醫藥包帯用綿附油紙製造法

〔内容〕脱脂綿の一面に特殊の接着用粘結劑を塗抹し

之を粘糊液劑を塗布したる亞麻仁油紙と一體に膠着合體せしめて乾燥する製法。

波邊 薰

静岡県東郡長泉村
竹原一六〇番地ノ一
永興 二二

特許第九五五九號 電氣絕縁用堅厚紙製造法

〔内容〕 濕紙に「グイスコース」液若しくは「ラテックス」液の如き電氣絶縁性粘着劑を施すこと、濕紙乾燥の際極めて強く壓搾することの結合に依り連續的に抄出する製造法。



井上 壽三
大正八年
大阪東區
東區南區
百五十五番
地番

特許第七〇二六九號 印刷紙に防水性塗料を塗布する方法

同 第八七二五號 透明防止「トランプ」用紙の製法

〔内容〕 元來「トランプ」は一見單に印刷を施し裁斷せるもの、如くなれ共左記の如き點に於て其完成に凡ゆる近代化學的的加工を俟つて始めてなるものなり。
一、表裏兩面の光澤を要し然も防水完全表面堅牢にして損傷を防ぐものなること。

二、適當なる堅靱さと弾力性とは必須條件にして原紙の吟味、貼合、表面加工等の總てが之に關係するものなるが故に壓搾溼潤せしめて内質の堅靱を計り然も過ぎて切損し易からぬ様の粘着力を要するものなり。

三、燈火等に透かして表面の窺知出來ざる様透明防止の方法を講ずべきこと。
四、標準たる厚さは世界的其規格に沿ふべきこと。
五、表面光澤と兩立して滑澤性に富み平滑なるべきこと。
六、大體の資料が紙質なるが故に防水性を保持し然も内質までこの性能を與ふること。
七、金縁は脱落せず且つ變色せざること。

特許第八七二五號は染料顔料等の色素を混合着色せしめたる原質纖維を中芯層とし、未漂白又は漂白を施したる原質纖維を其の表裏兩面層として抄合したる原紙の兩面層上に普通「アイトペーパー」用塗抹劑を塗着して「トランプ」用紙の透明を防止したるものなり、即ちトランプ用紙の透明を防止し且つ中芯層色素が兩面層上に斑滲する等のことなき様なしたる製造方法なり。

〔略歴〕 本工場は大正八年の創立にして本邦唯一のものなり、創立以來「トランプ」の製造方法及製作機械等に全く獨創的苦心を嘗め悉く其の工程が發明考案になりしものにして其の特許を得たるもの既に數拾件の多きを算し之を實施して效果偉大なるものあり、初め輸入品の防遏を目的として從事せしが大正十年頃之が輸出を計

劃し先づ支那上海に之を試みしも當時外國品に比して品質技術等拙劣なりしたため多大なる犠牲を拂ひたるにも拘はらず遂に失敗に終りたるが其後品質の向上能率の増大を計り再舉して着々其效を奏し、昭和三年全く輸入品の影を絶つに至り始めて海外輸出に轉ずることを得たり、現在に於ては内地は勿論滿洲、支那、香港、海峽植民地、英領印度、波斯、近東、亞弗利加全土北歐、南米、中米、濠洲、蘭領印度等に販路を有し、昭和八年度中の製造販賣高は七百六十餘萬組に及び内七百五十餘萬組を外國に輸出するの狀況にして原料は全く國産品を以てし「國産原料に依る世界的輸出品の製造」なる理想の一環を完成するに至れり。

氏は明治十九年滋賀縣大津市の出身、大正四年南洋向骨牌の製造輸出を開始し同八年「トランプ」の製造に轉じて現在に至る、其間昭和四年及同六年の兩度長くも「天覽の光榮」に浴し、同八年輸出功勞者として大阪府知事より銀盃を賞與され、同九年四月帝國發明協會より頭記の特許に對し優等賞として表彰せらる。

水野了 右

東京市足立區
千住町二ノ一
中村 庸 乳

特許第一〇二四四號 羅紗紙製造法

〔内容〕 動物纖維を人絹と混和し苛性アルカリ液に浸漬し處理したる後石綿纖維を單獨又は回收「バルプ」

其他の纖維と共に混和し「カゼイン」の礬砂溶液又は「フォルモゼラチン」溶液を添加抄製する方法。

吉田梅太郎

東京市大森區
入新井四ノ八〇七

特許第一〇二九二九號 印刷用紙製造法

〔内容〕 纖維を直角に交叉して成層せしめたる短細纖維の素地の表面を平滑強靱ならしめ質緻密にして賦形性に富み鑄造に耐ゆる紙型版を得る方法。

久保田壽朗

東京市神田區
鍛冶町六番地

特許第九五八二六號 透し型付紙製造法

〔内容〕 原紙の裏面に平滑緻密なる「セルロイド」板にて作れる添へ板を添へ共に硬質金屬製彫刻「ロール」及紙製無地「ロール」間を通過せしめてなる製造方法。

厚木勝基

東京市小石川區
丸山町二一

特許第一〇三三五八號 透明紙製造法

〔内容〕 纖維紙料に硝化又は醋酸化する纖維素を配合し紙に抄造して乾燥する事及之を「エステル」化纖維素膠化劑の浴中を通じて其混在硝化物又は醋酸化物を膠化せしむる事と特徴とする製法。

森嘉吉

東京市本郷區駒込
淺草町七十番地

特許第九五三三三號 透模樣紙製造法

〔内容〕 「アンモニアルカリ」性燐酸「アンモニヤ」水溶液を濕潤せしめ之を適度に乾燥し凸狀の如熱金屬

版面を以て強壓せしむる製造法。

三角有經

京都市伏見區
深草曾坊町六十番地

特許第九八四八八號 硬質紙の製造法

〔内容〕 「パーチメント」紙に「カゼイン」を水に浸し礬砂溶液を加へたる接着劑を塗布し壓着乾燥せしむる工程と更らに酸性溶液に浸漬し「ロール」を通過して固着せしむる工程により纖維質材料を廉價に製造する方法。

羽田峯夫

東京府北豐島郡
瀧野川町字瀧野川
四百八番地

特許第九六六二四號 裝飾用紙加工方法

〔内容〕 原料紙面を多數屈曲して適當の皺條凹凸を形成し膠質及「ホルムアルデヒド」の混合溶液を塗布乾燥し更に他の加工に依り美術的裝飾用紙を製出する方法。

唐木田喜代志

福岡縣朝倉郡
甘木町七百十二番地

特許第九七三二號 製綿用捲取綿紙の製造法

〔内容〕 原紙を構成纖維が縱横に交錯する如く「マンナン」及礬砂より成る糊料にて貼合乾燥し「アルカリ」性溶液及他の藥液中に浸漬乾燥して適度の滑性を有する捲取綿紙の製造法。

米倉恭一郎

東京府豊島郡王子町
上十條三十三番地

特許第九五七三四號 「アイト」紙製造法

〔内容〕 「カゼイン」の「アンモニヤ」溶液に白色顔料を混じたる塗料を紙に塗布し空氣乾燥を行ひ「フォルマリン」及水の混合物を細霧狀に吹き付くる場合混合物中に蟻酸を加ふる事に依り優良なる「アイト」紙を得る方法。

小田篤逸

神戸市西尻池町
二ノ一三ノ八

特許第一〇二五九九號 着色板紙或其類似板紙の製造方法

〔内容〕 特殊の工程により紙西表面の着色層の剝離脱落なく滑澤にして發麗度大なる紙を安價に製造し得る製法。



中易善三郎
大正八年
東京市東區
住吉八番
地番

特許第八〇九二九號 胡粉押捺模樣的模擬紙製造方法

追加第八〇五〇四號 透模樣紙製造方法
〔内容〕 從來雅趣に富む胡粉押捺模樣紙は工程頗る複雑にして而も模様容易に剝落し易きものなり、本製造方法は工程簡易にして頗る經濟的且つ種々なる紙工資料として應用廣きに亘る有益なる效果を有す、透模樣紙製造方法は前特許を改良したるものにして抄紙工程に於て不可能

とする綿密なる繪畫又は細線を必要とする透模
 様を容易に形成せしめ、且つ色彩印刷模様又は
 圖書中に透模様を配するに相互間の間隙又は接
 觸面が交雜するが如き處を除去したるものなり
 【略歴】氏は明治三十年兵庫縣の出身、約十年
 間市内洋紙店に勤務し大正十年獨立す、現在大
 阪市内有数の洋紙卸商として全國的に販路を有
 し盛業を極めつゝあり、元來此種模様紙は凡て
 高價なる外國品に俟つの外なかりしを遺憾とし
 苦心研究を重ね遂に本發明を完成せられたるも
 のなり、而も本特許の効果は外國品に比して價
 格低廉且つ伸縮なく優雅にして優良國産品の名
 を辱めざるものなり。

田邊 清太郎

東京市王子區
 袋町二ノ二二六

特許第一〇三〇四五號 活版紙型原紙の製造法

【内容】紙料を叩解し之に硅藻土を混合して抄紙したる厚紙の表面に特殊糊料を塗附して乾燥し裏面に金網を敷きて壓搾「ロール」に掛け細目凹凸を附與する事を特徴とする製法。

田中 謹治郎

東京市墨野川區
 西ヶ原町一四六

特許第一〇二二五五號 緻密なる防水膜を有する薄き油紙

【内容】極めて薄き紙の纖維を略直角に交差せしめて重合し之に乾性油を浸潤せしめて乾燥する事により二枚若くは數枚を接合して一枚と爲したる油紙。

金子 増耀

大阪市住吉區相生町
 通り二丁目一番地

特許第九五七八四號 「ウイスコイド」紙製造法

【内容】紙匹を強硫酸に浸し「ハイドロセルロース」を形成せしめ「ウイスコース」溶液を塗布し凝固せしめて耐久性強き防水紙を得る製造法。

山本 寛男

大分市坊ヶ小路
 三三二一番地

特許第九七九六號 箔着加工原紙製造法

【内容】三極「マニラ」麻皮等の強靱紙料を用ひ丸網抄紙機に依り蛋白質澱粉其他の交合液を塗布乾燥し更に澱又は「タンニン」溶液を加工して光澤ある原紙を製造する法。

古川 勇次

佐賀縣藤津郡
 東嶺野村大字下野
 甲四七八番地

特許第九七五五號 擬革紙製造法

【内容】紙に苛性「アルカリ」溶液を浸潤せしめ收縮緊締せしめたる後水洗乾燥し之に蛋白質等の溶液の擬革塗料を施し仕上げをなす工程により割脱の憂なき耐久力大なる擬革紙を製造する方法。

小林 義一

東京市小石川區
 音羽町二ノ一九

特許第九五〇九一號 不透明蠟引「ボール」紙製造法

【内容】「ボール」紙又は他の板紙に「カゼイン」又は膠

の溶液を塗布乾燥する工程と更に「パラフィン」を塗布し熔槽に浸漬して蠟引をなす工程とにより均等の蠟引「ボール」紙を製造する法。



日向 傳三
 京都市上立賣
 本千區京上ル

特許第一〇七八一七號 紋紙用加工紙の製造法

【内容】本發明は厚紙に少量の木綿、古麻襪襖を混合したる製紙原料を適當に處理して「サイズ」及填料を施さざる粗糲厚紙を抄造し、之を種々なる溶液に浸漬又は塗布し最後に加温「ロール」にかけ壓搾乾燥して仕上げるものにして、品位劣等なる厚紙を利用し之を加工し強靱にして而かも堅硬なる耐久性を具備する紋紙用加工紙を簡易且つ低廉に製造する方法なり。製品は全國機業家により合理的製品として好評を得販路益々擴大しつゝあり。

丸山 泉

愛媛縣温泉郡
 道後湯之町
 今市二丁目七九ノ一

特許第九七五〇三號 硫酸鹽による黃蜀葵根又は接骨樹の貯藏法

【内容】黃蜀葵又は接骨樹を加里「アンモニヤ」曹達若くは亞鉛の硫酸鹽水溶液中に浸漬して粘質物を變質せしむることなく多量の粘液を抽出し長時間貯藏し得る法。

日本染料製造株式會社

大阪市此花區春日出町
 百九十九番地ノ二

特許第九三三七號 新「アゾ」染料の製法

同 第一〇〇七二三號 乾燥せる安定「アゾ」化合物の製品の製法

【内容】乾燥せる安定「アゾ」化合物の製品の製法は適當なる方法により固體として分離せる濕狀のままの「アゾ」化合物に特殊の安定劑を混和することを特徴とし、更に適當なる配合劑又は染色助劑を加ふるものにして、従來行はれたる方法により得たる安定「アゾ」化合物を織染上に使用するとき良好なる結果を得難き場合甚だ多かりしが、本發明は優に之の缺陷を除去し「ナフトール」染色上に於て更に一大進展を來すことを得たり。而して又従來行はれたるが如き無水明礬或は一部分脱水せる明礬又は硫酸「アルミニウム」を濕狀の「アゾ」化合物に混合して製したる製品は之の中に硫酸「アルミニウム」を多量に含有するを以て従て其水溶液は酸性なるがため染色操作に困難を來たし充分に織染の目的を達し得ざる不利ある場合あり、又之れを以て人絹を染色する場合には「アルミニウム」の爲め著しく其光澤を害し不良品を得ることあるを以て、斯くの如き安定「アゾ」化合物の製品は其應用の範圍非常に制限せられる。而して本發明の安定劑に濕狀の固體「アゾ」化合物を混和するときは其「アゾ」化合物中に含まるゝ水分は速に脱水せられ直ちに完全に乾燥せる製品となる、然かも其製品の

安定度は極めて大にして耐久性に富み、且つ水に能く溶解して不溶解物を殘留せず、尙又其溶液の安定度も大なり、而して脱水せざる七分子の結晶水を有する安定劑にては濕狀「アゾ」化合物より脱水して乾燥状態となすことを得ず、而して斯くの如き方法によりて製したる乾燥せる安定「アゾ」化合物は更に必要に應じて適當なる配合劑を以て所要の濃度にまで稀薄し得べく、又適當なる染色助劑をも混和することを得べし。

然るに今若し普通の方法によりて脱水し全く結晶水を失ひたるが如き安定劑を固體の濕狀「アゾ」化合物に混和して得たる乾燥「アゾ」化合物の製品は、其安定度至つて少にして且つ又水に對する溶解度も甚だ不良なるを以て織染上不利なり、而して又全く脱水せざる結晶安定劑を使用する方法あれども「アゾ」化合物を單獨に乾燥することに於て技術上の困難を伴ひ往々爆發を惹起することあるは周知の如し、然るに本發明に於ては濕狀のままの固體「アゾ」化合物よりして一舉にして迅速に乾燥せる安全「アゾ」化合物の製品を得べく、且つ技術上の困難も少なく極めて簡易に經濟的に良製品を得るの特徵あり、又一部分脱水せる安定劑を使用したる製品は之を保存するに際し金屬容器に甚しく作用して容器を損傷すると同時に製品をも非常に不良化し、久しきに亘れば織染上の使用に堪へざらしむることあるも、本發明によれば之等の點に於ても著しく改善せられ、ために製品の耐久性を増加し速かに不良化することを防

止し得るを以て織染上に與ふる利便蓋し鮮少にあらざるべし。

新「アゾ」染料の製法は色相鮮明にして、堅牢なる「アゾ」染料を製出する方法にして、従來「アゾ」化せる「アルキル・アミノ・デフェニルアミン」又は「アルキルオキシ・アミノ・デフェニルアミン」或は其誘導體の如き「アゾ」化合物と、「2・3・オキシナフトエ」酸「アリリド」とを結合せしめて「アゾ」染料を製造したるも、本發明は水に可溶性又は不溶性の新「アゾ」染料を製造するものにして、水に可溶性のものは酸性、中性「アルカリ」性に於て各種纖維、特に人絹を鮮麗に染色することを得、又水に不溶性のものは基質上に或は單獨に結合生成せしめて各種の有用なる不溶性色素を得るものなり。

芳野 守三

東京市澁谷區
 代々木山谷町二三三

特許第九五三七號 「チメチルアニン」より黄色塩基性染料を製造する方法

【内容】原質に水、醋酸、二酸化「マンガン」及石炭酸を加へて攪拌し反應せしむる事を特徴とする方法。

高岡 齊

大阪市北區北扇町三八
 大阪市立工業研究所内

特許第九六〇六三號 「チナフチル」系「アゾ」染料の製法

【内容】「チアミノ、ベタ、チナフトール」の「アゾ」

化合物を母體として多數の新「アゾ」染料を製出する方法。

德 永 達 生

福岡縣那珂郡那珂町
大字箱崎二九〇〇

特許第一〇〇三二二號 多數の陰性原子團を有する芳香族「アミン」類を容易に「ニトロソアミン」塩類に誘導する方法

〔内容〕原質を「チアゾ」化し之を「アルカリ」にて處理するに先立ち中性硫酸鹽類にて處理し以て急激なる化學變化を緩和し容易且安全に誘導作用をなさせしめる方法。

竹 内 吉 次

大阪府泉北郡
高石町北四一四

特許第一〇〇三三七號 金屬を含有する「チアゾール」屬の「アゾ」染料の製法

〔内容〕互に「オルト」の位置に水酸基と「カトボキシ」基とを有する芳香族化合物に鐵等の金屬鹽類を作用せしめて得たる化合物を「チアゾ」化「ブリムリン」と結合する事により成る製法。

池 邊 瀧 太郎

東京府荏原郡湯澤町
大字上馬七六四

特許第九六五八八號 石炭より硫化染料を製造する方法

〔内容〕瀝青炭の如き炭化物に酸素或は空氣含有の瓦斯又は「アルカリ」を處理せしめて得たる可溶性成分に加硫して製造する方法。

小 室 清 夫

東京市芝區
白金三光町八五

特許第九五六八二號 「アリザリンブルー」S製造の鹽素より硫化染料を製造する方法

今 村 十 太郎

朝鮮京城府
禮智洞二六五

特許第九七七二七號 飲食物着色料

〔内容〕眞紅色の蕃椒果皮より香味成分を抽出し殘渣の赤色素成分を粉砕篩別して色素並びに香氣を得る方法。

武 富 昇

東京市中野區
新井町三二三

特許第一〇〇三六五一號 「カカオ」豆殻より着色料を製造する方法

〔内容〕「カカオ」豆殻を苛性曹達溶液を以て處理して色素を抽出する事の特徴とし次に該色素を酒精にて沈澱せしむる製造法。

湯 澤 安 左 衛 門

埼玉縣北埼玉郡
長野村三六〇〇

特許第一〇〇二八四號 靑藍還元法

〔内容〕靑藍に適量の水濕を與へ空氣中に於て醗酵せしめ其終局を俟ちて乾燥したるものを靑藍建に用ひ水

中に於て醗酵せしむる法。

山 路 信 藏

福山市御門町
一四九四ノ二

特許第九四五四二號 「カーバゾールピクリルイミノヒノリン」の加硫作用に依り生ずる建築硫化染料の製造方法

田 部 井 省 三

横濱市中區
初音町一ノ十一

〔内容〕「カーバゾール」の「アルコール」溶液中に於て「ピクリン」酸を作用せしめたるものに關聯する處理により一般植物纖維を堅牢なる黒色に色染せんとする方法。

山 口 由 美

兵庫縣武庫郡
本庄村青木四三二

特許第九六一〇八號 液狀染料

〔内容〕鹽基性染料と作用して水に不溶性なる色素を生成する「カタノール」等の水溶液と鹽基性染料の水溶液とを混合したるものに係はる特殊處理により得る染料。

特許第一〇〇七二三號 乾燥せる安定「チアゾ」化合物の製品の製造

〔内容〕固體として分離せる濕狀の「チアゾ」化合物に安定劑として結晶水の一部を脱水せる硫酸「マグネシウム」を混和し更に適當なる配合劑又は染色助劑を加ふる事よりなる製品の製法。

伊 藤 武 二

京都市上京區三條通小
川西入國屋町三八

特許第九八三三五號 羊毛「ナフトール」染色法

〔内容〕羊毛の「ナフトール」に對する親和力を形成する爲め特殊の工程を施し顯色劑の冷液中を通過、發色せしめたる後水洗、石鹼洗を施す工程の結合にして冷液染色を特徴とする方法。

今 井 丑 之 助

京都府發券郡修學院村
大字高野小學鐘突七

特許第一〇〇五〇三號 紅染用あく汁

〔内容〕硫酸曹達溶液に炭酸加里及磷酸曹達を混溶し之に糖又は「グリセリン」を加へ酸にて中和し中性若くは微酸性とし遊離硫酸の澄明なる「コロイド」溶液たらしめたる下漬劑。

西 室 貴 義

山梨縣南都留郡
谷村町上谷八五

特許第九四八一二號 絹染色法

〔内容〕絹布絹絲を特殊の中性溶液中に下漬し後「ダイアソ」化する芳香族又は其誘導體にて顯色せしむる方法。

永 井 輝 雄

大阪府住吉區南町
西三丁目五〇四

特許第九八〇五〇號 紡績用原綿處理

〔内容〕原綿の天然含有脂肪及蠟質其他を染綿の纖維上に復活し染色紡績をなす場合白絲紡績と同一の品質能率を得る處理。



井 村 榮 次 郎
大阪府大阪市東區松ヶ枝町六十四番地

特許第九四二二三號 漆繪模様

〔内容〕漆液に凝固性を與へる一面其特長とする光澤を倍加せしめ且つ容易に離脱せざる漆模様加工法なり、其製品の特徴は南京玉、ビーズ玉刺繍と同様の感觸を呈し光澤美麗にして永久性に富み、彩色の輪廓とせば其模様を鮮明にし加工は完全にして絶對に離脱せず且つ施工容易なる爲め如何なるものにも應用し得、加工費亦低廉なり。

〔略歴〕氏は京都の人、幼少より彩管に長じ長ずるに及び日本畫の研究に熱申し後一般商品の美化に心を致し、明治三十年一介の陶器繪師となり同三十九年レザールの應用及び之が模様加工に着眼し同四十四年別珍絹糸織布に對する壓搾模様加工と優美なる着色法に成功し大正元年ゴム布の模様加工を相良式として發表す、同十年純ゴム引防水布の友仙加工に着手し同十四年之を完成しゴム上色彩結合の意匠權を受け、友仙模様入ゴムマント、婦人用雨コート、炊事用前掛として廣く之が普及に努力す、同年普通織布の模様加工に着手して之亦色彩結合の意匠權を受け引續き漆繪模様加工に着手し昭和六年本案を出願して本特許を得たるものなり。氏は資性

温厚仁俠に富み名利に恬淡只管美術の工業化に精進し更に新塗料の完成に没頭せられつゝあり。

佐 藤 彦 治

山形縣飽海郡酒田町
北千日堂前一段五七

特許第一〇〇五三一號 「アルカリ」性染浴染色法の改良

〔内容〕豫め精練したる織物或は絲條緋絲又は防染糊にて型置したる織布を適度の濃度に稀めたる柿澁溶液を以て下漬處理し乾燥後硫化染料又は「ペット」染料にて染色する方法。

木 村 宗 吉

京都市伏見區桃山町
泰長老一三三

特許第一〇二二三號 染色入造絹糸處理法

〔内容〕原質を染色せるものを苛性「アルカリ」溶液を通過せしめ更に不乾性若くは乾性油を主成分とする液中に浸漬し水洗乾燥し天然絹糸と同様の性質を得むとする處理法。

井 波 義 一

高岡市定塚町一五四

特許第九八一六七號 撥染型製造法

〔内容〕金屬製網を型枠又は捺染用圓筒に貼付し之に特殊工作を施したるものを鍍金屬により包被せしめたるものにして型を堅牢耐久的たらしめる製作工程。

岩崎 辰二
八王子市元横山町
〇〇〇

特許第九七九〇六號 片面印花面着色拔染方法
〔内容〕精製寒天等の如き糊料に「メリケン」粉を混在せしめ之に特殊劑を加へてなる工程により糊料に於ける如く厚薄に開せず片面印花によりて之を表裏両面殆ど均等に着色拔染する方法。

池上憲次郎
池上富三郎
高岡市母衣町三二

特許第九九二二二號 模様型紙製造法
〔内容〕模様を彫刻せざる型紙の表面に「セルロイド」を「アセトン」若しくは酢酸「アミール」にて溶解し糊状となしたるものを塗布乾燥し其表面より任意の模様を適當の擊を殘して彫刻せるものに關聯する特殊製法。

大橋彌一郎
京都市下京區五條通室町東入龍門町二七〇

特許第一〇一〇〇六號 模様合被服地の擦染法
〔内容〕四種の型式と其の擦染順序とに依り被服に仕立てたる場合模様を一致せしむべき模様合の被服地を比較的簡單に擦染する特殊方法。

大橋嘉一
大阪市北區澤上江町五ノ五

特許第九四二二三號 漆模様顯出法
〔内容〕織物を適度に水に浸潤し、又濕潤状態にて漆

を印花し空氣中に乾燥する工程の結合にして輪廓鮮明なる漆模様を得る方法。

大矢幸次
大阪市南區宗右衛門町五〇

特許第一〇〇九六九號 濃淡模様織物製造法
〔内容〕原布を水に浸漬し之を脱水して適當の濕を保持したるまゝ加熱「ローラー」に導き次で普通の浸染を行ふ製造法。

渡邊勝三郎
足利市巴町一九一七

特許第九四九一三號 両面擦染拔染法
〔内容〕「ベンゾール」又は「テレピン」と樹脂溶液とを混合せるものと他の特殊糊料等と混合せる擦染糊又は拔染糊を以て印花するものにして表裏両面均等に糊料を浸透せしめて鮮明なる模様を得る方法。

渡邊邦太郎
群馬縣佐波郡豐後村大字馬見塚九八

特許第九四八一〇號 燐光を發する織物
〔内容〕燐光性化合物を中性樹脂に熔合し之を特殊「エマルジョン」に混じて糊状となし適當なる方法にて處理染色し水洗するも剥落又は褪色せざる模様を現出する方法。

片山秋造
關東市佐佐木町下町六三

特許第一〇三三三八號 擦染方法
〔内容〕糊を主成分とし之に少量の漆及龍腦を混和し

之を醋酸「アミール」に溶解せしめたる糊を使用する事の特徴とする方法。

香賀久次郎
東京市牛込區辨天町七九

特許第一〇四二一號 寫眞擦染型製造法
〔内容〕「カーボンチツシユ」を擦染型に應用し其主成分たる「ゼラチン」膜をして型紙同様の作用をなせしめ且つ寫眞濕板法を併用して微細なる點線の擦染をも可能ならしむる擦染型製造法。

稻島庄次郎
東京市城東區龜戸町七ノ一〇二

特許第一〇三〇二二號 「インダンスレン」染料の混合着色拔染法
〔内容〕過滿飽和加里的特性を應用して「インダンスレン」混合染料に依る染色中より一部染料のみを抜色せしむる事により過滿飽和加里に作用を受けざる染料を混合染料中に殘存せしめて拔染法を行ふ方法。

大竹房吉
東京市四谷區傳馬町一ノ一九

特許第九六八四號 改良「ナフトール」染法に依る縮毛引染法
〔内容〕防染糊中に特殊下染劑を加へ型紙に依り布地に模様を糊置しつゝ特殊工程のもとに染付を得るものにして下染を經ずして上染液即ち顯色劑の注込みをなし所要のものを得る方法。

吉村末吉
京都市下京區油小路通小路西入龍門町三八七

特許第九五七七〇號 織物の面に異種異色の模様を染色する方法

〔内容〕織布上に粘質の糊にて型紙により模様を印捺し乾燥後之に對する特殊の工程を經て染色するものにして染糊が互に滲出せず從て地合を汚染する虞なき爲め兩面に優秀なる光澤を出し得る方法。

高田政之助
京都市中京區油小路通南川上九橋本町四七一

特許第一〇二〇〇七號 布帛上に浮模様を形成せしむる方法

〔内容〕布帛上に生保護の揮發油溶液にて任意の模様を糊置し其全面に鑽物質細粉に纖維質粉末を混じたるものを振りかけ之を乾燥加硫する工程を特徴とする方法。

田中庄次郎
東京市深川區平野町一丁目一〇ノ二

特許第九八七七三號 吹染絲布製造法

〔内容〕軸筒内染液の噴霧器と吸引器を嵌装したるものに關聯する特殊装置に依り絲條又は織布の兩面に染液の噴射及吸引作用を交互に行はしめ絲布の厚薄に係らず鮮明堅牢なるものを連續的に製造する方法。

武丸健一
愛媛縣新居郡西條町大字神拜甲五六一

特許第九七一五〇號 「ナフトール」返染に依る二色以上の面模様染色法
〔内容〕深刻模様を有する「ロール」を用ひ顯色糊

を以て印花し、酸性作用のものを含む白色防染糊を以て防染印花し且顯色染液中に浸染する工程を經るものにして「アゾ」染料のみを使用する方法。

田中昌龜
東京市牛込區赤坂下町七九

特許第九四七一五號 「ナフトール」染料の防染及浸染を併用して成る両面異色染顯出方法

〔内容〕生地に防水加工を施したるものに對する特殊工程によりたるものにして彫刻「ロール」を用ひ「ナフトール」顯色にて發色せしむべき布の片面に白色着色染糊を印花して模様を顯出せしむる方法。

辰巳成光
東京府南葛飾郡大島町六ノ二三四

特許第九五三一五號 手拭型付法により白色着色兩防染糊を印捺する方法

〔内容〕所要の模様を彫り抜ける木枠の特殊裝備により兩防染糊を交互に印捺し、後染色を施す工程にして着色部周囲を汚染せしめず完全に染色する方法。

中津義男
京都市中京區室町通姉小路上ル圓福寺町三五三

特許第一〇三三三七號 運筆拔染模様附け法
〔内容〕還元劑にて脱色し易き染料を以て地色を染め

高橋梅之助
京都市中京區室町通二條上ル冷泉町七一

たる布に拔染液と蒸熱省略液に染料を配合せる着色液とを互に混合したる液を以て筆に依り任意模様を描出し乾燥後蒸熱を施すことを特徴とする方法。

村田福太郎
京都市中京區錦小路通大宮東入七軒町四六一

特許第一〇一六八五號 模様染色法

〔内容〕可染布に胡粉外三種の混溶液を以て印花し其の部分に型附等によりて色糊を捺附して蒸熱染色し後水洗して附着色糊を脱着せしむる染色法。

野崎二郎
京都市中京區壬生高樋町四五

特許第九八四五八號 平版印刷染色法

〔内容〕亞麻仁油に炭酸「マグネシウム」を混じたるものに任意の染料の「グリセリン」溶液を混入煉合したるものを以て可染布に印刷する工程に關聯する特殊工程により石版印刷により染色する方法。

野上寅吉
高崎市大字飯塚一八〇一ノ五

元木寛造
山梨縣南都留郡谷村町上谷一三〇

特許第一〇三六三三號 織布に濃淡模様を顯出する方法

〔内容〕人絹の織物に苛性「アルカリ」と「バリウム」鹽を主成分とせる糊料に「フォルマリン」「グリセリン」を混和したるものを印花したるものに關聯特殊處理による事の特徴とする方法。



徳由岡平

東京都中央区高麗橋通
町合相筋南九入東城坊

特許第九三九二九號 両面防染模様顯出方法

〔内容〕本發明は特殊の防染糊を布の片面より印花し乾燥後地染液を以て地染を施し普通の如く蒸熱して水洗する各工程の結合を特徴とする方法にして片面よりの施工によりて表裏を毫も識別し得ざる模様を染出するものなり、即ち本防染の特徴とする所は防染膜を表面のみよりの印花によりて裏面にまで良く滲透せしめ防染力強固にして而も水洗によりて糊の痕跡を布面に少しも残さずして洗除し得る防染糊を用ふること、地染液として生地を對し豆汁引又は地入等の豫備的の工程を施さずして引染を行ひて濃色淡色を問はず表裏の別なく浸染と同様に均等に染付くべき染液を用ふること、の二點なり。

〔略歴〕氏は明治十七年の出生、約十八年間主家に勤続し大正三年獨立して現在に至る、由來京都は美術京染の名聲内外に高きも實質的且つ實用的に他國に何等異なること無きを遺憾とし多年幾多の苦心と犠牲とを拂ひ研究努力の結果遂に本發明を完成せられたるものなり、製品名稱は「仁通」と稱し、窓掛、ハンカチーフスカフ、ピース等に用途を有す。

山田勝太郎

京都市下京區小路上
西洞院西入九一三五

特許第九六二〇八號 製地狀多色染法

〔内容〕「カゼイン」の「アムモニア」溶液に染料を加へたるもの數色を造り之れを特殊糊と混合し特殊工程により製地を染出する法。

山崎文次

京都市向島區寺島町
二ノ一九 合資會社
山文染布整理工場内

特許第九七九五五號 折付に依る防染及拔染方法

〔内容〕二種の拔色剤により作用を受ける「インダンスレン」及「アリリアント、インヂゴ」屬染料中の適當なるものを撰び適宜の方法により白抜部分を殘して配色模様を顯出し得べき方法。

山中市治郎

京都市伏見區
深草島居前町一五

特許第九八三八五號 貼替自在染型紙製造法

〔内容〕彈性護膜又は「ダンマル」護膜の揮發油溶液に「セルロイド」混液を配合したる糊液を模様の彫刻の型紙に塗布し之に特殊工作を施したるものにして一種の型紙を以て多様の模様型に變化せしめ貼替自在の型紙を得る方法。

江刺喜太郎

仙臺市仲ノ町九五

特許第九五六一九號 法被、作業服等の織物類に文字紋章、模様等を堅牢美麗に印花する方法

〔内容〕和硫劑を加へたる特殊溶劑に溶解したる印花

料が生地構成繊維に透徹沈下し而て半乾燥状態に達するを待つて特殊工作を施し任意の色彩及模様を有する伸縮性及柔軟性に富む印花膜を極めて堅牢に凝着せしむる方法。

有馬龍吉

名古屋市西區
手木町五六

特許第九六九〇六號 仕上染布に「ボカシ」を施す方法

〔内容〕仕上たる染布の模様中欲する箇所に染色には作用する事なく水分を用ひず純無水醋酸の蒸熱に依る特殊の滲潤力のみを利用して光澤に富み汚き染足を見せざる「ボカシ」を施す法。

淺野彦治郎

京都市中京區
壬生御所ノ内町一八

特許第九六四九號 「ナフトール」染料染色法

〔内容〕「ナフトール」染色を防止せる純白色の模様面に異色の模様を「インヂゴゾル」に依り顯出し型合せ等の煩雜なる手数を要せずして極めて正確に雅趣に富める中形模様其他の模様を染着する方法。

酒井富藏

埼玉縣北葛飾郡
葛飾村大字本郷三二九

特許九五五〇九號 繰取模様染色方法

〔内容〕適宜の生地に還元劑を配合せざる還元染料又は硫化染料を配合せる防染糊を以て型付を行ひ然る後還元劑を配合せる染料を以て地染を行ひ之に特殊工程を施して繰取模様を染出する方法。

宮田與惣次郎

京都市東區
龜戸町六ノ五

特許第一〇〇一九七號 「ロール」染に依る両面中形拔染方法

〔内容〕「インヂゴゾール」と酸化劑との混合液に特殊劑を配合したるものに原布の下漬を行ひ型附「ロール」に依り還元性拔色劑と醋酸曹達等を配合したる拔染糊を以て片面より中形模様を印華する拔染方法。

身内榮次郎

京都市中野區
小瀬町四七

特許第九八七二八號 擦染糊透透方法

〔内容〕特殊藥劑の配合により有効且強大なる浸透作用を行はしめ片面給付糊の他面浸透を固り緻密細微なる模様をも泣き滲みを生ずる事なく明瞭に現出せしむる方法。

森茂

和歌山市湊出口
新堀ノ丁一

特許第九五二〇九號 鹽類の結晶を利用して模様を顯はす染色方法

〔内容〕布帛等の上に硫酸曹達の結晶を作りおき之に特殊の處理を施して染色するものにして結晶を利用して其部分を防染し以て任意の地色上に新奇にして變化に富める結晶形模様を顯はす方法。

森住兼吉

京都市深川區
御船職前町四七

特許第九四二三〇號 刷毛染に依る両面模様着色方法

〔内容〕「ガーゼ」其他の織布を特殊混合液に浸漬し乾



森田庄三郎

京都市岩田町

特許第一四九二八號 臘染タオル製造法

〔内容〕本發明は浮絲（環狀絲）に着色することなくして地絲に臘に模様を染色する方法にして在來の綿又は無地紋織タオル等に比し品位高尚にして且つ如何なる適宜の模様にも自由に出出することを得るものなり。

〔略歴〕氏は三重縣津市の出身、家は市内有数の菓子製造業なりしが氏の少年時代家運漸く傾き遂に非常なる窮乏に遭遇するに至り下繪彩色師より日本畫家となりんと志し京都に出で、菊地芳文先生の門下となり苦學して居ること三年歸郷するの止むなき事情に遭ひ、後影管を捨て、發明考案に志し家運の挽回と郷土の發展とを決定するに至り苦心研究の結果遂に本發明を完成するに至りしものなり。本發明成るや直ちに之を實施すべく小工場を建設し事業に着手し大正七年おぼろタル株式会社を創立し恩人小島惣右衛門氏を社長に押ししが氏の没後自ら専務取締役となり現在に至る。

受賞頗る多く現に各種の公職を帯びる。

有馬龍吉

名古屋市西區
手木町五六

特許第九六九〇六號 仕上染布に「ボカシ」を施す方法

〔内容〕仕上たる染布の模様中欲する箇所に染色には作用する事なく水分を用ひず純無水醋酸の蒸熱に依る特殊の滲潤力のみを利用して光澤に富み汚き染足を見せざる「ボカシ」を施す法。

淺野彦治郎

京都市中京區
壬生御所ノ内町一八

特許第九六四九號 「ナフトール」染料染色法

〔内容〕「ナフトール」染色を防止せる純白色の模様面に異色の模様を「インヂゴゾル」に依り顯出し型合せ等の煩雜なる手数を要せずして極めて正確に雅趣に富める中形模様其他の模様を染着する方法。

酒井富藏

埼玉縣北葛飾郡
葛飾村大字本郷三二九

特許九五五〇九號 繰取模様染色方法

〔内容〕適宜の生地に還元劑を配合せざる還元染料又は硫化染料を配合せる防染糊を以て型付を行ひ然る後還元劑を配合せる染料を以て地染を行ひ之に特殊工程を施して繰取模様を染出する方法。

杉本忠三

京都市左京區
北白川上池田町三三

特許第一〇三九五號 捺印工程に依り織物に地紋を表はす方法

〔内容〕天然絹絲を硝酸「カルシウム」溶液に溶解せしめ之を織物上適宜模様を印花し後無水「アルコール」を以て脱水して印花部に絹纖維を再生せしむる事を特徴とする方法。

三木高一

徳島市出来島町
字本町北一六五

特許第九六八〇號 防染劑

〔内容〕糊藻類を稀硫酸にて處理し之に水に可溶性の「マグネシウム」族金屬鹽類或は鐵族金屬鹽類を混合せる防染劑。

山田勝太郎

京都市四條通
西大路四八

特許第八八六九五號 染料と顔料とを同時に染着せしむる捺染方法

同 第九〇一三三號 光澤豆汁代用品
同 第一〇三三五九號 捺染用顔料粉末
同 第一一四九一六號 金粉捺染糊製造方法
同 第一一五〇一七號 刺繡様式浮模捺染方法

〔内容〕捺染用顔料粉末は布帛其他の物に顔料捺染を施すに當り單に水を以て泥狀とし印捺し蒸熱するのみによりて堅牢に固着し時日の経過によりて變色することなく、而かも任意の染料

液を混合して所要の有色顔料防染を得るに便なるものなり。
〔略歴〕氏は大正四年西村五雲畫塾に入門して繪畫を習得し後染色學校に學び家業の傍ら染色の研究に従事し現在に至る。

武藤 富三郎

東京市赤坂區
新町五ノ二

特許第九七一四號 擦染用糊料

〔内容〕細粉末狀の酸性白土と珪藻土と適量の粘土とを主成分となしたる混合物に關する特殊工程により濃度を高め染料の經濟を計り擦染完全なる糊料を得る工程。

西室 逸作

八千代黒紋染防糊

(八千代黒、萬代黒)

〔内容〕糊に亞硫酸と亞鉛末を加へ加熱したる後揮發油にて處理し、その可溶性に白色ペイント及蛋白質を加へたる水に不溶性の染色用防染糊にして、紋の部分純白境界鮮明、織物を傷害せざる等の特徴を有するものなり。

〔略歴〕氏は慶應元年山梨縣の出身、明治十年紺屋の徒弟となり同十九年北都留郡色染所にて植物染料黒染法を傳修す、同二十三年紋形染法を發明し(特許第九二〇號)同二十八年紺屋を開業して逐次發明を完成す。
明治三十四年來長くも、東宮殿下御着用黒御

山田 桂 轉

廣濟市磯子區
中原町六九四

特許第一〇二六〇四號 兼染用防染糊

〔内容〕「カゼイン」を水醋酸に溶解し之に鹽化亞鉛を混和し之と糊粉にて造りたる糊とを練和して成る防染糊。

西田 槌太郎

埼玉縣秩父郡
秩父町三一四二

特許第九四二四三號 色鮮絹織物製造法

〔内容〕「マンガン」鹽の下漬を施したる絲と白絲又は任意の色合に染色したる絲との交織物を原布としたるものに特殊の工程を施したるものにして頗る經濟的な擦染方法。

星 出 寛

福山市西町甲七二九
廣島縣福山工業試驗場

特許第九五一六八號 二色模様織物製造法

〔内容〕「マンガン」褐色染をなせる絲と全く處理を施さざる絲とを適宜に交織せる織物に關する特殊工程にして一回の印捺工程により織布に二色模様を顯出せしむる方法。

柏崎 光太郎

栃木縣足利郡野村
大字山川五五〇

特許第九六四三四號 擬大島織製造法

〔内容〕特殊染料にて染色したる絹絲と綿絲を配列して經とし、之と異なる染料使用の同様の絲を緯として製織したるものに特殊の工作を施したるものにして扱染加工方法により本場製品の如きを得る方法。



故 岡 島 千 代 造
大阪府大阪市東區
北區十番
中區四番
高 地

特許第五三號の改訂、綿モスリン染織法

〔内容〕毛織物「モスリン」地に質を異にせる各種の絲を適當の距離を隔て、縦、横任意に織込み後一染浴にて所要の縮柄を表はし、又漂白して白地縮を表はすの外、左右強撚絲を編成して縮細地及堅縮地をも製織し得られ白地となす外は交織したる異質の絲に染着せざる酸性染料或は毛絲纖維のみに吸収すべき染料を以て一浴染にて縮柄を表はすものなるを以て普通縮織の如き手数を省くのみならず織布の全面に染色の斑點を生ずる憂なく且つ任意の色に染上げ得るものなり。

〔略歴〕氏は嘉永六年十月奈良縣の出身、上阪してモス綿友禪染業に従事し、明治十四年綿友禪寫染法を發明以來研究を重ね同四十一年綿モスリン染織法を發明し特許を受く、明治二十一年以來大阪府モス綿友禪染業組合總取締役、大阪商業會議所議員、帝國發明協會監事等の公職に就く、綵綬褒章及同飾版を下賜せられ、帝國發明協會より兩度表彰せらる、大正十年十一月病革るや特旨を以て正七位に敘せられ同年同月沒せらる享年六十九。

紋服地を、大正元年來は長くも天皇陛下御着用の黒御紋服を謹製すること二十有餘回に及ぶ光榮を有す。
大正八年帝國發明協會より有功賞を受領す、同十三年病沒せらる。

堀部 徳三郎

京都市下京區團ヶ井佛
光寺上ル要法寺町
四四三、四四五、合地

特許第九六八二八號 防染糊

〔内容〕生保護の揮發性溶劑溶液に「アムモニア」石鹼及水を加へ乳化せるものに特殊劑を混和したるものにして筒引又型置の兩者に適する粘度を保持し容易に脱糊せられて純白なる跡を残すべく製せられたる防染糊。

中川 彌 壽吉

京都市中京區新町通四
條上ル小結町四二八

特許第一〇三二七號 熱燙防染糊

〔内容〕布海苔と寒天の水溶液に「フォルマリン」水を加へ稀鹽酸を加へ逆流装置を附して加熱し縮合作用を促し其初期生成物として得たる粘稠物質を糊糊に練合して成る製品。

久保田 久太

京都市上京區新町通佛
光寺上ル船鉾町三九八

特許第九四七五五號 煮染防染糊

〔内容〕「デキストリン」に酸を加へ「フォルムアルデハイド」を混じて得たる粘稠物質に特殊劑を加したるものにして防染力強く高温の煮染に耐へ且つ脱染面をして純白色を呈せしむる防染糊。

吉田 照 藏

廣濟市元目町六六

特許第九四七九六號 縮入模様染織法

〔内容〕白絲又は特殊染料にて染色せる絲に關する特殊處理を施したるものを以て織布するものにして整理捺染によりなされたる織足を顯出する「ボカシ」織模様と同一の外観を呈する模様を得る染織法。

高山 梅 四郎

栃木縣足利郡三重村
大字今福七八八

特許第九九一〇三號 解し式大島織物製造法

〔内容〕特殊染色工程の經緯絲の特殊なる織布を得て從來の解し模様更に大島織模様を現はし之と地紋との配合によりて解し優美なる織物を得る方法。

高野 豊 三郎

廣濟市中澤町一〇六

特許第九六三九七號 板縹染織法

〔内容〕不抜染料を以て特種板縹染をなし易拔染料の上掛丸染により扱染法により合せ縹と同様の變化ある縹を得る方法。

根 岸 藤 平

栃木縣足利郡
山邊村田中四四〇

特許第一〇三二六四號 縹縹縹顯出法

〔内容〕解織法を應用し優美なる縹を有する細線より成れる縹縹の霞狀の縹縹縹を形成せしめ其間に鮮明麗麗なる女禪的模様を簡單な手段に依り顯出せしむる特殊方法。

木村 市 太郎

足利市西宮町二七四八

特許第一〇二九〇號 經緯縹縹顯出法

〔内容〕捺染糊を以てする加工に依り織布面上に顯出せしむる事不能なる經緯縹縹縹を容易に色彩を調和せしめて織布面上に之を形成せしむる特殊方法。

鈴木 寛 也

東京府豊多摩郡
杉並町成宗三九

特許第九八四五號 縹縹縹製造法

〔内容〕二重織組織を應用して縹布表面に特殊工作を施したるものにして極めて精巧緻密なる細工縹を狂差を伴ふ事なく簡單に織成する方法。

那波 徳 三郎

大阪府東區北久寶寺町
一ノノ 四 一

特許第九九四一〇號 二重ガーゼ織物染色法

〔内容〕媒染又は防染したる絲と普通絲とを以て二重「ガーゼ」織物を作製し該織物を捺染又は浸染に依り表裏別々の染色を爲すことを特長とする染色法。

小 西 行 雄

京都市上京區
小山堀池町三七ノ八

特許第一〇一三四九號 可溶性「ヴァット」染料捺染方法

〔内容〕硫酸第二銅水溶液に浸漬したる後乾燥せる人造絹絲と然らざる同絲とを適宜經緯としたる交織物に關する特殊の工程にして可溶性「ヴァット」染料の酸化發色を完全にして優美の解し模様染を行ふ特殊方法。

小 西 行 雄

京都市上京區
小山堀池町三七ノ八

特許第一〇一三四九號 可溶性「ヴァット」染料捺染方法

〔内容〕硫酸第二銅水溶液に浸漬したる後乾燥せる人造絹絲と然らざる同絲とを適宜經緯としたる交織物に關する特殊の工程にして可溶性「ヴァット」染料の酸化發色を完全にして優美の解し模様染を行ふ特殊方法。

小 西 行 雄

京都市上京區
小山堀池町三七ノ八

特許第一〇一三四九號 可溶性「ヴァット」染料捺染方法

〔内容〕硫酸第二銅水溶液に浸漬したる後乾燥せる人造絹絲と然らざる同絲とを適宜經緯としたる交織物に關する特殊の工程にして可溶性「ヴァット」染料の酸化發色を完全にして優美の解し模様染を行ふ特殊方法。

小 西 行 雄

京都市上京區
小山堀池町三七ノ八

特許第一〇一三四九號 可溶性「ヴァット」染料捺染方法

〔内容〕硫酸第二銅水溶液に浸漬したる後乾燥せる人造絹絲と然らざる同絲とを適宜經緯としたる交織物に關する特殊の工程にして可溶性「ヴァット」染料の酸化發色を完全にして優美の解し模様染を行ふ特殊方法。

小 西 行 雄

京都市上京區
小山堀池町三七ノ八

特許第一〇一三四九號 可溶性「ヴァット」染料捺染方法

〔内容〕硫酸第二銅水溶液に浸漬したる後乾燥せる人造絹絲と然らざる同絲とを適宜經緯としたる交織物に關する特殊の工程にして可溶性「ヴァット」染料の酸化發色を完全にして優美の解し模様染を行ふ特殊方法。

阿左美壽郎

埼玉縣秩父郡
秩父町一三八五

特許第一〇三一九八號 經緯線に依る陰陽模様顯出法

〔内容〕「コンニャク」糊の如き溶解性に富む糊料に浸透助剤を加へたる易溶解性兼浸透性白糊に染料と「ゲリセリン」を混和したるものにて假緯線に捺染する工程に關聯する特殊なる諸種工程の結合よりなる顯出法。

伊藤武一

東京府荏原郡目黒町
大字中目黒八〇七

特許第九八六二四號 染料轉寫紙を使用する絞染方法

〔内容〕略棒状に扱きたる布の一部周囲に特殊工作の染料轉寫紙を捲回したるものを熱湯又は蒸気室中に投じて絞染する方法にして染料を要せず多色同時に絞染を可能ならしむる方法。

瀧本鋼四郎

京都市中京區壬佐松原
西南郡町一四五

特許第一〇〇〇九號 縲染布の伸張防止法

〔内容〕縲染布の絞糸を除去する前に特殊混合液に浸し脱水乾燥蒸熱の後蟻酸を含有する醋酸鹽土液に浸漬處理し最後に特殊石鹼液に浸し乾燥せしめてなる防止法。

清水芳夫

京都市世田谷區
代田二ノ八〇〇

特許第一〇一五五六號 絞染方法

〔内容〕原布の絞染せらるべき部分に織布等を浸染乾燥せるものを置き其部分を括縁にて鹿の子又は棒状に締結して浸染する方法。

丹羽豊一

愛知縣中島郡
起町字起一〇五九

特許第一〇二〇〇二號 漆布製造法

〔内容〕逐次に施す塗布料が布の片面に充分に塗着し光輝ある深黒色の通氣性の漆皮膜を形成し防水性耐久性にして獨特の風味と外觀を有する塗布を得る特殊製法。

田中謹治郎

京都市濠野川區
西ヶ原町一四六番地

特許第八二〇五六號 同 第八二八五九號

同 第九六四九九號 同 第九七八八八號

同 第九八一五三號 同 第一〇四七七六號

油皮膜染色法

〔内容〕本發明は油紙に於ける乾燥せる油皮膜其他乾性油若くは半乾性油により形成せしめたる乾燥せる油皮膜を鹽基性染料の水溶液中に浸漬することを以て或る方法にして、油溶性染料、顔料等を使用することなく簡易なる工程を以て水洗により褪色するが如きことなき特徴を有す。

高木信夫

京都市下京區五條通
大宮西入二丁目
上ル楠崎町八

特許第九七八八九號 透模様顯出方法

竹中保式

廣島市南竹屋町五五二

特許第九五三三三號 電解による丹翠媒染法

〔内容〕電解により丹翠酸の固着劑を生成すべき資料と丹翠酸との混合液を電解し其溶液に動植物性纖維を浸漬する法にして前記纖維の丹翠媒染及固着を一浴に同時に行ふ法。

熊本熊藏
熊本義雄

京都市下京區島羽通竹
田邊道西入石町三三

特許第一〇三九四八號 模様天鵞絨染色法

〔内容〕天鵞絨別珍等の有毛織布を地染し次に護膜液と「アラビヤゴム」との混合糊を以て立毛の先端部に任意模様を印花し蒸熱し直ちに之を研磨して成る染色法。

坂部三次

京都市中京區新橋本町
通竹屋町南入
西草堂町一九九

特許第一〇一九六五號 粒子狀糊附着法

〔内容〕可溶性澱粉液を型紙法又は捺染法若しくは其他の方法に依り布面に粒子狀糊を附着せしめ後之を「フォルマリン」液中に浸漬し乾燥せしむる事の特徴とする附着法。

菱田盈

名古屋市中京區
榮生町三反物一七九〇

特許第九八六九九號 織物に切抜模様布を附着する方法

〔内容〕織物生地に護膜質泥液を塗布する工程に關聯せる特殊工程により完全なる切抜模様布の附着を容易ならしむる方法。

日比野榮治郎

京都市中京區
佛光寺通千本西入
壬生高師町五七

特許第一〇三一一號 蠶繭狀友仙染方法

〔内容〕「デキストリン」酸性白土、白蠟、アムモニア」水を糊状として絹布に適宜に形置し乾燥して後適當の方法に依りて地色を染色する事の特徴とする方法。

鈴木福富

靜岡市駿府町三ノ一六

特許第一〇三〇二號 泥狀色糊型を以て染色する方法

〔内容〕任意形状の薄板上の無色糊層上に泥狀色糊を以て模様を描出し之を組合せ配列し此色糊面に布帛を重ねし色糊の模様を布帛に轉寫染出せしむる事の特徴とする染色法。

林作雄

大阪府東淀川區國次町
三九〇 中島隆藏方

特許第九八六七九號 圓筒面製版に於て其周圍に「スクリン」線を布設する方法

〔内容〕白線「スクリンフィルム」を適當幅の帶狀と



石田敬三
高橋原松區京下市都京
地五七二町屋杉入東倉

特許第一〇六三〇二號 寫眞製版用「スクリーン」の蝕刻法

〔内容〕本發明は密蝕を「ベンゼン」等にて處理したる生成物を硝子面に塗布して耐蝕皮膜とし之に所要の線を切る工程と、其の細線中に「ハロゲン」酸を含ましむる工程と、之を更に蝕刻劑にて處理する工程との結合を特徴とする蝕刻法にして、蝕線線維巧緻なるを要し且つ製造困難なる寫眞製版用「スクリーン」を容易に製造し得るものなり。

〔略歴〕氏は明治十二年京都市の出身、先代旭山氏の業を繼ぎ印刷業に従事すること三十有五年、夙に印刷製版界に貢献せんことを志し、「セラチング、フィルム」版を改良したる透明膜凸版「セルロイド」の轉寫印刷の發明等を完成して内地は勿論支那、滿洲、印度方面に輸出をなし且つ「セルロイド」印刷を盛ならしめ、次で滿七七年の歳月を費して寫眞製版印刷に必要缺

くべからざる網目「スクリーン」の發明を遂げ年々巨額にのぼる輸入を防遏し、尙進んで海外販路の開拓を企劃せられつゝあり。

樫木末吉

京都市上京區
紫野柳町二五

特許第九八八二五號 「グラビヤ」版を製造する方法

〔内容〕濕板寫眞法又は濕板乳劑寫眞法により圓柄模様の實物を撮影し之を特殊「ロール」に焼付くるものに關する特殊工作にして網目なし「ロール」を得、又燒付を要せざる方法。

横田清櫻

京都市日本橋區
小舟町三ノ六

特許第九九〇五四號 平判複寫紙製造法

〔内容〕「パラフィン」の特殊處理により得たる透明溶液状態のものを、所要大さの原紙に浸透せしめたる後乾燥を行ふ事の特徴とする複寫紙の製造法。

田中恒一

名古屋市中區東大倉
根町上三丁目一〇二〇

特許第九八三三九號 移動繪紙の製造法

〔内容〕繪紙の水潤に依り白色不透明層とそれに重なる繪模様とが紙より遊離して損傷することなく横滑りに移動する繪の製造方法。



石川 磐彦
大阪府北区大田
地番九百丁一

特許第七〇一四〇號 吊垂機
同第八九七〇二號 印刷用鉛原紙修整桿

同第一〇六八五五號 石版用轉寫紙製造法

〔內容〕従来の石版轉寫紙は單に糊及礮物性粉末の塗層を原紙に塗布せしのみなるを以て轉寫優良ならざるは勿論、塗層は特に水に溶解すること遅く従て轉寫頗る遅延す、然るに本發明は纖維を巧みに用ひたる特殊の塗層液を原紙面に塗布し轉寫の時水にて濕り際纖維に毛細管現象及び滲透作用を起さしむる様なしたるが故に、乾燥せる糊層をして極めて短時間内に崩壊溶解し従て轉寫頗る迅速にして、加ふるに轉寫「インキ」の固定正確且つ鮮明にして多大に能率を増進する等の効果を確奏するものなり。

〔略歴〕氏は明治十二年四月山形縣鶴岡市の出身、慶應義塾に學び後米國に留學す、大正元年石川商會を大阪府に創立し製造工業諸材料品の輸出入業を經營して今日に至る、夙に業務上其取扱に係る輸入品の國産化に着眼し種々發明考案を完成し自家の販賣機關により之が實現化を計り相當なる成績を挙げ輸入品の防遏に努められたり、其獲得されたる權利は前記の外實

用新案權多數あり。

中山 義春

京都市左京區一乘寺
大原町五

特許第一〇〇八八二號 石版製版用轉寫紙製造法

〔內容〕「カゼイン」に「アルカリ」を加へたる水溶液に硫酸「アルミニウム」を混し原紙を該液中に装置せる「ローラー」を通過せしめ次に該紙を加熱「ローラー」間を通過せしむる事の特徴とする製造法。

山内 行藏

京都市小石川區
東青柳町八

特許第一〇三四四九號 轉寫版製造方法

〔內容〕「セラチン」又は「アラビヤゴム」デキストリン等と「グリセリン」等を混合したるものに「アルブミン」溶液を加へ之を加熱して凝固せしむる製造方法。



山本 梅太郎
大阪府東區成野町
地番二百二十二

特許第八四三三〇號 轉寫式模倣入鏡

同第九〇二四〇號 水寫式轉寫印刷

同第九一九〇九號 轉寫式硝子印刷

〔內容〕轉寫式模倣入鏡はワニスに金屬酸化物を混和したる接着劑を繪模倣又は文字等の所要面を潰して轉寫紙面に印刷し其上に受印用被膜

を貼付して目的の模様等を印刷し之を無色透明の接着劑により硝子の背面に轉寫するものなり。

水寫式轉寫印刷は水潤轉寫紙に印刷をなし膠物質と特種ワニス資料とを混じたる印刷可能な接着劑を印刷方法を用ひて該印刷面に印刷塗着するものなり。

轉寫式硝子印刷は無色透明ワニスを轉寫紙面に潰し印刷し其上に該ワニスと印刷用インキとを混じたるものにて目的の模様等を普通の印刷と反對に裏面となして印刷し此の面にワニスに金屬酸化物を混和したる接着劑を潰し印刷し更に其上に無色透明なるワニスを印刷塗布し之を硝子の表面に轉寫して硝子面を洗滌し然る後之れを焼付爐内に入れて焼付乾燥をなす方法なり。

西岡 丑太郎

京都市四谷區番町
三四 中村元雄方

特許第九七〇八四號 電氣火花により膠寫原紙製作方法

〔內容〕電極間に膠寫原紙を挿入し通電による火花にて原紙に連續せる細孔を貫通せしめて原紙を製作する方法。

志村 榮太郎

京都市北區豐島西里
町大字池袋一六

特許第九六〇八六號 「コロタイプ」高速度印刷法

〔內容〕二個の圓筒を互に反對の方向に廻轉すべく架

着したるものに對する特殊装置により耐久にして大部數の印刷に堪へ得る装置。



藤田 與太郎
京都府宇治郡通町
上池

特許第九八九七六號 印刷模倣轉寫法

〔內容〕本法は押繪染と稱し家庭經濟の節約を目的として發明せられたるものにして簡單堅牢且つ優美に加工し得る効果を有し、其用途廣汎に亘り絹布、綿布、紙、木材、ゴム、硝子、金屬、皮革類、セルロイド等に加工する事を得るのみならず家庭に於ても極めて簡単に作業をなし得る特徴を有す。

〔略歴〕由來金箔銀箔の應用技術は甚だ至難にして悉く多年の經驗と練磨の巧を積むことを要し、而も其主要部の如きは一家相傳の秘傳となしたる等、氏は深く之を遺憾とし、之が應用技術を最極度に簡易化せしめ猶進んで染物類にも完全なる應用の途を開拓し以て天下に冠絶せる京都織物の定評を更らに高からしめん事を企圖し、苦心慘澹あらゆる生活苦難と闘ひ研究を重ねること約十二年、漸く大正六年に至りて遂に金銀硝子箔製造の特許を受け次で模倣箔、硝子金銀等數件の特許を得るに至り染色界に於て



堀 新治郎
京都市神田區
二丁目二

特許第二三五八八號 膳寫版

同第六七〇四四號 膳寫版用原紙

同第八三二二六號 膳寫版用原紙

同第六八八三九號 ミリアタイプ原紙

〔內容〕明治二十八年パラフィンを主成分とするタイプライター印刷紙の製造研究に着手し爾

空前の金箔加工大需要を喚起するに至りしものなり、然して尙進んで紋模様、文字等が金箔技術の如く簡単に家庭に於て染め出し得る方法に着眼し之又數年の苦心と研究の結果、昭和三年印刷模倣轉寫紙製造法、次で印刷模倣轉寫法を發明し之が特許を得るに至りしが、更に改良考案を續けて茲に完全なる現在の絹布綿布等に堅牢なる模様又は文字を染め付け得るのみならず木材、ゴム、金屬、皮革類、セルロイド等に應用して尙且つ之にラツカー、ニス、エナメル等の塗料を以て仕上げる方法を完成するに至れり。然も之等の相關聯する方法を以て友禪更紗捺染等一般周知の作業中に唯特別なる前記金箔捺染工程を加へて金箔友禪、金箔更紗、金箔捺染等の作業を完成する事を得て現在其實現に著々として準備を進められつゝあり。

森 山 眞治

京都市神田區
南甲賀町八

特許第九五三七號 膠寫原紙の製造方法

〔內容〕「ゴムラック」を主要資料とせる「インキ」を

薄紙の片面に印着し耐水耐油性紙質とし他面に蠟質塗料を被着したる原紙にして水煉「インキ」にも耐へ得る原紙を製造する法。

山本 梅太郎

大阪市東區
内久寶寺町三ノ一五

特許第一〇二五四九號 移動繪紙の製造方法

〔内容〕水調轉寫用紙に特殊接着劑を以て印刷し其上に透明「ワニス」と印刷用「インキ」とを混捏したる「インキ」にて目的の文字、繪模様を印刷し之を特殊操作により被轉物に移轉接着せしむる方法。

松本 修一

東京市品川區東大橋四ノ二二二 柳田良作方

緒方 隆

東京市品川區東大橋三ノ一七二

特許第一〇三二五七號 「ステンシル、ペーパー」製造法

〔内容〕柔軟にして容易に破壊せられざる且活字に依りて型紙上に文字を鮮明に顯出せしめ少しも損傷することなき優良なる原紙を得る方法。

泉谷 康治郎

兵庫縣武庫郡大社村
森具字前田二八

特許第九五三三三號 印刷方法

〔内容〕感光劑を塗布せざる「フィルム」其他の被印

刷紙を連續的に移動し印刷面に平面的移動を與へつゝ活動的表現を印刷する方法にして撮影によらずして印刷する事の特徴とする方法。

箱木 一郎

東京市原野橋町
新町三三八二

特許第九八五三〇號 曲面上への印刷方法

〔内容〕被印刷面と近似反對形状の押壓物體に彈性質「インキ」保持版を貼附又は彫刻して模様を押捺する事を特長とする方法。

高橋 秀三

東京市本郷區
湯島新花町八三

特許第九五二二三號 油畫模寫印刷法

〔内容〕原畫を寫眞製版したる原版の網目の間隔と印刷すべき原布の經緯線相互の間隔を全く同一割合の間隔とし網目と緯目とも同一方向として印刷する方法。

塚原 九輪吉

大阪市東區兩替町
二丁目二十七番地

特許第九四四四號 水繪具を使用する亞鉛凸版或はアルミニウム凸版に依る印刷方法

〔内容〕本印刷方法は寫眞製版に依るが故に原

稿通りに仕上がり伸縮自在にして大型印刷も可能且つ大量印刷に便に、手刷と異り一定の製品を得べく、木版に比し耐久力に格段の相違あり従來の油インキに依る機械印刷に比して價格低廉なり、色ぼかし自在にして油インキの場合の如く臭氣無き等の特徴を有す。

〔略歴〕氏は明治三十年頃米國に於て約八ヶ年間亞鉛凸版の研究をなし歸朝後製版所を設けて尙之が研究を續けつゝありしが偶々日本固有の藝術にして世界的に名聲高き木版刷浮世繪の興廢を憂慮し、之を亞鉛凸版によりて永久のものたらしめんと苦心研究を重ねること約二十五年漸く水繪具の改良を完成し特許を得、次で亞鉛凸版の改善に努力し遂に本方法の發明を完成し茲に初めて水繪具による版畫凸版の新しき發明を遂ぐることを得たるものなり。

山根 寛

大阪市西成區
玉出町通二ノ一九

特許第九五八三號 寫眞鑲印製造法

〔内容〕所要の寫眞を銅凸版となし版面處理の後「タルク」及純金箔を以て特殊工作を施し無比の微細程度の護膜印を製する方法。

安田 秀雄

津市丸ノ内町一七

特許第九七八八號 製版用寫眞複板製作方法

〔内容〕版面上に塗肉に先だち吸濕或は溶解性被膜を

構成する工程に關聯する各種の工程により既製版面の版模様を透視的に完全なる不透明として種版面に現はし直機による刷版の製版を完全にする方法。



山田 忠三

京都市上區上茂
町殿神地番七

特許第九六三〇六號 濃淡量印刷模様の顯出法

〔内容〕從來印刷模様の暈は印刷法の關係上困難且つ刷毛等を以て手工的に構成するには多大の時間と手数を有したるも、本發明は直接描寫又は轉寫の場合にも利用し得べく、暈を施す部分の面上に網版を當て刷毛類にて印刷用解墨又は「グライオン」を一回捺付する部分と二回三回等捺付する部分等の如く順次回数異なるならしめ其度毎に網版を少しく移動せしむることにより捺付印花を粗より密に、密より粗に至らしむべく印捺し、網版を取り去り其儘又は一旦其の面を軽く捺刷することにより印刷版又は印刷轉寫を使用することを特徴とする顯出法にして比較的簡單にして容易に任意の暈模様を顯はし得るものなり。

〔略歴〕氏は萬延元年京都市の出身、京都市琵琶湖疏水工事、京都御所及本願寺火防水道工事

平安神宮建設及内國勸業博覽會開設委員、廣島縣水力電氣事業、震災豫防調査會委員、函館水力電氣事業調査囑託等幾多の事業を擔當し現在社團法人松殿山莊茶道會專務理事の職にあり。



松 下 卯 三 郎

大阪市東區北區
北町錦北地番八十四

特許第七九三〇八號 木板印刷法

同 第八三〇一四號 轉寫紙製造法

〔内容〕木板印刷法は從來鋸引せる儘或は荒削木板面に模様を印刷するに由なく烙印を應用する外なかりしを改良せるものにして、所期の模様を印刷せる金屬凸版面に染料溶液又は染料「レーキ」類若しくは金屬の細粉或は是等に接着料を配合せるものを塗抹し、粗磨面の木板面に當て強壓を加へて頗る鮮明に優美なる模様を容易に顯出し得るものなり。

轉寫紙製造法は白色礦物性粉末を水溶性「コロイド」液の一種又は數種にて密和したる後着色料と硬質樹脂粉末を加へ混捏せる泥狀液にて紙面に盛上印刷を行ひ乾燥後加熱し樹脂質物を着色料と共に融着固定せしめて、濃度一様にして且つ輪廓の鮮明なる印畫模様を織物等に轉寫すべき轉寫紙を製出し得るものなり。

小谷 重二

東京市大森區入新井
一ノ一〇七八

特許第一〇三二七七號 新聞紙の表裏多色印刷方法

〔内容〕半截巻取紙を使用し其表裏第一回の印刷を終りたる後之を轉向して再び印刷「ロール」裝置の他半部へ導通せしめて成る印刷方法。

小村 徳右衛門

廣島縣佐伯郡大竹町
大字大竹八七五番ノ三

特許第一〇一三三〇號 「ハイ」製品面に印刷する方法の改良

〔内容〕表面平滑なるものは勿論不正形の表面を有する「ゴム」製品に對しても簡單安價に然も制落の憂なき印刷を行はしむる特殊方法。

西澤 勇志智

東京市世田谷區
經堂町三八三

特許第一〇一六六六號 「アルミニウム」印畫版の製法

〔内容〕水銀の作用により酸化せしめられたる部分のみ「アルミニウム」を剝脱せしめて其處に繪畫等を彫り付け若しくは抜き通して凹凸版又は膠版用型抜き原版等の原版を製する方法。

安 雲 宗 一

兵庫縣武庫郡本庄村
深江字休家七七四

特許第九四三九號 捺染印刷版製作方法

〔内容〕輪轉式捺染印刷機の版筒筒面に印像を轉寫し、筒道の版像を加工形成するに當り、轉寫紙、紙の特殊操作により完全なる版像を得る方法。



藤井護三郎

大坂市東區西今町
二百三十三番地

特許第七三二四七號 電胎凹式平版

〔内容〕本發明は平版印刷と凹版印刷との兩長所を折衷したる形狀凹版にして用途の平版なる一種の版面にして一の金屬地板面に之に印したる畫線部を其儘殘して電氣鍍金法により裸面部を一段隆起せしめたるものなり。而して電胎面をして金屬分子の堆積に依る規則正しき且つ精粗を自在に調節し得べき適當の保濕面たらしめ畫線部は「インキ」の滞在に便すべき凹窪を形成せしむるものにして、從來の直刷又は「オフセット」印刷と同様に給水しつゝ、而かも平版印刷装置及び「インキ」を應用することにより凹版印刷に見るが如き鮮鋭なる而かも大量の印刷に耐ゆべき、簡易にして高級且つ經濟的なるものなり。

從來の平版及腐蝕に依る凹平版は「ブランケット」の押壓力其他の外力に依りて「インキ」の擴散による畫線の膨大及「ハイライト」の細粒點の飛消は免れ難き所にして自然印刷の不鮮明、曳いては版面の有効壽命短く大量製産に對し幾多の替版を要し他面印刷物に深刻味を缺き、又就中「ゲンダイツク」法に依り網目陽板より焼付くるものにおいて複雑なる色彩原稿に向ては陰板修正の困難あること、平調色陽板と同大の乾板を欲すること其他原稿より凹版を得る迄の操作の煩雜なる事等にて不便尠からざる等の缺點あり。然るに本發明は畫線の擴大細粒點の飛消絶無なる結果印刷は鮮明にして版の壽命長きは勿論濃淡の深強なる所謂「グラビエア」調の印刷物を得ることを特色とす。就中網目寫眞版にも描畫版にも共用し得る事特徴とするものにして網目の精粗描畫の粗密に對する凹窪の深度と保濕面の精粗とは電流と時間との調節によりて容易に加減し得るのみならず、大量製産に對しては途中にて電胎の盛直しを行ひ以て同種の替版を節約し得るの長所あるものなり。

本 莊 榮

岐阜縣土岐郡
浪小田八二九

特許第九八八三號 「スタンプ」用遠乾耐水性「インキ」の製造

〔内容〕鹽基性染料の「ベンチルアルコール」溶液を基礎としたるものに特殊劑を混和したるものにして捺印と同時に乾燥の觀を呈し耐水性となり「スタンプ」臺

上にては乾燥緩慢なる「インキ」の製造法。

坂 入 祥 始

東京市芝區
金杉新濱町一二

特許第九四七八二號 複製用紙版製造用塗布液

〔内容〕古文書に塗布す可く鹽酸、硝酸及石灰水を混和してなる塗布液。

川 村 喜 十 郎

東京市本所區
石原町三ノ一六

特許第九八三五號 水性印刷「インキ」

〔内容〕揮發油に脂肪酸の重金屬鹽類を溶解したるものを媒體とし之に顔料及重晶石又は珪藻土を練合し芳香料を混和してなる「インキ」。

横 田 源 太 郎

東京市牛込區
富久町六〇

特許第九六五〇六號 印刷「インキ」に運用して其印字の汚染擴散を防止する資料製造法

〔内容〕硫酸「バリウム」重鉛華或は他の顔料を炭酸「カルシウム」又は硫酸「カルシウム」と混和し之と亞麻仁油等の溶劑との混合物を注加練合してなる「インキ」製造法。

田 村 利 作

金澤市下俣町六七

特許第九七八六六號 雜物用朱印肉

〔内容〕普通朱印肉處理法に螢光又は燐光物質を配劑

したるものにして簡單なる物理的方法に依り普通朱印肉使用の印章と容易に識別し得る特徴を有する印肉製造。

名 嶋 謙 之 助

大坂府三島郡
高槻町上田部五三

特許第一〇三七〇五號 「トレーシング、クロス」の製造法

〔内容〕精練漂白したる綿布を「ゴム」質の溶劑中に浸漬し取出して乾燥せるものに「トラガント、ゴム」澱粉「パラフィン」等を主成分とする塗料を施し加熱壓搾してなる製法。



舟橋金造

名古屋市中區西川町
丁目二五番地

特許第七三二四九號 スタンピング、パッド

〔内容〕本品は適當に處理したる染料に綿「フェルト」を浸漬して全體に吸收せしめ、此上に無数の細孔を穿てる「セルロイド」薄板を載せ綿布にて包み、此下に同形の染料を吸收したる綿「フェルト」を重ね適當の函に挿嵌したるものなり、即ち綿「フェルト」に吸收したる「インキ」を印刷押壓の都度「セルロイド」薄板の細孔より適度に浸出して「パッド」面を凹凸體に歪ませざる完全なるものなり。

木 下 龜 吉

福岡縣三浦郡城島町
大字城島二五二

特許第九五七三號 印刷用「インキ」の製造方法

〔内容〕加熱せる「コールド」中に澱粉、水硝子を混交し硫酸並に苛性曹達松脂及護膜廢品屑等を混入攪拌して製するものにして附着乾燥迅速確實なる「インキ」の製法。

志 賀 岩 雄

大坂市此花區
草間町三〇

特許第一〇〇五七二號 製造用「スタンピング」

〔内容〕「インヂュリンベース」を粗製「クレゾール」「メチール、アルコール」其他の溶劑に溶解してなる「インキ」の製法。

篠 崎 又 兵 衛

東京市本所區
藤町三ノ一六

特許第九四八三六號 膠寫版用水性「インキ」製造法

〔内容〕「トラガントゴム」「デキストリン」「グリセリン」「ロート」油に水を加へ之に礦物性、有機性顔料又は染料を添加して成るものにして、印刷物の乾燥迅速に且防水性を有する「インキ」の製造法。

國 澤 新 太 郎

東京府豊多摩郡
大久保町大字百人町
二七〇

特許第九八二四五號 印刷紙の防水方法

〔内容〕印刷されたる紙を稀薄「アルカリ」水溶液にて

處理して「サイズ」を除去し乾燥せしむる工程に關聯する特殊工程の結合により濕潤状態に於て摩擦するも印刷面に影響なき防水装置を施す工程。

瀬本 作次郎

神戸市 熊内町 六ノ一〇〇

特許第九四〇九五號 印刷用水性「インキ」の製造法

〔内容〕水に乾燥素又は「アルビニューメン」の溶液を混和し之に特殊の溶剤を添加して「エマルジョン」状態となりたるものに特殊の薬劑を處理せしめたる工程により鮮明なる印刷用「インキ」を得る方法。

田中 信吾

福岡縣 糟屋郡 箱崎町新町二三四五

特許第九六四二一號 製版「グリュ」製造法

〔内容〕「カゼイン」を製版用「グリュ」製造法の主材とし之に特殊の溶剤を加したるものにして製版用液状膠の代用品を製造し製版用魚膠の欠點を除去せる優良製品の製造法。

山内 利三郎

大阪市此花區上島町七

特許第一〇二六二九號 高速印刷刷面製造法

〔内容〕弾性に富み屈撓性にして厚薄なく可も平滑にして印刷インキに侵蝕せられざる刷面の特殊製法。

松本 米吉

東京府南葛飾郡 吾孫町東四丁目一五

特許第九九七〇九號 印刷物出射防水方法

〔内容〕紙面布面等に印刷し該印刷面全體に白「ラック

ク」を塗布し之を高温度に於て急速に乾燥する事を特徴とする方法。

花田 貞造

東京市 芝區 新橋町二一〇

特許第九六〇一六號 陽畫寫眞感光膜製造法

〔内容〕「メタトリレンヂアミン」の「ヂアソ」化合物溶液に特殊の溶剤を加へたる溶液を物體に塗布したる後感光せしめ之を別の特殊液にて處理したる後感光速やかなる感光膜を製する法。

丹羽 長道

東京府豊多摩郡中野町 新山通二ノ一五

清水 秀雄

東京府豊多摩郡淀橋町 角番六五二

特許第九六八一三號 両面に異なる畫像を現はし得べき寫眞印畫紙

〔内容〕印畫用紙の片面若しくは両面に特殊色調を有し消色液にて褪色する色素液を塗布するか又は滲込み中間遮光層を設け其上に表裏両面に感光膜劑を被覆して成る印畫紙。

岡本 清

大阪市 住吉區 住吉町五八七ノ三

特許第九八五五九號 陽畫寫眞感光膜製造法

〔内容〕特殊醋酸鹽を使用し之と酒石酸の如き有機酸と「アソ」染料成分との混合水溶液を適當物體に塗布し

て得らるゝ感光膜製法。

大島 幹義

東京府豊多摩郡 代々木町大字代々木 字山谷一三一

特許第九七六四二號 互轉操作を要せざる互轉感光材料

〔内容〕寫眞用「ハロゲン」化銀感光乳劑に關する特殊劑處理工程により一回の現像處理に依り反轉せる像を現はし得る特殊材料調製工程。

河合 勇

横浜市 鶴見區 生麥一七三五

特許第九七二七三號 不燃寫眞用「フィルム」製造法

〔内容〕寒天水溶液に炭酸石灰を入れて煮、更に「フォルマリン」を加へたるものに關する特殊工程により寒天膜を難吸水性たらしめ水に遭ふも防水膜を剝脱分離することなからしめたる製法。

竹内 喜三郎

東京市 板橋區 志村小豆澤町 八六五番地

特許第九九五九八號 幀付時可視像の顯出する現像印畫紙の製造法

〔内容〕食鹽臭素加里沃度加里と共に銅「ニッケル」又は「コバルト」の可溶性鹽硝酸銀溶液を密和反應せしめて現像印畫紙を製出せしむる法。

浅井 權之助

東京府北多摩郡 武蔵野町吉祥寺 二〇〇二五

特許第九四一八〇號 天然色寫眞印畫製作方法

〔内容〕一般物體の有する自然色を三色障を用ひて分離撮影したる三枚の陰板を得之が特殊操作により自然色を發現せしむる方法にして色彩の學理的効果により實物の色彩的表現價値を大ならしむる方法。

龜井 勝次郎

西宮市 森具宮ノ上 三九六番地ノ一

特許第七〇三七〇號 瞬間天然色寫眞攝影機

同第八〇二三四號 色彩寫眞印畫方法

同第一〇〇一五三號 一露出天然色寫眞攝影裝置

同第一〇一一九三號 陶磁器硝子又は其他の窯業製品繪付用轉寫紙

同第一〇二二二〇號 天然色寫眞色彩分畫の撮影方法

〔内容〕天然色寫眞色彩分畫撮影方法は臭化銀乳劑に對し綠色に對する感光性を附與する事なくして赤色橙色黄色に對する感光性を附與し、且つ綠色又は青綠色に着色したる感光膜を有する寫眞乾板寫眞用又は活動寫眞用フィルムを有する寫眞乾板寫眞用又は活動寫眞用フィルムを有する寫眞乾板寫眞用又は活動寫眞用フィルムを重合し前者を前に位置せしめ二色に撮り分けを行ふ撮影方法に關するものなり。

〔略歴〕氏は明治二十二年十月西宮市酒造業の三五九

川口 政一

東京府北多摩郡千歲村 下祖師ヶ谷四八番地

特許第一〇二九二六號 録音筒を有する「フィルム」の染調色装置

〔内容〕液槽内の兩側壁に沿ひて數多の送轉子を並列樹立し誘導せる「フィルム」を轉子に掛架して緊張支持しつつ槽内を移行なして一定正確に畫像部のみを染調色し得しめたる装置。

武市 由五郎

東京市 下谷區 金杉上町四二

特許第九四七六一號 布地に對する寫眞轉付法

〔内容〕鐵鹽類の印畫液を布地に塗布乾燥して燒付け之を硝酸銀液にて現像し定着液にて定着の後水洗して得る燒付法。

鍋谷 甚三郎

東京市 京橋區 築地一丁目十八番地

特許第九九〇五八號 感光乳劑の製造法

〔内容〕「ゼラチン」及寒天等の混合溶液に「ロツセル」鹽、鹽化「アンモニウム」硝酸銀及「クエン」酸等の藥品を配合して感光乳劑を製造する方法。

長濱 慶三

東京府豊多摩郡淀橋町 柏木百五十四番地

特許第九九五〇號 寫眞用生「フィルム」包裝方法

〔内容〕生の「ロール、フィルム」又は「フィルムパック」用切「フィルム」の端を遮光誘導紙又は抽出紙に貼

原田 良雄

東京市 中野區 城山町六十三番地

特許第一〇二二六四號 天然色寫眞「フィルム」

〔内容〕「セルロイド」其他透明支持體面に「ゼラチン」等よりなる膜を形成せしめ寫眞用目版と染料含有印刷「インキ」とに依り特殊化學的方法を以て天然色寫眞「フィルム」を得る法。

佐々木 彌太郎

東京市 豊島區目白町 三丁目三五四三番地

高田 豊成

東京市 澁谷區 大山町一一番地

特許第一〇〇四三四號 寫眞用感光材

〔内容〕最初透明乃至半透明にして後處理に依り任意の色光に對し半透明乃至不透明なる乳白色又は白色となるべき資劑を感光劑と共に透明乃至半透明の支持體に支持せしめて寫眞用感光紙を得る方法。

櫻井 季雄

東京市 小石川區 林町一七

特許第九六四四二號 陽畫感光紙の製造法

〔内容〕「オルソ」位置に置換體を有する特殊化合物と酸の混合水溶液を「アソ」染料成分と混合して紙に塗布する製造法。

長口 宮吉

東京府北多摩郡 武蔵野町吉祥寺 二〇〇二五

特許第九四一八〇號 天然色寫眞印畫製作方法

家に生る、縣立伊丹中學校、關西大學外語科、神戸市バント英學校に學ぶ、同四十年五月より約一ヶ年神戸市光村印刷合資会社に勤務し獨逸人トイブナ氏に就き原色版の研究をなす、同四十年より約四ヶ年大阪市に於て寫眞製版及印刷業を營業し、同四十五年十月より日本活動寫眞株式會社顧問兼技師長となり大正四年辭して島津製作所に入社しレントゲン螢光板の製作及光學機械の研究に従事す、同八年十月同所を辭し大阪市に設立されたるキネマクロム活動寫眞株式會社の取締役兼技師長となりて天然色映畫の製作をなす同十一年七月西宮市に龜井天然色寫眞工藝社を創立して輪轉色刷ラヴェア印刷業を開始し傍ら色彩寫眞、寫眞捺染、立體寫眞、寫眞陶器等の研究を完成す、更に昭和七年現所に完全なる設備を有する寫眞陶器製造部及天然色映畫部を設け印刷、陶磁器の焼成、映畫並に之に附隨する音楽部等に多くの人材を集め且養成しつゝ色彩寫眞に關する幾多の發明を實施しつゝあり。

大正四年以來天然色寫眞及映畫等に關し氏が今日まで得たる特許權數は既に三十件に達せんとし且諸外國特許權數亦多數を算す、昭和八年十月第一回商工省輸出工藝展覽會に鑑査を経て天然色寫眞陶器を出品し、翌十一月第一回特許局發明展覽會に天然色映畫外五件の發明に係る約二十點を出品し賞讃を博す特に 李玉殿下の台覽に際し長くも御觀賞を蒙り作品數點を献上するの光榮に浴し、且拜講を仰付けられ銀盃一組を下賜せらる。同年天然色寫眞を業業製品

に燒成する方法に對し恩賜發明獎勵金を下賜せられ又帝國發明協會より二個の優等賞を授與せらる。

尙氏の研究及發明に關しては種々の文獻あり就中西曆一九二五年米國ボストンに於て發行せられたるイ、セ、ウオール氏著ゼ、ヒストリー、オブ、スリー、カラー、フォトグラフィキーに天然色映畫及天然色寫眞の發明に關する唯一人の日本人として萬丈の氣を吐けり。

羽田次郎

東京府荏原郡 世田ヶ谷町經堂在家 二二六

特許第九五八三〇號 水に迅速に溶解し易き焦性沒食子酸結晶製造方法

〔内容〕焦性沒食子酸結晶に水を單獨に又は揮發性溶劑の適量を注加吸收せしめ之を乾燥せしめて成る製造法。

長谷川太祐

東京府中野區 上高田一丁目 一五一番地

特許第一〇二八六六號 粉末酸性硬膜定着劑

〔内容〕結晶「ハイボ」又は無水「ハイボ」と明礬とに異性重硫酸「アルカリ」と醋酸「アルカリ」とを化學當量に於て添加し水に溶解して成る定着劑。

岡崎守

東京府本郷區 吉祥寺町二二三

特許第九四三七五號 寫眞攝影方法

〔内容〕感光面と粗面を着色せる光澤消硝子の滑面と

を接觸せしめて撮影するものにして修整不要の軟調なる寫眞を得る方法。

米村甚六

東京府牛込區 市ヶ谷町九五

特許第九五〇一八號 映寫幕製造法

〔内容〕平組織に成織せる布地を枠に張りたるものに弱糊等を塗布乾燥して型板を製し其上面に生「ゴム」液に和硫劑を混じたる液を數十回反覆塗着乾燥し布地より剝離して處理せしめてなるものにして折目を附することなく凹凸面を有する映寫幕を製造する一方法。

菊地東陽

東京府豊多摩郡落合町 大字下落合六六〇

特許第九五二八九號 陽畫乾板又は陽畫フィルム

〔内容〕陽畫乾板又は陽畫フィルムに陽畫フィルム均等に附着せしめ畫像を明瞭に顯出せしむる方法

盛岡勇夫

東京府荏原郡駒込町 字金四〇番地

特許第一〇〇〇四九號 浮彫寫眞製作法

〔内容〕多數の線の影を投影したる被寫物を撮影せる同一寫眞を數枚製作する平面寫眞攝影工程と曲線を切断する工程と一定關係の下に集合結着せしむる工程により容易に浮彫寫眞を製作せしむる方法。

尾形輝太郎

東京府本郷區 駒込神明町三二八

特許第九四二六一號 赤外線感光性色素の製造法

〔内容〕「レピチン」の第四級鹽に特殊の添加劑を作用せしめて色素Uの收得量を多く製造する方法。

青木元男

東京府豊多摩郡 淀橋町柏木二五〇

特許第九六二二七號 一浴現像定着劑

〔内容〕一般現像定着液に「ピクリン」酸「アンモン」又は「ピクリン」酸曹達を混和するものにして白晝現像可能膜面毀損を防止し水洗容易なる特徴の製劑。

稻田美穂

臺灣高雄州屏東郡 屏東街歸來八七三

特許第九五九三四號 分蜜糖製造法

〔内容〕植物性物質より酸化又は水酸化の石灰を包孕せる脱色炭を得之を蔗糖汁の或種のもの、石灰乳の代りに蔗糖汁に加へ特殊處理により色相優良なる分蜜糖を得る方法。

本郷芳雄

東京府北豐島郡 尾久町大字上尾久 一二九九番地

特許第一〇三八五五號 合成固形粉製造法

〔内容〕糯米糯米等の澱粉質原料を煮熟し之に麥芽粉大根汁を加へ温熱空氣を送りて攪拌し均一糖化せしむる工程と他の特殊工程とを施して淡色透明なる合成固形粉を製造する方法。

堀内莊三

廣松市廣野寺町四四一

特許第一〇二一九八號 結晶内に有色の核芯を包含する氷砂糖製造方法

〔内容〕種品の表面に衛生的に無害なる着色料を混和せる「ゼラチン」又は同效の糊着料を晶面の所々に粗薄塗布乾燥せしめ蔗糖の飽和溶液の中に入れ結晶せしめ色彩核芯を有する氷砂糖を得る製法。

小松茂

京都市上京區 小山中溝町一八〇八

特許第九七九〇三號 澱粉其他多糖類より葡萄糖の製造法

〔内容〕原質を第二銅又は鐵鹽類の存在に於て酸により加水分解を行ふものにして副生物の成生を防止し酸の使用を減ずる方法。

杉本三治郎

大阪府河内郡西六郷村 字箕輪 一一二九

特許第九五九〇六號 胚芽粉製造方法

〔内容〕米胚芽を麥芽により糖化するに稀釋せる絲瓜水を加へて熱するものにして「ビタミン」Bを多量に含有する枕脚氣營養物を美味ならしむる製法。

小川惣平

東京府深川區 御船藏前町四〇番地

特許第一〇〇九九七號 二番砂糖精製法

〔内容〕機枠の兩端に任意廻轉裝置を施せる「ローラー」を加設し無端帶狀の鐵板帶を掛張し任意加熱し給

田中末吉

東京府荏原郡品川町 大字北品川宿七三三

特許第九五七九六號 再製赤糖製造法

〔内容〕熱處理せる砂糖液を一定方向同轉の圓筒形容器内にて特殊操作し連續的に品質均一の製品を得る方法。

濱口文二

廣州市磯子區丸山町 富士塚 五五八

特許第一〇二七九四號 柑油の剥皮方法

〔内容〕酸類の溶液中に柑類類囊を浸したる後熱氣或は蒸氣に依り加熱處理し味良好なる優良品を得る方法。

吉村忠夫

廣州市中區堀内町 五五五番地

特許第九八三三四號 氷凍に依る海水濃縮装置

〔内容〕露天状態に設けたる流床の途中の諸所に氷片分離機を備へたるものに關聯する特殊工程により海水中の氷片を生成後速かに分離せしめ水分の氷結を促し海水濃縮を有利に遂行する装置。

片平憲治郎

樺太廣郡落合町 大字字落合 南十五線東十八



田中 新吾
東京市黒目下黒目
三丁目四八ノ九

特許第二九一三五號 ST式製鹽法

〔内容〕本發明は煎煮製鹽釜の適所に凹所を設け其の凹所に適合する石灰鹽類採收器を装置したる釜に其煎煮により折出する石灰鹽類は採收器にて採取し、食鹽は凹所に集積し置き、次に注入する鹹水の濃厚となりたるとき其鹹水にて集積鹽を洗滌精製して採鹽し、共に採收したる苦汁は再び釜に注加し煎煮し苦汁中に残留する食鹽分をも採取する方法にして、燃料の損失なく純良食鹽を多量に得らる、特長を有す。
〔略歴〕氏は明治十二年和歌山縣の出身、同三十八年東京帝國大學農科農藝化學科卒業、大藏省技師、專賣局技師に任ぜられ爾來專賣局各試験場長を歴任し又特許局、關東廳其他を兼務し現に專賣局收納部技術課長として煙草鹽技術事務を執掌さる。

國川 卯三郎

關東州大連市
白菊町一六

特許第九八三七〇號 天日製鹽裝置

〔内容〕熱の不良導體より成る密閉匣に熱良導體の水盤を嵌せしめ太陽熱を直接、間接の二重に利用し得る装置。

る装置。

藤井 政夫

尾道市十四日町五六七

特許第九六三八七號 製鹽裝置

〔特許〕傾斜位置に保持せる扁平蒸發槽の下端邊に特殊工作を施したるもの、特殊工程により經濟的に鹹水を蒸發濃縮して食鹽を採集する法。

國分 俊夫

大阪府河内郡布都町
荒川一〇五五番地

特許第一〇二二七九號 鹹水熱蒸發裝置

〔内容〕蒸發鍋の上部に前後開口を設けたる長漏斗を倒置し上端を包圍する短漏斗を支持し豫熱鍋を架設して豫熱鍋に於ける鹹水を豫熱濃縮せしむる装置。

小林 孫四郎

廣島縣沼津郡今津町九

特許第九五三三九號 製鹽裝置

〔内容〕内周に特殊平圓板を取付け其遠心力と該板上の送風翼とによつて流下鹹水を霧状となし其蒸發による水蒸気を送出し迅速に所要濃度の鹹水を得る装置。

龜本 博元

兵庫縣揖保郡神戶町
大江島四四七番地

特許第一〇三三六八號 精鹽自動離水機

〔内新〕遠心力による排水に適當なる穴及鹽の細粒をも散出せざる設備をなせる廻轉すべき圓筒の内部に特殊裝置を施し以て廻轉作業を自動的に間断なく行はしむる機構。

三六二

藤井 政夫

尾道市十四日町
五百六十七番地

坂東 長康

東京市芝區芝公園
十四號地十四

特許第九九二四七號 食鹽製造裝置

〔内容〕硝子製鹹水蒸發槽を傾斜せしめ屋根狀に架し下端縁に鹹水噴射嘴を備へ濃縮結晶槽を水平位置に設け硝子張の側壁にて圍繞したる等の方法に依り燃料を節約し經濟的に食鹽を製造する装置。

高田 嘉助

同 第六四〇八號 製鹽釜

〔内容〕本發明は釜底の内面を平滑にし其外面に無數の凸凹を設け、更に土の被覆せる一層を作るものにして、之によりて製鹽釜の危險を防ぎ鹽液煮沸に火力の度合を良好ならしむるものなり。食鹽製造は山來我國に於ては主として鹽田式天日製鹽法により海水を濃縮して鹹水を得、之を更に煮詰めて鹽化マグネシウム鹽化加里を分離して精製食鹽を製するものなるが鹹水濃縮に用ふる釜は鑄鐵製のものを用ひたれど濃縮して結晶の折出するに従ひ釜底に局部的過熱部を生じ釜の破裂を來したりしが、本發明により之等の危險を防止し得るに至れり。
〔略歴〕氏は明治元年廣島縣の出身、家業たる鑄造業に従事し、村町會議員となり三十七年新村長に就任す、同三十八年私立博練中學を設立

し、同四十一年備後報徳會を發起設立四十二年信用組合長に就任せり、大正三年十一月病を得て長逝せらる。

阿賀 喜八

香川縣綾香郡坂出町
南海岸町一七八一

特許第九八六一八號 製鹽釜

〔内容〕底板の裏面に引張桿を設け底板をして平時凸形、使用時平面状態を保持すべくしたる特殊裝置。

濱田 良雄

東京市京橋區
築地明石町九

特許第九四八〇七號 製鹽方法的改良

〔内容〕鹽田に使用する「キラレ」なる細砂の代りに火山礫又は火山砂利を粉碎したるものを使用するものにして太陽輻射熱の吸收及保温性大にして蒸發の表面積を廣くしたる方法。

板垣 專藏

横濱市神奈川區
神奈川通三ノ六六

特許第九七一七三號 精米方法

〔内容〕米糠に關聯する特殊工程により精米の際の除去栄養分を吸着復歸せしめたる後復發により研磨する方法。

早生 種四郎

東京市品川區五反田
六丁目一九一番地

特許第一〇一〇九五號 精米方法

〔内容〕玄米を精白するに當り「タンニン」酸明礬及水

を適量に配合し沸騰溶解せしめたる混合溶液の適量を玄米に滴下混合しつゝ、精米機にて精搗する經濟的方法

太田 又三郎

東京市京橋區
南八丁堀三丁目十番地

三ツ 森勇雄

東京市本所區
吾妻橋一丁目十九番地

特許第一〇一八〇九號 混液精米法

〔内容〕精穀機内の玄米に多量の鹽化カルシウムに少量の重炭酸曹達を混入したる水溶液を滴下して精米する方法にして混砂精米に於ける衛生上の缺點を除去せしめたる精白法。

加藤 二郎

大連市桃源臺
二七一番地

特許第九九三四三號 肝油含有する麵粉及菓子生地製造法

〔内容〕肝油を大豆其他の植物子實より得たる粗「レシチン」に依り豫め乳化し原料と共に混捏することにより栄養上効果ある「ウイタミン」を菓子其他に附加せしむる方法。

川本 玉一

京都市左京區
北白川別當町二八

松本 均

京都市左京區
下鴨野町一五ノ五

特許第九六五八五號 五蜀黍より鉄素其他の蛋白質を分離する方法

〔内容〕水酸化「アルカリ」の温溶液並に稀亞硫酸溶液

川北 万藏

大阪府豊能郡豐中町
大字新免一二六四

特許第九四三三二號 粉狀生麵製造法

〔内容〕鉄素に之と略同量の糯米粉を混じたるものにして生麵に還元精製し得べき粉狀生麵を製する方法。

高田 亮平

大阪府北河内郡
友呂岐村大字郡

特許第九六三三二號 麵粉酵化劑の製造方法

〔内容〕小麦粉其他の穀粉に酸性鹽類の特殊なるものを混和加熱乾燥するものにして酵母の酵力力を調節し製品の優良を期し原料を節約し得る製劑品の製法。

染谷 孝介

東京市芝區根岸本町二四

特許第九七六八九號 精米法

〔内容〕西瓜系瓜其他比較的纖維多く果汁多き果實に對する特殊工程と之によりて特殊の精白をなす工程の結合により精白迅速碎米防止を得る方法。

坪倉 眞治

東京市芝區
新橋六丁目六十番地

特許第一〇一〇三七號 藥養成分を多量に含有する麵粉の製法

〔内容〕豆類の粉末に熱湯を注ぎ攪拌して蛋白質脂肪

含水炭素等の成分を抽出溶解せしめ適量の鹽化「カルシウム」を加へ凝固せしめて沈澱物を採集し冷凍の後日光に晒し乾燥する等の工程により優良なる麵粉を製造する法。

山田喜太郎

東京市荒川区尾久町四丁目一八七八番地

特許第九七三號 高粱處理法

〔内容〕高粱子質を熱湯中に浸漬し之を攪拌研磨し數回反覆し新鮮なる熱湯と新陳代謝せしめ空氣酸化及器械的磨削とに依り色素滋味を變質脱離し冷水にて洗滌乾燥して成る食料原料として好適なる製品を得る方法。

松浦喜一郎

徳島市南佐古町初江島二二二

特許第一〇八一三號 粉狀麵類

〔内容〕小麦粉に動物性蛋白質より得たる蛋白質を分解して「アミノ」酸及鹽類含有液を混和吸収せしめ低温に加熱乾燥し粉狀となす工程と之に香氣成分を含有せる油脂を混和する工程との結合に依り麵類原料を得る方法

福本榮作

東京府荏原郡東調布町大字下沼部七〇六

特許第九七五二五號 精米方法

〔内容〕鹽化「ナトリウム」九五%以上を含有する食鹽を添加し精米するものにして米肌傷害の虞なく品質優良にして貯藏性に富める精白米を得る方法。

古川政司

東京市本郷區駒込西片町一〇九ノ一一

特許第一〇二二五號 澱粉質處理法

〔内容〕澱粉質を液化「アムモニア」中に浸漬處理したる後「アルモニア」を分別なして得る澱粉質の處理法。



平福安 町上南市田和岸

特許第一〇〇四二二號 大陸スターチ

〔内容〕本發明は水にて膨脹せしめたる高粱と特殊植物性蛋白質物とを適宜混合磨碎處理により濃厚なる乳液となし、之を遠心分離機、濾篩其の他の分離機により液と粕滓とを分離せしめたる後分離液を攪拌放置する時は澱粉は器底に沈澱し不純物は水と共に浮遊するを以て兩者を分ち純白なる高粱澱粉を製造し得るなり。高粱は滿蒙の野に殆ど無盡蔵と云ふべく價格極めて低廉にして澱粉原料として品質最適のものなるにも不拘、從來之が澱粉製造を企てたるものありと雖も其外皮に附着せる赤色層を完全に除去するを得ざる爲め澱粉中に赤色の殘留す

古德準一郎

東京市澁谷區宇田川町三十五番地

特許第一〇二二八五號 精米液

〔内容〕「ベンクレンチン」を含有することを特徴とし之に糖類と重曹とを混和せしめ搗滅碎米量少く衛生的に精白度高き精米液を得る方法。

古德延光

東京市澁谷區圓山町五番地

特許第一〇二三八四號 養魚餌料製造法

〔内容〕魚類の廢棄物又は全魚體を加壓の下に蒸汽にて強熱し軟弱狀となし魚油の大部分を除去して他の養魚餌料と混合し養魚上養完全安價にして油臭なき餌料を得る方法。

木村金太郎

東京市京橋區月島三號地水産試験場内

特許第九四〇七三號 豆類の脱皮脱臭製粉法

〔内容〕豆類を水漬したる後等廻轉の一対の加熱「ローラー」間を通過せしめ之に特殊の處置を施したるものにして蛋白質及脂肪分を喪失せざる滑かなる豆粉を得る方法。

石丸康幸

福岡市天神町一二

特許第九九二九六號 豆類製法

〔内容〕水浸後脱皮を行ひたる蠶豆と綠豆との混和物を磨碎する工程と布囊にて絞り得たる液汁に明礬を加へ沈澱せしむる工程と煮沸し粘液となし混捏する工程と其他の工程に依りて品質良好なる豆素麵を製出する方法。

服部彌八

豊橋市船町二一〇

特許第九四〇四四號 濃納豆製法の改良

〔内容〕醬油を濃縮し鹽分を析出除去し後水を加へ原容に復したるものに特殊の工作を施し後乾燥するものにして長期の仕込を終りたるものと同一なる風味を有せしむる方法。

戸田三士吉

大阪府港區泉尾松之町五丁目十七番地

特許第九九四九一號 味付豆製法

〔内容〕生小豆又は生大豆の類を乾燥状態に保たしめ

阿久津正藏

東京市深川區越中島町八

特許第九四二九七號 麵類の製造法

〔内容〕酵母を使用する製造に於て「ドウ」の混捏中紫外光線を使用するものにして酵母の使用量を減じ白色にして品質良好なる製品を得る方法。

水谷政次郎

大阪府西區西長堀北通一ノ四ノ一

特許第九七七二號 製菓法

〔内容〕雞卵、砂糖、小麦粉の混和物に「イースト」を加へて醗酵膨大せしめ之れが特殊作業により「イースト」を原料中に混和培養せしめ冷縮の後分子の濃密を得る製菓法。

御法川三郎

東京市小石川區初音町四番地

特許第一〇〇三九五號 即席餅製造方法

〔内容〕普通の餅を半乾燥状態に於て「ロール」にて薄板上に壓展する工程と之を乾燥し押碎して細片狀となす工程と各細片を粘着せしめ多孔質なる團塊となす工程の結合に依り即時に掲立同様の生餅を得る方法。

清水芳太郎

福岡市谷字茶園谷五〇二番地

特許第九八九七九號 麵類の製造方法

〔内容〕魚鳥獸類の軟骨部分を採取し清水と共に密閉

關八洲

東京市小石川區坂下町二十一番地一ノ〇九號

特許第一〇二四九四號 斷熱壓縮せる氣體中に於て穀類を膨脹せしむる方法

〔内容〕機械的方法に依り氣體を斷熱壓縮して穀類を處理し大氣中に放出して膨脹せしめて燃料を極度に節約し製造能力大ならしむる方法。

石川壽

東京市芝區田町一ノ六平賀光市方

特許第九六八五八號 乾燥油揚製造法

〔内容〕加熱大豆蛋白質及生の大豆蛋白質各等量を限度として混合し之れを凝結せしめ之を特殊方法により油揚したるものにして永く腐敗せず香味を増す調味輕便なる油揚製造法。

岩佐傳一

東京市澁谷區柏木四丁目八百十三番地

特許第一〇〇五五九號 豆腐糖を主原料とする油揚原料製造方法

〔内容〕新鮮なる豆腐糖を常温に於て可及的脱水したるものに少量の大豆粉と澱粉加熱により炭酸瓦斯を發生する物質及「イースト」を添加し捏和均質ならしむる工程と他の特殊工程に依り油揚原料を簡単に製造せしむる方法。

研磨する工程と加熱加圧密閉筒内に於て處理する工程と砂糖食鹽を含有する酒精溶液若は味淋を噴霧塗布乾燥する工程とにより滋養に富む豆を得る製法。

岩島保治
東京市本所區林町二丁目十七番地
岩田芳三
東京市豊島區西巢鴨三丁目七百四十番地

特許第一〇三二七號 納豆製造方法

〔内容〕 絲引納豆に醬油又は食鹽の如き調味料を加へ攪拌する工程と熱風を通じて水分を發散せしめ其他特殊の工程を施して運搬に便なる表面の乾燥せる絲引納豆を得る製法。

大久保唯市郎
群馬縣佐波郡境町大字境三八二

特許第九四二九二號 豆腐製造方法

〔内容〕 豆乳汁中に没入せしめたる噴射口より苦汁を噴霧狀にて供給しつゝ攪拌するものにして苦汁の使用量を少なからしめ細ききめと適度の軟度並に膨大性を有する豆腐製造法。

加藤芳兵衛
東京市豊多摩郡淀橋町柏木九二七

特許第九六一〇〇號 模造乳製造法

〔内容〕 玄米と麥との軟飯を適當に處理して澱粉の一部を糊精と糖とに變じ之が特殊の處理法により榮養豐富なる乳狀液を得る方法。

吉永振作
福岡市鐵砲町一

特許第九七七八號 無臭乳白色の豆乳製造法

〔内容〕 水浸膨張せしめたる大豆を特殊方法にて脱皮搗碎し米水中に混和し而して不溶解物を除去したる後無砂米糠を混じり水蒸氣にて加熱したるものを加壓濾過して製造する方法。

米澤久太郎
徳島縣名西郡石井町二百九十一番地

特許第九五五七號 糶粉入豆腐の製造方法

〔内容〕 最初水に糶粉を混じ之に重曹を添加し攪拌混和したる後大豆粉を混入し煮沸凝固せしめ以て貯藏性に富む豆腐を容易に得る製法。

堤盛一
東京市杉並區松ノ木町一四八番地

特許第九二四八號 即席豆腐製造法

〔内容〕 大豆より抽出したる脂肪を含有する蛋白の粉末を苛性石灰と炭酸曹達とを混合したる稀薄溶液に完全溶解し之に鹽酸四部と硫酸一部との割合より成る特殊の稀薄酸液を加へて簡單に普通豆腐と異らざるものを製造する方法。

野澤一郎
東京市京橋區月島東河原通九ノ四

特許第九四八三三號 即席豆腐製造法

〔内容〕 原料用豆乳を煮沸し是を乾燥粉末となしたるものに粉末凝固劑を混和して是を貯藏し必要に應じてせしめ石灰を投入して之に更に稀薄酸を加へて蛋白質の損失を少なからしめ充分に大豆を脱色せしめる方法。

山本芳太郎
兵庫縣赤穂郡高田村正福寺二二

特許九五五四二號 豆乳製造法

〔内容〕 生大豆又は脱脂大豆を漂白脱臭し之を重曹「セラチン」液、抱酸又は酒石酸に處理し充分なる防腐性と適當なる稠度を保持せしめ毫も沈澱する事なき豆乳を製造する法。

山路一善
東京市芝區白金三光町五一九

特許第九八八一號 發芽豆粉製造法

〔内容〕 廻轉式加熱容器内に於て大豆以外の豆類を特殊の工程により處理し成分を消化し易からしめ諸種の酵素及「ビタミン」を保有せる食糧用原料の豆粉を得る方法。

紺野嘉市
福島縣安達郡戸澤村大字北戸澤字白ヶ作十八番地

特許第一〇三三七號 凍豆腐製造法

〔内容〕 大豆に蒸熱を與へ軟化し之に糯玄米及銀杏小

杉山利伊
福島縣安達郡木幡村大字内木幡字山本三十七番地

特許第一〇二九三號 大豆脱色法

〔内容〕 大豆を淡水中に浸漬し壓搾空氣を吹込み攪拌

豆乳を凝結豆腐となし得る方法。



所製粉製寶 洋顯木藤
大正 市 阪 大
區 正 大 市 阪 大
目 丁 二 町 福

特許第一〇二六〇六號 寶粉

〔内容〕 本品は豆腐原料として生大豆を機械的に粉末したるものにして豆腐を製するには僅かに二十分乃至三十分を要するのみにて而かも従来の豆腐と比較して經濟的に且つ色合品質營養價及び味の點に於て遙かに優秀なるものなり。

〔略歴〕 氏は京都の人、京都帝國大學電氣專攻科に學び傍ら自宅の研究室に於て凡ゆる困苦と闘ひつゝ諸種の研究に精進せり、其結果發明完成せられたるものに完全密閉電動機、魚釣針製造機、絹布防水加工、寫眞友禪加工等あり、偶々或る機會により豆腐のオカラ研究を思ひ立ち周囲の人々の嘲笑を斥け敢然之に着手す、而して研究は漸次に進められ數年の苦心慘澹たる行程を経て順次に品質異なる生大豆の成分の調節ヒネ豆の若返り法、如何なる粉末が最も濾過し易きか、製粉能力の倍加向上、豆腐原料に適せざる微粉を生ぜしめざる粉碎機の發明等を遂げ終に生大豆を原料とする豆腐製造法を完成す



郎次忠木鈴
郡 東 縣 靜 國 靜
八 八 四 一 野 佐 村 泉 小

特許製九八一八八號 お汁粉原料乾燥製造法

〔内容〕 本發明は精選したる小豆を密閉室に入れ之れに所要壓力を有する蒸氣を送入して處理し後之を急速に外界に放出し以て小豆粒に對する熱及壓力に急速なる變化を起さしめ之により粒體内の組織を破壊し粗糲狀たらしめ更に之を軽く搗潰して設置と外皮とを分離せしめ外皮は「アク」を脱出する程度に少時水或は湯に浸漬し後之を乾燥して前工程に止まれる實に混合して製粉すべくなしたるものにして小豆の組織内に含める不良成分を除去して製品の風味を向上せしむると共に小豆皮の微細度を高からしめ以て挽き減を極減せしめ得る特徴ある製法なり。

〔略歴〕 氏は明治二十五年靜岡縣の出身にして大正二年頃より専ら穀類の加工就中精米加工の研究に没頭し幾多有益なる發明及考案を完成し又之を實施して穀類加工上に盡せる功大なり。

昭和四年十月地方表彰に於て改良麥製造方法並に製造機械に對し帝國發明協會より優等賞を受け第四回發明博覽會に於て大賞を受ける。氏は右特許の外特許十三件實用新案十五件の権利を有せらる。

濱口文二

横濱市磯子區丸山町
富士塚五五八

特許第九五三八二號 清澄なる「ベクテン」溶液を分離する方法

〔内容〕「ベクテン」含有材料より「ベクテン」を分離し之に「ホモセナイザー」を使用して氣泡を溶液中に包含せしめ加熱して分離せしむる法。

早野常雄

兵庫縣川邊郡西谷村
大字切畑字長尾山
二番地ノ二九七番

特許第一〇〇二二二號 純白色粉末「トロロ」製造法

〔内容〕薯蕷又は佛掌薯の皮を剥ぎしものを稀釋酸性液又は「アルカリ」性液に浸漬し眞空乾燥法の應用に依り「トロロ」の主成分を得る法。

堀江勇久雄

小倉市下富野日出町
二七九番地

特許第九八三五號 芭蕉實腐敗防止方法

〔内容〕青き芭蕉實を運搬又は「ムロ」中に於て熟成作

業をなすに當り芭蕉實軸の芭蕉木より切り離せる断面に「クレオソート」油を主成分とする溶液に「アセトン」を混合し噴布せしめて熟成作業を容易ならしむる方法

大住將助
大阪市此花區
中江町八三

特許第一〇一七二八號 「クリスタル、フルーツ」の製造方法

〔内容〕水煮し任意の染料にて着色したる果物を「ザラメ」砂糖、蜂蜜、晒糖及水にて煮詰め「アラビヤゴム」等の水溶液を注下して更に煮詰め以て水分等に依りて變質せざる製品を簡單に製造する法。

加藤舜郎
戸畑市戸畑
字沙井崎間二四

特許第九八四九號 果實の貯藏法

〔内容〕「パイナップル」「メロン」等の如き自己消化及腐敗を起し易き生果を指砕後特殊の處理をなしたる上攝氏二十五度以下の「ブライン」を使用して急速凍結を行ひ永時貯藏に耐ゆる果實の貯藏をなし得る方法。

川浪正隆

佐賀市多布地町
四百號ノ二

特許第九〇八一號 柿「ジェリー」製造法

〔内容〕脱皮せし柿をある期間室内乾燥又は半乾燥の後之を搾汁し少量の水を加へ濾過し半流動液となす工程と濾液を煮沸して餡状となす工程との結合により風味ある柿「ジェリー」を製造する法。

片場牛郎

東京市本所區横町
十番地ノ九

特許第一〇一四二五號 蒟蒻菓子製造法

〔内容〕蒟蒻芋を指砕等の手段に依りて個々の構成粒子に崩壊分散せしめて半乾燥を行ひ粒子凝集塊を潰碎

大津嘉納

臺灣臺中市花園町
四丁目七番地

特許第九二二四號 「バナナ」粉製造法

〔内容〕剥皮せざる「バナナ」を蒸煮して「バナナ」の黒變性を失はしめたる後果肉を搾汁し酒精にて處理乾燥するものにして天然の成熟「バナナ」と等しき「バナナ」粉を得る方法。

し最後に完全乾燥を行ひて製造する方法。

勝野志真一

長野縣東筑摩郡中川村
千五百九十五番地

特許第一〇一〇三三號 薑類の貯藏方法

〔内容〕薑類を採取後容器に入れ焼酎を注入し固く蓋をなし蒸熱し沸騰するを度となして直に蒸熱を止め容器を密封して永く保存に耐へしむる貯藏法。

竹村順一

長野縣下伊那郡松尾村
大字松尾三七九六番地

特許第九九〇三三號 乾燥野菜製造法

〔内容〕野菜類を煮熟し一旦凍結せしめ乾燥工程若くは乾燥前後に重炭酸「アルカリ」炭酸「アルカリ」又は「アンモニア」等「アルカリ」性物質の稀釋水溶液を包孕せしめ乾燥せしめて成る新鮮味を發揮し味付を容易ならしむる乾燥野菜の製法。

寺田清三郎

臺灣臺中市北干那
北干街西北手一七七

特許第九八五二號 榴梿果實處理法

〔内容〕果實を指砕して得たる肉質果汁を安母尼亞に處理し指砕果實の加工品に膠化性を賦與する方法。

佐藤富次郎

東京市目黒區上目黒
二丁目二六三三番地

特許第一〇一七八一號 果實の食鹽水漬漬方法

〔内容〕果實を水洗して樽等の容器に收容し煮沸せる鹽水を生じ浸漬する工程を數回繰り返して果實をして生の状態に於て有する色彩を保留せしむる方法。

齋藤寅次郎

福島市太田町十番地

特許第九九四三三號 櫻桃果實貯藏法

〔内容〕櫻桃果實成熟期に當り立木のまま果實に撒水し數日を経て果實に龜裂を生ぜしめ採取し低熱の湯に浸し明礬水に入れ肉質を緊縮せしめ種子を抽出し其他の工程を施して成る方法。

坂上清

鹿兒島市下荒田
町一七九番地

特許第一〇二四九五號 金柑砂糖糖の製造法

〔内容〕金柑の生果に竹串を以て孔を穿つ工程と水浸及灰汁扱のため水中に於ける浸漬後砂糖を加熱溶解し

多田荒太郎

徳島縣名西郡藍田村
大字東覺園一一九

特許第九九七三號 蕪菜乾燥法

〔内容〕乾燥に長時間を有する蕪菜を食鹽によりて細胞内の水分を抽出し直に外氣流中に放散せしめて乾燥する方法。

高橋武雄

東京市杉並區天沼
三丁目八百三十四番地

特許第一〇三五九二號 「アルギン」酸の水溶性鹽類を用ふる「フルーツ・ゼリー」及「ジャム」の製造法

〔内容〕有機酸の下に蔗糖の濃厚水溶液を「ゼリー」化せしむるに當り「アルギン」酸の「ソーダ」「カリ」又は水溶性鹽類を用ひて成る製造法。

野口俊太郎

臺北市重慶路五ノ四二

特許第九七三四號 乾燥木瓜の製造法

〔内容〕木瓜の果肉を輪切又は紐状に切り之に酒石酸炭酸「マグネシウム」を處理せしめ乾燥したるものにし

たる冷却液内に浸漬する等の工程を施し品質優良なる金柑砂糖煮を得る製造法。

島丸八十七

熊本市細工町一ノ二

特許第九七二二八號 食用蒟蒻製造法

〔内容〕熱湯中の煮沸を施すことなく絶對的に低温にて處理し能率を増し一定標準の成品を得る特殊製造方法。

清水國治郎

山口縣佐波郡防府町
東佐波合第千四百
五十九ノ三番地

特許第一〇〇二三四號 蕪菜ソップ製造法

〔内容〕蕪菜を湯湯に浸し壓力を反復加減しつつ加へ攪拌し汁と固形分とを分別し小麦粉を加へて蒸炊し冷却後米麴、葡萄酒を合併して醗酵せしめ新鮮なる氣味の滋養「ソップ」を製造する法。

鈴木田秀三

京都市上京區
寺町通り今出川下ル
眞如堂一〇三

特許第一〇〇五二〇號 蒟蒻製造法

〔内容〕蒟蒻細粉に水を加へて攪拌し不純物との間に粉子大小を生ぜしめ溶解せる物質と共に濾過し純粋の蒟蒻分子のみを採集せしむるを特長とする製造法。

今泉雄二郎

東中市小石川區
第六天町五十番地

特許第一〇〇二五號 海産原料製法

〔内容〕「オキウト」原料即ち海藻を漂白し乾燥したる

後微細なる粉末とし又米糠を粉末とし兩者を配合せしめて味出料香味料を適宜配合する製法。

林内猿太郎

福岡縣若松市
老松六丁目八九

特許第一〇〇八七一號 乾燥「カルシュームオキウト」製造法

〔内容〕海藻「オキウト」草と「ケボー」草とを混和し之に「ニゴン」水を以て煮沸溶解し濾過器を以て壓碎濾過し不溶分を除去し「クローカルシウム」を添加し冷却凝固せしめて粘質液を塗布し衛生的乾燥品を製造する方法。

大木末吉

埼玉縣北足立郡浦和町
岸町三三〇五番地

特許第九九〇六一號 粉末寒天製造法

〔内容〕原料海藻の煮沸溶液に硫酸「ソーダ」を加へ寒天質を沈澱せしめ水洗して後低温にて乾燥し粉末となす製造法。

茅野助二郎

長野縣諏訪郡永明村
三五二四番地

特許第九九八七〇號 寒天製法

〔内容〕樺太産「イタニ」草の浸水せるものに「アルカリ」を加へ煮沸し廻轉式捻洗機に移し土砂と共に表皮の色素を機械的に洗滌し攪断機に依り微粒状となし以て従来漂白困難なりし「イタニ」草を原料として寒天を製造する方法。

帶刀要哉

東中市神田區美土代町
一丁目三十一番地

特許第一〇二二〇四號 板わかめ製造法

〔内容〕乾燥したるわかめ(巖斗布)を明白其他同效原料を接着劑として多數重疊接着せしめ乾燥後壓搾機に掛け水分を除去し板状體となして變質變味の虞なく保存に耐ゆる板わかめを製造する法。

中村米造

新潟縣中頸城郡
直江津町大字直江津
千五百五十八番地

特許第一〇〇一八四號 昆布を原料とする食料品製造法

〔内容〕昆布を恒温に加熱し昆布表面に油狀物を浸出して加熱を止め冷却及粉碎の工程を経て昆布獨特な風味を失ふことなき食料品を得る方法。

中島武雄

大阪府天王寺區
大穴町六十番地

特許第一〇〇五四〇號 脆軟性昆布製造法

〔内容〕天然乾燥したる昆布を適當なる密閉器中に入れ廻轉し熱度と與へ内壓力の低下せざる間に密閉器の蓋を開放し爆音を發せしむると共に器外へ放出し特有の粘硬性を脆軟性とならしむる製法。

名島謙之助

大阪府三島郡
高槻町上田部六五

特許第九四九一九號 寒天精製法

〔内容〕〇・四%以上の寒天質を含有する熱寒天抽出

液を冷却し特殊の心太となしたる後「オゾン」又は之を含有する空氣を作用せしめて精製する方法。

阿部億次郎

大阪府三島郡
千里村四條二番丁九號

特許第一〇三六四一號 粉狀寒天製造法

〔内容〕天草に水を加へ煮沸したる原液を冷凍室内に噴霧狀に噴射せしめて得たる冷凍微粉に水を注加し凍結水分を還元せしめて寒天のみを残存せしめ之を脱水乾燥せしむる製造法。

齋木正直

東京市日本橋區
馬喰町二ノ二

特許第九八一五四號 粉末寒天製造法

〔内容〕原料液を噴霧裝置によりて微細なる粉末とし冷却劑を充填せる筒狀冷却裝置内を通過せしめ凍結による粉末寒天製造方法。

木村煥

東京府北多摩郡稲村大字
喜多見成城九五一番地

永井榮

東京府豊多摩郡杉並町
天沼五二五番地

特許第九九九八號 粉末寒天製造法

〔内容〕密閉室の一端に寒天の原料液を霧狀に噴出せしめ冷氣を噴出し氣流を通じて寒天の凍結粒を生ぜしめ室内に輸送し接觸なしして寒天の粉末を沈着せしめて優良なる品質の粉末寒天を得る法。

美馬昌五郎

廣島市天満町
南裏一〇五番地

特許第九九七五一號 昆布着色法

〔内容〕昆布を水洗し温水中に色素を溶解したる染色液中に入れ其の液の温度を低下せしめ、適量の粉末明礬と醋酸及鹽を加し乾燥して完全に着色せしむる方法。

平野光久

東京市淀橋區
淀橋六三六

特許第一〇二三八三號 寒天精製法

〔内容〕天草類又は伊谷草より製せる寒天溶液を冷却せしめ心太となし細粒に裁切し濾過槽に入れ水分を分離し其他特殊方法に依り脱水、脱色、脱糊し之を乾燥して純度高き寒天を得る方法。

伊藤勇四郎

茨木縣那珂郡湊町
字明神町五五一四

特許第九六四八八號 煮干製造法

〔内容〕鰯の如き油分多量含有の小魚を少時熱湯に浸漬し其表皮を剥脱し之を水洗の後適度乾燥して更に加熱するものにして異臭を脱し風味良好なる煮干を製造する方法。

伊櫻豊吉

東京市中野區
文園町十三番地

特許第一〇一〇八九號 魚類鹽藏法

〔内容〕生魚を層積壓搾し水洗し再壓搾して附着する洗水を除去し苦汁を除き濃厚鹹水中に浸漬し後魚體を

取出し網袋に入れ液汁分を自然流出滴下せしめて防腐鹽藏の効果を顯著ならしむる方法。

林喬

仙臺市北一番丁三〇

特許第九四九一號 筋肉色素の變色を防止する生肉凍結法

〔内容〕一定量の生肉を真空内に入れ諸瓦斯を放出せしめたる後一酸化炭素及窒素の混合瓦斯の二氣壓以上なるものを該真空内に通じ之を凍結其儘存置する方法

原驥四郎

千葉市栗川一七九

特許第九四五八〇號 鳥類の味付鹽藏法

〔内容〕鳥類を適當なる豫備處理の後適宜の食鹽水に砂糖及香料を加へたる冷液中に浸込み之を煮肉燻烟するものにして長時間保存に適當なるものを得る方法。

西田富吉

大阪府住吉區天王寺町
三千三百七十六番地

特許第一〇三三九二號 兔肉を綿の如き形容に製造する方法

〔内容〕兔肉に醬油味淋の調味料を加へ煮詰したるものを白及描針に依り描針し綿の如き形容にして珍味佳良の食料品を得る方法。

仁科遠平

東京府佐原郡
目黒町中目黒八三三

特許第九八五六三號 魚粉製造法

〔内容〕魚類を抄紙用「ホーレンダー」を利用し加熱し

つ、叩解し脱脂すると同時に組織を解舒し後乾燥したるものにして優良なる脱脂「フィッシュミール」を得る方法。

星野三郎
東京府豊多摩郡戸塚町
字源兵衛七五

特許第九七三九八號 魚種製造方法
〔内容〕鮮魚を細断し特殊方法にて蛋白質の性質を變化せしめ壓搾の後油脂溶解剤にて脱脂し尚殘流中の油脂溶解剤を除去する特殊方法。

星野佐紀
東京市日本橋區
江戸橋二丁目一番地
三菱食糧株式會社六階

特許第一〇一五九四號 魚肉油漬罐詰製造方法
〔内容〕調理したる魚類の精肉を一定の形成器に詰め適度の増減調節による加壓を施しつゝ蒸煮し所要罐詰罐の形状に適應すべくなし罐詰作業を簡易ならしむる方法。

懸野旭
東京市芝區神田町五八

特許第九六九五號 模範節の製造方法
〔内容〕鰯又は之に類する魚の捕碎肉に粘着劑及調味料を加へたるものを型の内面に特殊劑を塗布したるものに充填し蒸熱成形するものにして型より容易に取出す事を得且内部に滲透する煙燻を各部均一にせしむる方法。

香川丁
東京市牛込區
赤城下町七四

特許第九四八二二號 鮪類の凍結貯藏法
〔内容〕原料を有壓又は無壓のもとに加熱し漂白劑を作用せしめたる後凍結するものにして濃色材料を白美化して白美色の罐詰原料ならしむる方法。

田中秋雄
佐賀縣佐賀郡東川副村
大堂八七一番地

特許第九六一〇號 鯉魚より滋養食品を製造する方法
〔内容〕鯉魚を丸煮となし之に白糖及蜂蜜を混合して煮沸し更に果汁を混合して「クリーム」狀の滋養食品を得る方法。

高草木松太郎
前橋市桑町四三

特許第九五二〇三號 煮干焼干より煮出粉を製造する方法
〔内容〕魚類の頭及骨を併せて微粉末となし頭及骨に含有する「カルシウム」の利用價値を多からしめ且美味經濟なる調味料を得る方法。

谷口小次郎
札幌市豊平河原
三丁目五十二番地

特許第九七五五六號 鮮魚乾魚米穀類貯藏保存劑の製造法
〔内容〕酸性白土の微細粉末に食鹽及「アルコール」を吸着混和せしめ適當の温度により各原料を化合變性せしめたるものにして腐敗變味を防止し新鮮なる状態に於て保存せしむる保存劑の製造法。

辻太郎
札幌市北十三條
西四ノ八

特許第九七二七七號 魚種製造法
〔内容〕魚類を處理して得たる壓搾粗粒魚種に他の揮發性溶解剤にて處理したる脱脂粗粒魚種を粗粒の狀態にて混合しつゝ粉碎攪拌して得る方法。

長山正太郎
兵庫縣武庫郡洲道村
打出大字内濱三八

特許第九八五五六號 酵素利用乾燥製造法
〔内容〕魚肉蛋白質を特殊作用により調味液を作り其の中に魚類を浸漬し而て乾燥せしむるものにして強力なる酵素を働かしめて美味なる乾物を製造する方法。

村上隆吉
東京市小石川區
若荷谷町五十七番地

特許第一〇一八六五號 急速冷凍法
〔内容〕冷凍物を防水性用紙又は防水材料にて包被し粗布類を手綱染形に纏繞せしめ懸垂し冷却鹹水を注加し滞留しつゝ流下せしめて冷凍す方法。

野島和市
熊本縣天草郡島子村
大字大島子二六一二

特許第九九〇六號 魚肉處理方法
〔内容〕魚類を鹽化石灰溶液中に浸漬し次に食鹽と該

溶液の混合物にて處理し食用に際し炭酸曹達又は炭酸「アムモニア」等を以て鹽化石灰特有の苦味を除去する諸種工程により魚肉の變色變味腐敗を防止する方法。

倉地鈴吉
東京市本郷區區區
二十一番地

特許第九九二二號 乾燥牛肉製造法
〔内容〕生牛肉を裁断して扁平の小片を形成せしめ之を味附けして壓力を加へ半乾燥なし温風を當てて仕上乾燥を行ひ貯藏及携帶に適當なる乾燥牛肉製造法。

山元伸右衛門
名古屋市中區
千種町坂前一二四

特許第九七四二九號 「ソーセイジ」及其類似品の製造方法
〔内容〕牛の胃腸外側より剥ぎ取りたる皮膜を接合して得る袋の外側に「セロファン」又は紙を重ねし内容物材料を詰め之を煙燻又は蒸熱して製造する方法。

松崎信司
東京市神田區
多町一ノ一五

特許第九六七七號 味付鯨鮪の調製方法
〔内容〕鯨鮪に對する鹽分及脂肪除去と辛子油の滲潤との工程の後麹混入の味淋を醱酵せしめたるものに醬油及酒を加注して液を作り、而して密閉容器内にて該液に鯨鮪を浸漬し醱酵せしめて得る調製方法。

藤井義雄
東京市豊谷區代々木
深町千六百四十七番地

特許第一〇二〇二四號 數の子の山葵漬製法
〔内容〕食鹽砂糖及「アルコール」を含む水溶液に浸潤せしめたる數の子を酒精、山葵及砂糖を適度に混入せる中に一定の割合を以て漬込む事に依り保存性を與へ美味にして四季を通じて嗜好に適應せしむる製法。

深川勝一
東京府北豐島郡
西原町池袋一〇六

特許第九六〇四四號 肉類並に内臟類處理法
〔内容〕耐壓罐と抽氣唧筒との間に特殊の真空罐を介在せしめ之に蒸氣壓を作用せしむる装置に於て氣壓の激變に依る瞬間的膨脹を利用して原料を微細ならしめ適當なる食料品並に飼料、肥料、藥品等を得る方法。

深川谷助
佐賀縣西松浦郡
東山代村大字里一八三

特許第九五〇六號 鮫類節の製造方法
〔内容〕原料を醬油並に砂糖の混合液に浸漬し之を特殊の温度と氣壓のもとに燻煙乾燥し固有の惡臭を除去して製造する方法。

海老澤源助
横濱市鶴見區東寺尾町
寺ヶ谷一六一〇

特許第九六二三八號 魚肉成形加工方法
〔内容〕消石灰「プロ」液に明礬約一を加へたる液中に魚肉を浸漬し之を壓縮するものにして長期に渉り變形せざる成形魚肉加工方法。

遠藤直司
東京市芝區
三島町九番地

特許第九九四八二號 魚介類味淋干製法
〔内容〕砂糖味淋食鹽其他の調味料に「カルシウム」鹽梅酢、果汁、芥子油の各適量を加配して調味液を造り魚介原料を浸漬し後白胡椒其他を撒布し乾燥せしめて製造する方法。

佐藤繁吉
東京市芝區
白金今里町九六

特許第九七三三號 魚を主原料としたる燻製食品の製造方法
〔内容〕鰯の如き魚の肉を捕碎して硬化防止の爲め水筒等を混入し蒸熱付形したるものを特殊工程にて味付をなし之を蒸熱して製造する方法。

由比市三郎
大阪府西區京町堀通
五丁目十八番地ノ二

特許第一〇二四四〇號 鰯田製製造法
〔内容〕乾鰯を粉末とし「テルペンチン」の水醋酸溶液を水に稀釋したるものに浸潤せしめ蒸氣加熱し醬油其他の調味料を加へ煮詰めて營養價に富む低廉なる田製を製造する法。

宮三郎
香川縣香川郡
佛生山町二七七
香川縣立
農事試験場官舎

特許第九六〇七一號 肉類處理法
〔内容〕魚鳥肉類を骨付のまま、不全乾燥をなし植物性

油を塗布若くはなすずして不透性の紙布類にて被包し之を加圧加熱するものにして骨質軟化に際し肉質の過度軟化と液汁の滲漏逸失を防ぐ處理法。

日比谷 藤助

神奈川県足柄野郡
小田原町幸四丁目
六百六十四番地

特許第一〇二〇〇三號 蒲鉾製造法

〔内容〕魚肉を種々加工して得たる加工原料を以て所要の蒲鉾、半べん、しんちよ、巻物等夫々の形に作り支持棒上に支持せしめ加熱器に入れ外氣を遮断したる上加熱し品質を著しく向上せしむる製造法。

今澤 建起

東京市品川区
品川五丁目六十六番地

特許第一〇一九五二號 藥酸乳粉の製造法

〔内容〕適度に濃縮したる乳汁に乳酸菌を加へ蛋白質を凝固せしめて冷却する工程と蛋白質を振盪壊碎し濾過して成分を分離採取する工程と其他の工程を施して酸乳粉を得る製法。

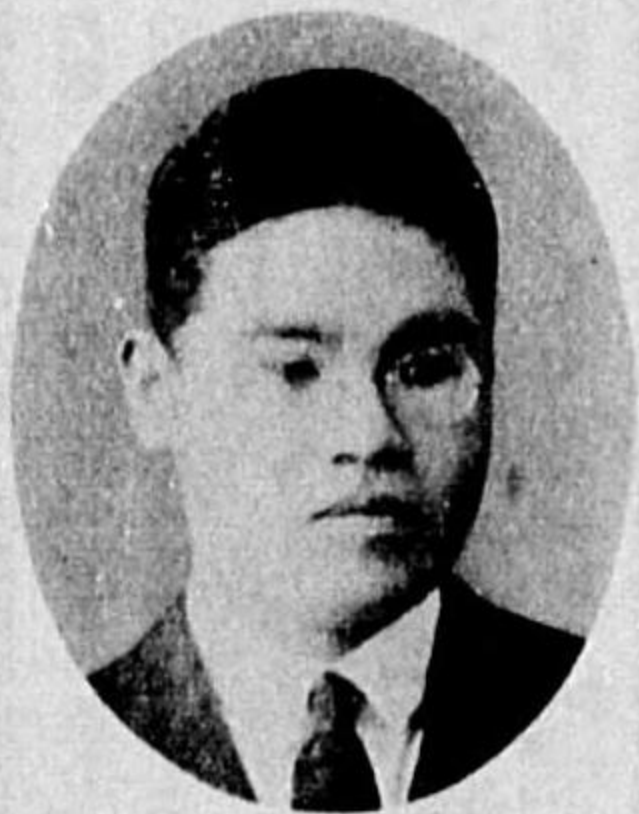
本田 慶治

兵庫県武庫郡大社村
字森其連毛七六一

特許第一〇三二六六號 卵黄を生じの儘凝固成形せしむる方法

〔内容〕味増又は食鹽を混じたる酒精の如き食鹽を含有せる半固形状をなす醸造粘糊物に任意形態の凹窪又は

は空洞を作り攪拌解砕して流入し凝固成形して保存に耐へしむる方法。



吉末田石
京都市上京区小橋
花町ノ木町番地

特許第九九六二四號 ビータン製造法
同 第一〇〇四六一號 果汁末製造法

〔内容〕在來の自然的に皮蛋化せしむる製造法は長時日を要するのみならず地質の適否氣温の變化等により均齊優良品の製品困難なり本發明は加温しつゝ一定温度を維持せしむることゝ混合液の食鹽、生石灰其他の特殊の化學的作用によりて皮蛋材料たる雞卵の膠質化學的作用を最も適切迅速ならしむるを以て極めて容易に優良美味なる皮蛋を短日時に製出し得るなり。

〔略歴〕氏は明治三十七年京都市上賀茂溝川家に生れ後石田家を繼ぐ、京都市立第二商業學校を卒業し、山口高等商業學校に學び、滿鐵に入社して大連工務事務所勤務し、後辭して現在に至る、在學時代より發明考案に興味を持ち自ら其必要を感じ、或は時に應じ考案したるものに外國語暗記ケース、握壓運動具、フィルム版收容筒、水洗刷毛、マツパージ器等にして實用新案權九件を有す。

千足 榮藏

神戸市中山手通
一ノ六五ノ二

特許第九四九三號 人造乳酪又は再製乳酪の製造法

〔内容〕一旦溶融して香氣を失ひたる乳酪又は食用脂肪の特殊處理により得たるものを稍醗酵したる乳汁に接觸せしめたる後凝集したるものにして香氣良好なる製品を得る方法。

河合 龜太郎

東京市中野區
昭通二丁目二七

特許第一〇〇二〇〇號 「バター」製造法

〔内容〕粗製肝油を氷點以下に冷却して液状油を精製する際析出する蠟分を採集し特許處理精製して之を食用硬化油等に密和配合せしむる「バター」の製造法。

川上 保太郎

大阪府西成區
今阪町一〇

特許第九四二八〇號 雞卵の外殼表面氣孔閉塞液製造方法

〔内容〕天然樹脂の特殊物と人造合成樹脂の或種の物質とを混合したるものを揮發性油に溶解したるものにして雞卵の石灰質の氣孔を閉塞し卵質の腐敗及目減りを防止する方法。

田中 精太

東京市蒲田區新宿町
八三一番地

特許第一〇三〇九號 卵黄飲料製造法

〔内容〕哺乳動物類の乳汁に稀薄なる酸を加へ「カゼ

イン」其他を凝固析出せしめ之を濾別除去したる濾液に炭酸曹達又は「アルカリ」性溶液を加へて中性液となし之に卵白を添加攪拌して榮養價高き卵黄飲料を得る製法。

高見 澤三郎

長野縣南佐久郡
白田町六〇三番地

特許第一〇〇八四九號 燻製卵の製造方法

〔内容〕鶏其他の鳥卵を加熱し内容物を凝固せしめ外殻を除去するか又は小孔を穿設して食鹽水に浸漬し調味料を包含せる酒精溶液中に浸漬し燻製して美味滋養の食料品を得る方法。

中村 信友

千葉市千葉
七百二十九番地

特許第一〇〇二四四號 卵の處理法

〔内容〕鶏等の卵内容物を加熱凝固せしめたる後碎きて納豆菌液を撒布接種し適度に醗酵せしめ之を壓搾し乾燥粉末となして貯蔵に堪ゆる香味の食品を廉價に得る處理法。



正垣角太郎
京都市浄土寺馬場町

特許第九〇〇三八號 乳酸菌の培養法

〔内容〕本培養法は

- 一、特種強力なる乳酸菌種を撰定し特殊の培養法に依り胃腸内に於て旺盛なる生活繁殖を爲さしむ
- 二、乳酸菌が徐々に且つ旺盛に繁殖すべき糖類の混和物を培養基に添加して乳酸、酪酸其他の芳香化合物類の生成源となす
- 三、ビタミンB及びピオースの適量を添加して乳酸菌の發育を助長せしむ
- 四、培養基の水素イオン濃度を調節して乳酸菌の發育に最適となす
- 五、乳酸菌の發育に最も好適なる培養の温度と時間とを決定す

即ち液状乳酸菌製エリイは實に本菌を以て創製せられたるものにして、本菌の作用は活力旺盛なるが故に胃腸内の有害菌を殺滅し消化を助け榮養分を完全に吸収せしむるが故に身體の健康を保持せしめ諸病を治癒するの効果を有す。〔略歴〕氏は本邦に於ける乳酸菌唱導の鼻祖にして多數醫學界の後援により研究生學會を創立し廣くエリイを配領し、飲用を奨励せられつゝあり。

富士省 三

宇都宮市二條町
千二百三十四番地

特許第九八九三號 鶏卵貯藏劑

〔内容〕植物性油と炭酸鉛とを混和加熱して化學變化を起さしめたる液を「テレピン」油中に溶解したるものにして之を卵殼に塗布し弾性ある被膜を形成せしめ氣孔を完全に閉塞し破損を防止し腐敗を防ぐものなり。



松原四七
大阪府東淀川区
丁通一丁目二十二番地
明治屋工場

特許第七二四三八號 乳汁を原料となす酸性飲料の製造方法

〔内容〕本製造法により製造せられたる飲料水を「オレンヂミルプ」と稱す、本品は特に新鮮なる乳を厳選し遠心力應用の精巧なる機械によりて清淨し、次に成分を斟酌して固有の臭氣を可及的脱除すると共に腐敗菌の滅却を期し低温殺菌を施したるものに乳酸菌を加へて乳酸醗酵を促しこれに精製蔗糖を加へ高壓搾氣壓を應用せる機を通過せしめ壓搾的衝動を與へ混合液をしてその各性を細分し完全に融合せしめ均同に分布せしむることを特徴としたるものにして消化吸収を容易ならしむると牛乳成分に變化を與へず乳化した光澤と風味を増すは特筆すべきことなり、然して本品は人體の組織を造る諸種の主要成分を多量に含有し、滋養のあらゆる要素を含む科學的に完全なる飲料なるが故に榮養を助け活動力を旺盛ならしむる効果を有す、使用料は平常八倍に溶解せらるゝものなれば經濟的に最も低廉なる且つ慰安を兼ねたる滋養強壯飲料なり。

江内嘉作

東京市澁野川區
中里町二七四番地

特許第一〇三二四六號 卵黃處理法

〔内容〕卵黃に充分脂肪せる牛乳に砂糖及水を加へて混和し、これを混合攪拌後適度に加温し乳状液を造る工程と甘味の酒精抽出液を混入する工程との結合に依り佳良なる滋養飲料を安價に得る處理法。

佐々木 林治郎

東京市澁谷區
千駄ヶ谷二丁目四八三

特許第九七八九號 煉乳並に粉乳製造法

〔内容〕牛乳に動物性蛋白質を「アルカリ」性溶液を以て中和して得たるものを加へて蒸發濃縮又は乾燥する事の特徴とする製法。



菅井重五郎

大正市北區
中區北區
町崎中區北區
地番四十五

特許第一〇〇二五七號 人造「バター」製造法

〔内容〕本發明は椰子油に乳酸菌と乳糖との混和物を加へ温室内に適當時間放置して乳酸菌を多量に含有せるものを造り、別に天然純良「バター」に「グリニューコース」を混和して酪酸菌を多量に含有せるものを造り、之等を乳酸菌酵素素及酪酸菌酵素素等を含ませる人

渡邊 磯吉

香川縣三豐郡財田村
大字財田上四八二

特許第九七二三八號 松茸製法

〔内容〕生松茸を水を含ませる容器に密封し加壓蒸らし松茸の内部より抽出せる液汁を松茸と共に攪拌するものにして芳香味其他松茸の特徴を失はざらしむる方法。

金森 半一

三重縣三重郡
富田町大字茂福
一千八百十六番地

特許第一〇三三八九〇號 非沸騰性清涼飲料水を「ラム」に「埋」に詰める方法

〔内容〕液體酸素を適當の壓力に低下せしめ壘詰機により非沸騰性飲料水を密詰し衛生的の果實水等を提供せしむる方法。

中野 義隆

石川縣河北郡北村
字木越七七一

特許第九六五九一號 蓮根の水蒸餾法

〔内容〕軟水を煮沸蒸餾せしめて食用有機酸を添加し生蓮根を浸漬する工程とこれを酸液を行ひ封鎖する工程との結合より成るものにして黒變及變味を防止し水藏に適せしむる方法。

木村 金太郎

東京府豊多摩郡高井戸
町大字中高井戸北三〇

特許第九六九七六號 殺菌加熱度を異にし得べき二重罐詰(罐詰)製造法

〔内容〕普通の罐詰用金屬罐の蓋面を容器の内方に凹状となししめ豫め詰めたる食品より低温の殺菌加熱度

を必要とする食品を詰め密封、脱氣、殺菌及冷却を行ふ方法。

三上 一郎

大正市東區
安土町四ノ一九

特許第九九七〇號 罐詰野菜類の原色保存法

〔内容〕野菜類を各種色素の酸性染料溶液或は此等の混合溶液中に浸漬して染料を吸着せしめ之を特殊藥品にて處理し染料を固定せしめ然る後弱酸性液と共に罐内に收容密封殺菌する方法。



宮崎 賢一

東京市東區
芝山小田
區三町三

特許第一一七三七號 衛生罐材(ラツカードチン)

〔内容〕罐の材料とすべき鐵葉板を「アルカリ」にて洗滌し板を熱しつゝ漆と「セラック」との合劑をして熔着せしめ、尚温室内に入れて焼付をなす方法にして、製品は酸及び「アルカリ」に犯されず且つ高熱に堪へ得るを以て罐材として極めて優秀にして蟹肉の分解によりて生ずる硫黄分と鐵材との化合による黒變を完全に防止する效あるものなり。

〔略歴〕氏は慶應二年長崎縣平戸の出身、水産講習所卒業後教官となり、在職中蟹罐黒變の問題に遭遇し之が研究に従事して遂に本發明を完

造「バター」中に投入し攪拌混和せしむることを特徴とし、之に「ウキタミン」含有物を加へ更に攪拌して製品となすものなり。
本製品は「ゼルシイ・バター」と稱し從來の人造「バター」に比し美味にして芳香に富めるのみならず「ウキタミン」Bを多量に含有し「カロリ」増大等榮養價值頗る大にして、消化良好且つ貯藏長期に亘るも變質腐敗等の虞なきを以て天然「バター」に優るとも劣らざる優秀品なり。

伊藤 育三

東京市蒲田區
蒲田町九六八番地

特許第一〇三三〇三號 蛤淺刺及び鮑スープ罐詰製造法

〔内容〕蛤淺刺の刺肉又は内臓を除き去せる鮑の刺肉を鹽漬し肉質を硬化せしめ粘液質物及肝臓を除き去り沸騰せる淡水中に煮熟して「スープ」を採取其他の方法に依り蛤淺刺又は鮑の「スープ」罐詰を製造する方法。

星野 佐紀

東京市日本橋區
江戸橋一ノ一
三菱倉庫株式會社六階
日本罐詰協會

特許第九七五八九號 魚類罐詰製造法

〔内容〕「またゝび」の粉末を煮熟して水分を減少せしめたる魚肉又は生魚肉に混じり其香味を附與せしめて製するものにして猫に對し醫藥的價值を有し極めて嗜好する飼料を得る方法。

成し、大正八年水産發明品及水産食料品評會に於て一等賞金牌を受領し農商務省特許獎勵費を授與せらる、目下沖取合同漁業會社の監査役たり。

伊藤 櫻省

樺太豊原町東一條
南九丁目十九番地

特許第九九〇一號 固形調味鹽製造法

〔内容〕可溶性粉末の調味料と寒天又は澱粉の適量を混合したるものに水を加へ加温攪拌し食鹽の相當量を投加し其他特殊方法を施して取扱便なる鹹味代用の調味鹽を廉價に製造なす方法。

市川 藤藏

西宮市池田町二八

特許第九九二五九號 固形「スープ」製造法

〔内容〕液體スープを濃縮したるものに適量の澱粉資料並に食鹽を加へ混捏し之を加熱液狀化したる砂糖液中に練る等の方法に依り固形「スープ」を得る製法。

萩原 中衛

大正市天王寺區
悲田院町六一

特許第九七五〇九號 調味劑製造法

〔内容〕特殊脂肪酸復鹽類を觸媒とし弱酸性の液にて蛋白質類を處理し特殊工程の後適當なる鹽基を以て中性鹽となすべき製造法にして調味力の強盛なる調味劑の收得率を増大し得る方法。

大野 碩十郎

川崎市大田區河原二七

特許第九七五五五號 調味料製造法

〔内容〕強酸の作用により蛋白質若しくは其含有物質を

西井 守藏

廣島市廣町
百五十四番地

特許第一〇一八七號 魚肉蛋白質を原料とする吸濕性な「アミノ」酸澱澱混合調味料製造法

〔内容〕魚肉を鹽酸を以て加水分解し「アミノ」酸の鹽類含有液を分離析出せしめ乾燥する工程と母液を凍結後常温に乾燥する工程と他の工程の結合になり吸濕性を除去して調味料を製造する法。

大橋 清吉

東京市豊島區田町
三丁目十番地

特許第一〇〇八五三號 魚骨及昆布よりの滋養調味粉末製造法

〔内容〕昆布及魚骨を長時間に亘り凍結せしめ後乾燥して質を粗鬆となし之に醬油砂糖、食鹽及「グルタミン」酸の任意量を加へ煮熟乾燥せしめたる後粉末となして消化し易き滋養調味料を得る製法。

山口 善平

宇都宮市江野町七番地

特許第九四〇八六號 壓搾乾魚及び調味料原料の製造方法

〔内容〕魚類を煮熟壓搾して液汁を採取し後乾燥する

に際し被處理物の加熱の温度を限定して固形分と液汁との分離を容易にし膠質物質含有量を僅微に制限して水に易溶性の調味料を製造する方法。

織田 經二
福岡市春吉一六四

特許第九五〇五號 貝類の抽出液より固形粉末状食品を製造する方法
〔内容〕牡蠣、浅網、其他の貝類の抽出液中に引濕性防止物質を添加し之に空気を吹送動搖せしめつゝ加熱蒸發せしめて製造するものにして幾多の有効成分を分解せしめずして固形粉末状となし得る方法。

片桐 英郎
京都市左京區
北白川町無番地
京都帝國大學農學部内

特許第一〇二七四號 蛹生産物の脱臭方法
〔内容〕蛹體を粉末となしたるものを活性炭、膠狀物質、纖維質等の表面吸着能ある物質の一種又は數種と混合し酸「アルコール」其他の試薬に處理したる脱臭蛹に吸着物質を添加加水分解を行ひてなる方法。

田町 慶二
函館市高島町
四十二番地

特許第一〇二二七號 魚類を原料とする可溶性調味料の製造方法
〔内容〕溶剤を以て脱脂精製せる魚類を細碎し之を加

厭下に煮沸水浸して得る浸液に石灰乳を混和し炭酸瓦斯を導入し其他の方法工程に依り優秀なる栄養價の調味料を製造する方法。

三福商會
宗岡 顯
大阪市港區南堀川
町一丁目二番地

特許第八四七二號 コフセ
〔内容〕本品は昆布の精分より採取したる昆布茶の原料にして昆布に含まるゝ多量の沃度、ウイタミン、カルシウム、マンニツト、蛋白質脂肪等人體に最も必要なる之等の營養素を失はざる様理想的の食用方法を研究せられたる結果發明せられたるものなり、元來昆布は世界中獨り我國にのみ存在する天與の恩惠物にして其滋養の豊富なることは古來より周知のことにして近來多數學者間に於て其偉功を認め之が食用を奨勵せらるゝに至りしも、昆布の性質上不消化又は煮過ぎによる營養分の喪失等の缺點あるが故に茲に消化を良くし有益なる主成分を失はざる様特殊の製法によりて本品の發明を見るに至りしものなり。

〔略歴〕氏は明治二年京都府岩倉町の出身、永年海運業を営む、常に血脈高きを憂ひ健康法を考究中偶々沃度を奨むる者あり、即ち海草類就中昆布には多量の沃度を含有するを知り之を食するに當り之が不消化の缺點を補はんが爲め之を粉末とする事に着眼し遂に本品の發明を完成するに至りしものなり。本品は内地及滿洲朝鮮等に販路を有し多大なる好評を博し居れり。

特許第九四〇二八號 滑味鹽製造方法
〔内容〕蛋白加水分解液より「グルタミン」酸を除去せる殘液を特殊の工程により窒素化合物たらしめ食鹽と混和乾燥せしめて製造する方法。

笹岡 睦路
東京市京橋區東港町
一ノ六 鈎木商店内



佐藤清太郎
東京市都區二區
油小路西側大矢町三〇七

特許第一〇五七二四號 肉汁「エキス」製造法
〔内容〕本製造法は沃度を含有する海草類の抽出液より粘液質を除去して蒸發したる濃厚液に肉類の抽出液を混合し濃縮することを特徴とするものなり、元來肉類の貯藏法に於て其の含有する美味を保存するには「エキス」となすを以て最良となすと雖も肉汁「エキス」は從來流動し難き濃稠なる状態、固形若くは粉末状態に於てのみ貯藏に耐ゆるも、製造作業中に於ける加熱温度並に時間を要すること比較的多きを以て自然の風味を保持するもの殆ど無し、若し肉汁の自然の風味を保持すべく製造工程中加熱の温度並に時間を短縮せんとせば流動「エキス」となすに如かずと雖も、流動状態に於ては永き貯藏に耐へしむること絶対に不可能なり、本製造法は

山田 正一
東京市瀧野川區
瀧野川九十七番地

特許第九九三〇號 酸又は「アルカリ」に依る蛋白質加水分解物含有調味料の脱臭法
〔内容〕蛋白質又は之を含有する物質を酸又は「アルカリ」を以て加水分解し中和濾過して得たる「アミノ」酸含有液に脂肪酸「グリセリド」を主成分とする動物性油脂其他を混合して良好なる「アミノ」酸を得る方法。

山下 梅太郎
戸田市清水町三丁目
五千四百四十六番地

特許第九九五〇號 海産物を原料とする調味料の製造法
〔内容〕電氣的作用に於て魚介を容器内に收容し加熱し電流の通過に依り水蒸氣をして液中の臭源體なる蛋白質其他有機物の泡を生ぜしめる等の方法に依り臭氣を除去し滋養味豊かなる調味料を得る方法。

山本 祥吉
東京市本郷區
千駄木町五十番地

特許第一〇〇四五二號 魚肉より調味料を製造する方法
〔内容〕魚肉を素乾又は煮乾物となしたる後油脂類を除去し之を水中浸漬、水煮又は蒸煮し乾燥したるものに木「タール」蒸溜生成物の稀薄液を散布吸着せしめて調味料を製造する方法。

永久に貯藏に耐へ且つ蒸發乾燥するの必要なく加熱の温度と時間を短縮し肉類自然の風味を害する憂なからしめたるものなり。

桐澤 正彦
東京市杉並區阿佐ヶ谷
一丁目七六五番地

特許第一〇〇三二七號 塊状「カレー」製造法
〔内容〕「カレー」混合液に特に粉末昆布の適量を混合したる後凝固せしめ塊状「カレー」を製造する方法。

三上 竹藏
京都市下京區諏訪町通
松原上九小島町七四

特許第九七三三二號 藥劑調味液製造法
〔内容〕精製せる植物性油中より更に遊離脂肪酸等の不純物を除去し之に植物性香料を添加し更に特殊の操作工程の後主成油中に辛味、調味兩分を均一に溶解せしめ後濾過精製する事を特徴とする製法。

宮原 伊八
三重縣度會郡柏崎村
大字崎八五五番地

特許第一〇一一八八號 「トマト」を主成分とする粉末調味品の製造方法
〔内容〕加熱融解せる脂肪に小麥粉胡椒末「グルタミン」酸鹽、砂糖、食鹽等を焙りて粉末となし混入攪拌し加熱し「トマト」を添加し水醋酸を滴下乾燥せしめて貯藏に便なる調味料を得る方法。

特許第九四四六九號 「ソース」の素製造法
〔内容〕「ソース」の香辛料原料を乾燥し水醋酸による浸出液に美味料甘味料等を加へて粘稠狀の製品を得る方法。

海老原 秀志
東京市小石川區
柳町一四

小松原 要作
廣島市平塚町三六

特許第九五〇八六號 水産物より調味料の製造方法
〔内容〕酢酸「アムモニア」液を使用し然る後「アルコールアンモニア」液によりて脂肪を鹼化し魚臭を消去して後粉末となす工程を第一とし之れに附隨する特殊工程により製品に香氣を附與し且つ防腐の効果を有する製品を得る方法。

川本 玉一
京都市左京區
北白川上野町八四

特許第九五七九八號 不純「アミノ」酸混合物より調味料を製造する方法
〔内容〕「アミノ」酸に相當する特殊物質の水に對する溶解度を異にするを利用し鉄素、豆粕、鉛粕の如き安値なる蛋白又は類似蛋白含有原料より品質優良なる調味料を製造する方法。

下田 忠次郎

東京市板橋區練馬町
三六六〇番地

特許第一〇〇六六號 調味料製造法

〔内容〕蛋白質含有物を稀薄「アルカリ」液にて浸漬し小麦粉より分離せる短桿菌を主体となす培養液を移植し酸酵分解を行わしむる工程と酸を加へて加熱分解する工程の結合なる調味料の製法。

下 光 太郎

埼玉縣北足立郡
浦和町四六六番地

谷 村 豊

東京府北豊島郡豊島町
上野五十七番地

特許第九七四一號 調味料製造法

〔内容〕動物又は植物蛋白質若しくは兩者の混合物を常壓密閉器中に於て加圧の下に酸又は「アルカリ」を以て加水分解し色澤香味共に優良なる調味料を得る製法。

鈴木 六郎

東京府荏原郡
大崎町下大崎八

特許第九四七八號 調味物質の製造法

〔内容〕核酸を分解して得たるものを肉汁又は肉組織にて処理する事により「イノシン」酸の多量を生成せしめ品位高尚なる調味性質を得る方法。

音田 乙次郎

鳥取縣日野郡日野村
大字別所九〇八ノ一

丸 子 初 一

廣島縣安藝郡豊山村
大字西側一五六九ノ二

特許第九八五七二號 「コーヒー」代用品製造法

〔内容〕果實を粉末とし熱処理の後「ラクトーゲン」を加へ罐中に密閉し後細粉となす「コーヒー」代用品の製造法。

吉田 助 松

石川縣鹿島郡矢田郷村
字矢田レ部二十九番地

特許第一〇三〇八四號 かじめより茶代用品を製造する方法

〔内容〕海草かじめの生長せるものを其儘金網上に揚げ乾燥室内に架し火熱により乾燥せざる様加熱して水分を除去せしめ冷却後粉砕し芳香を充分に發揮し疾患に效ある茶代用品の製法。

田 邊 貞

京都府久世郡
宇治町大字宇治郷
小字山田三番地

特許第九〇九二號 露茶製造法

〔内容〕抹茶を主体とし細末粒子の周圍に精製膨軟性「ゴム」に依り被包し香味色澤を變化せしめざる様防濕状態に被着膠結して綠茶應用の一加工品を製造せしむる方法。

島田 昌彦

東京市世田谷區野澤町
一丁目七十二番地

特許第一〇〇三九四號 「コーヒー」抽出法

〔内容〕適度に焙煎したる原料を微粉末となし密閉器内に收納し「アルコール」水溶液を噴霧状となし壓力を以て壓送して香味を變質變味せしむることなく濃厚なる「エキス」の抽出法。

石川 勝 治

福岡市島田四二七番地

河 原 治 作

福岡市藥院堀端
七番地ノ五十五

特許第九八九七三號 骨粉の製造法

〔内容〕動物の骨片を何等水分を加へることなく密閉器中に收容し高氣壓及高熱度と與へて殆ど無氣状態に於て蒸餾したる後軟化する骨片を粉砕乾燥せしめてなる製造法。

岩 狭 與 三 郎

大阪府北區此花町
二丁目二十二番地

特許第一〇一七六六號 微酸性乳白色濃厚藥劑製造法

〔内容〕米胚芽、酵母卵黄より常法により「ウイターミン」Bを抽出し殘渣に牛乳蛋白質を加へ加水分解し「パイン」次に硫酸「シトロネン」其他にて攪拌し炭酸瓦斯を追出し濾過し葡萄糖、蔗糖を加へ他の方法工程に依り乳白色濃厚藥劑飲料の製法。

井上 碌 明

東京市神田區
錦町三丁目二十四番地

特許第一〇二四五八號 肝油脱臭法

〔内容〕「アラビヤゴム」粉末及少量の水を混和攪拌して濁濁液となしたる後乳酸菌を添加し加温状態に保ち屢々攪拌して乳酸酸酵せしめて肝油固有の臭氣を除去して成る方法。

西川 哲 三郎

廣島市鶴見區東寺尾町
池谷六百四十番地
日本配合飼料
株式会社研究所

特許第一〇〇五四八號 精糖類及米胚芽より滋養料を製造する方法

〔内容〕精糖類及米胚芽に水を加へ蛋白質分解酵素又は分解を主とする菌若しくは其混和物を以て処理し乳酸菌を加へ酸酵を行はしめ其他の方法を施して作用せしめて滋養料を有効に得る製法。

西村 庄 松

東京市澁谷區代々木宮
ヶ谷町一四九八番地
目三十一番地 吉田方

特許第一〇二四七八號 核酸或は其の鹽類の製造方法

〔内容〕酒粕或は麹菌を醋酸曹達にて処理し溶液を苛性曹達溶液により後冷却し「アルコール」にて核酸を分離し「アルコール」及「エーテル」にて処理し粉末となし強壯劑なる核酸を製造す。

半澤 秀 隆

東京市杉並區阿佐ヶ谷
四丁目九六七番地

特許第一〇二六一九號 肝油精製法

〔内容〕生肝油に茶「エキス」粉末の適量を混入し温度を與へつつ適當時間攪拌せしめて肝油の悪臭及色素を脱し長期放置するも酸化する慮なき製法。

二宮 郁 之 介

神戸市西須磨
中小神一丁目ノ十

特許第一〇一八七五號 酵素作用による大蘇含有物の製法

〔内容〕生大蘇芽米及麹を原料となし之を搗碎粉末となし適量の水と酵母を加へ加温し酸酵作用を行はしめ醸成物を水に溶かし濾過の上真空乾燥せしめてなる榮養食品の製法。

外山 修 之

東京市澁谷區
青葉町二十番地

土屋 知 太 郎

東京府豊多摩郡
淀橋町角番七六二

石川 得 三

東京府豊多摩郡代々木
町大字輪ヶ谷一〇二六

特許第一〇〇四七一號 「ビタミン」Aに富める魚類肝臓の處理法

〔内容〕「ビタミン」Aに富める魚類肝臓を細断して適當量の食用油脂を加へ温度を加へ攪拌混和し後油分と糟とを分離せしめて濃度高き悪臭を除きたる油を得る處理法。

沼 正 治

東京市四谷區
北伊賀町二〇

特許第九六八九三號 漆の質より藥劑を製造する方法

〔内容〕漆の質の胚乳部を脂肪及護膜類溶解劑に處理し脂肪屬「アルコール」の混合液にて精製し服用し易き製品を得る方法。

岡 精 二

朝鮮仁川府桃山町四七
朝日製漆株式会社内

特許第九五九〇四號 人參含有飲料製造法

〔内容〕人參を粗削し蒸熱し別に清酒粕に牛乳を混じて泥状となし乳酸菌を移植したるものとして混合し適宜の處理によりて佳快藥臭なき滋養飲料を得る方法。

小川 龜 重

東京市中野區
水川町二番地

特許第一〇二五五二號 藥劑の製造法

〔内容〕精製「ベンゼン」に豫め大蘇の表皮を去りたるものを浸漬し屢振盪しつつ相當時間を経過したる後「ベンゼン」を濾別し殘渣を大氣中に擴散し乾燥なし得る榮養劑の製造法。

渡 邊 壽 々

東京市赤坂區
新町二丁目十七番地

特許第一〇一八〇七號 朝鮮人參より藥劑を製造する方法

〔内容〕朝鮮人參及び生の夏目果肉を取り之を細切し石釜中に炒煎し更に蜂蜜及少量の砂糖を加へ石釜中に加熱濃縮して液汁を採取し適度の香氣を與へてなる製造法。

渡邊幾浩

東京市淀橋區戸塚町三丁目三〇番地

澄川四郎

東京市赤坂區青山北町六丁目四十三番地

青井伊吉

東京市豊多摩區大久保町西大久保三八六

特許第一〇二二七八號 肝油の臭氣脱臭方法

〔内容〕 葡萄酒芽糖其他の糖類又は「デキストリン」又は澱粉質の糊化せるものに水麴及肝油を混合し酵母を加へ攪拌作用せしめて脱臭の目的を達する方法。

和田長作

東京市小石川區関口水道町五番地

特許第九九九九號 血餅より動物性「アミノ」酸鹽舍利別を製造する方法

〔内容〕 牛馬諸動物血液より血清を採取せる敗殘物なる血餅を利用し「エーテル」石油の混合液にて脂肪及類脂體を分離除去し其他の特殊方法を施してなる無臭美味なる滋養劑の製法。

和田金助

山形市八日町八百五十六番地

高橋善吉

山形市上町三百九十六番地

特許第九六八六號 補強壯劑の製造法

〔内容〕 胡の鱗莖の截斷片を生姜の煮出液を以て加熱處理し胡中の有効成分を抽出し混合液を蒸發濃縮したる後澱粉に混和加熱乾燥して強壯劑を廉價に得る製造法。

る後澱粉に混和加熱乾燥して強壯劑を廉價に得る製造法。

加藤輝光

西館市鶴岡町三八

特許第九七四二六號 魚貝類より吸収性に富む「アミノ」酸類と溶解性の蛋白質鐵鹽とを含有する滋養劑を製造する方法

〔内容〕 魚貝類より人體の發育に必要な「ペプトン」「アミノ」酸の如き低級窒素化合物と溶解性の蛋白質鐵鹽とを含有する滋養劑を得る特殊製法。

河浦亮一

靜岡縣田方郡中野野村字船原四六一番地

特許第一〇〇六五七號 藥茶製造法

〔内容〕 昆布の浸出液に茶の浸出液を混し鹽基性醋酸「アルミニウム」及重碳酸曹達溶液を加へ形成する沈澱を除去し電流通し膠狀物質を「ゲル」として凝固析出せしめ其他の液を加へて乾燥粉末となし保水性大なる飲料基材を得る製法。

巽鐵男

東京市荏原區矢口町小林二二六

特許第九六四一八號 滋養劑の製造法

〔内容〕 骨髓に富む管狀骨の内部に乳酸菌を含有する物質を充填し其兩端澱粉にて栓塞して乳酸菌の好適温度に保持するものにして乳酸菌の外種々有用なる酵素をも有する滋養劑を得る製法。



河合龜太郎 東京市東區野二ノ通七

特許第六六四一六號 濃厚肝油製造法

〔内容〕 本發明は肝油中に含有する油脂の五〇—七五%を鹼化し、其の鹼化物並に水分を除去して濃厚肝油を製造する方法にして、製品は有機溶劑を使用することなくして肝油ドロップス其の他の用途に好適なる有効成分に富めるものなり。

〔略歴〕氏は明治九年六月の出生、東京ミツワ化學研究所主任として永年肝油の研究に従事しミツワ肝油の名稱と共に氏の名譽大に擧がる、後河合研究所及河合製藥所を設立し肝油の研究並に製造を中心として製劑事業に携はり爾來東都藥化學界に重きを爲して現在に至る。本發明は英佛米の特許を受け、受賞また多く帝國發明協會より優等賞を受領す。

中村喜代治

東京市本郷區西片町十番地へノ三號

特許第九〇〇五號 滋養食品製造方法

〔内容〕 海産食用動物を苦土を除きし特製食鹽水に浸

山田壽一

東京市品川區大井町四丁目七百六十八番地

特許第一〇三〇〇一號 胚芽粉の製造方法

〔内容〕 適當温度及湿度を加へたる穀を摺りて玄米となし胚芽を分離したるものに水分を含有せしめ更らに乾燥して粉末状となし酵素を水及酒精にて抽出吸着せしめて有効成分を完全に得る製法。

山内濟三

山口縣古賀郡小郡町大字下郷第二五四ノ一

特許第一〇二七〇九號 乾血法

〔内容〕 血液の乾燥粉末を造るに二ツの重湯煎装置を用意し血液中の纖維質を除去したるものを第一重湯煎上に於て粥狀態を呈する迄濃縮したるものを移動せしめ他の方法を施して成る乾血粉末の製造法。

藪田貞次郎

東京市北多摩郡稲村字奈根七九〇番地ノ四

長尾欽彌

東京市世田谷區深澤町四丁目一三二

特許第一〇三一九三號 米胚芽又は糖の有効成分を酵母に含有せしめたる滋養劑製造法

〔内容〕 「メンザイ」又は糖を稀酸に浸出して得たる液と「メンザイ」又は糖を稀「アルカリ」にて浸出して得る液とを加へ弱酸性となし酵母を加へ醗酵せしめたる後蒸發濃縮乾燥せしめてなる滋養物の製法。

漬し水洗後加熱壓搾し搾肉を脱脂して得たる材料と油分を除き脱色蒸發して得る濃稠液と海産食用植物と食鹽にて洗ひ乾燥せる材料に他の加工方法を施して美味なる食料品の製法。

中上川勇五郎

兵庫縣武庫郡精道村打出字宮塚二二

松本廣次

京都市左京區吉田神樂岡町一

河田岩根

神戸市須磨區松風町四ノ三

特許第九六七七八號 鱈油を主要成分としたる藥養飲料の製造方法

〔内容〕 鱈油を「アルカリ」燐酸「カルシウム」活性炭素を以て處理して加熱し之に膠狀物質を加へて乳狀化し而して「カルシウム」鹽類及「グルコース」を添加し臭氣除去したる製造法。

倉田實良

山口縣玖珂郡岩國町大字川西千二百十番地

特許第九六四八號 肝油を主要成分とする食料品の製造方法

〔内容〕 蜂蜜の水溶液に單舍利別を加へ加温し「ゼラチン」を加へ溶解し更に酒石酸を添加する工程と肝油に「カカオ」脂を加へ之に桂皮油及「バナナ」油等を加ふる工程と他の方法に依る工程に依り軟質食料品を得る製法。



中村六行 本日本化學工業研究所 大阪府西區川西地番一八四七三

特許第九九一一七號 動物の肝臟より無臭の滋養粉末を製造する方法

〔内容〕 本發明は動物の肝臟の含有する滋養成分をして其實に變化を起さしめずして粉末となすを要旨とするものにして、大蒜及其他の粉末を添加して特殊の方法により處理精製したるものなり、製品は「ニンニク」「レバー」及「ペロリン」と稱し、肝臟含有の特殊の臭氣を除去し何人の嗜好にも適し、其固有せる滋養成分を攝取し易からしめたるものにして造血無臭の新劑として多數醫學博士の實驗推獎する所となり營養學界無比の好評を博し居れり。

〔略歴〕氏は明治十九年廣島縣の出身、早稻田大學卒業後本研究所を創設し廣島市に工場を有す、昭和九年十一月を以て創立滿二十五周年を迎へ其間日夜研究に没頭し既に十數種の特許を獲得し尙攷々として研究を続けられつゝあり、氏は亦鑛業家としても有名にして北海道及朝鮮に鑛區を有し就中朝鮮咸鏡南道端川郡南斗日面雲松里の鑛區はニツケル鑛として鑛量極めて豊富にして非常なる期待をかけられつゝあり。

福留熊次郎

東京市本所區
藤町三丁目十四番地

特許第一〇二二二六號 「ウイタミン」Bを多量に含む

滋養糖の製造法

〔内容〕米糖に麵粉酵母を加へ之に「ベツパー」末、ジュジュビー」末、肉桂末、大蒜等の補助培養劑を添加し適量の水に練合せ温度に保持し酵母菌を繁殖せしめて香氣よき滋養品の製法。

福本壽一郎
高岡齊

大阪市北區
扇町三十八番地
大阪市立工業研究所内

特許第一〇三八五九號 納豆菌の製法

〔内容〕大豆、豆粕等を水を加へ蒸煮したる液又は其磨碎乳汁に純培養せる納豆菌を接種作用せしめたる後濃粉乳糖等を混じて蒸發乾燥なして得る製法。

小島藤作

東京市杉並區
香掛町一〇五

特許第九八〇五一號 滋養劑製造方法

〔内容〕鰯と魚類を其骨腸共に混合粉砕したるものを特殊處理のもとに油脂及臭氣を除去し且溶液化して滋養豊富な製品を得る方法。

吳永授

大阪市此花區
下福島三丁目十三番地

特許第一〇〇九五〇號 肝油の加工法

〔内容〕「アラビヤゴム」を以て乳化せしめたる肝油に

安息香「チンキ」を添加し更に水飴を添加混合なして腸壁を通して吸収を容易ならしむる加工法。

佐竹徳苗

東京府北豊島郡板橋町
下板橋一六六番地

特許第一〇二二二二號 藥用粉末食料製造法

〔内容〕水洗せる生大豆を蒸氣熱にて處理し後急冷する工程を三度反覆し水中に攪拌して外皮を去り大麻子を晝夜水に浸漬し處理し急冷せしむる工程に依り他の方法を施して營養粉末食を廉價に製造す。

油井正一

東京市蒲田區
新宿町一六六〇番地

特許第九八九九號 米胚處理方法

〔内容〕第一工程に於て米胚に多量の赤外線を含む光線を照射せしめ胚子に附着せる幼蟲及其卵を死滅せしめ胚子に含有する脂肪を遊出せしめ其他第二工程に於て栄養分量の米胚を得る處理法。

三角和正

東京市豊町區
元園町二丁目十番地

特許第一〇〇三三七號 藥劑の製造方法

〔内容〕米胚、米糠、酵母等の浸出液に膠狀「カゼイン」と「アルミニウム」鹽類を加へ凝固沈澱せしめ水洗滲過分離して乾燥し固形物として營養劑を製造せしむる方法。

三好徳五郎

神戸市林田區榎松通り
五丁目百十番地

特許第一〇一九四號 滋養劑製造方法

〔内容〕動物牛馬豚の血液の凝固せざる内に纖維素を除去し有機酸性糖「アルコール」にて稀釋したるものを規那皮粉末と桂皮粉末とを浸出する工程と他の特種工程に依り效力適確なる滋養劑を得る製法。

島田太作

東京市品川區西大崎町
二丁目百三十番地
高橋藤五郎方

特許第一〇一〇四三號 滋養品製造法

〔内容〕脱脂乳に市販の「ビオフェルミン」を加へ加熱せるものと泥狀酵母とを胚芽米の粉濃粉果汁及蜂蜜に作れる粥狀液中に混和し乳酸菌及酵母菌を共生保持せしめてなる滋養品を得る製法。

白井春太郎

豊橋市花田町
字堀先一三〇

特許第九四二六四號 固形脂肪含有給養製造法

〔内容〕水飴に里芋の破砕煮沸せるもの、濾液を加へて加温し之に脂肪油を滴下して乳狀液となし別に海藻の特殊處理をなしたる糊狀のものを加へ凝固乾燥せしめたる製品。

白木武

東京市小石川區
宮下町二十二番地

特許第一〇一〇二六號 肝臟粉末の簡易製造方法

〔内容〕動物の生肝臟を細切し水溶性に加熱しつゝ搗

潰し蒸發均等の泥狀となして冷却し卵蛋白を添加攪練せしめ消化率高き肝臟粉末を経済的に得る製法。

澁谷力太郎

東京市荒川区日暮里町
九丁目千七百六番地

特許第一〇一〇九〇號 藥強壯劑の製造法

〔内容〕たんかいを介殼の燻黑燒となし粉砕したるものを湖魚海藻大蒜等搗潰したるものに混じり加熱焙煎せられつつある骨粉及小麦粉の混合物中に攪拌して成る強壯滋養劑の製造法。

平田伊太郎

臺灣彰化郡南郭庄大埔
四百五十六番地

特許第一〇二四五四號 滋養液體飲料及製菓原料の製造方法

〔内容〕「パイナップル」を細かに破砕し其燻沸騰するまで煮て之に麵を加へ攪拌し密閉なして液を搾り取り再び沸騰せしめて滋養に富む液體飲料を容易に得る製法。

樋上音吉

京都市下京區
十條通り東洞院西入ル
石田町三十五番地

特許第一〇二四七一號 穀物を以て主原料とする藥養粉末食料品

〔内容〕扱及び苧麥に加熱して得たる發芽大豆の液汁を加へ之を海藻と澱朮とを以て固み地下穴装置により

白芽を發生せしめ蒸熱乾燥したる後甘藷昆布海老等の粉末を配合して貯藏に耐ゆる食料品の製法。

飯沼忠衛

堺市材木町東二丁

特許第九九二二五號 蜂蜜飲料製造方法

〔内容〕本製造方法は蜂蜜に有機酸を加へ加熱して殺菌透明態となし、密閉器中に於て紫蘇葉を揉みたるものを混和し更に之が固形物を濾別除去して精製する工程を特徴とす。此の特殊の蜜蜂飲料は紫蘇葉固有の色素及香氣成分等を毀損することなく有効に附與せられ貯藏性を有し芳香美味麗なる透明液より成り且つ滋養豊富にして衛生的保健飲料として一般の嗜好に適し飲用に際し適宜に稀釋するか或は其まゝにて飲用するものとす。

伊藤勉一

東京府荏原郡人新井町
新井宿二二七〇

特許第九七〇二三號 苧られ製造法

〔内容〕小麦粉に酵母及水を加へ酸酵せしめ之を主要原料に混和し糖、胡麻及水を加へて再び酸酵せしめたるものを適宜の形態となし焙燒し醬油にて味付したる製造法。

伊藤兵助

名古屋市南區熱田東町
字牛巻九十八番地

特許第九九一一二號 家用着色固結飼料製造法

〔内容〕動植物及礦物性資料より成る配合固結飼料の

表面に白色黄色又は綠色及他家禽の嗜好に適應する色の可食塗料液又は染料溶液を各別に塗布せしめてなる方法。

岩谷松藏
岩谷まつ

青森縣上北郡七戸町
字川去百十一番地

特許第九九六五二號 馬鈴薯油揚煎餅の製造法

〔内容〕馬鈴薯を薄く輪切となし酒石酸重碳酸曹達鹽化曹達の稀薄溶液に浸漬水洗する工程と加熱して生乾きとなし落花生油胡麻油等の如き食用油を以て油揚げとなす工程と更に他の工程の結合より成る滋養製品を得る製法。

石橋作太郎

京都市下京區
北小路通西中筋東入
丸屋町二二一八

特許第一〇一六七三號 容器入羊羹金糖製造法

〔内容〕金屬罐其他の任意の容器に羊羹又は金玉糖の熱溶液を填充し適宜の密閉蓋を施す工程と冷却して内容物を全周壁に密着して固結せしむる工程との結合より成る製造法。

春木儀一

東京府豊多摩郡
千駄ヶ谷町
大字千駄ヶ谷八二四

特許第九六一二二號 糊狀香料製造方法

〔内容〕澱粉、ゴム質に糊糊糖「グリッリン」を添加し加熱後食用香料を加へ然る後有機酸を處理せしめた

るものにして水に稀釋して透明度高く製菓の場合加熱するも香料發散せず日分離の虞なき少き酸味を保持する製品の製法。

本郷芳雄

東京市荒川区
尾久町八丁目二二三番地

特許第一〇一七二〇號 耐濕性「グルコース、シラップ」の製造法

〔内容〕粗糖を燐酸溶液中に混濁し一部の轉化糖を化成せしめ鹽素を以て液中の色素を脱色し活性炭素を以て有效鹽素を分解し濾過精製して特殊の蔗糖液を製する工程と更に第二第三の工程に依り「グルコース、シラップ」を製造し得る方法。

富岡貫一

東京市神田區
駿河臺二丁目九番地

特許第一〇一五二〇號 「チウインガム」原料用「ゴム」狀物製造法

〔内容〕樹脂を植物油に溶解したる粘稠液を第一液となし別に糊を苛性曹達液に混し泥狀となし更に「カゼイン」を添加融合せしめたるものを第二液となし兩液を混和加熱更に他の方法を加へて成る製造法。

角田福太郎

東京市大森區
入新井三丁目一四五番地

特許第一〇二八〇二號 飼料製造法

〔内容〕蛋白質若くは含有物質を鹽酸にて處理し蛋白質か「アミノ」酸類になるまで加水分解せる果成物より「グルタミン」酸を分離せる「アミノ」酸液を物料に混和し乾燥なして營養價ある飼料を得る製法。

川北萬藏

川北製粉合名會社
大阪府豊能郡
櫻井谷村字榮原

特許第三六五三號 粉末生麩製造法

〔内容〕本法により製出せる粉末生麩の營養價及びカロリーの多量なる事は其蛋白質と含水炭素の二大營養素の斷然多量に含まれ居る分析の事實により證明さるゝ所なり。

河合コト

東京市芝區南佐久間町
一丁目二十三番地

特許第一〇三三三八號 胚芽菓子原料の製造方法

〔内容〕精選したる胚芽を密閉器中に收容して蒸煎しつゞ夏蜜柑汁を加へ更に砂糖及水飴を投入攪拌し胚芽粒子を被覆し「ゼラチン」又は「カゼイン」の溶液中に投入し表面に皮膜を形成せしめて耐濕性粉末菓子原料の製造法。

加古泰次郎

愛知縣知多郡
半田町中村三番地

特許第一〇一九四四號 養鶏飼料製造法

〔内容〕溜味噌糟を乾燥粉末となし之に炭酸「カルシウム」を加へ緊密に混和する工程と粉末とせる蝸油精、米糠を混入攪拌する工程との結合になり養鶏の發育を促進し産卵率を高め得る飼料の製造法。

吉岡豊三郎

東京市本所區
江東橋一丁目三番地

特許第一〇三三三六號 生玉葛製法

〔内容〕蒟蒻芋に水を注加しつゞ摺卸し斜位置に動搖

する金網上に通過せしめ湯水を去り熱湯を加へ糊化せしめ「アルカリ」を混和し加熱凝固せしめて完全なる蒟蒻を多量に得る製造法。

田中安治

東京市豊島區雑司が谷
町五丁目七一二番地

特許第一〇三六八三號 飼料用高粱種皮の處理法

〔内容〕蒸煮せる高粱種皮に強大なる「タンナーゼ」を含有せる「リッソオプス」屬又は「ムコール」屬の如き藻狀菌類其他の菌類を繁殖せしめて種皮中の單寧酸を分解せしめて美味安價なる飼料を得る處理法。

水島万壽彦

東京市本郷區
駒込蓬萊町六番地

特許第一〇三六八三號 飼料用高粱種皮の處理法

〔内容〕蒸煮せる高粱種皮に強大なる「タンナーゼ」を含有せる「リッソオプス」屬又は「ムコール」屬の如き藻狀菌類其他の菌類を繁殖せしめて種皮中の單寧酸を分解せしめて美味安價なる飼料を得る處理法。

田口勝太

東京府原郡原町
中延千七百七二番地

特許第九九七七號 麵飲料

〔内容〕米胚芽又は米糠を「メチール、アルコール」を以て浸出し液を蒸發濃縮して分離する磷脂質及油分を除去したる後「カルシウム」及「澱粉」を加へて成り營養價を高むる等効果を奏しむる方法。

高橋廣治

名古屋市南區竹田町
四丁目六十二番地

特許第一〇〇六一〇號 粒狀飼料製造法

〔内容〕燐炭末と過燐酸石灰と蕃根末と乳菌菌を多量

前田道方

東京市荒川区尾久町
八丁目一三六七番地

特許第一〇〇五三八號 藥養飼料製造法

〔内容〕粉末麵又は粉末蠶或は粉末蠶蛹等に高粱末又は玉蜀黍末を混じ「アスベルギルスメリウス」菌を加へて作りたる麵と大豆粕、粉末玄米及糠の混和よりなり優良なる飼料の製造法。

藤田政輔

東京市赤坂區
丹後町七十七番地

特許第一〇一九〇四號 粒狀混合飼料の製造法

〔内容〕高粱小麦等の穀、澱粉性粉末等の植物性粉末魚粉等の動物性粉末又は之等の混合物に大豆又は大豆粕を「アルコール」に處理し其他の工程に依り加熱乾燥なして得る飼料の製造法。

藤本吉二

金澤市東馬場町
百三十四番地

特許第一〇三三五一號 食物製造法

〔内容〕多量の澱粉に海藻を煮沸し糊液の濃縮したるものと大豆を水に浸漬し搗碎し壓搾濾過して得たる液汁の煮沸濃縮液と「ゼラチン」溶液とを混じ食鹽及砂糖を加へ餅狀となす工程と其他の工程に依り料理用の食物を得る製造法。

に含有せしめたる牛乳と肝油とを適當配合率に配合練合する工程と他の特殊工程に依り家禽の嗜好に適應する補強劑の製造法。

中野市太郎

大阪府東淀川區本庄
中通三丁目十二番地

特許第一〇五四五一號 飲料用粉末製造法

〔内容〕本發明は蒸し大豆と糖とを混合して澱粉の糖化作用を營ましめ、加熱して粘塊となし後乾燥粉砕するを特徴とする製造方法なり、製品は水又は温湯に溶きて水飴様飲料とす。

成瀬久二郎

關東州大連市
惠比須町一九七番地

特許第一〇〇二九二號 嬰兒飼料製造法

〔内容〕大豆を水に浸し磨碎して之を煮沸し後布袋に入れ壓搾して豆乳を去り殘滓を主飼料とし之に桑葉又は桑芽を壓搾して得たる液汁を加へて桑葉に代へ得る嬰兒の飼料を得る製法。

向井重雄

東京府豊多摩郡
瀬谷町金王四十番地

特許第九九〇六五號 粘稠物質乾燥法

〔内容〕獸鳥魚貝肉より得たる液汁又は各種糖液並果汁或は蛋白質分解生成液を適當の粘稠度を有する迄濃縮する工程と加壓の下に攪拌混捏してなる工程と氣泡を膨張せしめ乾燥する工程の結合より成り優良品を得る方法。

上田正雄

東京市蒲田區
矢口町根岸七十八番地

特許第一〇〇三三三號 配合飼料用肝油粕の處理法

〔内容〕肝油粕を低温に於て徐々に乾燥せしめ木炭粉寒天粉及粗製「カゼイン」の混合物を加へ之に依り肝油粕粒子を被覆せしめつゞ低温の下に攪拌乾燥せしめて營養高き肝油粕を簡易に得る方法。

山崎百治

宇都宮市三條町
一三二一第一番地

特許第一〇一三三九號 酸性飲料製造法

〔内容〕純粹培養せる「リゾプス」屬「クラミドムコル」屬「アスベルギルス」屬「ムコール」屬等數種の菌質物を水中に懸垂せしものに蒸糯米を混じ炊飯狀とせるものを適温に保持菌類の繁殖による工程と他の工程に依り營養大なる飲料の製法。

松井元二郎

大阪府東區船越町
二丁目三十六番地

特許第一〇三三六二號 滋養芽菓子製造法

〔内容〕「コンスターチ」を主原料とし之に「ミルク」小豆粉「ゼラチン」砂糖及水飴を適當に混合し清酒を注加しつゞ攪拌混練し其他の方法を施して珍重賞味せらるゝ芳醇なる菓子製造法。

松宮義太郎

横濱市中區吉野町
二丁目五番地

特許第一〇〇八〇二號 嗜好飲料用粉末原料製造法

〔内容〕小豆を鹽化「ナトリウム」溶液に浸漬し異味

小柳 津 眞 一

愛知縣寶飯郡豊川町
字豊川利通八番地

特許第九八六四號 生玉蒟蒻の製造方法

〔内容〕水洗したる蒟蒻芋を過酸化曹達の冷水液を注
加し、摺卸機に依り摺卸し之に石灰水を注加し清水
と共に釜に煮沸して冷却せしめて綺麗な生玉蒟蒻を
得る製法。

江 崎 利 一

大阪市東淀川区豊崎
東通一丁目十三番地

特許第一〇二五二號 菓子の実の製法

〔内容〕豆類、落花生、蓮の實、他の草木の果
實の仁核を其脂肪に富むものを焦げざる程度に煎り
「ローラー」にて荒砕し、摺卸機に掛け後蒸し、其他特
殊の方法を施して優良なる菓子の実を得る製法。

遠 藤 勝

東京府佐原郡目黒町
大字中目黒一七三

特許第九四三三〇號 麥芽根或は麥酒粕又は糖、米糖
等と醗酵麥酒母を利用する家
畜飼料の製造方法

〔内容〕原料物質に糖蜜、磷酸加里、炭酸石灰を加へ
煮沸後冷却し之に醗酵母を加へて醗酵せしめ乾燥細
粉して飼料たらしむる方法。

阿 曾 八 和 太

東京府豊谷區原宿町
二一七〇ノ一二號

特許第九八一〇七號 養雞飼料製造法

〔内容〕穀類の種子を發芽せしめたる後之れに糖類を
加ふ。

混じて一旦醗酵せしめ魚骨肉粉等に混入して分解作
用を行ふべく醗酵せしめ悪臭なき飼料の製造法。

荒 枝 彌 太 郎

兵庫縣揖保郡
朝子町野瀬二十二番地

特許第一〇〇五三號 魚煎餅製造法

〔内容〕魚肉を細碎し調味料を混和したるものに生麩
及澱粉の適量を加へ焙焼し胚芽分を多量に含有する米
糖若干を炭水化合物分解酵素及蛋白質分解酵素を配合し混
合物を豆乳に依り粘糊状に混捏する工程と他の工程に
依りて成る製造法。

佐 伯 忠 雄

京都市東山区
大和路通三條下ル
辨財天町一

特許第一〇二三三號 金魚其他魚類飼料製造法

〔内容〕昆蟲類又は魚類の兩者の粉末を水及「アルコ
ール」若くは之と「エーテル」の如き揮發性油脂溶劑
を以て加熱浸出して成る工程と生澱粉と水中に煮沸乾
燥せる豆粉を加へ其他の工程に於て乾燥固結せしめて
飼養料を製造し得る方法。

酒 井 忠 令

東京府牛込區
若松町一五

特許第九五五九二號 澱粉質含有物より蛋白質含有飼
料を製造する方法

〔内容〕原料質含有の農産物若くは其副生物に窒素、
磷酸及加里を含有する無機鹽類の少量を加へ麹菌を繁
殖せしめ澱粉を糖化し更に酵母を加へたる製法。

柴 田 德 三

大阪府南河内郡富田林
町字毛入谷三二番地

特許第一〇〇三六號 「てんぷら」の製法

〔内容〕所要の油揚すべき肉片又は野菜類等よりなる
材料を適當の煮立ちたる油脂中に投入し生煮の状態に
於て引上げ加熱せる室内に遠心分離機に掛け材料中に
滲入せる油脂を振出しつつ蒸焼せしめて消化良好なる
「てんぷら」の製法。

鈴 木 豊 智

大阪府天王寺區
逢坂上之町十六番地

特許第一〇三二二號 模擬炒豆製造方法

〔内容〕水分を除去する迄炊煎したる所要の豆を重壓
に依り粉末となす工程と粉末に「ゼラチン」溶液又は
之に類似なる結合力に富む他の溶液を噴霧器により附
加する工程と他の工程の結合より成る模擬炒豆を得る
方法。

渡 邊 彦 兵

大阪府北區
中野町五ノ三

特許第九四一七二號 醬油原料液の製造方法

〔内容〕大豆粕粕粕生熟等の如き蛋白質含有物を加水
分解したる液を微酸性に於て活性炭素を添加し之を特
殊工程のもとに處理したる後糖及酸類を加へて防菌性
に富みたる原料液を製造する方法

加 藤 辨 三 郎

千葉縣東葛飾郡市川町
大字市川一九三三

特許第九三二六號 醸造原料蒸餾装置

〔内容〕蒸餾せられたる醸造原料を急冷すべく多數の



荒 木 源 四 郎
長崎縣長
大阪府東區市丁
一七番一丁目
橋地

特許第一〇二六六號 燒菓子製造法

〔内容〕本發明は菓子原料の固定底及び可動蓋
を電極とし其の他を電氣的に絶縁して交流を通
じ、原料を抵抗として自焼せしめ、蓋となるべ
き電極は原料の膨脹するに従ひて移動し、カス
テラ、パン、スポンヂケーキ、又は煎餅等の
燒菓子を製造する方法にして、其製造するに當
り原料の膨脹を妨ぐることなく短時間に内外共
均質に焼上げ熱量を節約し得るものなり、其の
外箱の底は木板其他適當の材料より作り又其の
側板は箱の内部を可視ならしむる爲に成るべく
透明硝子にて作るか又は之に透明窓を設く、臺
脚は絶縁性にして其上方に燒箱即ち菓子原料を
容るべき容器を載置す、燒箱の底は電極の一を
なすものにして炭素板其他適當なる電導性材
料にて作り、其の側板は透明硝子板の如き電氣
絶縁性材料にて作る、蓋は燒箱の内方を蓋ふも
尚上下に自由可動ならしめ電極の他の一をなす
ものにして炭素板其他適當なる材料にて作る。
而して燒箱の底を導線によりて變壓器の二次線
輪の一端に接続し、蓋を導線によりて上記變壓
器二次線輪の他端をなせる可變抵抗に接続せし

灌水孔を備ふる水管を蒸餾罐の外側に圍繞したる装
置。

鈴 木 幸 三

千葉市千葉五五七

特許第九七四七三號 鱈肝油粕より動物飼料を製造す
る方法

〔内容〕鱈肝油粕に穀類及少量の木炭を混和し加熱搗
碎し乾燥粗粉となしたるものにして脂肪を穀類に吸収
せしめ優良なる蛋白質を含有する飼料の製法。

片 桐 英 郎

京都市左京區北白川町
京福帝國大學農學部内

特許第一〇〇一〇四號 醬油製原料の處理法

〔内容〕高價なる生大豆の使用量を他の蛋白質含有物質
の混用によりて節減すると同時に原料の粉砕を一層容
易完全ならしめたる處理法。

鈴 木 忠 治 郎

靜岡縣駿東郡
小栗村佐野一四八八

特許第九四一五六號 醸造用大豆處理方法

〔内容〕濕潤せる大豆を處理筒内にて加温加壓のもと
に特殊處理を施したるものにして大豆組織を破壊し之
を粗鬆狀破片をなし麹菌の繁殖面積を増大し該菌の大
豆組織内に侵入繁殖を容易ならしむる方法。

櫻 井 太 藏

兵庫縣城崎郡
日高町久手五〇二ノ一

特許第九五〇四二號 桑皮茶製造法

〔内容〕桑樹の皮部を乾燥細切して蒸しあげ夜間戸外
に放置したる後乾燥し更に焙爐にて焙しあげたる特有
の臭氣除去好適なる香氣添付の飲料資料製造法。

佐 々 木 善 三 郎

京都市伏見區深草町
直連橋南一丁五一〇

特許第一〇〇四六一號 果汁未製法

〔内容〕「オレンジ」及「レモン」其他の果肉部を壓搾
して得たる汁液に水を加へ煮沸搗碎したる後壓搾して
得たる汁液を混和し煮詰めて「エキス」状となす工程
と他の工程との結合よりなる香味豊富な果汁未を得る
製法。

佐 々 木 善 三 郎

京都市伏見區深草町
秋川町二十一番地

〔略歴〕氏は明治元年の出生、約二十七年間長
崎三菱造船所に勤務し、大正十三年大阪に出で
長崎堂と稱して製菓販賣業を開始し現在に至る
夙に製菓機の發明に志し多年之が研究に没頭し
て苦心努力の結果遂に本製造法の發明を完成す
るに至りしものなり。

波邊正七

福岡縣手塚松村
大字四郎九七九一

特許第九四三〇三號 醬油製造法

〔内容〕灼熱して碎割したる小麦と煮蒸したる大豆とを能く混和したる上加壓し之等を壓着せしむる事を特徴とする製造法。

山崎善一

千葉縣海上郡
鎌子町八ノ五五

特許第九九四〇號 製麵機

〔内容〕麵室中に多数の無端輸送帯を重設し之を二組に区分したる特殊構造により二底盛り込みとし隔日物料の盛り込をなし以て下廻の發熱作用を利用して麵菌の繁殖を良好ならしむる機構。

由比市三郎

大阪府西區京町堀通
五丁目一八ノ二

特許第九五六二二號 大豆麵又は大豆粉製造方法

〔内容〕大豆及大豆粉の特殊處理により水分を適度に軽減せしめ麵菌の發育を可能ならしむると共に之を冷却と同時に凝固せしめて製麵手入を容易ならしむる方法。

金井春吉

東京府北豐島郡瀧野川
町大字瀧野川一〇二二

特許第九五八二〇號 酒母製造方法

〔内容〕仕込みにあたり特殊の水を選び物料の水素「イオン」を特殊に調節し適當の時期に之を弱酸性に變化せしむるものにして酒母製造中に於ける重碳酸の生産及消費を調節管理し早沸を防止す方法。

柿澤喜三郎

東京府淺草區
田町二丁目一〇

特許第九九一〇九號 菓子麵粉製造法

〔内容〕菓子を資料内の各部に均等に培養して乾燥せしめ使用に當りては菓子の繁殖良好にして強力且長時間の保存に耐へ風味豊富にして取扱容易なる菓子麵粉の製造法。

藪田貞治郎

東京府北多摩郡
稲村字奈根七九〇

特許第一〇三三五號 酵母増殖法

〔内容〕酵母を培養基中に繁殖せしむる場合減壓の下に通氣培養を行ひ酵母を増殖せしむる法。

林大

大阪府此花區
西九條下通一丁目四

特許第一〇三三八號 芳香を有する酒類の製造方法

〔内容〕酒精醱酵を起すべく醱造原液に直接甘草又は「グリチルリチン」酸を加へて酒精醱酵を營ましむる製造方法。

鳥井信治郎

兵庫縣川邊郡
川西町登根字上小島一

特許第一〇二〇一號 林檎酒製造法

〔内容〕林檎汁液に粗製「ヂアスターゼ」と少許の酸を混じ「ベクチン」其他膠狀質物を除去し清澄したるものに酵母を加へ醱酵せしむる林檎酒の製造法。

津留崎安太郎

福岡縣三橋郡大善寺村
大字藤吉九四〇

特許第九八七一九號 燒酎製造法

〔内容〕米糠を主要原料としたる酒精製溜にあたり乾燥したる多数の枝を附着せる儘の大豆幹殻を原料中に混加せしめその弾力により原料表面の粘性皮膜を破らしめ蒸溜を容易ならしむる製造法。

黒野勘六

東京府瀧野川區
瀧野川町五九四

特許第九九三三九號 清酒代用飲料製造法

〔内容〕酒精、水「アミノ」酸、高級「アルコール」及有機酸の混合液に電流を通じ清酒様の香気を發生せしめたるものと、特殊「アミノ」酸生成物と特殊甘味液とを混濁し更に調味調整劑を加へ熟化せしめたる清酒代用飲料の製造法。

山崎百治

宇都宮市
三條町一三二一

特許第九六二九四號 紹興酒一名老酒製造法

〔内容〕穀類を蒸饌し是に純粹培養せる「リゾーパス」屬「クラミドムコール」屬「ムコール」屬等の一種若くは數種及酵母菌の菌質物を水中に懸垂せしものを混じたるものに對する特殊處理工程により生産歩合を増大する方法。

山内不二門

東京府北豐島郡
高田町雜司ヶ谷三六六

特許第九七九四八號 清酒類の飲料を醸造する方法

〔内容〕清酒粕を膠土の存在に於て蔗糖液に加へ酒

精醱酵を起さしめ價低廉なる酒粕により清酒固有の風味を有する飲料を製する方法。

山谷潤

東京府世田谷區
下代田町一二四

特許第一〇三〇五八號 高粱酒製造法

〔内容〕香氣附與に使用する高粱を醱中に混ぜることなく溜出酒精に高粱の香氣を附與して後高粱を醱酵原料に利用し麴子を使用する高粱酒に類似する高粱酒を經濟的に製造する法。

藤井萬右衛門

福山市住吉町
乙一一二九

特許第一〇〇四〇六號 酒精性飲料製造法

〔内容〕松葉中に含有する成分色素香氣を特殊方法により酒精含有の醱に抽出せしめたる香味色澤共に優良なる飲料の製造法。

小穴富司雄

東京府北豐島郡瀧野川
町大字瀧野川九七

特許第九五三三七號 清酒代用飲料の製造法

〔内容〕各種有機酸類「アミノ」酸類を酒精に加へ「オゾン」瓦斯を通じ清酒類似の風味を發生せしめ調製度を促進せしめ他の調味料を之に加へて成る飲料製造法

新井勝五郎

東京府瀧野川區
代々木上原町一〇〇

特許第九八五二九號 合成葡萄酒製造法

〔内容〕酒精、糖分外三劑の混和水溶液に「オナントール」「コクニエーテル」及葡萄酒香精を加はししもの中に特殊劑を處理し高周波の振動電氣を通じて化學的

變化をなさしめたる製造方法。

坂口謹一郎

東京府本郷區
駒込町坂町三二七

特許第一〇二三四〇號 燒酎製造法

〔内容〕「アスベルギルス、オリゼー」菌を使用し「アミロ」法に依る本邦人の嗜好に適應する香味を有せしめたる燒酎を製造する法。

高橋偵造

東京府本郷區
駒込町坂町三二七

特許第一〇〇六三三號 人工清酒製造法

〔内容〕「メンザイ」、米糖又は米蛋白質を蛋白質分解酵素を以て分解せしめたるものに水、酒精、糖分、糊精有機酸類及び香料を添加したる人工清酒の製造法。

中尾清麿

廣島縣加茂郡
竹原町四一一二

特許第九六四〇二號 葡萄酒の遠慮法

〔内容〕麥酒醱母に「バンクレーアチン」を作用せしめて醱母消化液を作り之を主醱酵を終了したる葡萄酒に添加して後醱酵を起さしむる方法。

廣川四郎

大阪府中河内郡八尾町
西郷一〇六九

特許第九九二九二號 葡萄酒遠慮法

〔内容〕醱母消化液に「エーテル」を加へ處理したるものを主醱酵を終了したる葡萄酒に添加して其後醱酵を起さしむる遠慮法。



博士 木 鈴
東京府市川區
梅 太 郎
市川區八

特許第二〇七八五號 米糠中の一成分アペリ酸の製法

〔内容〕前者は米糠を脱脂し強アルコール等を以て煮沸浸出しその液を蒸發してアルコールを除去せる後エーテルを以て振盪し脂肪レミチン有機酸樹脂等を去りエーテルを揮散せしめ稀酸を加へて酸性となし、之に燐ウオルフラウ酸等を加へ有效成分を沈澱せしめ之にバリタを加へて分解しバリタを除去したる液を蒸發し濃厚ならしむるものにして、製品をオリザニンと稱し普通ウイタミンBと稱す。

後者は米を用ひずして清酒代用飲料を製造する方法にして、前者は半醱酵法とも稱すべく後二者は之と全く方法を異にし純合成分とも稱すべく、先づ清酒の成分を分析探究して之を清酒と略々同様の割合に配合し二三週間貯藏して調製せしむるものなり。

〔略歴〕氏は明治七年靜岡縣の出身、同二十九年東大農科を卒業し大學院を経て農科大學其他の講師助教となり三十四年二十七歳にして農

學博士の學位を授與せられ、海外に留學を命ぜられて伯林大學に蛋白質化學の研究に従ひ三十九年歸朝して盛岡高等農林學校、農科大學の教授となる、大正六年理科學研究所設立と同時に研究員に囑託され同十四年帝國學士院會員に推され昭和二年東大農學部長に選ばれる。

伊藤 勇 四郎

茨城縣那珂郡湊町
字調神町五五一四

特許第一〇一九〇五號 魚醬油の製造方法

〔内容〕魚肉材料に植物性食用油と糖との混合物の加熱物質を糖と共に添加して之を醗酵せしめ動物質の臭氣を除き同時に醗酵を助長し更に植物性香氣を附加せしめたる魚醬油の製造法。

伊澤 仁

川崎市大師西一三一
松岡權次郎方

特許第九九七二號 蠅醬油製造法

〔内容〕蠅に「アルカリ」鹽類を加へ濕潤せしめ高壓のもとに蒸餾せしめ之を中和したるものと之に炭水化合物原料とを配合し製麹して食鹽水中に仕込醗酵せしむる蠅醬油を短時間に製造する法。

泉田 利 宗

富山縣下新川郡
生地町生地六九八

特許第九三〇五號 番醬油製造法

〔内容〕階段状に浸出槽を配置し之に粕を收容したるものに於て槽の特殊操作と其他特殊機構により品質

優良なる透明の番醬油を多量且容易に得る方法。

因幡 藤 三郎

福岡縣早良郡津屋崎町
字東町三六〇六

特許第九六〇二號 醬油製造法

〔内容〕製糶前の處理として發芽大豆と大豆とを共に煮沸して大豆の分解を促進せしめ之に水飴粕を配伍して風味良好なる調味醬油を經濟的に製造する方法。

仁科 遠 平

東京市目黒區
中目黒町一ノ八三三

特許第九八〇一七號 醬油製造法

〔内容〕動物性又は植物性の蛋白質を特殊處理したる後「オゾン」を通じて加水分解中に副生したる「アムモニア」及「アミン」系化合物を變質せしめ不快臭を除き去し生成液に適宜の色素鹹味其他の風味を附加したる製法。



農學博士 野村 明二
東京市京町一丁目
石小川番地

特許第三三〇二六號 櫛野式自動製糶裝置

同 第三七三四一號 醬油速醸法

〔内容〕自動製糶裝置は従来の平面斷續式製糶法を立體的連續式ならしめたるものにして、毎

日最上段に原料を投入するときは麹若發育の度進むに従ひ漸次下段に移され且つ氣流の循環完全に行はるるを以て麹若發育の程度と湿度温度との關係宜しきを得殊に出麴に至れば適當に乾燥し常に一定不易の良麴を得るものなり、而して本速醸法は従来の方法を改良したるものにして前製糶裝置により得たる麴により僅か二三ヶ月にて優良なる醬油を製出し得るものなり。

〔略歴〕氏は明治十五年新潟縣の出身、同四十二年東京帝國大學農科農藝化學科卒業、日本醬油醸造株式會社に入社せしも同四十三年辭して木屑酒精製造調査の爲北米に差遣さる、大正二年醸造試験所技師となり、「最新醬油醸造論」を著す、同六年日本醸工業株式會社を創立し専務取締役となり同十二年社長となる。

本製糶裝置は大正元年より全國醸造家に或は縣郡を範圍とし或は一二工場を範圍として分權實施せしめ、速醸法も亦全國十六ヶ所に分權實施せしめ、その醸造石數も巨額に上ると云ふ。帝國發明協會より表彰せらるること三回、昭和六年農學博士の學位を授與せらる。

奥 正 巳

京都府何鹿郡綾部町
大字 本宮村
小字 丁島二ノ一

特許第九九八二二號 蠅醬油を使用して醬油代用品を製造する方法

〔内容〕未脱脂の蠅醬油を使用して特殊方法に依り含有脂肪を分解せしめ惡臭成分を分解除去すると共に蠅醬油の加水分解を容易ならしめして蠅醬「アミノ」酸の他

に大豆「アミノ」酸並に麩菌「アミノ」酸を存在せしめたる醬油代用品の製法。

奥村 善 次

福岡市西新町
一丁目一八三四

特許第一〇三三三九號 醬油製造法の改良

〔内容〕鹽水にて自然醗酵をなさせしめたる大豆麴と單に糖化作用のみを行はしめたる小麦麴とを混合し更に之に適量の鹽水を加へ鹽酸と合糖「ペンシ」を投入し充分熟成せしめて搾汁製成する方法。

中島 藤 九郎

大阪府北河内郡三郷村
大字東橋波一〇六二

特許第九八四一五號 醬油製造法

〔内容〕脱脂大豆粕を充分浸小したる後蒸煮したるものに煎蒸を混じ之に「グリッシン」を添加して製麴する事の特徴とする方法。

長山 正 太郎

富山縣氷見郡氷見町
村上四二一五
水産醬油株式會社
工場

特許第九四四九三號 魚貝類を普通醬油香味に透導せしむる魚醬油製造法

〔内容〕魚貝類を食鹽と共に漬込み特殊處置の後醗酵力を不活性となしたる後普通醬油醗酵に必要な物量を加へ新醗酵を替まして製し得る方法。

奈良 原 半兵衛

廣島縣御調郡三原町
大字 三原町
甲一六二八ノ二

特許第一〇三〇一六號 醬油速醸法

〔内容〕植物蛋白質の酸分解液を中和したる後大豆油を以て處理脱臭し甘味料を加へ尚ほ醬油生粕を添加溶解して漏過し漏液に清酢を加へ清澄せしめて醬油を速成する方法。

山田 治 吉

名古屋市中區
中ノ町三丁目二一

特許第一〇二四〇五號 濃厚醬油製造法

〔内容〕溜醬油を真空罐中にて減壓の下に於て加熱し水分を蒸發せしめ折出す食鹽を絶えず除去しながら溜が半固體となりたる時再び適量の水を加へて溶解せしめ濃厚溜同様の香味を有する溜を製造する法。

古川 政 司

東京市本郷區駒込
西片町一〇ろノ二

特許第九七一七六號 醬油速醸法

〔内容〕大豆粕を濃め液「アムモニア」を以て處理したる後酸又は「アルカリ」によりて處理し之が特殊の工程を経たる後惡臭と苦味を脱し色澤香味優良なる醬油の速醸法。

前田 道 方

東京市荏原區尾久町
八丁目一三六七

特許第一〇二五五三號 調味醬油の調製法

〔内容〕大豆粕を糖蜜液に浸し之に高粱等を混じ蒸餾し麴菌を振り掛け麴を調製し別に糖蜜を水に溶解したるものに前記豆粕糖麴を混和し壓搾濾過したる調味醬油の調製法。



大阪府石田區市東町
石田町三丁目三番地

特許第八五八〇〇號 醬油類原液の製造方法

同 第八九一五七號 水に可溶性着鉛化合物の製造方法

同 第九五六一九號 醸造品の腐敗及醗酵防止方法

同 第九九二四二號 着色料カラメル製造法

〔内容〕從來澱粉糖代工業が唯單に外人の模倣に過ぎず尙研究の餘地多大なるに着眼し之が研究に腐心し遂に着色料カラメルの製造法を完成し、又醫藥劑として着鉛鹽類の應用はサルヴァルサンに優り有效なること近時醫界の認むる所なるも着鉛の水に可溶性鹽類を製するは全く不可能とせられ之を治療用に應用するを得ざるを遺憾とし種々研究を重ねたる結果水に可溶性着

鉛化合物の製造方法を發明するに至りしものなり。

〔略歴〕氏は明治二十一年千葉銚子町に生れ明治四十三年東北醫科大學醫學專門部を卒業し大正元年陸軍に入り勤続十一年陸軍一等藥劑官に任ぜられ同十二年辭して大阪市技師となり、市立衛生試驗場、市立市民病院に勤務し、同十五年合資會社小澤商店に入り無限社員として工場を管理し其の經營に任じ、別に昭和商事株式會社取締役となる。

氏は夙に農藝化學に興味を有し、特に醸造品の製造法を研鑽し努力する所あり、其の結果として「醬油類原液の製造法」「醸造品の腐敗及酸酵防止法」等を完成し特許を得るに至れり。着色料カラメルは醬油着色原料として用途を有し、醬油類の原液及醸造品の腐敗及酸酵防止法等は一般醸造家の需用に提供し居れり、右の外目下特許出願中のものに「麥芽糖及葡萄糖含有物の製造方法」あり。

早乙女 新一郎

松本市西町四五〇

小林 文夫

松本市宮村町七五〇

特許第一〇三八九八號 醬油類用醬油遠慮法

〔内容〕酵素作用及食鹽の化學的作用により麵蛋白質の加水分解を促進すると同時に加水分解中炭水化合物と蛋白質分解生成物との作用により芳香及調色物質を化生し更に第二醱酵により良質の貯蔵性に富む製品を遠慮する法。

齋田 義雄

福岡市藥院東川端二

特許第一〇一四一號 醬油遠慮法

〔内容〕醬油類を食鹽水と共に醬油諸味に仕込み特殊方法に依り熟成期間を短縮せしめ質優良なる醬油を歩止り多く製出せしむる法。

木下 淺吉

東京府北多摩郡小金井村貫井一〇五

特許第九五七九七號 醬油遠慮法

〔内容〕糖類又は澱粉質原料を使用し酸醱酵せしめたる醱酵液に食鹽及「アミノ」酸鹽の溶液を加へ適度温度に於て加熱調製せしめてなる遠慮法。

下光 太郎

埼玉縣北足立郡浦和町四六六

特許第九五三七七號 醬油遠慮法

〔内容〕大豆又は大豆粕を弱「アルカリ」性溶液を以て特殊處理となし之を特殊工程のもとに處理し原料中の炭水化合物と蛋白質とを分離し加水分解を行はしめて成る遠慮法。

庄司 務

東京府北豐島郡王子町大門一三一九

特許第九六一〇二號 醬油遠慮法

〔内容〕大豆又は大豆粕を其儘又は弱「アルカリ」液に浸漬したるものに對する特殊の處理工程により所謂

「コク」を充分に具へたる醬油の遠慮法。

井上 和吉

北海道釧田郡湯ノ川村字敷川七

特許第九四八二八號 味噌製造法

〔内容〕乾燥せる昆布を水で以て浸漬したる後取出して製麹し其浸漬汁の特殊處理により米麴を混和熟成せしめて製する方法。

田中 眞次郎

東京府小石川區大塚坂下町一六七

特許第九八五四二號 味噌製造法

〔内容〕煮熟したる大豆に諸種の汁液、石楠花、昆布「エキス」を吸着せしめ更に之れを玉蜀黍等の粉末にて被覆し「アルベルギルス、オリゼー」を發育せしめ麴とし乾燥後粉砕分して製する方法。

土岡 貞次

廣島市新川場町官有七ノ二ノ二

特許第九八〇五四號 味噌製造法

〔内容〕大豆を熱氣送風装置の乾燥器内に於て特殊の處理を施し之れに他の特殊なる二つの工程を結合せしめ短期間に熟成せしめて食用の際調味味噌等を用ひず食膳に供し得る味噌の製法。

中村 信友

廣島市神奈川區白幡町八六七

特許第九七四四九號 大豆粕を以て粉末味噌を製造する方法

〔内容〕大豆粕を水にて蒸熱したるものに納豆菌を接

種して大豆粕納豆を作り之を醱酵せしめたる後乾燥粉末となして製する方法。

上田 利一

大阪市東成區今市町一〇〇九

特許第一〇〇八四七號 白味噌製造法

〔内容〕漂白と重曹添加による迅速煮熟とにより原料大豆の種類品質に關せずく白味噌として優秀なる色相の製品を廉價に製造する方法。

秋吉 重雄

中津市新魚町一九一六

特許第九六九五〇號 味噌製造方法

〔内容〕大豆の如き植物性物質を「アルカリ」及酸に逐次處理し之を醱酵せしめたる後食鹽を加へて化學的作用により短時に製造する方法。

佐藤 繁吉

東京府芝區白金今里町九六

特許第一〇三二〇〇號 味噌製造法

〔内容〕熟成味噌中に脱脂脱臭したる香料と玉葱の絞汁及昆布の煎汁及白胡椒の焙燥粉末等を加へ動物性

三上 廣司

東京府澁谷區原宿町一丁目一六〇

特許第一〇三六九〇號 粉末味噌類似食品製造方法

〔内容〕脱皮大豆を加壓下に蒸熱し密閉器中に短時間日麴菌の作用を受けしめ之に脱脂乳の乳酸醱酵液を

添加して兩者の蛋白質を「バイン」にて分解し乾燥粉砕したる方法。

鈴木 清

千葉縣海上市銚子町口ノ二六〇

特許第一〇〇七一八號 味噌製造法

〔内容〕貝汁と米又は麥の麴及食鹽とを混和したるものに適量の重曹を添加し蒸熱又は煮熟せる大豆を混和する味噌製造法。

濱口 儀兵衛

千葉縣海上市銚子町口ノ二六〇

特許第九六三六八號 火入醬油貯蔵槽

〔内容〕槽の上部に「マンホール」を設け之を密閉すべからしめ醬油送入口を連ね且内部上方に冷却蛇管を備へたる機構。

大谷 圭吉

東京府牛込區加賀町一丁目一九

特許第一〇三二一九號 醸造用金屬製タンク

〔内容〕呑口主體の防塵用蓋をして弁の開閉用摘子輪を兼用せしめ呑口の安全且清潔を保たしめ同時に呑口主體に於ける蓋蓋螺合用螺旋を利用し「ホース」取付用口金の連結を簡便ならしめたる彎曲せる呑口を取付たる「タンク」

沖本 數三

大阪府三島郡高槻町一六一二

特許第一〇〇五五二號 清酒醇化再蒸溜過程

〔内容〕清酒醱造醱酵中の甘酸味並に貯蔵中容器より

吉川 雅男

三重縣志摩郡鳥羽町字鳥羽一四四〇

特許第一〇三三三一號 醬油防腐劑製造法

〔内容〕重碳酸曹達と芥子油と「パラフィン」を煉合して適當の形狀に型成し其全表面に「パラフィン」層を構成せしめたる防腐劑を徐々に醬油に作用せしむる防腐劑の製造法。

橘 市次郎

和歌山縣海草郡賢村字重根一八〇七

特許第九四七〇九號 醬油防腐劑製造法

〔内容〕樹脂固形「パラフィン」蠟類に脂肪酸の曹達鹽を加へて煉融したる後特殊處理を施してなるものにして芥子油を使用し錠劑を作る場合之を多量に包含し使用に當り之を容易に放出して効果充分なるを得る製造法。

中野 金吾

中津市古魚町一六七七

特許第一〇二六八八號 變味酒精劑の製造法

〔内容〕飲料水の清澄劑たる枯葉に防腐性を有する過酸化「マケネシウム」末を乾燥状態に於て緊密に混和せしめたる變味酒精劑の製造法。

中野金吾

中津市古魚町一六七七

特許第一〇〇五九四號 清酒防腐劑

〔内容〕樹脂酸の「エステル」又は「アルデヒド」を過酸化「マグネシウム」に混和したる清酒の香味を害せず持久的に有効なる衛生上無害の防腐劑。

永田利行

東京市本所區石原町四丁目一

特許第九六三三二號 火入器

〔内容〕横長形の火入槽内に於て其側壁に設けたる傾斜軌條により瓶容函を火焰の進行方向と反対に運行せしむべくせる火入器。

山田高三郎

東京府荏原郡荏原町大字戸越四四〇

特許第九六七六五號 揮發芥子油乳化錠劑製造方法

〔内容〕「アラビヤ」葉の「アルカリ」性に於て揮發芥子油を配合し之に賦形劑「デキストリン」を加へ錠劑とする方法。

藤井與次

東京市小石川區大井出石町五〇九八

特許第九七八一七號 樹脂酸「アルミニウム」を主成分とする清酒防腐劑

〔内容〕主成分に適宜清澄脱色作用ある無機物質粉末を配合してなるものにして殺菌と同時に浮遊する物質をも分離沈降せしめて貯藏を完全ならしむる製劑。

深井冬史

東京府北豐島郡瀧野川町字小原七三八

特許第九七七〇九號 醬油諸味の異常醗酵防止方法

〔内容〕醬油諸味に椰子油、高級脂肪酸類及水よりなる乳劑を添加し攪拌混和せしめてなる方法。

小林正造

大阪市北區北船場三八大阪市立工業研究所内

特許第九四一三九號 醬油防腐方法

〔内容〕化學的特殊的芳香族芥子油を醬油中に加へて防霉貯藏する方法。

酒井眞之丞

和歌山縣有田郡湯淺町大字湯淺五三六

特許第一〇三三〇號 果實類より採取したる「ペクチン」を使用して揮發芥子油製防腐劑を製造する方法

〔内容〕果實中に含有する纖維素質を稀薄酸類にて處理し之に「アルコール」を加へて沈澱せしめ乾燥粉末となしたる「ペクチン」に揮發芥子油及水を配合して乳劑となしたる醬油類の防腐劑。

平田吾一

廣島縣御調郡三原町一三四一

特許第一〇〇四一號 飲食物防腐劑製造法

〔内容〕尿素液に過剰の「クオール」を通したるものに芥子油を添加したる醬油味噌等に用ひて絶對無害にして有効なる防腐劑製造法。

半場琢麿

濱松市坂屋町二五〇

特許第九七四一三號 鯉味噌製造方法

〔内容〕鯉魚を密閉蒸籠中に入れ骨格尾鱗共に柔くなるまで蒸炊し後細断して生味噌、糖蜜、水飴、炭酸曹達及香料を混じ攪拌しつゝ煮炊して成る製造法。

徳永延之

大阪市東淀川區十三西之町五丁目一〇

特許第一〇三五七八號 粉末味噌製造法

〔内容〕實質を變化せしめず含有水分を完全且つ迅速に除去し運搬及貯藏並に使用に便利なる粉末味噌を製造する法。

向井重雄

東京市澁谷區金王町四〇

特許第一〇二九九號 味噌及醬油を主原料とせる乾燥調味料の製法

〔内容〕味噌及醬油を適當に配合し各種の調味料を加へて之を乾燥室中に噴出せしめて乾燥したる使用簡便にして萬人の嗜好に適せしめたる調味料の製造法

下瀬林太

東京府荏原郡世田谷町代田六五二

特許第一〇一五三三號 林檎酸曹達を含有する醬油類の調味料製造法

〔内容〕醬油を蒸發濃縮するか或は酒精又は林檎酸曹

青山伊佐男

東京市芝區高輪南町四四五

達を添加するが如き方法によりて折出する食鹽を除去し之に林檎酸曹達を加へたる醫藥上の効果を有する調味料製造法。

多田貞七

臺灣臺中市柳川町三丁目二〇

特許第一〇六一一號 木瓜酵素粉末製造法

〔内容〕木瓜汁を乳糖末上に噴霧せしめて低温度に於て乾燥せしめ再び木瓜汁噴霧と乾燥とを反覆し後愛玉子又は寒天の温溶液を噴霧し乾燥し粉砕せしむる製造法。

松山芳彦

東京市目黒區上目黒八ノ五七四

特許第九八六一七號 純度高き「パイン」製造方法

〔内容〕「パイナップル」果實の表皮部より流出する乳狀汁液を「カルシウム、イオン」に對する親和力強大なる有機酸又は無機酸の「アルカリ」鹽類溶液中に採取したるものに特殊の處置をなしたる製法。

三角哲夫

東京市麻布區新堀町一ノ四九

特許第九七三七七號 乳酸菌末の製造方法

〔内容〕特殊の培養基質を以て乳酸菌の速成培養に資し次で吸着劑の存在に於て生成乳酸菌と蛋白質分解酵素とを相共輻せし消化整腸末を製する方法



池田菊苗 博士 東京市麹町區土町一丁目六

特許第一四八〇五號 酸鹽を主要成分とせる調味料製造法

〔内容〕本發明は鹽酸若しくは硫酸の如き強酸の作用に依り蛋白質又は蛋白質含有物質を加水分解せしめたる果成物の全部又は一部を鹽基にて中和し「グルタミン」酸鹽を主成分として含める調味料を製造する方法にして、「グルタミン」酸鹽類が最も濃厚なる快味を呈し調味品たるに適當なこと、及び此物が調味用昆布の主要なる有効成分なることは本發明により發見せる所にして且つ有効成分を含むこと比較的僅少なる昆布、昆布、肉エキス等に代るべき濃厚純潔にして廉價なる調味料を得るものなり。製品は有名なる「味の素」なり。

〔略歴〕氏は元治元年十月京都の出身、幼年時代より刻苦勤勉遂に明治二十二年東京理科大學を卒業して大學院に席を置き専ら化學の研究を進めると共に國學院大學教授に聘せられ次で東京高等師範學校教授となり後理化學研究所に入り研究を怠らず、獨逸に留學し後理學博士の學位を授與せられ、其發明考案に成るもの實に二十餘件を算す、其の一生は實に波瀾に富み數奇を極めたる青年時代の苦闘と活躍とは懦夫をし

河又醬油株式會社

河盛又三郎

堺市新在家町

特許第一三〇一〇號 除塵機

同 第一三〇一九號 穀類洗機

同 第二〇五二八號 洗滌裝置

同 第二〇六七九號 濾過機に於ける導液板の改良

同 第二〇六八〇號 濾過板形成器

同 第二〇七三五號 安全液體檢詰器

同 第二二一五〇號 膠攪拌裝置

〔內容並略〕 全國的に醬油醸造の操作を機械化したる嚙矢者として亦本邦醬油醸造界に於て古き歴史を有する本社は創業寛政十二年より爾來今日迄連續百數十年を閱し、其間家傳の秘法に幾多の經驗を加味し更に最新細菌學理の應用を以てし而も醸造用機械器具の發明と之が實施によりて操業の統一を圖りし結果遂に醇良天下第一品と稱せらるゝ河又醬油を製出するに至りしものなり。氏の發明に係るものに前記の外新案特許權に醸造用壓搾裝置、穀類蒸煮裝置、噴出緩和調節器、壓搾裝置、醸造用壓搾用膠袋詰詰裝置、穀類培燒裝置、醬油仕上加熱裝置、麵室保温換氣裝置、液體輸送裝置等あり。曩に東京府王子國立醸造試驗場醬油研究所設立に當り範を本工場にとられたるの名譽を有す、又河又醬油醸造試驗所を置きて醸造法の改良を考究し、河又菌の發見に成功して醬油の品質を根本的に改良す、本菌の蛋白質分解作用と糖化作用の完全強烈なる事は古今獨歩の稱あり、最近博覽會共進會等に出品して金牌名譽賞牌を受けたること枚擧に遑なく、大正十二年十二月勅定綬綬章を拜受し特別拜謁を賜はりし事兩三回に及ぶ。



〔內容〕 大豆の煮液を醱酵せしめ砂糖を加へ適當の處置をなし約六ヶ月間放置したるもの、上澄液を濾過して製する方法。

田中カノ

東京市芝區芝公園十四ノ十四

特許第九五八六七號 大豆醱酵法

〔內容〕 大豆の煮液を醱酵せしめ砂糖を加へ適當の處置をなし約六ヶ月間放置したるもの、上澄液を濾過して製する方法。

中田健吉

富山縣下新川郡三日市町三日市三三三三三

特許第九八五八四號 膠蓋詰機

〔內容〕 無蓋底の圓筒の筒壁と該圓筒中に遊嵌せる圓筒體の上面若くは周部に護膜管を連着する事と特徴とする機構。

内藤確雄

東京府北多摩郡西府村本宿七九

特許第一〇〇〇九四號 甘酒製造法

〔內容〕 仕込用水として特に耐酸鹽類を含有するものを加へて粉砕し更らに之等に砂糖有機酸及膨脹米等を混合して耐久性に富める固形甘酒を製造する方法。

山本頼一

佐賀縣松浦郡有田町一七四七

特許第九五八一號 液槽構成法

〔內容〕 緻密質の窯業製より成り特殊の機構にて外面に「コンクリート」層を應接形成し側壁を築造するものにして堅牢にして耐酸性大なる液槽の構成法。

松田龜吉

山口縣徳島郡徳島町字佐渡町三一七五

特許第一〇三〇二七號 瀉司用濃厚酢液の製造法

〔內容〕 燒酎及合成酢の混合物中に青松葉及梅花を浸漬漬碎を行ひ之を靜置して油物質並に沈降物質を除去したる中間液に昆布屑を浸漬漬漬し溶解残渣を濾別したる貯藏性に富める瀉司用濃厚酢液の製造法。

松浦勇

福島縣石川郡白石村字本内二〇八

特許第一〇三八〇三號 燕麥の固形甘酒製造法

〔內容〕 精白したる燕麥を麴となし之に湯を混じて醱酵せしめたる堅練甘酒に精白燕麥を蒸餾乾燥して碎粉したる物と砂糖を加へて凝固乾燥せしめたる方法。

小山茶二

東京市中野區塔ノ山町一七

特許第一〇三九二二號 固形甘酒の製法

〔內容〕 麴を乾燥して粉砕し晒筒を冷凍し之に粉砕麴を

〔內容〕 陶磁器製の二重壁板より成る方匣を作成し組織的に防熱容器を構成するものにして耐壓堅牢器内洗除至便且排氣せしめて眞空式となし酒類の貯藏用に適切なものみならず冷蔵庫に使用可能なる構造。

佐々木作四郎

佐賀縣西松浦郡有田町一九八九

特許第九七四二〇號 陶磁器製二重壁方匣を以て組織的に防熱容器を構成する方法

〔內容〕 特殊藥劑の化合物を純酒精に溶解し調製せしめたる酒性飲料特に粕取燒酎の代用品の製造に用ひ人工清酒又は人工食酢等の製造に當り之に芳香を附與せしむる芳香液の製造法。

庄司謙次郎

東京市豊島區長崎町二丁目一九九一

特許第一〇三二一六號 酒性飲料又は食酢の製造に使用するべき芳香液の製造法

〔內容〕 特殊藥劑の化合物を純酒精に溶解し調製せしめたる酒性飲料特に粕取燒酎の代用品の製造に用ひ人工清酒又は人工食酢等の製造に當り之に芳香を附與せしむる芳香液の製造法。

鈴木芳造

東京市王子區堀船町一丁目八七八

特許第一〇四〇一七號 固形甘酒(甘酒を乾固したるもの)の製造方法

〔內容〕 白米を蒸煮し之に米糝を加へ醱酵せしめ乾燥鍋に移し未だ水分の殘存せる時期に砂糖蜂蜜及「オートミール」の適量を添加混合練り合し型に依りて成形乾燥せしめたる方法。

杉本茂

朝鮮京畿道仁川府宮町二二二

特許第九五三〇五號 「トマト」醱酵法

〔內容〕 「トマト」の小片に乾燥小麥粉末を混じ之に醋酸及香辛味料を混和し温室内にて成熟するをまち洋を分離して得る製造法。

住江金之

東京市目黒區駒場町七五九

特許第九八一四六號 食酢濁濁防止法

〔內容〕 輕金屬の鹽化物の一種或は數種を採り更に必要に應じては鹽化石灰を加へて食酢に添加し鹽化物の含有量を特殊割合としたる防止法。

小橋清久

東京市北多摩郡小金井村小金井一七五七

特許第九一三三〇號 煙草の香味改良方法

〔內容〕 煙草層を通過せしめたる攝氏八〇度乃至一五〇度の循環熱空氣より吸着又は冷却により捕集せる煙草の香氣性物質を前記熱處理又は香氣乏しき他の煙草に加ふるを特徴とする煙草の香味改良方法。

加藤多計夫

東京市荏原郡磯金町磯文谷一八二五

特許第九一三三〇號 煙草の香味改良方法

〔內容〕 煙草層を通過せしめたる攝氏八〇度乃至一五〇度の循環熱空氣より吸着又は冷却により捕集せる煙草の香氣性物質を前記熱處理又は香氣乏しき他の煙草に加ふるを特徴とする煙草の香味改良方法。

稻垣重信

大阪市住吉區住吉町八七四

特許第九四四二八號 「パラアミノエフェドリン」の製造方法

〔內容〕 「エフェドリン」又は其硫酸鹽を常温以下に於て硝基化したる生成物を常法により還元して得る製造法。

石原繁行

東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町千駄ヶ谷四九六

特許第九四一六五號 「オキシ、ヒノリン」合成法

〔內容〕 「オルト、アミドフェノール」「パラ、ニトロフェノール」「グリセリン」硫酸の混合物を加熱反應せしむる法。

林勇

兵庫縣川邊郡小田村今福一六六

特許第九九一七一號 「ウイタミン」AD含有固形製劑の製造方法

〔內容〕 特殊化學的方法により有效成分を完全に保有

し肝油の油粘性及び不快臭を去り服用に便ならしめ人
體保強に重要な無期物質を共用せしめたる栄養固形
劑の製法。

堀場 信吉
京都市左京區下鴨
中川原町九〇
小田 切瑞穂
京都市左京區
岡崎東天王町九八
清田 達
大阪府三島郡高槻町
別所新町九七
日下部 寅藏方

特許第一〇〇三六六號 金属油脂膠質の製造法
〔内容〕 油脂と脂肪酸の各適量の混合溶融物に對する
特殊の化學的方法により効果顯著なる金属油脂膠質を
製造する方法。

岡田 清三郎
名古屋市東區主税町
四丁目七
柳 澤 秀吉
名古屋市中區新出町
一丁目三三

特許第九九一一五號 消化液分泌促進作用を主とする
有效成分を採集する方法

〔内容〕 菘蓴草に含有する消化液分泌促進作用を奏す
る有效成分を溶液状態となし之を吸着劑にて處理し一
且之を吸着せしめ更に酸性液にて有效成分を抽出し之
を濃縮するを特徴とする方法。

岡部 連
東京府豊多摩郡
澁谷町上智五三
北里 善次郎
東京市赤坂區
青山南町六丁目一〇三

特許第九五九六四號 無患子果皮より一種の新「サボ
ニン」を製造する方法
〔内容〕 原質の水浸出液を濃縮乾燥したる後特殊處理
により「アルカリ」鹽を析出せしめ結晶せしめて得る方
法。

土岐 正雄
大阪府三島郡
吹田町二九一

特許第九八二二七號 酵母より血壓降下劑を製造する
方法
〔内容〕 脱脂したる乾燥酵母に新鮮酵母及び水を加へ
特殊處理工程の濃厚なる酒精を加へて沈澱せしめて製
造する方法。

緒方 章
東京市中野區水川町七
平野 四郎
同所

特許第九九四八三號 羣丸「ホルモン」の缺如に基く疾
患治療に有效なる物質の製造法
〔内容〕 動物の羣丸を原料とし之を最初「アルカリ」液
を以て處理し次に「エーテル」其他の水に混和せざる脂
肪溶劑を以て抽出するを特徴とする製造法。

小野 寺直助
福岡市渡邊通
五ノ九五六

特許第九五八一一號 「アミノ」酸の硫酸「マグネシウ
ム」複鹽の製造方法
〔内容〕 硫酸「マグネシウム」と諸種の「アミノ」酸の一
種又は二種を結合せしめたる結晶性「アミノ」酸の硫酸
「マグネシウム」複鹽の製造方法。

和田 光徳
東京市澁谷區千駄ヶ谷
二丁目三八七

特許第一〇〇六七號 「アミノ」酸より「アミン」類
を製造する方法
〔内容〕 「アミノ」酸類を原料とし之を「ウレイド」酸誘
導體となし更に其の無水物となしたる後之を加水分解
する「アミノ」酸類より「アミン」類を製造する法。

和田 佃
東京市赤坂區
青山南町二丁目六〇

特許第九九四六三號 哺乳類或は鳥類の骨髓より治療
及び藥劑の製法
〔内容〕 血液と滲透壓を均しくする液體を使用し鳥獸
の骨質より能ふ限り其理化學的組成と生物學的性狀と
を變化せしめざるが如く骨髓組織のみを抽出し治療劑
の原料たらしむる方法。

特許第一〇〇六二七號 腸「チブス」の治療に使用し得
べき煉藥の製造法
〔内容〕 鶏の内臓中より肺臓及び胃を取り除きたる残り
の内臓に之と同量の食鹽を加へ長期間容器中に置き後
杉葉の炭粉と蜂蜜とを加へ攪潰し濾器にて濾し後之を
煉製する製造法。

吉岡 都
大阪府南區
西清水町四十三番地

特許第七六〇三九號 ゴルダミン
〔内容〕 本劑は人體營養の根元たる天然「アミ

若園 吉雄
尼崎市長所村
建家二〇八

特許第九九一四號 肺結核治療用吸入等の資料製
造方法

〔内容〕 石炭に過「マンガ」酸加里液を混和し長期持
續保温し石炭を低温酸化せしめたる結核治療用吸入資
料の製造法。

金尾 清造
東京府北豐島郡
日暮里町金杉一五三

特許第九五八八六號 「Aプロム、インカフロニール、
カルバミド」の製造方法

〔内容〕 蛋白質加水分解による廢棄物より「インカフ
ロン」を分離し之を誘導處理し尿素を作用して製造す
る方法。

川田 久吉
足利市伊勢町七六

田口 勝太
東京市荏原區
中延町一〇七二

特許第一〇一一三七號 米糖又は米胚芽等より純度高
き「ウイタミン」Bの製造法
〔内容〕 米糖又は米胚芽を「メチル、アルコール」を
以て加温浸出したる液を蒸餾殘流を靜置し層より特

殊の磷脂質を採取し其下層液に更に「メチル、アル
コール」を加へて結晶糖分と其殘渣より濃厚且純度高
き「ウイタミン」Bの製法。



田原 良純
東京市二丁目
野市十番
區地

特許第二一一五八號 河豚毒素テロドトキシ
ン製造方法

〔内容〕 河豚の内臓殊にその卵巣より適法を以
てその夾雜物を除き河豚毒素を可及的純粹の形
態に於て分別抽出す。製品は知覺神經を麻痺す
るに依り種々なる神經痛に又痙攣性疾患に對し
ても鎮靜の效あり、破傷風、陰萎、夜尿症等に
應用せらるゝものなり。

〔略歴〕氏は安政二年佐賀藩の出身、明治十四
年東京帝國大學醫學部製藥學科を卒業、爾來衛
生試驗所技師兼内務技師、東京衛生試驗所長等
に歴任、同三十二年藥學博士の學位を受け大正
十四年帝國學士院會々員に仰付らる。尙舊に日
本藥學會幹事中央衛生會臨時委員、日本藥局方
調査會委員たり、帝國發明協會より進歩賞を、
帝國學士院より學士院賞を受く。

本發明は明治四十四年三共株式會社にて實施
せられ大正二年に至り漸く希望に近き製品を工
業的に製造し得るに至れるものなり。爾來原料

の供給漸次豊富となると共に本製品の疾病に對する臨床的研究を重ねて治療的效果愈々顯はれ順次その販路を擴大して現在に至る。

田 口 明

名古屋市西區
菊井町三ノ一八

特許第一〇一九九四號 「O〇チアセチル、チ、フェノール、イサチン」の製造方法
〔内容〕「トリアセチル、チ、フェノール、イサチン」を「アルキールアミン」或は芳香族「アミン」と作用せしめて醫藥上殆ど毒作用なき緩下劑たる化合物を製造する方法。

田 村 憲 造

東京府原郡人新井町
新井宿二一三八

特許第九四七九五號 「バラオキソカンフェル」より其同分異性體たる「アロバラオキソカンフェル」の分離法
〔内容〕原質を石油「エーテル」等にて處理して其處理に易溶性と難溶性との部分別して成る分離法。

田 中 伴 吉

東京府四谷區内藤町一

特許第九五五九三號 「ウイタミンB性物質を製造する方法」
〔内容〕大蒜に「エーテル」を加へて脂肪並に臭氣を有する物質を除去し殘餘の物質に稀酸「エーテル」、「ロイチン」を以て特殊處理を施して得る製造方法。



工學博士
醫學博士
高 峰 讓 吉

高 峰 讓 吉

特許第一六一三五號 新ダイアステース劑及其の製造法

同 第四七八五號 腎上腺の主成分より成る腺内物製法

同 第一七九四一號 腎腺有效主成分の鐵化合物製造法

〔内容〕第一は穀類の種子、根、莖等より糖化力強き一の酵素を製造する方法にして、是等穀類其他より澱粉を除去して得べき糖の如きものを細末となし、水にて抽出し之に乳酸を加へて酸性状態となし夾雜物を洗滌分離せしめ更にアルコールを加へてデアスターゼを洗滌採取するものす。
第二及第三は腎上腺より其有效成分を純粹なる結晶状となして分離採取する方法にして、製品は「アドリナリン」と稱し收斂、止血等の作用を有し醫藥として重要なものなり。

〔略歴〕氏は安政元年金澤藩の典醫高峰精一氏の長子として出生、十二歳にして藩の選拔生として十數名と共に長崎に留學せしめられ英語學を修め、明治元年京都に出で加賀藩の安達氏の兵學塾に語學を修得し醫學に必要な基礎をなす。後大阪緒方塾を経て大阪醫學校及大阪密

學校等に學び、明治五年東京工部省工學寮の修技生となり幾何もなく創立せられたる工部大學應用化學科に入學し同十二年抜群の成績を以て卒業す。同十三年英國留學を命ぜられ歸朝後農商務省御用係となり和紙製造、製鹽、清酒釀造等に就き調査に着手し學術上の批判講究に没頭す、同十七年北米に至り萬國工業及綿百年期博覽會に磷酸鹽の出品せらるゝを見て之による人造肥料製造を首唱して遂に現在の大日本人造肥料株式會社の前身東京人造肥料會社の創立を促して之が經營技術に専念すること三年にして辭す、同二十三年曩に發明特許を得たる釀造法を北米の大酒造會社に採用せらるゝに當り行きて之に従ひ大成功を收め、後タカチデアスターゼ、アドリナリンの大發明を完成し、「ドクトル、タカミネ」の名は一躍全世界に喧傳せらるゝに至り。斯くて名聲と豊富なる財力とを贏ち得たる氏は紐育に高峰化學研究所を設立し日夜倦むことなく研究に没頭し幾多の貴重なる發明を完成せられ且つ日米親善の爲に努力し大に貢献する所ありたり。大正十一年七月病を得て遂に永眠せられ、特に正四位勳三等に陞叙せらる。

高 本 隆 二

埼玉縣北足立郡
浦和町三七二二

特許第九九〇二四號 「O〇チアセチル、ビスP・オキソ、フェニール、a・b・テオクソ、インドリン」の製造法
〔内容〕「デフェニール・a・b・テオクソ、インドリン」を「アセチル」化するに際し加熱することなく是れに

接觸劑として乾燥鹽酸瓦斯を導入しつつ反應を極めて圓滑に遂行せしむる製造法。

中 尾 万 三

東京府下谷區上野
櫻木町四四四
慶松町左衛門方

特許第一〇一六三八號 「サイカチ」屬の莢果より「サホニン」體を抽出する方法
〔内容〕「サイカチ」屬の莢果より特殊化學的方法により祛痰鎮咳の如き醫藥に供する特別純良なる「サホニン」體を比較的簡易なる手段により良好の收得率を以て製造する方法。

に作用せしめて成る製造法。

宇 田 匡 太 郎

大阪府東區
小橋元町九一

特許第一〇一六九六號 豚其の他の哺乳動物の腎臟より腎臟病に有效なる物質を製造する方法
〔内容〕腎臟を「エーテル」にて脱脂後食鹽水にて浸出し之に無水酒精を加へて食鹽と共に其主成分を沈澱せしむる操作を繰返して之を濾別し主成分たる殘渣の水溶液を動物皮膜を以て透折し後之を蒸發乾燥せしむる製造法。

性となしたるものを特殊の處理法により得たる母液より所要の物質を抽出する方法。

前 山 福 一 郎

佐賀市與賀町一五六

特許第九五九一四號 「アグリチン」系薬剤溶液を効力に變化を來さしめずして貯藏する方法
〔内容〕「アグリチン」系薬剤の水溶液に「フクシン」を溶解せしめ光線に暴露するも安全に貯藏し得る方法。

松 本 褒 一

東京府日本橋區
通二ノ七ノ五

特許第九六九二七號 酵素水溶液を非析出法となす方法
〔内容〕「リパーゼ」等の如き水に可溶性なる酵素水溶液に「グリセリン」及枸橼酸曹達を混和溶解し貯藏することに依り熱及日光等の影響によりて永く其澄明状態を失はしむることなく保存し得る方法。

特許第九五七〇五號 無刺戟可溶性蛋白質銀化合物製造法
〔内容〕蛋白質を「タンニン」酸又は「タンニン」酸鹽類

村 井 藤 三 郎

東京府北豐島郡
瀧野川町田端
新町一ノ六一

特許第九五八三五號 防己科「コックルス」屬植物より「アルカロイド」を抽出する方法
〔内容〕防己科「コックルス」屬植物の總「アルカロイド」を過「クロール」酸によりて抽出、「アルカリ」鹽酸又は有機溶媒若くは鹽類にて分離精製する方法。

野 瀬 潜

京都市東區三條通
白川筋南三筋目
唐戸鼻町五五七

特許第九四八二三號 腎帶又は卵類より癌腫治療薬を製造する方法
〔内容〕原質を煮沸有效成分を抽出して加熱に耐へざる「ホルモン」を分解し濾過透析にて夾雜物を除去したる製薬法。

前 田 三 郎

神戸市西須磨
東北野下四ノ一

特許第九八八八六號 哺乳動物の脾臟より結核の治療に使用し得べき物質を抽出する方法
〔内容〕脾臟を碎挫し之に稀酸類を加へて處理して中

間 庭 秀 夫

千葉市千葉寺一六五

特許第九四六八七號 沒食子酸、卵白「アルブミン」及び「ウロトロピン」の結合體の製造法
〔内容〕沒食子酸に温湯を加へ之に卵白「アルブミン」の水溶液を添加したるものに「ウロトロピン」の水溶液

を附加して生成する方法。

増田利雄
東京市日本橋区
元柳町一七

特許第九七四〇號 蜂の巢より止血劑を製造する方
法
〔内容〕蜂の巢を「アルコール」に浸漬して其抽出液を蒸發濃縮し之に「エーテル」の如き脂溶性劑と水を加へて振盪析出したるものを特殊處理のもとに粉末状となし製造する方法。

小竹無二雄
東京市小石川區
林町六四

特許第九五一九四號 「センノキ」(Kalopanax ricini-
folius, Miq.) の皮より一種の
新「サボニン」を製造する方法
〔内容〕「センノキ」の皮の水浸液若くは水溶液を「アルカリ」性となして加温し鐵酸又は醋酸にて析出せしめて得る方法。

兒玉寛二郎
兵庫縣武庫郡御影町
御影字藤坪一三八〇

特許第一〇三〇一三號 乾燥粉末觸媒實質製造法
〔内容〕被乾燥觸媒實質組織中に不酸化性にして比較

的化合物に混在し易き瓦斯分を混在せしめ特殊化學的
操作により乾燥粉末觸媒實質を衛生的經濟的に製造す
る方法。

近藤平三郎
東京市澁谷區
金王町一一

特許第一〇二六九二號 「モルフィン」系「アルカロイ
ド」の閉環作用を行はしむる
方法
〔内容〕「デバイン」系「アルカロイド」に閉環作用を
行はしめて「デバイン」系「アルカロイド」より一層
醫藥的效果大なる「モルフィン」系「アルカロイド」を合
成せしむる方法。

寺田正一
東京市大森區
上池上町九九七

特許第一〇二四九一號 「ビタミン」Aを含む物質より
「ビタミン」A琥珀酸「ハルブ
エステル」と認めらるる化合
物を製造する方法
〔内容〕「ビタミン」Aを含む物質に無水琥珀酸を作用
せしめて琥珀酸「ハルブエステル」の一新化合物を製造
し又之を分解することにより簡便に「ビタミン」Aをも
製造し得る方法。

阿部勝馬
東京市中野區
小窪町二九

特許第九〇六二號 「マタタビ」より一新化合物を抽
出する方法
〔内容〕「マタタビ」の果實葉莖根等を「アルコール」
に浸出し該「エキス」の水に因つて生ずる沈澱を「エ
ーテル」炭酸加里液及び鹽酸にて順次に處理し最後に
「メタタノール」或は「アセトン」にて再結晶して一
新化合物を抽出製造する方法。

阿部竹之助
青森市大字寺町四六
青森縣立青森病院內

特許第一〇一四一〇號 「アンチピリンフェノール」サ
リチール酸「カルシウム」の
製法
〔内容〕「アンチピリン」に「フェノール」を作用せし
め之に「サリチール」酸「ナトリウム」及鹽化「カル
シウム」の混合液を添加作用せしめ刺戟性疼痛其他の
副作用を有せざる「ロイマチス」性及神經性疼痛に對
する鎮痛劑を製造する法。

朝比奈泰彦
東京市淀橋區
戸塚町三丁目二三

特許第一〇二四五三號 「2,5チケトカンファンカ
ルボン」酸の製法
〔内容〕「2,5チケトカンファン」を原料とし之に金

屬「ナトリウム」或は「カリウム」の存在の下に炭酸
瓦斯を導入する特徴とする強心劑としての效力著大
なる化合物を製造する法。

衣笠豊

特許第九四四一號 米胚子、米糠、糠、又は酵母よ
り「ウイタミン」B 性物質を收
得する方法
〔内容〕原質より「ウイタミン」B 性物質を含有する
浸出液を造り之に關する特殊化學的處理に上り可及的
純粋度のものを簡易經濟的に收得する方法。

宮崎三郎

特許第九六九五六號 「カハラヨモギ」より三種の鹽基
作用ある物質を分離製造する方
法
〔内容〕「カハラヨモギ」の果實莖根等を水蒸氣蒸溜
に附し溜出物に對する處理により三種の物質を分離製
造する方法。

平井立夫

特許第一〇一四七二號 「チ、アセチル、チ、フェ
ノール、イザチン」の製造法
〔内容〕「チ、フェノール、イザチン」を「アルカリ」
性水溶液中にて無水醋酸を以て醋化することを特徴と
し純度高く最易且つ好得率の製造法。



齋藤明堯
醫學博士
東京市西區
西船場十番地

特許第九九四二號 骨髓及骨組織より止血劑
を製造する方法

〔内容〕本發明の藥品名「メツラン」は温血動
物(主として鳥類)の骨髓及骨組織中に在る血
液凝固促進物質なるトロンボキナーゼを抽出し
たる後精製濃縮したるものにして、其作用の強
大にして持續時間の長きことは従來の臟器製止
血劑に比し遙に卓越し、而も造血的作用効果を
も併有し且つ製劑操作極めて簡單にして材料の
安價豊富なる等即ち工業的なる點は特記するに
足る。

〔略歴〕氏は明治二十三年長野縣の出身、縣立
上田中學校卒業後札幌農科大學に入學し修業三
ヶ年にして醫學に轉じ大阪醫科大學第一回の卒
業生なり、三ヶ年間助手となり更に昭和七年三
月まで研究に努め「骨髓の細胞學的研究」を主
論文とする「骨髓エキストラクトの血液凝固促
進作用に就て」に依り醫學博士の學位を受く、
本發明は右學的研究の成果と云へ臨床上止血
劑として外國製品其他模倣藥あるも臟器製劑に
して高價且つ効果に於て遺憾の點あるに鑑み遂
に本劑の發明を見るに至りしものなり。

細野尙是
東京市四谷區
榮住町一三

特許第九〇六二號 「マタタビ」より一新化合物を抽
出する方法
〔内容〕「マタタビ」の果實葉莖根等を「アルコール」
に浸出し該「エキス」の水に因つて生ずる沈澱を「エ
ーテル」炭酸加里液及び鹽酸にて順次に處理し最後に
「メタタノール」或は「アセトン」にて再結晶して一
新化合物を抽出製造する方法。

阿部竹之助
青森市大字寺町四六
青森縣立青森病院內

特許第一〇一四一〇號 「アンチピリンフェノール」サ
リチール酸「カルシウム」の
製法
〔内容〕「アンチピリン」に「フェノール」を作用せし
め之に「サリチール」酸「ナトリウム」及鹽化「カル
シウム」の混合液を添加作用せしめ刺戟性疼痛其他の
副作用を有せざる「ロイマチス」性及神經性疼痛に對
する鎮痛劑を製造する法。

朝比奈泰彦
東京市淀橋區
戸塚町三丁目二三

特許第一〇二四五三號 「2,5チケトカンファンカ
ルボン」酸の製法
〔内容〕「2,5チケトカンファン」を原料とし之に金

水野茂

植物性資料を原料とする「ベル
ペリン」鹽の製造法
〔内容〕「ベルペリン」を含有する植物性資料を「フル
フロール」にて抽出する特徴とする「ベルペリン」
鹽の製造法。

吉田邦一

特許第九九三〇號
〔内容〕「ベルペリン」を含有する植物性資料を「フル
フロール」にて抽出する特徴とする「ベルペリン」
鹽の製造法。

平田重吉

特許第九六一五二號
白檀油又は其他の「サンタロー
ル」を含む揮發油より揮發性サ
ンタロール「ハルブエステル」を
製造する方法
〔内容〕白檀油等の揮發油に金屬「ナトリウム」を作用
せしめ之に無水樟腦酸を作用せしめたる生成物に酸
を作用せしめて製造する方法。

瀬良好太

特許第一〇一八二三號 解熱劑の製造法(フェニール
チメチルピラツオロンメチ
ルアミッドメタンズルホ
ン「酸」キニネ「鹽」の製造法)
〔内容〕共に解熱作用を有する「フェニールチメチ
ルピラツオロンメチルアミッドメタンズルホン」酸
「ナトリウム」に鹽酸「キニネ」を作用せしめて兩者の
作用を併有せる解熱劑を製造する法。



平澤繁太郎

特許第一六九九七號 イヒチオール

〔内容〕イヒチオールは最初獨逸に於て前世紀の動物化石を乾溜して得たる油より發見せられたるものなり。本發明は越後石油精製所より生ずる廢物の硫酸利用の研究中偶然に發見せられたるものにして、石油を分解蒸溜し得たるものに硫酸及び炭酸ナトリウムを加へて加熱し生成したるものに稀薄酸類を加へ分解製造するものなり、而して爾後更に研究を進め化學集成的に一定せる品質優良なる製品を得たるものなり。

〔略歴〕氏は明治元年長野野縣上伊那郡の出身、始め商業を志し名古屋、豊橋等の商店に奉公せしも後上京して同郷出身の橋爪醫師の書生となり勉學し藥劑師の試験に合格せしが進んで東京藥學校、大學專科等に學び、岡山衛生試驗場技師となり岡山醫學校教師を兼ね、後東京高等工業學校助教となり明治三十九年辭職せらる。本發明は前記高等工業學校在職中廢棄硫酸利用研究中苦心の結果發明發見せられたるものにして特許第五四五七號を獲て井上製藥所をして製造せしめ大に其聲價を高からしめしが偶々藥局法改正に依り部外品として取扱はるゝの歎む

なきに至れるを遺憾とし職を辭し一意専心之が製造法を研究し遂に本發明を完成するに至りしものなり。
大正十五年十一月東京市本郷根津須賀町一〇番地の自邸に於て病沒せらる。

鈴木芳太郎
赤星勝

〔内容〕「サリチル」酸と「パラオキシ」安息香酸との混合生成物に「サリチル」酸と當量の「アルカリ」を加ふるを特徴とする好収量分離精製法。

〔内容〕「サリチル」酸と「パラオキシ」安息香酸との混合生成物に「サリチル」酸と當量の「アルカリ」を加ふるを特徴とする好収量分離精製法。

鈴木庸生
西村順一

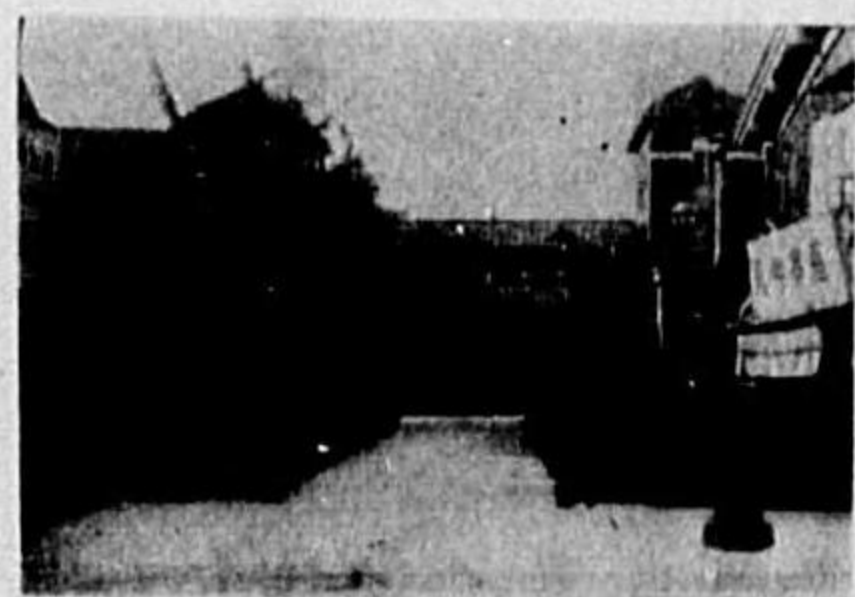
〔内容〕一置換芳香族「チオ」尿素又は對稱的二置換芳香族「チオ」尿素を鹽酸、磷酸又は醋酸の如き酸の存在に於て適當の溶劑を加へ一價「アルコール」に作用せしむる皮膚病治療劑の製造法。

〔内容〕一置換芳香族「チオ」尿素又は對稱的二置換芳香族「チオ」尿素を鹽酸、磷酸又は醋酸の如き酸の存在に於て適當の溶劑を加へ一價「アルコール」に作用せしむる皮膚病治療劑の製造法。

鳥瀉免疫研究所
醫學博士 鳥瀉隆 三二
大阪市住吉區阿倍野筋

特許第三三〇二二號
同第三五八五四號
同第三七二〇九號
同第三八六八五號
コクチゲン

〔内容〕コクチゲンは凡て細菌の純培養液に或は紫外線を、或は攝氏百度の煮沸熱を、或はそれに近き高熱を一定時だけ作用せしめた後に菌體だけを取除きたるものなり、即ちコクチゲンは細菌の煮沸浸出液又は作用上それと同一なる水溶性細菌物質の總稱なり、抑も細菌純培養液を一定度に煮沸浸出する時は一面にはイムペチンが消失するにも拘らず免疫元としての能力は消失又は減弱せず、他



面には細菌體より免疫元が煮沸浸出せらるゝが爲めに全體としては其の煮沸浸出液は最大の免疫元能力を示すものなり、即ち生體免疫元を一定時だけ煮沸しイムペチンを破却したるものゝ免疫力は生體免疫元の免疫元よりも顯著に大なり、而して現在に於ては細菌純培養液煮沸浸出液をコクチゲンとして提供し居れり。
本劑は從來注射材料として専ら使用せられ居るワクチン類に比し幾多の實驗と研究とを経て總ての條件の下に優秀なるものなることを立

證せられ現今斯界の重視する所となれり。

〔略歴〕氏は京都帝國大學教授の職に在り、傍ら鳥瀉病院を經營し内に免疫研究所を設置して不斷の努力と研究とを重ねられつゝあり、夙にイムペチン學說を樹立唱道せられ我國は勿論世界各國の全醫學界に多大の衝動革命を與へらる然かも此の權威ある新學說に立脚せるコクチゲン(豫防、治療、診斷)に關する學術上、臨床上よりの諸家研究業績等の斯界に發表せらるゝもの近時愈々多く、尙益々其の跡を絶たず其數枚舉に遑あらず、洵に醫學界の進歩向上の爲め將た亦世界人類福祉増進の爲め慶賀すべき事にして其の功績實に偉大なりと謂ふべし。

持田良吉

〔内容〕卵巢濾胞「ホルモン」を「マンニット」の稀薄水溶液中に溶解し注射薬を製造する方法。

〔内容〕卵巢濾胞「ホルモン」を「マンニット」の稀薄水溶液中に溶解し注射薬を製造する方法。

岩佐大治郎

〔内容〕動物體組織細胞の崩壊産物を用ひて結核菌の生存力と其全蛋白質の特異性を保有せしめ且つ脂肪及び類脂肪體を除去せしむべく處理する結核菌製劑の製造法。

〔内容〕動物體組織細胞の崩壊産物を用ひて結核菌の生存力と其全蛋白質の特異性を保有せしめ且つ脂肪及び類脂肪體を除去せしむべく處理する結核菌製劑の製造法。

野中徳太郎

〔内容〕淋菌を低温にて適當時間加熱し之を磨り潰したる液と生淋菌を磨り潰せるままの液とを混合し之を動物に注射し該動物より常法により血清を採取する製造法。

醫學博士

松崎春一郎

〔内容〕特許第八五八一〇號は感染組織又は同分泌液より病原體の成分の外に此の感染により其の組織部位に生ぜる反應或は感作、物質をも同時に抽出し疾病の診斷及治療に有要なる造抗原性物質を得る製造方法なり。

〔内容〕特許第九一四三三號は微毒各期の患者の人體に注入せしむる際疼痛を著しく軽減せしめ得る可溶性麻痺性水銀劑の製法なり。

有馬研究所

〔内容〕A O は人型結核菌より成り絶對に無菌的で、吸收され易く、人體に無害、特に免疫力強き多數の菌株より成る多價ワクチンにして、

特別なる生物學的方法によりて一定不變の效力單位を測定したる結核菌ワクチンなり。

A O は結核菌の自然死の状態に入るを俟つて製造したる絶對に無菌的なる製劑なるが故に人體に危険を及ぼすこと絶對になし、然し菌蛋白質即ち原形質は自然そのまゝなるが故にこれを生體に用ひて惹起さるゝ免疫作用は生菌感染によつて起る自然の免疫性と異なることなし。
A O は特別なる方法によりて結核菌の蠟樣物質を殆んど完全に除去し且つ大部分は自家融解をなし居るが故に生體内に極めて吸収され易く従つて何等の局所反應をも起すことなく免疫作用を起すこと極めて迅速なり。

A O は特に強力なる免疫作用を有する多數の菌株を選定して製造されるが故にその免疫作用は極めて優秀なり。
A O は特別なる生物學的方法によりて無害有效量を定め、各號に於ける有效單位が一定されあるが故に如何なる種類の結核病に對しても無害有效なり。

A O は即ち現時最も完全なる學術的産物なり其應用範圍は結核豫防、治療、診斷の三方面に亘りて非常に廣く、結核防滅上最も合理的なる製劑なり。

〔經過〕大正五年始めてA O の研究に着手せられ同九年之を開放結核患者及結核疑似症各二人に試みて無害有效の結果を得、次で重症、中等症、輕症等の肺結核患者に用ひて豫期以上の成績を得、同十一年以降同十五年迄に約二萬人の所謂健康者に試みて之亦良好なる成績を擧げ、

昭和二年政府の許可を得て一般の需要に應ずる事となり非常なる賞讃を博するに至り歐米各國に於ても遂に本品を使用するの狀態となりて益々其聲價を高めつゝあり。

赤星 皎

熊本市迎町二一六

特許第一〇二六〇七號

結核菌の培養物より特殊の蛋白質様物質を製造する方法

〔内容〕結核菌の培養物を「グリセリン」にて浸出し浸出液に「アルカリ」を加へて生成する沈澱物を濾別除去し濾液に「アルコール」を加へて沈澱物を生成せしめ蛋白質様成分を分離製出する方法。

浅田 一

長崎市馬町一八

石津 次郎

大 阪 市 東 區
道修町二ノ二六

特許第九四五三號

血液型検定標準試薬の製造法

〔内容〕動物の免疫血清を採り之に血液型が既に判明したる人類の血液型と同様の働ある人間の口腔粘膜炎を添加し生成せられたる凝集物質を液分より分別除去する事よりなる試薬製造法。

木内 幹

西 宮 市 宮 園 町 五

特許第九八九四號

診断用試薬の製造法

〔内容〕病者又は妊娠中の血清血液液分泌液等より透析分離したる無菌なる液を卵黄に加へ之を體温附近に保てる孵卵器に一定時間放置作用せしめて後滅菌脱脂乾燥「アミノ」酸除去等の操作を施す診断用試薬の製法。



士博學醫 佐多 彦
院藥精血阪大
區花此市阪大
目丁中島福

特許第九七三三號

ヘモカルチン

〔内容〕本劑は本院實驗室に於ける佐多博士の結核免疫研究作業に關聯して其操作中に於て、特に選擇せる免疫動物の純血より一定の方法に依りて其血球と血清とを分離し、特殊の温度を加へ特別の裝置を以て急速に乾燥滅菌し、後之を粉碎して理想的の細末となしたるものに、適量の磷酸カルチウムを調和して製したるものにして、血清中に含著せる抗毒素及酸酵素を自然の生體に近く保存し、且つ大量なる赤血球中の純「ヘモグロビン」(貧血に必要な有機性鐵成分)及其他血中に含著せる多量の滋養素(衰弱に必要な消化され易き蛋白、脂肪、糖分、レチチン、スクレイン、磷酸鹽類等)を、人體組織の主要成分にして且つ體質鞏固の偉力あるカルチウムと共に内服に供し完全の吸収を期待するものとす。

蓋し血液中の抗毒素及酸酵素の腸管内吸収に關しては學者の所説一定せざりしも、最近の研究に據れば漸く其實を認むべきの證件加はり又鐵劑の吸収に關する學者の意見も近來益々確定して、殊に複雑なる有機性鐵抱合體の價値を

加へ、且つ血中に含著せる滋養素は純粹の狀態に於て濃縮せられたる重要成分にして之に配合せるカルチウムは人體組織の重要成分たるのみならず、殊に虚弱の體質を鍊成して強固ならしめ過敏多感の神經を強煉し血管壁の滲透性を抑壓して炎症を軽減し、殊に又結核の如き衰弱性疾患を治するの特效あること最近に至りて學理上及實驗上明白となり其効果最も著しきを以て此諸成分を理想的に調和したる本劑は結核免疫の發揚を催進して其效力極めて完備し能く從來の諸製劑に卓出するの効果を收むることを得べし。

杉山 伸

東 京 市 下 谷 區
入 谷 町 三 六 〇

特許第一〇二七六號

蕁毒「ワクチン」製造方法

〔内容〕鮫、鱒、鰻等を材料とし之を細碎し加熱浸出し生蛋白を含有せざらしめたる浸出液を得、之に「ペプトン」(寒天、食鹽及蔗糖を配合せる培養基に細菌を移植培養し之を材料として蕁毒「ワクチン」を製造する方法。

足立 訊

東 京 市 芝 區
白 金 今 里 町 八 四

特許第一〇二三九六號

塵埃被衣體の製造法

〔内容〕「トラガントゴム」に「グリセリン」及蒸溜水を加へ糊液を得、之に酸化亜鉛末及防腐劑を混合したる混合物を塵埃に被衣乾燥せしむる塵埃被衣體の製造法。

石川 源三郎

東 京 市 豊 谷 區 代 々 木
富 ヶ 谷 町 一 五 二

特許第九三二五號

化粧粉の製造法

〔内容〕「チタニウム」、「マグネシウム」、「亜鉛等の如き金屬酸化物に「アミダグリン」を添加密和したる優良なる化粧粉の製造法。

鈴木 新太郎

大 阪 市 東 區 平 野 町
五 丁 目 九 番 地

特許第一〇〇四三三號

加工絆創膏

〔内容〕本發明は臺紙布に切断目を有する絆創膏にして最初に臺紙布が切断され、とも次に貼着する絆創膏の粘着のために臺紙布と絆創膏とは確實に接合し、切断目を恰も設けざるが如くに接合し次に切断されるときは正確に臺紙布の切目と並行して共に切断され常に臺紙布條及び絆創膏は整然と貼着され、而も絆創膏と臺紙布とは之を離脱するに何等特殊の方法を要せず單に臺紙布の切断のみにて容易に剝脱し、而も剝脱に際し藥液塗布面を汚損又は折疊せしめざる等の効果を有し使用上至便且つ衛生的なり、之に類する「ネオバン」(實用新案貼着紙)は糸其の他適宜の纖維を縦横に粗目に張着したる紙上に適宜の粘着劑を塗布し且つ紙の裏面には防水性皮膜を構成したるが故に粘着劑の裏面に滲出することを防止すると同時に之を巻回するも次位のものに接合するが如きことなき等の効果あるものにして、ガーゼ固着用として愛用せられ



士博學農 高橋 克己

特許第六〇〇五〇號

油脂より脂溶性ビタミンAを抽出する方法

〔内容〕本發明は脂溶性ビタミンAを含有する油脂を酒精加里を以て鹼化し、之をカルシウム鹽若くはバリウム或はストロンシウム鹽として沈澱せしめ、之を分離除去してアルコール溶液を得、之に炭酸瓦斯を通じ不純物を沈澱せしめて除去しアルコールを蒸發驅逐し、斯くして得たる溶液をエーテル等の有機溶劑にて處理してビタミンをエーテル中に移行せしめ、グリセリン無機成分を除去し更にエーテル液中に残せる脂肪酸をアルカリ鹽として水洗し去りエーテルを蒸發し去り粗製のビタミンAを得る方法なり。

〔略歴〕氏は明治二十五年和歌山縣の出身、大正六年東大農學部農藝化學科を卒業し大學院に入り鈴木梅太郎博士の指導の下に營養化學の研究に没頭す、即ち脂肪に就て研究を重ね次第でビタミンの研究を開始し、同十一年理化學研究所に入り鈴木研究室にて日夜殆ど寢食を忘れ銳意其研究の完成に精力を傾注し遂にビタミンAの本體を抽出することに成功す、而して更に

其の性質を明かにするに至り世界の耳目を聳動せしめビタミン學界に一大革命を與へたるのみならず人生に對し絶大なる貢獻をなしたり。功勞により日本化學會より櫻井賞、帝國學士院より學士院賞、帝國發明協會より受賞し特に大正十三年嚴父と共に宮中に參内を許され、畏くも 秩父宮殿下に賜謁、御下間に奉答し御陪食の光榮に浴す、同十四年不幸病に犯され三十四有四歳を以て長逝せらる。

高山 兵作

神 戶 市 宮 本 通
五 丁 目 八 二

船井 長治

神 戶 市 神 戶 元 町
通 五 丁 目 三 八 一

特許第一〇一四六四號

「チキタリス」有効成分を「コロイド」液として膠囊入り座薬を製造する方法

〔内容〕「チキタリス」薬より抽出せる強心劑としての有効成分に對する特殊化學的方法により「コロイド」液を形成せしめ之を膠囊中に封入したる強心座薬の製造法。

兒玉 健太

福 井 市 毛 矢 町 七 一

特許第九五〇三三號

醫療保健用放射能紙布

〔内容〕適宜の紙薄片面に放射「エレクトロン」に對し不透過性と反射性とを具ふる「アルミニウム」金屬粉を塗層形成せしめたる後層面の特殊處理により放射能力を有効に使用する工作。

強靱なるものなり。
〔略歴〕氏は明治二十九年の出生、關西大學專門部商科卒業後一二の會社に勤務し退社後鈴木商店を經營し昭和四年ネオパン考案者近江岸氏の本工業所に合併して現在に至る。

西澤 勇 志 智

東京市世田谷區
經堂町三八三

特許第一〇〇五三五號 硫化亞鉛を主成分とする白粉

〔内容〕硫化亞鉛に硝酸「マグネシウム」硝石等の過燐酸鹽又は過硫酸鹽の一種又は數種を加へて成る前記混合物の酸化作用に依り其變色を防止したる白粉。

三輪 善 兵 衛

東京市日本橋區
橋町四丁目一五

特許第一〇二六一三號 固形白粉製造法

〔内容〕二酸化「チタニウム」を主成分とし之に「ワセリン」を「エムルション」状態とせるものを均一に吸着せしめたる後「グリセリン」及水の混合液にて混捏し成形凝固せしむる固形白粉製造法。

橋 本 松 藏

大阪府北區北扇町三八
大阪府立工業研究所内

特許第一〇二五八一號 塗附料の製造方法

〔内容〕「ワセリン」、「パラフィン」、及樟腦、薄荷等の組成中に「チテアリン」酸の如き脂肪酸と「エチルアルコール」の如き一價「アルコール」とより得らるべき脂肪酸「エステル」を加へたる夏冬暑寒に伴ふ過度の硬軟變化を防止したる塗附料の製造法。

株式會社 桃谷順天館

大阪府港區
市岡元町五丁目

特許第八七一八六號 白粉製造方法

〔内容〕化粧品製造は由來簡單なる手工業を以て目せられ多く識者の注意に上らざりしが文化の向上に伴ひ人の美及び皮膚衛生の見地よりその科學的研究は急激に促進せられ、その製造は嚴密なる科學と複雑多岐の施設とを要する化學工業の一部門となるに至り、就中桃谷化粧品研究所は斯界の先覺として聞えその研究は斯業未踏の域に到達し、「美顔化粧品」各種に於て、更に最近「白色白粉」各種に於て歐米の高級品を凌ぐ優秀品を世に提供するに至る、その白粉類の如きは製造過程の全然新規なる研究により悉く專賣特許品なり。

〔略歴〕桃谷研究所の完成品は株式會社桃谷順天館より發賣さる、同館は我邦化粧品業界の一大老舗にして明治十二年桃谷氏第十三代の先代故政次郎翁の創業にかゝり、大正十二年に化粧品研究所を創設し、昭和三年組織を改めて株式會社となし、資本金壹百五十萬圓、專務取締役桃谷順一氏、常務取締役藥學博士桃谷幹次郎氏主として之が經營に當り、製品は全日本各地はもとより、滿洲、支那、南洋、印度、南米等にも輸出せられつゝあり。
白粉の主要原料たる亞鉛華は美の表現と保健衛生の點に於て特に品位高きものを絕對に必要とす、この見地に立ち化粧品製造家にして同時

中 川 清

京都市上京區榎木町
通鳥九西邊安町五四二

特許第九七三〇一號 日焼け防止化粧料の製造方法

〔内容〕「クリーム」及其他の化粧料に「フェニールグルコザツオン」及「エストラリン」を混合せしめたる日焼けに對し豫防作用を有し且つ皮膚に對する刺激性なく皮膚定着力強き化粧料製造法。

平 義 臣

東京府豊多摩郡
澁谷町向山一〇三

特許第九六九四二號 洗粉製造法

〔内容〕脱臭處理を施せる發芽大豆粉に澱粉性粉末及必要に應じ麥芽粉末及着色劑香料を添加する洗粉製造法。

小 田 美 穂

東京市京橋區
築地一丁目五

特許第一〇三三二號 血液「クリーム」

〔内容〕「クリーム」基材に皮膚營養上諸効果を齎す血液中の諸要素を含有する血漿を主資料として加へ更に補助資料として皮膚組織の發育促進物質を添加したる化粧用「クリーム」

村 岡 滿 義

東京府南葛飾郡
小岩町沖一五六五

特許第九八二三三號 化粧用「クリーム」製造方法

〔内容〕油分又は蠟分と水分とが分離することなく長時間保存に耐へ質緻密なる「ヴァニシングクリーム」、「コールドクリーム」、液狀「クリーム」等を製造する方法。

山 内 行 藏

東京府北豐高郡高田町
雜司ヶ谷鶴卷三六六

特許第九七二〇一號 化粧用「クリーム」製造法

〔内容〕天然膠質硫酸及昆布屬海藻の各を「アルカリ」にて處理して得たる兩「コロイド」狀液と紅酸及「グリセリン」とを混和してなる化粧用「クリーム」の製造法。

安 川 喜 一 郎

大津市北町三

特許第九七七七八號 蜂蜜洗粉製造方法

〔内容〕卵液を蜂蜜に混合し之れを以て澱粉を捏煉し低温を以て乾燥したる後粉砕機に依りて粉砕し洗粉を製造する方法。

荒 木 豊 三 郎

京都市伏見區
京町三丁目一八七

特許第一〇〇〇九七號 整髪用油脂加工法

〔内容〕高級脂肪酸と「グリセリン」の混合物に「エタノールアミン」の一種又は二種以上を加へ加温處理して得たる化合物の少量を適當の油脂に配合し加温して混溶する油脂の透明性を耐久ならしむる加工法。

神 力 喜 幸

大阪府西成區
千本通り五丁目二五

特許第九八八五一號 「クリーム」製造用乳化劑の製造法

〔内容〕脱水劑及觸媒を用ひ「グリセリン」の數分子を縮合せしめて「ポリグリセリン」を製出する工程と之を高級脂肪酸と結合せしめて「ポリグリセリンエステル」を形成せしむる工程との結合を特徴とする製造法。

平 田 拾 三

大阪府東淀川區
豐崎東通三丁目七八

特許第一〇二七六六號 頭髪用油の製造法

〔内容〕蓖麻子油に對する特殊化學的方法により蓖麻子油の「アセチル」化「エチルエステル」に香料其他の配合劑を加へて成る頭髪用油の製造法。

岩 城 道 也

京都市二條室町

特許第八七二八二號 白髮染劑「笑髮」

〔内容〕本品は劇藥パラフェニール、グイアミンを混用せざるが故に毛髪を損傷することなく、普通藥なるが故に藥店、化粧品店、小間物店に販賣す、染毛前髪洗又は髪を煮る必要なく用法極めて簡單に且つ短時間に染まり毛癖を矯正し染上り自然にして襟、枕等を汚す憂ひなく、皮膚に附着したる藥は容易に清淨し去る特徴を有す。

〔略歴〕氏は明治三十一年出生、京都高等工業學校色染科卒業直に同校助教諭となり後松江高等學校を経て京都帝國大學工科學科卒業引續き同大學工業化學科研究室に勤務し種々研究に従事せられつゝある純學究的人なり、本品は同研究室勤務中發明せられたるものにして、從來使用せられつゝある一般白髮染劑は劇藥パラフェニール、グイアミンと過酸化水素水とより成り使用簡單且つ總ての點に於て効果的なるも劇藥を其儘使用せるが故に往々キレ毛、ヌケ毛を生じ反つて白毛赤毛の度を増し恐るべきは毒物性皮膚炎(カブレ)を起し長時間使用の結果は蛋白尿若しくは腎臟炎を起すを以て一般の危險視する所となり、又劇藥として取扱はれたるが故に之が購入には其都度印判を必要とせられ居る状態なるを遺憾として遂に本劑を發明せられたるものなり。

服部 重右衛門

東京市日本橋區
通 堀 町 一

特許第一〇二六二二號 毛髮染料

〔内容〕「アミノフェノール、スルフォン」酸類又は此等の鹽類に重金屬鹽類を加へたる溶液と苛性曹達等の如き「アルカリ」性溶液とより成る保存性に富む優秀なる毛髮染料。

森田 徳次郎

東京府北豊島郡
瀧野川町字田端六〇八

特許第九四八〇〇號 染髮料

〔内容〕「鐵」「コロイド」と銀「コロイド」との混合溶液たる第一液と没食子酸若しくは「タンニン」酸或は其の兩者の混合水溶液なる第二液とより成る染髮料。

岩本 敬太郎

東京市神田區
小川町一丁目七

特許第一〇二二二〇號 煉鹽の製造法

〔内容〕「硫酸」「マグネシア」「トラガントゴム」薬用石鹼末「サツカリン」「ミルラ」「グリセリン」を煉合したる後減壓脱水を施し其脱水混合物に過酸化硼砂を捏和し更に香味料を加ふる製造法。

伊川 浩藏

東京府荏原郡
世田谷町代田二〇二

特許第九九一六號 齒齲資料製造法

〔内容〕齒齲の目的に最も能く適合する硬度を有し而も口中の臭氣及微菌を吸着除去せしめ得る齒齲資料の經濟的なる製造法。

柿沼 三郎

東京市荏原區
中延町一八〇

特許第一〇三四三三號 齒齲

〔内容〕口腔液に遺ひ直ちに過酸化水素を活潑に遊離し更に口腔汚物に依り分解し殺菌力ある持続性酸素瓦斯の泡沫を發生すべき有機性「アミン」化合物と過酸化水素の添加化合物を齒齲資料中に混合せしめたる齒齲。

伊與田 光男

東京市牛込區
矢來町五〇

特許第九六九八〇號 化粧用紅

〔内容〕「ペンシグクリーム」に乾燥薄膜状態にて紅色を呈し濃厚膜状態にて黄褐色の螢光を發する色素の適量を混和したるを特徴とする化粧用紅。

今井 太五郎

東京市芝區明町二

特許第一〇二六六一號 化粧液製造法

〔内容〕昆布を熱湯にて浸出したる殘液に對し特殊の化學的方法により稀薄「アルコール」中に「コロイド」溶液として分散すべき状態に變化せしめたる清澄液に「アルコール」、香料等を配合し化粧液を製造する法。

平岡 ハル

横濱市鶴見區
鶴見東寺尾町二〇八

特許第一〇三五七號 皮膚化粧料製造法

〔内容〕牛乳又は脱脂乳と「テギン」蠟とを均質なる乳化體となし悪化變質を起さしめず且牛乳特有の皮膚美化作用と「テギン」蠟との相互作用に據りて皮膚に效果顯著ならしめたる化粧料製造法。

壹岐 敏夫

兵庫縣武庫郡
住吉村柳七六六

特許第一〇一九五一號 漁網用染料の製造法

〔内容〕「フェノール」銅の「アムモニア」溶液を「クレスト」油に加へ攪拌し「フォルマリン」を注加し加温して「クレスト」油中に銅及合成樹脂を含有せしむる事を特徴とする製造法。

千代田 藤吉

福岡縣若松市
宮下町二丁目一〇

特許第九七六四四號 漁網染料

〔内容〕「ピッチ」油を主成分とし之に「クレスト」油及溶劑「ナフサ」を混合したるものにして漁網纖維に對し滲透力並に強靱性強大なる漁網染料。

奥川 教孝

函館市船見町二九

特許第九六八七號 「コールド」定量染網法

〔内容〕網地を充分濕潤状態となし之に「コールド」と熱湯の混合液を以て網地に浸透せしめ最後に染色を均一ならしむる方法。

村田 正雄

山口縣厚狹郡
小野田町山手六一四四

特許第九五一一七四號 漁網防腐劑

〔内容〕「コールド」中に亜硫酸銅、硫酸銅、酸化水銀及び鹽化亞鉛の粉末を混合することを特徴とする「コールド」に強力なる殺菌力を附與したる漁網防腐劑。



北村 太郎
大田区三丁目二十三番地
大阪府大阪市東區
大田区三丁目二十三番地

特許第七〇五二四號 人魚印防腐マニラローフ

〔内容〕マニラローフは強靱なる抗張力と水濕に耐え得る特性とを有するも、時に切斷損傷するの原因は荷重超過摩擦擦傷等に依り殊に漁業用に於ては長期間海中に浸漬使用するが爲めに其腐敗最も著しく、従來之が防止の爲めにコールド染料を行ひしも此方法に依るときは煮沸したるコールド染料の釜中にローフを投じ浸染するが故に、結核防腐力を増すと雖も却つて其熱度の爲に纖維を傷め抗張力の減退を來たすに至るものなり、而して本特許製造法は最新の學說を參照し最も効果ある「柿澁カツチ」に硫酸銅を

吉川 武雄
奈良縣南葛城郡
御所町五六〇

特許第九六五二〇號 耐久性動物纖維製品製造法

〔内容〕防腐防水劑を纖維に吸着せしめ柿澁にて處理し更に木「タール」又は石炭「タール」の被膜を以て防腐防水性を補足する製造法。



高日 榮三郎
宮崎縣白木村
宮崎縣白木村
宮崎縣白木村

特許第一三六四六號 網及網糸防腐染色法

〔内容〕本發明は防腐染色劑として特徴ある單寧劑及硫酸銅を網の纖維間に於て化成沈澱せしめて防腐着色耐水の諸性質を具備せしめたるものにして、従來染色劑として多年一般に使用せられたる單寧劑は其の處理法極めて簡單なるも其の着色防腐成分は海水中に溶出するの缺點を有し、其の後使用せられたる硫酸銅染色法も同様の缺點あり、本發明は之等の缺點を完全に除去し全く斯界に一新機軸を開きたるものなり。
〔略歴〕氏は明治二年宮崎縣の出身、同二十五年水産講習所を卒業し父祖の業たる漁業に従事し苦心の結果大謀網を創始し其の効果を収る

龜岡 長太郎

八幡市大字
大藏四一四

特許第九五〇四七號 粉末防腐劑製造法

〔内容〕「アンストラシ」油を主成分とし若干の「クレオソート」油、石炭酸及「ナフサ」等を含有する泥狀の石炭「タール」蒸溜生成物を、使用並に保存に容易なる粉末となす方法。

倉橋 彦男

東京市神田區
東松町四六

特許第一〇一八三六號 重質殺菌防腐劑の製造法

〔内容〕「プロ」精を主材とし之に塵芥炭「セメント」塵埃土又は火山灰を加へて混合したるものに硫酸等を加へ弱酸性を呈するを度とし之を粉碎して成る製造法。

石田 了三

神戸市八幡
字備後堂二九

特許第九七二七號 球根野菜果實等の貯藏包装用粉

〔内容〕「ソンドラ」の細胞組織を破壊せざる様粉碎し

適量の吸着性水分を残留保持せしむべく乾燥し後燻酸曹達溶液の適量を均等に吸収せしめる方法。

片倉直人

東京市神田區
駿河臺袋町一

特許第九五七三號 生菌乾燥法

〔内容〕加熱装置を有する密閉容器内に生菌を收容し最初比較的低温なる間に抽氣作用を興へたる後不活潑性瓦斯を送入して菌層及菌腔内に浸潤せしめ加熱しつつ抽氣作用を興へて真空手段に依り菌の水分を蒸發せしむる乾燥法。

飯倉節養

大阪市東淀川區
本庄東通五ノ九
日本農藥株式會社
大阪工場内

特許第一〇三三九號 蠅取紙粘糊物漏出防止法

〔内容〕「カゼイン」膠「ゼラチン」「アラビヤゴム」澱粉糊、布海苔等の油脂等に不溶解なる膠質物を綿絲等に浸潤せしめ之を以て捕蠅粘糊物塗布面の外割を環りて膠着せしむる事を特徴とする防止法。

伊東武治郎

神戸市林田區
上庄通四ノ五

特許第一〇〇八四號 除蟲菊製劑を耐久性ならしむる方法

〔内容〕除蟲菊製劑に酸性乃至中性の弱還元性を有する物質を溶解又は混合して該劑貯藏中に於ける効力の減退を防止する方法。

伊田久雄

神戸市兵庫區中道通
一丁目三七ノ九一

特許第一〇三三二號 殺菌殺蟲防臭消毒劑の製法

〔内容〕「ナフタリン」末及「ベタナフトール」パラチクロールベンゾールを「クレゾール」液に溶解飽和せしめたるものに適量の「ベンチノフォルム」を配劑混合し之に精製石油を混濁する事を特徴とする製法。

岩本嘉平

東京府荏原郡
池上町大字下池上六〇

特許第九四八五號 防臭殺蟲劑

〔内容〕水酸化鐵を粉砕し之に南洋産「デリス」根の粉末を其表面に吸着せしめ之を主劑として次に植物質又は泥炭「ツンドラ」等の有機質資料を乾燥して得たる炭素を加へて成る防臭殺蟲劑。

石井榮一

關東州旗本町
金比羅町一

特許第九四八八號 殺蟲劑

〔内容〕葉煙草を水で煮沸したる液に粉末石鹼「ペンゾール」、酒精及樟腦油を攪拌しつゝ混合融合して成る價格廉にして殺蟲力偉大なる藥劑。

乾和之

鹿児島市清水町七〇

特許第九九六一號 蠅蚊除線香合劑製造法

〔内容〕「ペルーバルサム」「テレピン油」「ナフタリン」粉末「カンブル」油蓖麻子油の混合劑を杉葉粉末又は楠皮粉末に混和吸着せしめて成る特殊製法。



羽城万次郎

大阪府南區長橋筋
目下五番地

特許第九一三七四號 貯藏米俵の中袋製造法

〔内容〕本法は特種の防水膠と特種の浸出液に糊を加へて作りたる防虫糊とを混捏して製出したる糊を以て紙質を縦横として二枚乃至數枚の洋紙を貼合密着する傍ら紙質を強靱のものとし後其表裏両面に糊料を加へざる防虫浸出液を塗布し以て防虫防水の作用を爲さしめたるものを袋狀に形成し最後に寄綴を施したるものなれば破損の憂なく耐久力を保有せしめ米俵をして後に數年を貯藏し得るものなり。

星野耕三

神戸市灘區
八幡町字濱田一

特許第一〇二二一號 「ピレトリン」を抽出せる除蟲菊の殘渣より殺蟲殺菌力ある物質を製造する方法

〔内容〕溶劑により「ピレトリン」を抽出せる殘渣を「ピレトリン」の分解温度以上の適温にて加熱して別種の殺蟲殺菌力ある物質を化成せしむる事を特徴とする製法。

原白

兵庫県川邊郡小田村
大字抗瀬字道場二八

特許第九七八〇號 殺蟲劑製造法

〔内容〕調合物の總體をして常に中性反應を持續せしめ本來不安定なる「ペレスリン」の効果を永續的ならしめ又除蟲菊固有の黄色色素を全然變性せしめ汚點を残すが如きこと無き優秀なる噴霧、防臭、乳劑原液を兼備する藥劑の製法。

蓮池壽一

大阪市南區大寶寺町
東之丁五十番地

特許第一〇二二七號 殺蟲液

〔内容〕或る特殊の溶液を除蟲菊の性を溶解したる特殊の混和液に混合したるを特徴とする殺蟲液にして、蟲類の内臓を害して有効に死滅せしめ又附着する微菌をも殺滅し人畜に無害にして汚染絶無且つ火氣に安全にして芳香馥郁なるものなり。

橋本安吉

廣島市上流川町
七九ノ三

特許第九九五四號 除蟲菊石油浸出液の深黄色の脱色及石油臭の消失を計る驅蟲劑の製造法

〔内容〕除蟲菊の花の特殊處理による浸出液に過「クロール」化鐵を加へ其の水溶液は後分離し之に四鹽化炭素「ベンツオール」「樟草酸」「アミール」及山椒油を加ふる事を特徴とする製法。

二本康吉

名古屋市中區
柳ヶ枝町一ノ一六

特許第一〇一八三三號 蠅蚊除線香の製造方法

〔内容〕一面に膠膜を保有せしめたる二聯の連續原紙と特殊の關係位置に加熱突條を具ふる轉子を使用し輪廓液部に對する加熱壓搾に依り不齊附着を修正する方法。

堀井義三

大阪府豊能郡
池田町八八九ノ一四

特許第九四三〇號 芳香性防臭殺蟲劑

〔内容〕過燻酸鹽粉末、生石灰、「ナフタリン」等を主劑とし之に炭酸「マグネシウム」若くは珪酸「ゲル」を配劑したるものにして不潔個所に撒布し有效なる芳香性防臭殺蟲劑。

別役吉吾

高知市田淵五四

特許第九四四三號 殺蟲劑の製造法

〔内容〕「バイケイサウ」の煎汁に「フォルマリン」を混和して成る便所に發生する蛆蟲を驅除する殺蟲劑の製法。

大島恭平

東京市淀橋區
諏訪町一〇

特許第一〇二二九七號 消毒殺菌殺蟲劑の製造法

〔内容〕頁岩油及天然油抽出液に「オレイン」苛性曹達並に「クレゾール」石鹼液を加へ乳化油を製し之に「アクロレイン」の瓦斯を通じ溶解含有せしめたる事を特徴とする製法。

戸田弘

廣島市西區町二三四

特許第九九〇三三號 殺蟲防臭劑製造法

〔内容〕除蟲菊と薄荷葉との主成分に對する特殊藥品を處理せしめたるものに防臭劑を加へて成る製法。

茂森享一

岡山府廣瀬町二二二

特許第九五二三六號 殺蟲消毒防臭劑の製造法

〔内容〕馬酔木の葉及莖を石炭酸水を以て浸出せしめ此の浸出液に加里石鹼粗製「クレゾール」含有の石炭酸及四鹽化炭素に溶解せる「パラチクロールベンゾール」等を混和せしむる製法。

太田次郎

石川縣能美郡
金野村大字大野一七七

特許第九〇九五號 稻黑穗殺蟲液

〔内容〕桑葉の搾汁を桐葉の搾汁に混入して得たる粘稠液に粉石鹼及極微量の「ニコチン」を混和したる稻黑穗殺蟲液。

大越吉信

札幌市北十二條
四十七丁目一

特許第九五三〇〇號 驅蟲用除蟲菊液の透明法

〔内容〕除蟲菊乾花を「アルコール」に浸漬し其浸出溶液に温湯又は水を加へ酸性白土に浸漬して殺蟲力を減殺せずして無刺撃に無色透明溶液を形成せしめる方法。

大野 鐵 治

大阪市旭区貝島町七九

松尾 郁 太郎

大阪市南區
東清水町五四

特許第九八三六號 殺菌消毒劑の製造方法

〔内容〕「サルフォネート、オイル」に所含の遊離硫酸の水素を消滅的性質を有する物質を化成し得る金屬にて置換し之に樟腦白油等を混和してなる製造法。

大成 權 尙 志

廣島縣 甲奴郡
上下町一〇〇八

特許第九六〇五五號 芳香殺菌液製造法

〔内容〕石油に薄荷葉を混入して加熱沸騰し冷却せしめたる後揮發油及粗末除菌花を混入し之を攪拌器により攪拌濾過するに際し四鹽化炭素類草酸「エチール」丁香油を混和する製造法。

岡田 卓 穂

京都府相模郡木津町
大字木津小字八色四二

特許第一〇六一七號 殺菌劑製造法

〔内容〕四鹽化炭素の鹽油溶液に松粉粉末を加へて加熱溶解し之に「クレゾール」と苛性「ソーダ」水溶液を加へて鹼化せしめ次に硫酸「ニコチン」を混和して乳化せしむる製法。

岡本 寬

濱松市東伊場町
一五八ノ一七

特許第一〇〇八三八號 「ニコチン」含有液製造法

〔内容〕原料收容筒内に蒸氣噴出管を設備し攪拌盤を昇降自在に設けて原料の蒸潤並に攪拌をなし以て藥物等の混入を避け極めて迅速に濃度高き抽出液を搾取する装置。

尾形 武 平

大阪市天王寺區
上本町五丁目三一

特許第九七四一號 液狀殺菌劑製造法

〔内容〕「ウルシオール」の有する強き感染性毒毒を利便に「チクロールベンゾール」等の持つ強殺菌力を配し更に展着性を加味して水にて任意に稀釋乳狀液を作り使用簡便なる殺菌殺菌劑の製法。

黄 阿 波

臺灣 臺中市
綠川町一丁目一六

特許第九六四四號 蚊除線香製造法

〔内容〕青蒿の乾燥粉末に良姜の乾燥粉末を混和し扁柏の粉末を添加の上適當の水を注加し攪拌混捏して後線香を形成する製法。

脇本 儀 一

廣島縣 御調郡
糸崎町字木原三四二

特許第九五八五七號 水稻驅蟲劑

〔内容〕綠葉と除菌菊油の混合物に海水と苦汁の混合物を混和し更に之に米糠を混和して之を粉末としたる水稻驅蟲劑。

加藤 恭

東京市目黒區
下目黒一ノ六四

特許第一〇〇三三〇號 織物用殺菌劑

〔内容〕四鹽化炭素と「ホルマリン」と「オルト」又は「パラ」ダイクロール、ベンゾール及び揮發油を混和したるものに更に「クロールピクリン」を混和したるものを適宜に處理したる殺菌劑の製法。

川上 保 太郎

大阪市 西成區
今池町一〇

特許第九六三三四號 殺菌及驅蟲液

〔内容〕「ベンゾール」類と四鹽化炭素及「ターペンチー」等を混合溶解せしめ撒布するも引火性の危険なく且人畜及衣服其他に損傷を與ふる虞なき撒布用液の製法。

河野 通 男

京都府愛宕郡修學院村
字一乘寺二〇片山方

特許第九四二一七號 燻蒸用殺菌滅菌劑

〔内容〕「クロロピクリン」に「アセチレン」の鹽素化合物を混合することを特徴とし毒性率高き揮發性大なる燻蒸用殺菌滅菌劑。

萱場 四 郎

東京市 芝 區
西懸寺町四三

特許第九四七一〇號 驅蟲瓦斯發生裝置

〔内容〕送風機により氣化室に送風し該室内に加壓せる「クロールピクリン」の如き液體を「ノズル」より噴射して之を氣化せしめたる上吐出孔より倉庫内等に送入する装置。

鎌田 肇

鹿児島市高麗町六六〇

特許第九五二八七號 粉狀石灰硫黄合劑の製造法

〔内容〕「ナトリウム」又は「カリウム」の多硫化物を造り之に生石灰を加へて生石灰が消石灰に變化する場合の化學作用を利用し容易に固形粉末となすと同時に複分解により水酸化石灰を硫化石灰に變化せしめ「キサントゲン」酸鹽を加へる製法。

勝見 堅 太郎

東京市日本橋區
本町四丁目五ノ一二

特許第一〇二五二六號 殺菌劑

〔内容〕煙草製劑硫酸「ニコチン」の溶液を硅藻土に吸収せしめ乾燥粉砕したるものと鹽基性炭酸銅と鹽化第二水銀との混合せるものへ更に膠質物及綠色色素を添加配合して成る製法。

神取 政 基

東京市麻布區護国一

特許第九五九四五號 殺菌殺菌劑

〔内容〕「パラチクローロールベンゾール」「トリクローロールフェノール」及「ナフタリン」を溶解して混合せしめ攪拌の下に冷却し均等なる混合物を造り之に芳香性化合物を添加又は添加せざる殺菌劑。

掛見 繁 松

京都府中京區二條通五
丸西東玉屋町五〇〇

特許第一〇〇八二五號 殺菌劑の製法

〔内容〕「オルト、チクロール、ベンゾール」石油「ベン

ンチン」「アルコール」丁香油及び山椒油を混和せる液に「パラ、チクロール、ベンゾール」を溶解し更に四鹽化炭素並に「クレゾール」石鹼液を混和攪拌して成る殺菌劑の製法。

第一工業製藥株式會社

京都市七條千本南

特許第六五〇五五號 セリシン銅石鹼

同第六五八二二號

〔内容〕本品は絹精練廢液中のマルセル石鹼及びセリシン質を硫酸銅を以て處理して得たる病害豫防増收劑にして既に合成せられたる銅石鹼なるが故に撒布液調製に手数を要せず、且つ可溶性アルカリ鹽類を含有せざるが故に従来の石鹼類との混用を禁ぜられたる接觸劑又は毒劑と混合するも何等藥害を起し効力を減殺する等の事なく、又浮游力及び附着力を増加せしむるが故に展着劑として其効力甚大なり。尙本劑に含まる、セリシン質は一度乾燥せば水に不溶解性となる特性あり、従つて本劑を撒布するも雨水により流失さる、量甚だしく其効果の持続日數長く又銅石鹼の乳化力を大に助長するが故に噴口閉塞、作物汚染等の憂なし。

〔略歴〕本社は明治四十二年の創立に係り工業用マルセル石鹼及織物整理劑の製造に従事す。本劑は大正十三年マルセル石鹼にて絹布を精練したる廢液が下流に於て窒素分過多の爲に起す農作物被害除去策と廢物利用等の方面より考案されたるものなり。



本發明者正 五位勳五等農學博士角替利策氏は明治二十一年靜岡縣の出身、大正四年東京帝國大學農科大學農藝化學科卒業、同大學講師、神奈川縣立農事試驗所技師、絹業試驗所技師、生糸検査所技師等に歴任し昭和二年八月歐米各國へ出張し同三年七月歸朝、昭和六年九月農學博士の學位を授與せられ同七年以來京都帝國大學農學科講師囑託、現在絹業試驗所技師奉職中なり。

竹内 松 次郎

東京市板橋區
中村町三ノ六五八

特許第一〇二八五七號 殺菌殺菌消毒劑の製造法

〔内容〕硫黄を溶解せしめたる二硫化炭素溶液及揮發油を分溜して得たる低溫「フラクシオン」を主成分としたるものに芳香性植物揮發油を「クレゾール」石鹼液にて處理したるものを混和してなる製法。

田代 榮 太郎

福岡市大字六圓三三九

特許第九七〇四號 殺菌劑の製造方法

〔内容〕揮發油、丁香末、除菌粉を容器に收容し

沸湯中に浸漬して湯煎抽出を行ひ該抽出液に山椒油、「ナフタリン」揮発油等の混合物を投入攪拌して後放置する悪臭なき殺蟲劑の製法。

永田清
大阪市住吉區
天下茶屋二ノ二〇

特許第一〇〇七四〇號 蚊取線香製造方法

〔内容〕馬酔木葉を除蟲菊粉糊料、着色料、防微劑に混じり適量の水を注加し混捏し成型して成る製造方法。

中澤清
東京府豊多摩郡野方町
上高田六四

特許第九九三一一號 「テリス」屬植物根又は除蟲菊の有効成分を含有する水溶性液状驅蟲劑の製造法

〔内容〕無水「メタノール」等の混和液にて原質を溶解し之に展着劑の數種を加ふる事特徴とする製法。

成毛英之助
東京市日本橋區
本石町三ノ九

特許第一〇三三九一號 蛹油及び「パラフィン」の混合物にて被覆せる殺蟲劑

〔内容〕糖蜜、魚粉、澱粉、牛脂の如き嗜好料及び酸化鐵を混加焙融せしめたる後之を錠劑となし蛹油と「パラフィン」の混合物を以て浸潤被覆せしむる事特徴とする利鼠劑。

武藤龜吉
川崎市大字根郷二二四

特許第九六四七號 驅蟲液製造法

〔内容〕噴射機其他の操作により室内又は草木に撒布して驅蟲の効果を顯し且人畜に對し無害にして香氣良き驅蟲液の經濟的製造法。

村川重郎
大阪市東淀川區本庄東
通五ノ九 日本農藥株式會社大阪工場内

特許第九八九八五號 殺蟲殺菌劑製造方法

〔内容〕天然沈降硫黃を以て「コロイド」性硫黃を得之を水と共に「アルカリ」類を加へて遊離酸を中和したる後硫黃を分離し之に動植物性展着劑を加へて成る製造法。

村松胤範
東京府荏原郡
矢口町原志茂田六

特許第九七〇四二號 殺蟲殺菌劑

〔内容〕特殊藥劑を配合したる殺蟲力殺菌力強大且つ本劑使用中氣化したる藥劑が操業者の呼吸器を刺撃するを防止したる操業安全なる藥劑。

牛村知政
大阪市北區野田町八四

特許第九七二八三號 防蟲防臭紙の製造法

〔内容〕膠液を塗布せる紙上に粘着「ナフタリン」除蟲菊等の粉末を塗着せしめ更に膠液を塗布し之に「ホルマリン」水を塗布して固化せしめ床板の上に疊の下敷として使用して効果多き防蟲防臭紙の製法。

野村由松
金澤市新野町一ノ七四

特許第一〇一八二號 疊床の腐蝕蟲害を防止する方法

〔内容〕疊床の裏面に「クレオソート」と樟腦との混合液を塗布するに當り上面に使用する綿に豫め「コロジウム」を塗着し然る後前記の液を施すこと特徴とする方法。

桑野重次郎
豊橋市根葉三盛町
一ノ八

特許第九六七三號 卷形線香製造法

〔内容〕原料を適宜の太さの桿状となし其點火部に樟腦の粉末を添加し全體乾燥せざる間に渦卷形に各各卷線間に特殊「テープ」状紙片を挟み押壓し各線間を密接し乾燥せしむる製造法。

柳田友麿
東京府北豐島郡根郷町
大字宮下町一六五〇

特許第九四一九六號 殺蟲劑

〔内容〕除蟲菊粉末に活性炭、骨炭其他の炭素末を配合せるものにして之を加熱するときは強大なる殺蟲能力を發揮する殺蟲劑。

柳澤秀次
東京市葛飾區
柳原町一二二

特許第九九六七三號 粉末蚊取香

〔内容〕除蟲菊干花粉末を主要材料とし之に堅木の鋸屑炭酸「マグネシウム」「パラニトロ」石炭酸を適當に混和したる粉末。

松原安三
高松市七番丁二八ノ三

特許第九八二七號 驅蟲劑製造法

〔内容〕支那産桐の實と檜の樹皮と石油との混合物に對し除蟲菊と「ベンゾール」とより得たる抽出液を混じり之に白陶土を混和し適宜に處理する製造法。

松平藤佐根
高知縣幡多郡宿毛町
字宿毛二六三九

特許第九五二四號 白蟻殺滅劑製造法

〔内容〕亞硫酸と「サツカリ」を極細末となし之に片栗粉を混合し其混合物に硫酸鉛と「アラビヤゴム」と米粉を混合したる細粉とを混合して成る製造法。

益田五郎
東京市板橋區
志村清水町四八七

特許第一〇一三八七號 「トマト」の葉より農薬用殺蟲殺菌劑を製造する方法

〔内容〕「トマト」の葉より有効成分を抽出し之に脂肪油を注加し加熱鹼化せしめて得たる糊狀鹼化物を能く混練して成る殺菌劑の製法。

福田百合造
八幡市北本町
一丁目九三二

特許第九五五〇號 衛生灰

〔内容〕粗製「アンストラセン」を壓搾して「アンストラセン」油を搾取したる搾精を粉末となし之に塵芥燧灰粉末を加へて充分攪拌混和し最後に適量の硫酸加里と晒粉とを混和して成る衛生灰。



松彦山上
社會式株菊除除山
村田原郡田有縣山歌和

特許第二八八二四號 除蟲菊粉末製造法

同 第六七一八七號 驅蟲劑製造法

〔内容〕除蟲菊の殺蟲主成分「ピレトリン」は蕊の部分に最も多く含有し、萼、花瓣之れに次ぐ、故に本發明は花瓣、萼の各別に製粉する方法にして、殺蟲力最も強烈なる蕊の粉末は頑強なる害蟲に用ひ、萼、萼等の粉末は各其用途に適應せしめ圃ら栽培上の實收益を増大ならしめたるものなり。

〔略歴〕本發明は故社長上山彦松氏の發明に係るものにして、明治二十五年頃除蟲菊の栽培を始め同三十年除蟲菊の製造販賣を開始す、當時米國より輸入したる除蟲粉を見て大に發奮し研究の結果製粉機の改良、貯藏法、荷造法等幾多の發明を完成し常に同業者の先達となりて斯業の向上發展に努め、大正七年十二月從來の個人經營を株式會社に組織を變更し自ら社長となり大に將來を期待されしが不幸翌年病を得て長逝せらる。夙に品質の改善向上に努力しつゝありしが偶々大正三年降雨多量の爲め黒花を多く生じたる事あり、氏は此の不幸を救はんが爲め除蟲菊の花、萼、萼等の各別に製粉し殺蟲成分の實地試験を行ひ其發明の方法に依るを最も

福田 慎一
鹿児島市下荒田町
四〇九

特許第九五二八八號 蠅取紙の製造法
〔内容〕植物油に樹脂類を溶解し其溶液中に石炭酸を加へ蠅の捕足力強大なる蠅取紙の製法。

深谷 辰次郎
東京市本郷區駒込
西片町一〇ホノ一六

特許第九五二一七號 芳香性驅蟲劑の製造法
〔内容〕ひめじよをん及びつどろぐきを蒸溜するか又は「ネトラヒドロナフタリン」等に浸漬したる後之を大部分分離し黄色油状物質となす製造法。

藤波 芙蓉
東京市牛込區
原町二丁目六八

特許第九八五九九號 殺蟲劑
〔内容〕皂角子の煎汁を石油に混和して乳劑としたるものにして植物を害する事なく殺蟲の効果卓越せる殺蟲劑。

小林 宗太郎
東京府北豊島區蒲野川
町字蒲野川三八九

特許第九四六七二號 殺蟲劑製造方法
〔内容〕除蟲菊の有效成分を石油揮發油及四鹽化炭素の混合溶劑により抽出し之に鹽化「ピクリン」の石油溶液並に石鹼溶液を添加攪拌して乳劑せしめ強力なる殺蟲劑の製法。

兒玉 得三
關東州大連市
鳴鶴一八九

特許第一〇二九七六號 殺蟲力と殺菌力とを兼ねたる消毒劑の製造方法
〔内容〕「ペンツオール」の「クロール」透導體に豫め「ナフタリン」を溶解せしめ之に「クレオソート」油に溶解せる樹脂酸「アルカリ」を添加密和する事の特徴とする製法。

小山 嘉壽彦
大阪市北區
與力町二ノ九

特許第一〇〇四七七號 除臭驅蟲劑の製造方法
〔内容〕樟腦と「クロロナフタリン」とを混じ之に山椒油、桂皮油、樟腦油、丁香油を混じたる製造法。

相澤 一郎
東京府在野郡大崎町
大字居木橋一五一

特許第九六三五四號 防臭殺蟲劑製造方法
〔内容〕除蟲菊、樟樹等の如き防臭殺蟲の効果ある植物性資料の一種又は數種を糖化石灰を用ひて所合成分を抽出し之に鹽化炭素の如き殺蟲資料を配合する防臭殺蟲劑の製造法。

東高 夫
廣島市廣瀬町
二一〇ノ一

特許第九七一八〇號 殺蟲液の製造方法
〔内容〕除蟲菊有效成分の浸出法に改良を加へ完全に

抽出し之に數種の殺蟲芳香料を配合したる效果確實且つ人畜に無害なる殺蟲液の製法。

青山 虎彦
東京市淀橋區
柏木四ノ九二七

特許第一〇三三〇七號 殺蟲劑
〔内容〕三鹽化「エタン」と二鹽化「エタン」を混和して得る殺蟲劑の製法。

東政 助
廣島縣豊田郡吉名村
字下條三八九

特許第九四一三二號 驅蟲除液
〔内容〕水に「パラベン」油と石鹼粉末の適量を混合して風並に其卵の附着を容易に驅除する液。

浅川 清次
東京府豊多摩郡
千駄ヶ谷町原宿八九

特許第九六七三六號 作物撒布用殺蟲劑
〔内容〕「クワシバン」貝を乾燥粉砕し更に風乾して微細なる粉末となしたるものと「ピレトリ」と「ナフタリン」末とを配合したる作物無害且土壤中に吸収せらるれば肥料となる作物撒布用殺蟲劑。

浅田 安治郎
東京市京橋區
根町一丁目五ノ五

特許第九四八八一號 防臭殺蟲劑製造法
〔内容〕松樹油又は松根油に苛性加里と樟腦末とを酒精に溶解せしめ尙之に「クレオソート」を混和したるものを加へ攪拌して一様な混合溶劑となす防臭殺蟲劑として適當なる撒布劑の製法。

齋藤 幸雄
徳島市富田浦町
字堀南一六一六

特許第一〇一〇四八號 殺蟲劑の製法
〔内容〕蛋白質を「クレゾール」に溶解し之に石鹼及び除蟲菊或は「デリス」根等を有機溶劑にて浸出せる無水溶液を混合する製法。

齋藤 毅
仙臺市土樋二〇三

特許第九五三一一號 殺蟲消臭劑の製法
〔内容〕石炭酸炭泥炭等を乾燥せる際生ずる瓦斯液に樟腦油「ジヤスミン」を加へ更に樹脂石鹼及鉛酸曹達液等を加へ茲に生じたる沈澱を石炭酸又は「グリセリン」沃度液を以て溶解して成る製法。

木村 英次郎
兵庫縣赤穂郡坂越村
坂越三二一八ノ二

特許第九五七八五號 農藝用殺蟲劑の製造方法
〔内容〕石油工業に於て通常生ずる廢物を利用して除

蟲菊の殺蟲有效成分と容易に融和せしめ藥效を長期に亘り保持し使用法輕便且人畜無害なる藥劑の製法。

佐藤 永利
東京市本所區
龜澤町一丁目三

特許第九七七四八號 毛絲又は毛織物防蟲加工法
〔内容〕毛織物を「デリス」屬植物根より温水又は溶劑にて抽出せる有效成分含有液中に浸漬し次に之を金屬鹽類に浸漬して毛織物組織中に防蟲成分を固定せしめ水洗等による脱離の憂なき方法。

南方 惣次郎
和歌山市小松原通リ
五丁目一

特許第九六〇〇三號 蚊取線香製造方法
〔内容〕原料中に比較的伸縮度の多き植物の纖維を混入し乾燥するに隨ひ線香の原料と混合せる纖維との收縮により無數の空隙を生ぜしむる製造法。

宮三郎
香川縣香川郡佛生山町
第二七七 香川縣立
農事試験場官舎

特許第九四一七七號 驅蟲藥布製造方法
〔内容〕一種若くは數種の驅蟲劑を少量の流動「パラフィン」を混和したる易揮發性溶液媒液中に溶解し該成液を織布に充分吸着せしめ後引出し冷暗所に於て乾燥せしむる方法。

芝時 孝三
京都市下京區西園小路
久保町五〇 第一工
業製藥株式會社内

特許第一〇二二三四號 硫黃含有粉末樹脂合劑の製法
〔内容〕硫黃と樹脂とを混じて加熱煉成したるものを苛性曹達液にて樹脂を鹼化し同時に硫黃を均一に其樹脂石鹼中に抱合せしめたる合劑の製法。

鹿倉 隆一
東京市小石川區
駕籠町四三

特許第九七一三七號 地中に使用する害蟲驅除劑
〔内容〕「パラチクロールベンゾール」を主劑とし之に炭炭又は骨炭の如き肥料となり得る多孔性粉末狀物を混和して微細に粉砕したる驅蟲と肥料の兩作用を兼備せしめたる藥劑。

嶋熊 太郎
和歌山市出口
甲賀丁一四

特許第九四二四七號 蚊除線香製造方法
〔内容〕木材質よりなる線香を除蟲菊の粉末内に投じ線香より浸出する膠着液の爲め粉末を附着せしめて形成する製造法。

清水 喜助
廣島市三篠町
橋本八六ノ三

特許第九六〇九三號 殺蟲液製造方法
〔内容〕四鹽化炭素溶液中に除蟲菊粉末を加へ長時間冷處に放置せる後濾過し該濾液中に石油及揮發油及「チ

トロネル」油の混合液を入れ攪拌混和する製法。

平田 吾一

広島縣御調郡
三原町一三四一

特許第九五七一號 生皮防腐劑製造法

〔内容〕尿素の水溶液に「ハロゲン」を作用せしめて得たるものに適量の「アムモニア」水を介在せしめて「フォルマリン」を作用せしめたる刺戟臭を有せぬ有効なる生皮防腐劑の製法。

森久三郎

大阪市此花區
大開町三ノ二五

特許第一〇三四九三號 殺蟲劑

〔内容〕除蟲菊及煙草粉末を「エーテル」にて処理したる「エキス」と「アカエイ」の肝臓油に硫黄を加熱溶解したるものとを混合處理してなる殺蟲劑。

鈴木 四郎

東京府北豊島郡長崎町
西向一四二八

特許第九七〇〇一號 殺蟲劑製法

〔内容〕畦草を主成分とし之に青豆粉並に小麦の粉等を混和したる糞を誘引集せしめ本劑に接觸と同時に直に死滅せしむる殺蟲劑の製法。

稻垣 健治

尾崎市西本町
北通四丁目一〇五

特許第九四二五一號 蠶兒硬化病防止劑

〔内容〕「ピロ」粘液酸に過燻酸曹達を配合したるもの

にして蠶體を害することなく上簇率を向上せしむる蠶兒硬化病防止劑。

平井 正夫

廣島縣沼隈郡
浦崎村甲三三一

藤田 政輔

東京府赤坂區
丹後町七七

特許第九六七七號 防蟻用含水乳劑製造法

〔内容〕石油の原油若くは重油に對する特殊處理の後有機性化合物の混合物を混合し乳化せしむる事の特許とする製造法。

高橋 寅市

廣島縣沼隈郡
浦崎村甲三三一

特許第九六五〇〇號 蠶病防除液

〔内容〕石灰水及「アルコール」又は燒酎の混和液に松の花粉を加へたるを桑葉に撒布して給桑し蠶の病害を防除し食慾を増進せしむる藥液。

蓑谷 香苗

埼玉縣大里郡熊谷町
大字熊谷が通二〇一

下田 淳

東京府西多摩郡
西多摩村一七九三

特許第九四三三三號 蠶兒の硬化病防除粉劑の製造方法

〔内容〕「サルチル」酸と酸性白土を材料とせる蠶の硬化病の豫防及消毒藥として有効なる粉末劑の製法。

丹羽 保次郎

東京府北豊島郡
瀧野川町田端四九〇

井口 泰輔

東京府佐原郡目黒町中
目黒五丁目黒ホテ九

特許第九六八九二號 寫眞電送方式

〔内容〕周波帯域内の低周波部分のみを選出して搬送波を用ひて變調せしめ斯くして生じたる被變調搬送電流と變化を受けざる殘餘の寫眞周波電流とを共儘同時に送信するを特徴とする方式。

〔丹羽氏略歴〕明治二十六年四月一日生にして大正五年東京帝大卒業、大正十五年工學博士の學位を受く、電氣試驗所技師を経て現在は日本電氣株式會社取締役技師長。

中西 金次郎

關西市博多
片土居町二一

特許第九八五六六號 光電流發生裝置

〔内容〕圓板の周縁に光線の通過部分と反射部分とを交互に且等間隔に配設し單一光源よりの光線を通過光線及反射光線に分光し複數の脈動光束を生ずべき廻轉圓板を使用する裝置。

今川 唯市

東京府豊多摩郡
澁谷町北谷八

特許第九六二三七號 塵芥燒却爐

〔内容〕塵芥燒却爐の周壁を二重とし空氣豫熱室を形成せられたるものなり。

成せしめ特殊工作により塵芥に迅速且普遍的に多量の熱空氣を供給し之を乾燥せしめ以て其燃焼を良好ならしむる裝置。

加藤 英男

東京府豊多摩郡
杉並町字田端二三

特許第九五七八〇號 塵芥燒却爐

〔内容〕横置型圓筒狀爐室内の上位に特殊なる一連の塵芥燒却爐を懸吊し爐室底に爐床を設備すると共に反對上面に煙塵收容函を收納せる再燃「ドーム」を形成せる裝置。

吉池 極

川崎市戸手通三八

特許第一〇三二三三號 塵芥燒却爐

〔内容〕上部に煙道を設けたる燒却室に豫熱室を設け其底部開口に連り階段狀爐格を配設し而して押送板と聯動して廻動する殘灰排除器を設けたる機構。

高橋 新太郎

東京府赤坂區檢町三

特許第九五七三三號 塵芥燒却爐

〔内容〕特殊裝置に依り燒却物と補助燃料とが斜面上に於て接觸滑落しつつ燃焼せしむるを特徴とし燃焼中に於て補助燃料の補給を自動的に行はしむる裝置。

竹島 茂郎

東京府瀧野川區
中里町三四一

特許第一〇二八三一號 組立式塵芥燒却器

〔内容〕上下面を扇形となせる立枠に關聯する特殊構造により通風良好にして燃焼完全なる組立式機構。



島崎 孝彦
一町廣區川澁東市阪大

特許第一一七七八七號 迴轉式撒氣方法に依る下水淨化裝置

〔内容〕本發明は下水淨化法として近年顯著なる發達を遂げたる促進汚泥法に於て現今公知の方法にては効率良く且經濟的なるもの尠きに鑑み之が最も合理的にして經濟的なる方法を考案工夫せるものなり、即ち本發明に於ては撒氣版を槽底に近く裝置せる垂直軸の圍りに廻轉せらるる水平腕の配氣室上部に取付け、該配氣室中に上方より壓縮空氣を導入しつつ適當なる速度を以て廻轉することに依り撒氣版を通して下水に細微なる氣泡のみを連續的且均等に噴出せしめ、更に該撒氣裝置の廻轉に伴ふ下水の旋廻流の影響に依り該氣泡をして槽内下水の全部に均等に渦卷旋廻しつつ上昇し長時間下水との接觸を保持せしむることに因り下水を淨化し得べからしめたる裝置にして、少量の空氣を以て下水淨化の行程を最も効率良く遂行せしめ以て經濟的に其目的を達成し得べからしめたり。

〔略歴〕氏は明治三十一年第三高等學校工學部土木科の出身にして埼玉縣技師、朝鮮總督府勅任技師等を経て現在大阪市水道部長たり。其間昭和四年より同五年に至り上下水道視察



水庭 松吉
社業工庭水
通南町新區西市阪大
地番八十目丁四

特許第七八三一四號 水中式高速燃焼塵芥燒却爐

〔内容〕本機は塵芥を燃料として液體、固形物共燒却するものと、塵芥と燃料を併用液體、固形物共燒却するものと、燃料のみを以て液體、固形物共燒却するものとの三種あり、然して左の特徵を有す、一、爐の投入口大なるが故に運搬車より其儘投入し絶對に撰別せず又投入口外に塵芥の零れる事なく衛生的なり、二、完全に燃焼するが故に灰出後水を掛ける手數なく灰は完全に肥料となる、且つ高速燃焼なると爐の内容大なる爲に多量燒却を可能ならしむる、三、爐の構造及投入方法簡單にして殆ど手數を要せず且つ堅牢にして補助燃料を絶對に要せざるが故に經濟的なり、四、取扱平易、頑丈なる金具を使用せるが故に永久使用に耐へ體裁頗る良好なり。

栗林 康一

東京府南葛飾郡寺島町
字須崎三〇七

特許第九六三一九號 護膜玩具の製造方法

〔内容〕未和硫磺にて豫め大小長短所要の管状體を作り其芯孔に金屬線を挿通し適宜の形状に組立てたる後之を上下型に入れ壓搾成形し然る後和硫を施す製造法。

山崎 泰信

東京市世田谷區
太子堂町一二二

小幡 浩

東京市大森區
雪ヶ谷町六二七

特許第一〇一四四六號 柔軟質護膜品の製造方法

〔内容〕氯化し難き油状液中に護膜を加へ加熱溶解の後硫黄、硫化促進劑及充填劑を混和して均質なる「ゾル」状液を造り之を型器に充填し加熱和硫を施す事の特徴とする製法。

藤田 光治郎

神戸市明和通二丁目一
阪東調帯護膜
合資會社内

特許第九四四二二號 中履附護膜靴製造法

〔内容〕金屬製靴芯型の靴狀中履を形成せしめたる未和硫磺にて織布を挟みて貼着し其外周全面に滑石粉等を附着せしめ更に其外面を未和硫磺にて被覆し護膜靴を形成せしめ然る後和硫工程を施す製法。

福澤 吉之助

東京市小石川區
八千代町三六

特許第一〇二四四一號 防水護膜布製造方法

〔内容〕和硫劑及其他の配合物を混和したる護膜溶液に對し纖維細末を特殊操作の下に混和し塗料を施して和硫する事の特徴とする製造法。

松山 由助

大阪市東區博愛町
四丁目一六

特許第九七六一九號 護膜風船製造法

〔内容〕一本の長き護膜管に適當の間隔を存して連続的に多數の膨脹部を形成し以て玩具として興味多き護膜風船を極めて簡単に製造する法。

小林 慎輔

東京市本所區
向島二ノ一

特許第一〇三六九五號 「セミノリツドタイヤ」製造法

〔内容〕中空部を比較的均等に保つべく半和硫せる芯管を豫め備えしめ膨脹氣體を芯管内に外部より噴入し膨脹せしむる事の特徴とする製品の製法。

坂卷 忠吾

東京市南區寺島町
四丁目二二

特許第九八五八六號 「フェルト」面に防水層を形成する方法

〔内容〕乾燥油の煮沸液中に生「ゴム」及硫黄を添加し

て得たる粘糊性物質を「フェルト」の起毛の燒取面に塗布し其上に前記粘糊性物質の「ベンゾール」溶液を塗布し乾燥後其表面に「ラッカー」液を塗布する「フェルト」面の防水層の製法。

谷口 勝季

東京市豊島區目白町
四丁目四三

特許第九七五八號 透水性「エポナイト」體を製造する方法

〔内容〕「エポナイト」原料中に澱粉を混和し之に水を添加し適當に形成せし後水を盛りたる容器中に之を收容し其の儘加熱蒸気釜内にて加熱して「エポナイト」體を製造する法。

森 常治

東京府北豐島郡
長崎町一九七四

特許第一〇〇九九四號 絶縁用硬質護膜製造法

〔内容〕硬質護膜原料に漆に硫黄を添加せる重合物及乾性油の重合物を加へ練捏混合して板狀となし所要の型に入れ加熱加壓し硬化せしむる事の特徴とする製法。

草間 時蕃

神奈川県三浦郡
逗子町川間六四八

特許第九七六四號 逆縮合硫化護膜の製造法

〔内容〕硫化護膜を「テトラリン」を用ひて適當時間特

富士省 三

宇都宮市二條町
一三三

福田 辰造

宇都宮市戸祭町
一八九

特許第九六一八九號 植物性油より凝性護膜を製造する方法

〔内容〕植物性油に炭酸鉛を加へ加熱して炭酸鉛の分解作用を起さしめ更に加熱し炭酸瓦斯の發生を終ると共に被膜を生ぜしめ次に攝氏三五〇度附近迄温度を上昇せしめ後冷却して帶青褐色の粘稠液を得て乾燥せしむる凝性護膜製法。

岩淵 徳助

東京府北豐島郡
瀧野川町字田端新町
一丁目一二二

特許第九七四〇七號 液狀「ゴム」製造方法

〔内容〕「アンモニウム」性「ゴム」ラテックス、苛性曹達鹽化「ベンゾール」、沈降性硫黄、「ウルカチット」、「ゼラチン」及酸化鐵を混和して成る液狀「ゴム」の製法。

井口 豊八郎

廣島市段原町四一八

特許第九五一七號 「コロリネーテッド、ラバー」製造法

〔内容〕生護膜溶液に酸性白土を加へ不活性瓦斯にて稀釋せる鹽素瓦斯を通し鹽酸を發生するや溶液の温度

池田 菊苗

東京市麹町區富十町
五丁目一六

特許第九四八〇三號 耐酸塗料製造法

〔内容〕護膜を加熱溶解せる液に硫黄又は鹽化硫黄を加へ和硫せしめ耐酸塗料を製造する法。

波田 強一

東京市本郷區
弓町一ノ八

特許第一〇二二九二號 熱硫化用「ゴム」溶液製造方法

〔内容〕「ゴム」溶液中に硫化劑として硫黄を加ふる方法に於て硫黄を二硫化炭素溶液として加ふる事の特徴とする製造法。

西川 文二

廣島市三條町大字橋本
官有五三ノ一

特許第九四四七七號 護膜草履製造方法

〔内容〕草履の頭部に中空部分ありて草履裏に開通し前鼻緒の装着に便なると共に之が踏切れることなき護膜草履の製造法。

渡邊 金次郎

東京府原郡大崎町
谷山二二四

特許第九四一四五號 有溝調車に使用する無端環狀「ベルト」の製造方法

〔内容〕引張力に耐へ強靱可撓性に富み容易に織布絲

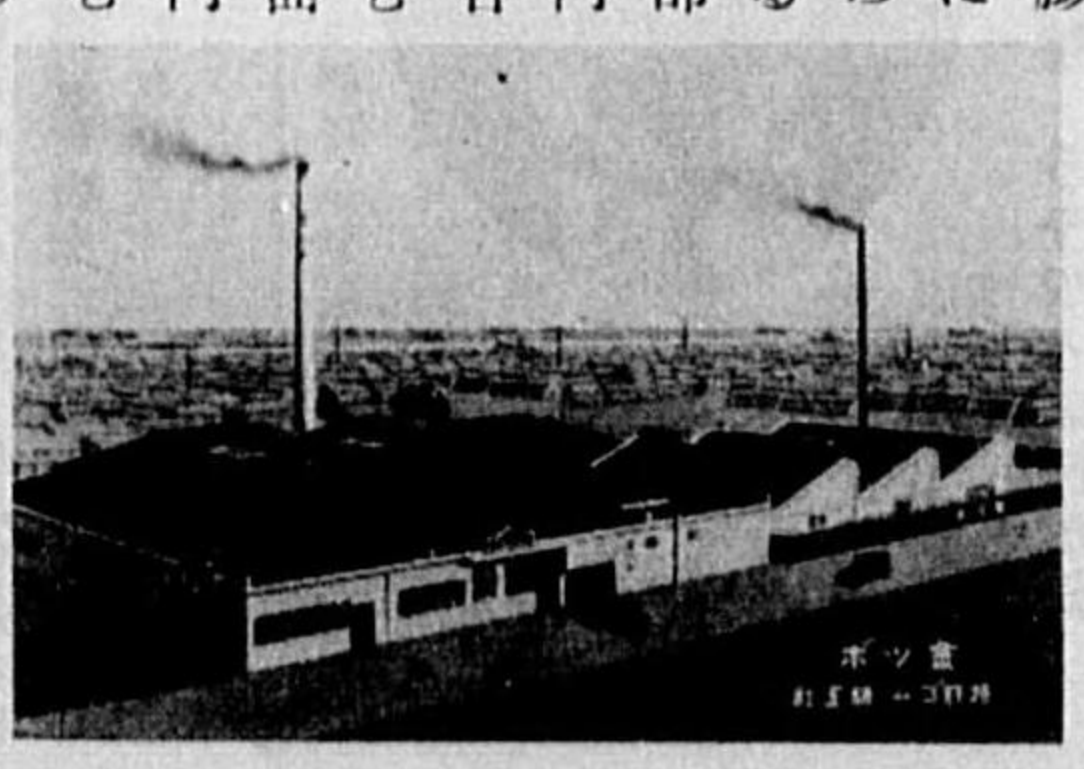
特許「ゴム」精工社

大坪 正一

大阪府東成區猪飼野
中六丁目八番地

特許第七七一四八號 同第七九七八號 織目無し「ゴム」靴製造法

〔内容〕従來の「ゴム」靴製造法にありては靴の踵及び脚の兩側を膨出せしめんとするに於て靴の外側に外型の織目線を現出せざるを得ず、蓋し膨出部分を形成するには内外兩型に相互に適合する曲面を有せしむるを要し、而して曲面を有せしむれば内外兩型を嵌脱せしむるため外型を分割するを要し、分割型を使用すれば靴の外側に織目線を現出するは止むを得ざる所なり、然るに本發明は無織目單一なる外型を使用して豫備和硫を行ひ、靴の外表面を滑澤に形成したる後該外型を除去し所要凸曲面を有する内型補助片を使用して仕上げ乾燥を行ひ、踵及び兩側を膨出する様なしたる故に靴の外表面には見苦しき型の織目線を表はさず、全面一様に滑澤なると共に踵及



び両側は所要の曲面を有し體裁穿心地等良好なる織目無しゴム靴を製作し得る特徴を有するものなり。

製品の主なるもの、内拍車止兼用足脱ぎ付ゴム長靴は手を觸ることなく足にて脱靴し得るが故に衛生的なり、又管内靴は様出のため脚皮を破損せず、踵及び先底の離れること絶無にして磨滅の甚しき箇所はゴム肉付を特に厚くし、歩行爽快且つ疲労を感じず、上靴は上部内裏厚毛メリヤス、内底上部帆布付にして空気の流通良きために蒸すことなく故に悪臭を發せず、何れも老化防止劑配合にして水壓壓着付なるが故に堅牢無比なり。

米村 甚六

東京市牛込區市ケ谷町九五

特許第九八三三三號 「メリヤス」手袋製造法

〔内容〕「アンモニア」混入「ラテックス」に鮭の卵を壓搾して得たる油狀物を混和したるものを「メリヤス」手袋の表面に塗り後之に生保護液「ラテックス」「ベンゼン」等の混合特殊泥狀體を數回反覆塗着し後和硫せしむる製法。

谷正一

山口縣玖波郡柳井町大字柳井津二七一

特許第九五一九八號 野球用「ボール」製造法

〔内容〕「コルク」層を生「ゴム」及和硫劑並に動植物織の大半を占むるものにして之が省略し得ることは經濟的大なる特徴と謂はざる可からず、然も本質的特徴としては「ラテックス」は僅かに防腐劑として「アンモニア」を加へたるのみにて之を其ま、硫化、配合、成型の工程を経て製品となすが故に化學的又は機械的影響を受けざるを以て數倍の老抵抗を有するものなり。目下主として薄層製品製造なれども將來ゴム製品全般に應用せらるゝの時期の到來する蓋し遠きにあらざるべし。

佐藤 奈嘉雄

東京市下谷區御徒町一ノ一七

特許第一〇三七〇二號 護膜底地下足袋製造法

〔内容〕底型の内面に石鹼液と護膜和硫促進劑の「アルコール」溶液との混合溶液を塗布し未和硫護膜を底型内に充填し加壓成形する特徴とする製造法。

坂詰 彌七

東京府南葛飾郡寺島町大字寺島一ノ二〇

特許第九五二二二號 自動車用「ファンベルト」製造法

〔内容〕操作簡單にして同時に多數の溫暖なる自動車用「ファンベルト」を製造する方法。

木多半之介

神戸市林田區三番町二丁目三ノ一

特許第一〇三三三三號 水に分散性ある「ゴム」の製造法

〔内容〕生「ゴム」に膠と石鹼の水溶液並に「ゴム」溶劑

維の混合物を以て煉り規定重量に相當する量を探り之を強壓して規定の大きさ迄壓縮して後和硫せしめて成る野球用「ボール」製法。

武川 泰雄

東京市下谷區中眞島町一ノ四

特許第九七五四二號 護膜層を密着せる薄層「フェルト」生地製造法

〔内容〕「フェルト」生地を未和硫の「ゴム」層を壓着し和硫後「フェルト」地層の中央層部に於て之を二層に割斷する特徴とする片面に「ゴム」層を密着せしめたる薄層「フェルト」生地製造法。

山元 清市

東京市淺草區元島越町一

特許第九九〇一五號 履物底製造法

〔内容〕「カユタラップ」樹皮を網狀「シート」に延展し之を和硫劑を配合せる生保護劑にて累積貼合し「プロック」狀とせるものを斜に薄く裁斷し其裁斷面が表面に露出する様に貼合し加熱和硫する事の特徴とする製法。

増田 繁三

横濱市磯子區西根岸芝生一〇四

特許第九五七九四號 野球用「ボール」を製造する方法

〔内容〕山吹の心のみを抜き粉末となし之に膠及護膜液と混合し壓搾乾燥し「キルク」塊の周囲を護膜液「キルク」粉末等と混和して巻き其外周を毛絲層和硫促進劑等の混合物にて巻き後型に入れて和硫する軟式野球

球用「ボール」の製法。

小室 泰治

横濱市神奈川區南郷井澤二五

特許第一〇三五九五號 固體面に三重層護膜「ライニング」を施す方法

〔内容〕任意の形態を有する固體の表面に未和硫軟質護膜層を接着によりて密着せしめ該層上に硬質未和硫護膜層及軟質未和硫護膜層を順次に貼着し後に全體を和硫する事の特徴とする方法。



寺島 榮次

東京市豊島區西巢鴨三丁目四番七十七番地

特許第一〇三九一八號 ラテックス燻成法

〔内容〕本法はゴム製品の製造に必要な溶劑として「ガソリン」「ベンゾール」等に代ふるに「ラテックス」を以てする方法にして、「ラテックス」を直接原料として製品を製造する場合は元來「ラテックス」は液體なるが故に、一、ロール作業を省略し得ること、二、別に溶劑を必要とせざること、三、投下資本少額にて足ること、四、火災の危険なきこと、五、機械的危険なきこと等の特徴を挙げ得るれども特に從來のシートゴム工業に於けるロール作業は全工程

を添加し冷却状態にて混練し加温し且温湯を添加しつつ攪拌して粘土狀となす特徴とする製造法。



橋本 寅吉

高島市西高島九丁目九番九通

特許第一〇三二二五號 不延燒護膜

〔内容〕本品は生ゴムに酵素糖分並に或種の耐火劑を特種條件の下に配合することに依り炭酸瓦斯を發生せしめゴムの延燒を停止せしめたるものなり。現在電線を被防するゴムは日本のみにて年々一億圓に近き巨額の需要あり、かつ從來ゴム自體を不燃燒とすることは絶対に不可能とされ、ゴムの表面をエナメル等にて密封することによりて僅かに漏電の防止につとめたる點よりすれば、此ゴム自體の不燃燒を確證する本特許は實用的に寄與する所頗る多大なるものあると同時に學術的にも亦大なる價值を有するものと云ふべし。

〔略歴〕氏は明治二十三年の出生、絹布再製業を営み、傍ら發明考案に意を致し種々研究する所あり、本發明の如きは實に八年間の日子と多大なる經濟的犠牲とを拂ひ、克苦能く之を完成するに至りしものなり。然して本發明は大正十五年頃より人造ゴムの精製に着眼したるに基因し電氣工學界の權威東京大教授青柳榮司博士の熱

心なる指導によりたるものなり。

三松 六藏

大阪市東區高麗橋詰四ノ一

特許第九八一〇九號 護膜引紙布の製造法

〔内容〕平滑なる版面に護膜液を噴霧して護膜の薄皮を形成せしめ之に護膜を塗着せる紙又は布を壓着して後護膜膜を紙布と共に平滑面より剥取し後硫化する護膜引紙布の製造法。

清水 孫太郎

東京市本郷區駒込富士前町三四 福圓方

特許第一〇二六五三號 護膜「タイル」接着劑の製造法

〔内容〕「アスファルト」に特殊再生「ゴム」を適度に加へたるものを加熱融解するか又は混和「ロール」によりて練和し板狀となす事の特徴とする方法。

森本 象逸

東京府豊多摩郡中野區雑色三三八

特許第九七三三三號 護膜「セメント」

〔内容〕護膜及「バルサム」サルファイドを「ベンゾール」及二硫化炭素に溶解せる溶液に「ニトロセルローズ」と「ヤッカゴム」液を均一に混和してなる耐油性強力なる護膜「セメント」

河尻 重直

東京府荏原郡荏原町戸越四九一

日高善兵衛

東京市荒川区三河島町三ノ二七三四

特許第一〇二九八二號 巻取擬重護型版の製造方法

〔内容〕 轉寫すべき護謄生地を練合「ロール」にて練出すると同時に之と重合巻き出して「シボ」の型付をなすに適し實物に皮の「シボ」を正確に復寫し得べき型版を得んとする製法。

杉井肇

東京市麻布區市兵衛町一ノ一

特許第一〇〇六一六號 護謄「タイル」製造方法

〔内容〕 特殊工作を施せる鐵板の全正面を比較的少量の和硫促進劑を含む未和硫「エポナイト」の薄層を以て被覆し更に其上に未和硫「ゴム」層を貼着し之を加壓和硫する事の特徴とする製法。

石黒圭助

東京市豊島區巢鴨一ノ一三五

特許第一〇〇三三三號 石膏型用雄型の製造方法

〔内容〕 石膏澱粉及食鹽の混合物を水にて捏和したるものを以て雌型を印像し之に石膏「アラスター」を填充凝固せしめたる後沸騰水に浸漬し而して雌型を崩壊分離する事の特徴とする製法。

堀井重治

名古屋市東區杉村町八坪三〇五五

特許第一〇一七八二號 硬質「ボール」器材製造方法

〔内容〕 植物性纖維に澱粉水酸化「カルシウム」其他の

補硬材料を混和したるものを礫酸「ナトリウム」の稀薄溶液にて纖維質と爲し之を壓搾製形して加熱し澱粉を糊精となしたる後乾燥する事の特徴とする製法。

井上春成

東京市豊谷區代々木西原町九五七

特許第一〇〇五二八號 船艦の模型用「パラフィン」の製法

〔内容〕 「パラフィン」を主成分とし之に「パラフィン」より低き融點或は「パラフィン」と混合して「パラフィン」より低き融點を示す木蠟等を混合熔融して製造する事の特徴とする製法。

鳥山萬助

名古屋市東區千種町南畑四〇

特許第一〇一八三三號 硬質「フアイバー」製造法

〔内容〕 植物性粗製纖維を主體とし之に動物性又は動物性纖維を混合して加熱壓搾し之を樹脂の「テレピン」熔液に浸漬して浸潤せしむる事の特徴とする製造法。

利倉駒次郎

大阪市西淀川區大仁西二丁目一

特許第九八二九二號 「アラスター・コンパウンド」製造方法

〔内容〕 「ギルソナイト」及「アスファルト」基重油を混和し加熱処理したるものに「アロウ・アスファルト」及植物性乾性油を混和したるものに「オゾケライト」並に雲母末を配合して製造する方法。

尾藤加勢士

東京市豊谷區向山町一四

特許第一〇一六〇七號 油粘土の製造法

〔内容〕 硫酸及「アルミナ」を主成分とする粘土に硫酸の粉末を混じり濃縮せる「ワセリン」を以て捏和する油粘土の製造法。

谷本

東京市神田區駿河臺鈴木町二

特許第一〇二二九二號 「ボール」製造法

〔内容〕 木質末晒「パルプ」に對し毛屑及澱粉糊を混合して得たる泥狀體に別に膠、樹脂、護謄を混合加熱攪拌して得たる固結劑を練合捏和することを特徴としたる製造法。

高村堅之助

東京市下谷區中根岸町七三

特許第九五七〇二號 野球用「ホッケイ用ボール」の核心製造法

〔内容〕 特殊密着力大なる溶液中に細末「キルク」一般彈力「ゴム」細條等を入れ練合して型に入れ熱度を加へ乾燥し型を除去し弱酸性液中にて「アルカリ」性を中和し製する方法。

彈俊男

大阪市東區高麗橋三丁目二六

特許第九六二六三號 可塑性物質の成形と同時に補強装置をなすべき製造方法

〔内容〕 補強資料を成形物の上層全體に此の皺縮だも

生ぜしめず帯同せしめる製造方法。

永田實

東京府南葛飾郡本砂町永代二八五

特許第一〇三五一號 蟹漁網用並に一般漁網用沈子製造法

〔内容〕 特殊纖維の乾燥物に石綿纖維を加へ之を糖蜜廢液に粘度粉末を混合したる中に投入更に漂青質を混じり熔解し融合せるものと鐵砂を混合練合せて成型凝固する製法。

上野貫三郎

京都市東山區清水五丁目二七

特許第九八一二五號 陶磁器を應用せる模型製造法

〔内容〕 無軸陶磁器にて作りたる模型生地を適度に加熱しつゝ蠟溶液中に浸漬して之に蠟を吸収せしめ之が表面に更に蠟熔液を塗布して蠟層を形成せしめ之に適宜の彩色を施す製造法。

山口茂

東京府北豐島郡西巢鴨町大字池袋七四〇

特許第九五〇四〇號 防水性地下埋設用管を製造する方法

〔内容〕 古新聞紙古雑誌「パルプ」類を材料として輕量且つ防水性にして破損せざる埋設用陶器管「アスベスト」管「セメント」管の代用品を極めて廉價に製造する方法。

東林之助

大阪市此花區吉野町一ノ五〇

特許第一〇〇七九六號 搬器器機目無「コリン」型振動板の製造方法

〔内容〕 「コリン」型金網の全面に「パルプ」を供給し供給「パルプ」の上面を他の金網にて押へたる儘壓搾し乾燥し之を濕ぼし其内面に形状等しき金網を置き加熱しつゝ均齊に壓搾してなる製造方法。



山越長七

特許第二四三八一號 山越式硬質蠟製品製造法

〔内容〕 本發明はカルナウバワックス、石膏、澱粉、燒明礬、重炭酸曹達を混合煮沸して成る蠟液を石膏又は寒天製蠟型へ注入して冷却凝結せしめたるものへ、適宜の彫刻を施す硬質蠟製品の製造法にして、製品は耐熱耐寒性にして緻密なる彫刻を施し得るのみならず破損の憂なき特徴を有するものなり。

〔略歴〕 本邦に於ける學術模型製作事業は明治八年大學南校内に設けられたるに始まり、當時氏の先代は北川氏に師事して之に従事し同十五年下谷區竹町に人體解剖模型の工場を設置し、更に同三十三年御徒町に移轉し山越工作所と稱して模型製作の外博物標本、理化學機械の製造

秋岡寅作

大阪市東區蒲生町五四

特許第一〇〇三三〇號 可塑性物質の成形と同時に補強布片を上面に被着せしむべき製造方法

〔内容〕 水に可溶の接着劑を塗布し厚層にして起毛を有する柔軟性布片を叩打する如くにして貼着し直に煮沸せる可塑性資料を注入し其凝固を俟つて水漬し離型せしむる事の特徴とする方法。

森嘉吉

東京市本郷區駒込淺草町七〇

特許第九六七一二號 可塑性「ゴム」粘土製造法

〔内容〕 原料「ゴム」製品「ゴム」等より極めて可塑性に富み且程度まで水を包含し得る物質を造り之に硫酸油類及粘土を混じて可塑性物を製造する方法。

石川幸二

横濱市神奈川區國野町一〇二

特許第一〇二二三九號 鋸屑を利用して立體物を製作する方法

〔内容〕 型の内面に水、石鹼、油の混合液を塗し其稍

々硬化したる後植物性糊液を吹付け乾燥後水分の伸介の下に鉛層の層を作り特殊なる苛性曹達溶液にて混和せる鉛層を型に充填し全體に加壓してなる製法。

稲田 勇太郎

東京市世田谷区
太子堂町一六九

齊 藤 正 平

東京市豊谷区
代々木山谷町一四一

特許第一〇一四二七號 敷物製造法

〔内容〕酸化油、「コルク」粉、充填料の他に「セルロイド」の濃厚溶液及「サプスチチユート」を混和したるものを加熱することなく軟状態にて冷帳子により壓延する事特徴とする製法。

大 關 鎮

東京市荏原区
中延町一〇九一

特許第一〇一〇五五號 着色「アスファルト」ノリアム製造法

〔内容〕熔融点高き「アスファルト」と「ミネラルバ」を加熱熔融せしめたるものに關聯する特殊工程の後適度の弾性と粘性を具備する製品。

西 潟 仁 十

東京市浅草区
馬道町八ノ一二

特許第九九九三號 蓄音機用軟質「レコード」製造法

〔内容〕無水蓖麻子油石鹼に硝化纖維素を加へ之に溶劑及着色料を適度に注加し混練したるものを薄板となし之を盤面に貼付して成る製法。

豊 島 克 巳

大阪市西成区
田端通四ノ三

特許第一〇三九六八號 「サウンドフィルム」製造方法

〔内容〕録音部分に於て「フィルム」素地の厚さを變更し又は録音溝の周囲に小皺を生ずる等の缺點なく明確に録音をなし得る特殊製法。

武 田 證 助

大阪市南区高津
九番丁一

特許第九七五四三號 再生纖維素薄膜を利用したる音譜盤

〔内容〕吸墨紙を主體とし「セラチン」を以て再生纖維素薄膜を壓着せしめて成る音譜盤自體に耐久性及び屈撓自由ならしむる蓄音器音譜盤。

久 保 久 治

東京市芝区白金
三光町三〇一

特許第一〇一八八〇號 蓄音機用「レコード」板

〔内容〕「アルミニウム」原板に所要の音線を切込みたる後原板に酸化皮膜を形成せしめたる事特徴とする製品。

藤 井 重 房

川崎市大田区
一七五

特許第一〇一〇二二號 蓄音機「レコード」

〔内容〕細き中空管に縱裂を作りて之より其内空に「レコード」用可塑物を充填したる後に壓縮を加へ該縱裂に沿ひて音道を壓刻すべくしたる製品。

橋 本 道 之 助

大阪市天王寺区
石ヶ辻町九二

特許第一〇三〇四六號 「セルロイド」乾燥法

〔内容〕「セルロイド」を生石灰を空氣中に自然に消化せしめたる粉末中にて微熱することを特徴とする乾燥法。

小 西 正 三

大阪府中河内郡加美村
字藏作新家三十九番地

特許第八八三四〇號 「循環レコード」

〔内容〕無端帯を渦巻に巻き其の内端の表面と外端の裏面とを相連結せしめたる両面に其の全長に亘り多數條の音溝を並列し、音溝は其第一條の表面の終りは第一條の裏面の始まりとなり第二條の表面の終りは第二條の裏面の始まりとなり以下順次同様に連続せしめたる循環レコードなり、即ち無端帯が一回循環する毎に針は表面第一條の音溝より裏面第一條の音溝に移り次に表面第二條の音溝に移り遂に全音溝に移る間には多數回循環するが故に非常に長時間に亘り演奏を繼續することを得、且つ容積は極度に縮少せらるゝが故に場所を取ることなく、取扱又簡便なるものとす、又等速度に針を摺るものなるが故に發音整一にして且つ單位發音に對する音溝の量を長く取ることが得るが故に高位置の發音をなさせしめ之を明瞭ならしむる等の効果をも有するものなり。

尙原特許第八八三四〇號は片面なりしを両面

音溝に改良して同一の材料を以て片面のものより二倍の長時間に亘り演奏する様にしたるものなり。

小 川 順 造

京都市伏見区桃山町
松平武藏一八ノ一

特許第一〇二七五三號 「アルカリ」纖維素板移送装置

〔内容〕浸漬容器の後下部に設置されたる循環式移送板に關聯する特殊機構により自動的に且一様に碎粉機に移送供給せしめ操作を整正ならしむる装置。

中 根 一 二

神戸市東灘区
熊野町五ノ一二四

特許第一〇三六五〇號 「ビスコース」式人造絹絲「ザンテート」溶解器

〔内容〕完全に氣密となし且外周面を水套にて包被せる容器に關聯する特殊なる機構により可溶物を壓潰し各種操作により溶解を促進すると共に一個の容器内に於て諸操作を反覆し得べからしむる装置。

富 久 力 松

大阪市南区瓦屋町
三番丁六五

斧 原 甚 三 郎

大阪市浪速区
南高岸町四三

特許第九八四六四號 「セルローススポンジ」の製造方法

〔内容〕「ビスコース」に炭酸「ナトリウム」硫酸「アンモニウム」等と共に「アルミニウム」鹽を混和し加熱凝固せしめて「スポンジ」状となしたる後石鹼液を以て處理する製法。

青 木 藤 太 郎

東京市大森区
新井宿六ノ四二六

特許第一〇三四五二號 「ビスコース」の製造法

〔内容〕蓖麻子油其他の油類より得たる「ロッド」油を更に硝酸及硫酸の混酸又は發烟硝酸にて處理して得たるものを「アンモニウム」水に溶解しこれに「ビスコース」膠状のものを加ふる事特徴とする製法。

井 東 春 吾

東京市芝区新堀町三八

特許第九九四五六號 金屬寫眞版術に依り圖形又は文字を有せしめたる「セルロイド」の製造法

〔内容〕特殊工作の「セルロイド」面に鍍金をなし之に圖形又は文字を現出せしめ透明「セルロイド」溶液を塗布露出操作を施し次に透明ラッカーを塗布してなる製法。

池 上 勝 太 郎

東京市葛飾区新江町
西小松川二四五六

特許第九九六九八號 「ビスコース」キヤツプシール貯藏法

〔内容〕生「ビスコース」キヤツプシールを「アルカリ」性溶液を以て處理して中性と爲したる後之を水と共に容器に收納し加熱密封する事特徴とする貯藏法。

伴 野 賢 造

東京府豊多摩郡
中野町字住吉二七

特許第九八八五三號 「ビスコース」溶液壓出嘴

〔内容〕適當の間隙を存して層重せる二枚の陶器板を

包函内に固嵌し兩板の全長を通して構成せる充液溝に通せしむると共に其端部を包函に構成せる導液溝と相通せしめたる装置。

二 木 康 吉

名古屋市南区
柳ヶ枝町一ノ一六

特許第一〇一六九五號 芯を有する纖維素薄膜の製造方法

〔内容〕纖維素膜の製造工程中に於て二個の「ビスコース」壓出口を裝備し同時に兩口より「ビスコース」を壓出する時兩口の間より任意の性能を有する紙を進行せしめ「ビスコース」と合せしむる法。

新 島 精 一

東京市板橋区
志村小豆澤町六一五

特許第一〇一九〇八號 型用「セルロイド」原板製造法

〔内容〕實物の表面に乾燥油を塗布したる上に「ゴム」溶液を塗布し乾燥後「セルロイド」溶液を吹付けつゝ其薄層を形成し之に適當厚さの「セルロイド」板を密着し薄層と共に剝離して成る製品。

高 野 欽 之 介

東京市下谷区中根岸町
八一安達泰英方

特許第一〇三二五四號 紙又は布等の表面に防水性光澤被覆をなす方法

〔内容〕任意の色彩を有する「ビスコース」膜を明礬「セラチン」及び「カゼイン」を適量の水に溶解せしめ之に「アルコール」を添加したるものに關聯する特殊の處理により柔軟にして防水性の透明光澤面を得る方法。

道波隆

兵庫縣川邊郡
小田村字次屋三三〇

特許第一〇三三一八號 再生纖維素皮膚の處理法

〔内容〕遊離「フォルムアルデヒド」を「グリセリン」を含める尿素「フォルマリン」初期縮合物の水溶液を塗付液とする處理法。



高塚 巖

大阪府大阪市東區
北區九地番

特許第一〇二八〇號 ヴィスコース・キヤツフ貯藏法

〔内容〕本發明はヴィスコースを原料とする塚口密閉用キヤツフを未乾燥のまま「グリセリン」と「カルチル酸」の適量混合溶液中に浸漬してキヤツフの内外面へ前記薬液を浸飽状態に於て皮膜状に附着せしめたることを特徴とする貯藏法にして、未使用のヴィスコース・キヤツフを永く空氣中に放置するも腐敗酸酵及び乾燥することなく生成當時の原型と質を其の儘永く保持し得るものなり。故に従來の如く常時液體中に浸漬のまゝ貯藏する要なく且つ未使用のキヤツフを遠隔の地に輸送する場合と雖も従來の液漬のまま輸送するに比し重量と容積を著しく軽減し得るを以て營業上にも大なる効果を有す。



山崎龜之助

大阪府大阪市東區
南區一丁目十六番

特許第一〇四五六〇號 耐濕性再生纖維素皮膚製造法

〔内容〕本發明は植物性の油を加熱して特殊薬を融合せしめ、之を油類にて稀釋溶解したる溶液を使用することを特徴とし、該溶液と硝化纖維素溶液とを混合し、此の混合溶液を「ビスコース」皮膜の如き再生纖維素皮膜に塗布し乾燥せしめて再生纖維素皮膜を耐酸性ならしむる方法にして、之と同時に再生纖維素固有の透明にして且つ可撓性なる諸性質を其の儘保有せしむるものなり。

本方法は従來の如く塗膜構成材たる樹脂類及び「パラフィン」臘を使用せざるを以て、其塗膜に脆弱性なく、之が實施に當りても敢て高温を必要とせず、任意の温度に於て均等なる塗工をなし得るの特長を有す、即ち耐酸性強く而も普通セロファン紙固有の透明を有し柔軟可撓性を

なるセロファン紙を得るものなり。包装用、裝飾用、窓硝子及障子紙の代用品となり細長片に截斷して帽子の打紐或は婦人帽の編糸等に使用する。

名島謙之助

大阪府三島郡高槻町
七田部五三

特許第九七二四一號 透寫紙製造方法

〔内容〕寒天溶液を平滑面上に薄層をなす如く流注し之に致多の孔を穿ちたる「セルロイド」或は「セロファン」の如き透明薄膜を貼着し更に其表面に寒天の薄層を形成せしめて右三層を一體となし乾燥の後平滑板より剝取する製法。

小林タカ

東京府北豐島郡
尾久町上尾久二四三〇

特許第九八九〇號 「セルロイド」脱出方法

〔内容〕「セルロイド」の表面に蛋白質の「コロイド」状透明溶液を塗布しつゝ軽く摩擦する事により優美なる表面に光澤を生ぜしむる事を特徴とする方法。

浅田幸作

東京府江戸川區
南船場町二九六一
藤井ツリフアン
研究所内

特許第一〇三五四九號 柔軟にして防濕性を有する再生纖維素フィルム及紐の製造法

〔内容〕鹽化「ゴム」と硬化油又は結晶「ステアリン」酸とより成る組成物若くは之に硝化綿を加へたる組成物を塗布する事を特徴とする製造法。

齋藤孝太郎

東京府品川區大井
南濱川町一六二三

特許第一〇三二七五號 放熱器の漏水防止劑製造法

〔内容〕昆布の細末に水より比重重きもの、粉末を加へ曹達灰或は「バルブ」を加へたるものを主劑とし之に着色劑及香料の適量を配和せしむる事より成る製法。

大森芳治

東京府荏原區
下神明町八

特許第九七八三六號 燻煙用填料

〔内容〕棉花及「バルブ」の混合物を「フェルト」状に抄成し之に紙を貼着し該紙面に特殊溶液を塗布し防水膜を形成せしめたる燻煙用填料。

吹田貢

福井縣敦賀郡敦賀町
東津内百七十八號四

特許第九九七五號 柔軟性にして且強力なる再生纖維素皮膚の製造方法

〔内容〕「ヴィスコース」溶液を製造するに際し明礬を纖維素「サントール」を溶解せんとする水に溶解せしめ以て之を溶解し更に「ロート」油を注加攪拌する事を特徴とする製法。

松風憲二

京都府東山区今熊野
南日吉町四〇ノ一

特許第九六二〇六號 齒牙齦腔内に注入し得べき根管內固化充填材

〔内容〕唾液中に於ても自ら硬化せざる金屬化合物の粉末と丁香油「クレオソール」溶液等の如く自身殺菌性を有し而かも前記金屬化合物粉末と練和し尙練和後暫らく水筒狀の流動性を保たしむる練和劑とより成る充填材。

佐々木鉄三郎

名古屋府東區
千種町仲田五

特許第一〇三八〇五號 弾力性加合物を以て壓搾形成する靴の製造方法

〔内容〕生護膜を「ベンゾール」にて處理し泥狀となし之に「セルロイド」の酒精等にて泥狀化したものとを混練したるものに關聯する特殊處理により耐久性の靴を得むとする方法。

井口豊八郎

廣島府段原町
四一八ノ一

特許第九四七三四號 尿素及び「ホルムアルデハイド」縮合物に依る製板方法

〔内容〕屈折率均一にして透明強靱なる高硬度の尿素及び「ホルムアルデハイド」縮合物に依る平板を極めて簡單なる設備を以て迅速容易に製造し而も成品と鑄型との距離を容易ならしむる製造法。

平松孝之

東京府芝區三田豐岡町
三田アパートメント
六〇平松記之方

特許第九八〇九一號 軟金屬「パツキング」

〔内容〕鉛又は錫の如き軟金屬に水銀を加へたる「アマalgam」と「セラフアイト」或は同效材料に粘性大なる

る「ピツチ」等を混合したる潤滑劑とより成る軟金屬「パツキング」

今田房雄

福岡縣若松市
濱町開七三
日華製油株式會社内

特許第九六二四一號 棉實挽殻より纖維素を製造する方法

〔内容〕棉實挽殻を「アルカリ」にて處理し其組織を破壊せしめたる後「アルカリ」鹽類及酸を作用せしめて不純物を除去し最後に漂白精製する製法。

橋田豊志

神戸市灘區都賀
神原町二ノ三二九

特許第一〇二四六〇號 特殊「ヴァルカナイズド、フアイバー」の製造方法

〔内容〕原質用原紙に鹽化亜鉛溶液を浸潤せしめたるものに關聯する特殊處理により表面硬化して強靱なるも内部は硬化程度減少したる特徴を有する製品の製法

中野春吉

神戸市葺合區
野崎通七ノ一

特許第九五八一號 「バルカナイズドフアイバー」の製品の製作方法

〔内容〕原質板片より連續帶條を製成する工程と該帶條を用ひ所製形状に編成する工程の結合を特徴とする製法。

石川透

東京府荏原郡新井町
新井宿二二八〇

特許第九五八一號 「バルカナイズドフアイバー」の製品の製作方法

〔内容〕原質板片より連續帶條を製成する工程と該帶條を用ひ所製形状に編成する工程の結合を特徴とする製法。

春 木 榮

東京市板橋區
志村小豆澤町八六五

特許第一〇一八八八號 纖維素「エステル」其他の纖維
製造原液の連續的豫備處理法

〔内容〕纖維素「エステル」等の溶液の溶劑に關聯する
特殊なる處理に依り連續的に豫備處理をなす方法。

羽 生 龍 郎

東京府豊多摩郡
澁谷町水川五三

特許第九六六五三號 粗クレゾール縮合物より「メ
タ、クレゾール」縮合物を分離
する方法

〔内容〕粗「クレゾール」と「フォルマリン」との縮合物
を「ベンゾール」或は四鹽化炭素等の溶劑を以て抽出す
る事に依り「メタ、クレゾール」樹脂を單獨に分離する
方法。
〔略歴〕大正十一年東京高工應用化學科卒業。

西 澤 恭 助

仙臺市米ヶ袋中丁五六
桐ヶ窪 孝

特許第一〇〇二五六號 「セリシン」を原料とする硬
化物並に縮合物の製法

〔内容〕「セリシン」を有機酸、無機酸「アンモニア」苛
性「アルカリ」、中性鹽類、酸性鹽類、鹼基性鹽類、「フ
エノール」類、「ナフトール」類等の化合物類を硬化劑と
したるものに關聯する特殊處理によりて成る製法。

大 河 原 和 英

神戸市河原町五九ノ三

特許第九五八四號 紙管製造方法

〔内容〕紙に特殊縮合液を塗布乾燥せしめ之に澱粉等
の接合劑を塗布して芯型上に重合捲着したる後芯型を
去り乾燥を行ひ所要の加工を施したる上加熱して紙層
を融合凝固せしむる製法。

太 田 登

大阪市西淀川區蒲江
北四丁目一六

特許第九八二七八號 「エステル、ガム」の製造方法

〔内容〕樹脂を「グリセリン」にて「エステル」化する工
程と其の「エステル」化後形成「エステル、ガム」中に水
蒸気を吹込む工程との結合を特徴とする製法。

小 川 實 一

明石市西新町一九九

特許第九六二三號 「フリクション、チスク」の製法

〔内容〕耐水耐熱耐油性の纖維より成る紐又は條に金
屬線を交へたるものを材料とし特殊工作により耐久力
を有する織目なき任意形状の強靱にして工業的有用な
る「フリクション、チスク」の製法

奥 村 猛

京都市中京區西之京
三條坊町二〇

特許第一〇〇七五三號 金屬筋入樹脂製品

〔内容〕纖維にて被覆せる金屬線を捲きてなれる所要
物體の骨子を作り之に直に又は木竹等にて所要の物體
を作り其上に前記纖維被覆金屬線を捲き付けたるものに
「ベークライト」類を塗布し加熱乾燥して成る製品。



西 羽 一 郎
神戸市神戶區
通都百目丁
番地十一

特許第九五八四號 紙管製造方法

〔内容〕本法は紙に「フェノール」と「フォルム
アルデハド」とを主劑とする縮合液を塗布し
乾燥せしむるの工程と、之に澱粉又はカゼイン
の接合劑を塗布して芯型上に重合捲着したる後
芯型を去り部分的に乾燥を行ふ工程と、之に所
要の加工を施したる上加熱して紙層を融合凝固
ならしむる工程との結合を特徴とし、耐熱、耐
酸耐アルカリ性の紙管を簡単に製造せんとする
ものにして、其製品は堅牢紙管と稱し主として
紡織糸捲用木管代用とし、各綿、毛、絹、人絹
紡績、織布工場等に使用せらる。
〔略歴〕本發明者は大河原和英氏にして明治三
十五年出生、神戸川崎造船所の模型見習工とな
り在ること十一年、其間夜間を利用して補習學
校兵庫縣立神戸工業學校別科を経て神戸工業高
等專修學校機械科を卒業し、直に神戸紙管製造
所に入社、在職約五年にして昭和六年末退社す
爾來叔父の研究室に在りて其の發明事業を助け
つゝ尙研究を続けられつゝあり。

本發明は神戸紙管製造所在職中に研究完成せ
られたるものにして當時神戸紙管製造所は勿論
全國各紡績工場は從來使用せる木管よりも

河 野 三 通 士

リグナイト工業株式会社
大阪市西淀川區野里町
七百九十四番地ノ一

特許第八二八八〇號 葉層合成物の組成材料た
る葉層製造方法

同 第八二〇二一號 スピンニングポット
同 第八五九一〇號
同 第八六三六三號
同 第八四二七五號
同 第八八五六號 齒輪製造方法
同 第八八五八號 輪體製造方法
同 第八八五六號 齒輪製造方法
同 第八八五六號 齒輪製造方法
同 第八八五六號 齒輪製造方法
同 第八八五六號 齒輪製造方法
〔内容〕人造絹絲製造用遠心機の最も肝要なる
「スピンニングポット」は從來「アルミニウム」鑄
造物又は壓延物内側に「エポナイト」を裏附けし
たるもの又は単に「エポナイト」のみを以て製せ
られたるも「アルミニウム」「エポナイト」は共

に酸の爲に腐蝕せられ、極めて短期間に破損若
くは變形して使用に堪へざるに至るものなり。
然るに數年來耐酸力の強大なる「リグナイト」を
以て之れが製造を企て、成功したるも其後機械
の回轉數増加を必要とするに至り、「ポット」も
亦之れに順應して、一層強力なるものを要する
に至れり。然かも從來は一般製法たる粉末原料
を用ひて製造せしも其質脆弱にして抗張力少な
く或る限度の回轉數に耐へ得るも之れを越ゆる
時は破壊し易き缺點あり、本方法は粉末原料に
依らず、特殊の紙又は布に「リグナイト」液を浸
潤せしめて一種の葉層帯を造り、之を捲積重層
して製造する方法なり、即ち特殊の縮合物を任
意の紙又は布に塗布浸潤せしめ、其乾燥したる
ものを適當なる芯型に捲積重層し、頸部に相當
する部分を加熱しつゝ、絞扼屈擗して鐘狀粗形體
を作成する工程と、粗形體を雌雄兩型間に挿填
し加熱しつゝ、壓搾して融合凝固せしむる工程と
の結合なる製造工程中に於て、縮合液を塗布
浸潤せる纖維質板を粗形體の底面に接着し而し
て之れを模型内に挿填し加熱壓搾して纖維質板
を以て「ポット」の底面中央部を構成せしむるこ
とを特徴とするものなり。

齒輪製造方法は從來人造樹脂質纖維葉層を豫
め齒輪の粗形に斷截形成したるものを適當に重
積し之れを型内に挿填し壓搾加熱して齒輪を製
造する方法あるも、斯くの如きは纖維葉層を輪
狀に斷截するに當り多量の截除部を出して材料
の徒損夥しきのみならず、齒輪全體が人造樹脂
質纖維層より構成せらるゝ關係上製品價の高上

を免れず、然るに本發明は特殊の縮合物を主劑
とせる人造樹脂質物を浸着せる纖維質葉層帯を
捲積して紐狀となし、而して適當なる輪體及其
周圍にその紐を螺旋狀に捲積したるものを全型
内に挿填し、紐部を壓搾加熱し融合凝固せしめ
て輪體の周圍に人造樹脂質纖維層より成る「タ
イヤ」を部構成せしむる工程と、之れに適當
なる削成加工を施す工程との結合工作なるが故
に在來の方法に於けるが如き材料の徒損を免れ
且つ大部分を鑄鐵等の金屬を以て構成するに依
り其製造費を著しく低廉ならしめ、而かも輪體
の齒形「タイヤ」部は輪體周圍を完固連續せる
葉層の堆積より構成せるを以て極めて堅牢にし
て耐久性なるは勿論、其運轉にあたり齧合機音
を發生することなく耐酸、耐水、耐熱、絶縁の
特性を有す。

「スピンニングポット」は特許「リグナイトポ
ット」と稱し、齒車は無音「リグナイト」齒車と
稱す、何れも本社多年の研究の結果に成るもの
にして他製品の追従を許さざるもの、而かも前
者は英國、米國、獨逸、佛國、伊國、奧國及チ
エツコ國の七ヶ國の特許權を得て世界的に其の
發明を誇り、後者は強度に於て殆ど鑄鐵に等し
く命數は最優秀のローハイドに比し四十倍を保
ち加ふるに幾多の特徴を具備して斷然非金屬齒
車界の尖端に立ち斯界を風靡しつゝあり。
尙實用新案權二十一件を所有し悉く之を實施
し、製品は人絹用「ポット」及各種部分品無音齒
車等年生産額壹百萬圓を算し、内地は勿論、朝
鮮、滿洲等に販路を有す。

河上暢輔

東京市淀橋區
諏訪町二二五

特許第九八一二六號 可塑物の製造方法

〔内容〕 醋酸(ヴィニール)の重合生成物たる「モウイリット」中の「モウイリット」を特殊混合液に溶解せしめたるものを「アルコール」中に注下して粘結せしめ之に礦物粉を混入練捏して半固形態の物質を得るを特徴とする製法。

河合龜太郎

東京府豊多摩郡中野町
大字中野八一二

特許第九七一七九號 「柔軟性アンブレ」

〔内容〕 薬液の作用に堪ゆる織様質材料より成れる内被膜を柔軟にして比較的強靱なる織又は人造樹脂等より成れる外被膜にて被包せる柔軟性「アンブレ」

角野春男

東京府北豊島郡
巣鴨町一〇〇一

特許第九九七八號 縮合樹脂製品に對する蒙眼方法

〔内容〕 任意模様を切り抜きたる象眞材料を紙面に貼着し其貼着面を任意型に普通の如く装置したる原料面に載置し其上面より雄型を嵌合しつゝ加熱して完成する方法。

田中隼人

東京府北豊島郡巢鴨町
大字上駒込三三五

特許第九七一四七號 「キヤツプシール」用液

〔内容〕 硝酸纖維素等を酒精「エーテル」「アセトン」

の混合液に溶解し之に炭酸「マグネシウム」「ヒマシ」油等混和し雲母「アルミニウム」粉を添加せしめたる「キヤツプシール」用液

村上敬一

姫路市北條口一七〇

特許第一〇一五二三號 可塑成型物に美麗堅牢なる模様を顯出せしむる方法

〔内容〕 任意模様の薄き金属材料を可塑物と共に適當なる方法により金型中に設置したるものに關聯する特殊工作により絶対に剝離する事き着色模様を顯出せしむる方法。

村上丈二

東京市蒲田區
女塚町三三五

特許第一〇一三六八號 合成樹脂可塑物の製造方法

〔内容〕 合成樹脂縮合物と揮發性溶剤と着色劑其他適當なる藥劑を混じたる塗料を以て加熱せる塑造型に模様文字地色等を描塗したる後「コンパウンド」を入れて加熱壓搾成形せしむる事特徴とする方法。

植田一

奈良縣生駒郡生駒町
字谷田一一七

特許第九七八〇一號 纖維素「エーテル」可塑物

〔内容〕 纖維素「エーテル」に「カムフェン」又は「ハログン」又は已知の纖維素可塑劑軟化劑等と共に添加し更に他の揮發性溶媒を加へ又は加へずしてなる纖維素「エーテル」可塑物。

上野昭雄

茨城縣西茨城郡
岩間町大泉五二三

特許第一〇三三八九號 「ベンチル」纖維素製造法

〔内容〕 加壓状態の下に纖維素の「ベンチル」化を行ひ反應時間を極端に短縮し然も鹽化「ベンチル」及苛性曹達の使用量を節約し高粘度の製品を得る方法。

山本松之助

東京市向島區
寺島町七一九九

特許第一〇二〇一七號 人造絹糸用「スピニングボット」製造方法

〔内容〕 縮合物と纖維質物とを確實に交融合着せしめ補強の効果を充分ならしめ機械的に強く且つ輕重にして耐酸性の大なるものを製造する方法。



松本五郎

大南大株
阪之日式
市町本會
東三社
成目ル大
小八口出
橋四イ張
下イ出大

特許第七一九四三號 牛乳カゼインより角質物の製造方法

〔内容〕 本發明は牛乳カゼインより角質物を製造する場合に硬化溶としての「アルマリン」液を特に稀薄なるものを用ひて硬化を均一に且つ迅速に行はしむる方法にして、透明半透明又は各種模様の堅硬なる角質物を迅速均質に且つ安價

佐藤忠次郎

島根縣八束郡
揖屋村六七五〇一

特許第九六二八五號 人造樹脂齒車製造法

〔内容〕 人造樹脂を浸潤飽孕せしめたる麻布、綿布其他の布と金屬製網とを交互に重層せしめ之を加壓加熱することを特徴とする人造樹脂齒車の製法。

坂上晃

京都市東山區
三條北裏白川筋東二丁
目定法寺町三六三

特許第九四〇一九號 黑色可塑物器具製造法

〔内容〕 廢物黑色「フミン」質殘滓を主原料となし耐酸性「アルカリ」性にして絶縁性に富める品質優良なる黑色、光澤ある可塑物を廉價に製造する法。

三井嗣喜

兵庫縣武庫郡神戶市
屋敷戸屋西新田四六一

特許第一〇二七六號 「ベンジルクロライド」の回收工程を有する「ベンジルセルロース」製造法

〔内容〕 「アルカリセルロース」を「ベンジル」化し其乳濁體より「ベンジルクロライド」を完全に回收せんとする製法。

水尻數雄

大阪市西淀川區
浦江北五ノ一五
株式会社神戸電機
製作所工場内

特許第九八九五號 「スピニングボット」の製造法

〔内容〕 「バルブ」「コットンリッター」等の纖維質物

に製造し得るものなり。

〔略歴〕 氏は明治二十二年一月山梨縣の出身、大正二年東京帝國大學工科應用化學科卒業、大日本セルロイド株式會社の前身堺セルロイド株式會社に入社、同七年歐米を視察し同八年大日本セルロイド株式會社創立と同時に東京工場長となり昭和四年同社取締役選任せられ今日に至る、帝國發明協會より進歩賞を受領す。

福田義雄

神戸市灘區六甲八幡
字永手一四ノ二

特許第九七六四五號 會席膳の製造法

〔内容〕 石炭酸樹脂其他所謂人造樹脂可塑物の特殊工作に依り極めて強靱にして破損せざる會席膳等の器物を安價に製造する法。

〔略歴〕 明治廿九年九月八日生、大正七年大阪高等工業學校應用化學科卒業、同年四月より同十三年十二月まで東京市佐藤工業化學研究所にて合成樹脂の研究に従事、昭和四年より現地に萬茂化學工業研究所を設立現在に至る。

阿部英治郎

大阪府東區
北久太郎町三ノ九

特許第一〇〇七八四號 ラツカア用合成樹脂製法

〔内容〕 多鹽基酸を脂肪酸の存在に於て「ヂエレンゲライコール」と共に熱し「フタル酸」と「グリセリン」と脂肪酸よりなる「フタル酸」グリセリン型樹脂を得る方法による製法。

雨宮良孝

東京府豊多摩郡千歳ヶ
谷町原宿一七〇ノ一九

特許第九八八三六號 纖維素「エステル」又は纖維素「エーテル」の處理法

〔内容〕 金屬鹽類の水溶液中に原質を浸して該水溶液を之等の纖維素化合物に浸透せしめ次に之を攪拌しつゝ「アルカリ」水溶液を添加する方法。

青木元男

東京市淀橋區
柏木二ノ二五〇

特許第一〇三九九號 「ゼラチン」膜製造法

〔内容〕 精製「ゼラチン」又は「ゲルユー」に石炭酸を加へ湯煎上にて加熱溶解したるものに關聯する特殊の處理により「カゼ」を生ぜず腐敗せず而も良好なる着色透光状態を保持する「ゼラチン」膜の製法。

新井洋吉

東京市品川區
大井原町五三〇七

特許第一〇一三五〇號 「ベンチルセルロース」精製法

〔内容〕 粗「ベンチルセルロース」を豫備處理の後細孔を通じて適當なる溶劑等の中に絲狀に懸出して廣大となれる接觸面より可溶成分を溶出せしむる事特徴とする精製法。

石川清季

横濱市中區初音町
二ノ三一 小林方

特許第九八八三六號 纖維素「エステル」又は纖維素「エーテル」の處理法

〔内容〕 金屬鹽類の水溶液中に原質を浸して該水溶液を之等の纖維素化合物に浸透せしめ次に之を攪拌しつゝ「アルカリ」水溶液を添加する方法。